HITACHI
Inspire the Next

JP1 Version 8

JP1/NETM/Asset Information Manager
運用ガイド

手引・操作書

3020-3-L35-A0

マニュアルの購入方法

このマニュアル，および関連するマニュアルをご購入の際は，巻末の「ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内」をご参照ください。

■対象製品

P-2642-1N84 JP1/NETM/Asset Information Manager 08-52（適用 OS：Windows Server 2008，Windows Server 2003，Windows XP Professional，Windows 2000）

■輸出時の注意

本製品を輸出される場合には，外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上，必要な手続きをお取りください。
なお，ご不明な場合は，弊社担当営業にお問い合わせください。

■商標類

Acrobat は，Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
ActiveX は，米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の商標です。
Adobe，および Reader は，Adobe System Incorporated(アドビシステムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
AIX は，米国における米国 International Business Machines Corp. の登録商標です。
AMD, AMD Opteron およびその組み合わせは，Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。
Internet Explorer は，米国 Microsoft Corp. の米国及びその他の国における登録商標または商標です。
Lan Licenser は，日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社の商標です。
McAfee, VirusScan, NetShield は，米国法人 McAfee, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。
Microsoft は，米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
Microsoft Access は，米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
Microsoft Office は，米国 Microsoft Corp. の商品名称です。
Microsoft Office Excel は，米国 Microsoft Corporation の商品名称です。
Microsoft Office Word は，米国 Microsoft Corporation の商品名称です。
Microsoft SQL Server は，米国 Microsoft Corp. の商品名称です。
Microsoft, FrontPage は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft, Outlook は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft, PowerPoint は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
NetInsight は，日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社の商標です。
Norton AntiVirus は，米国 Symantec Corporation の米国内およびその他の国における登録商標または商標です。
ODBC は，米国 Microsoft Corp. が提唱するデータベースアクセス機構です。
Oracle は，米国 Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の登録商標です。
Oracle8i は，米国 Oracle Corporation の商標です。
Oracle9i は，米国 Oracle Corporation の商標です。
Pentium は，Intel Corporation のアメリカ合衆国及びその他の国における登録商標です。
Symantec は，米国における Symantec Corporation の登録商標です。
UNIX は，X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

VMware, Virtual SMP, VMotion は，VMware, Inc. の米国および各国での登録商標または商標です。
Windows は，米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
Windows NT は，米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
Windows Server は，米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。
秘文は，日立ソフトウェアエンジニアリング（株）の登録商標です。

■発行

2006 年 6 月（第 1 版）3020-3-L35
2008 年 9 月（第 6 版）3020-3-L35-A0

■著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2006, 2008, Hitachi, Ltd.

変更内容

（3020-3-L33-A0，3020-3-L34-A0，3020-3-L35-A0）

JP1/NETM/Asset Information Manager 08-52

追加・変更内容	変更個所
Embedded RDB を使用して資産管理データベースを作成する際，データベースのサイズを自動拡張できるようにした。また，それに伴い，クラスタシステムの環境構築手順を変更した。	**設計・構築**：5.4.2，5.13.2(2)，5.13.3，11.7.2(6)，付録 D.5
検索パターンを使用して操作ログを全件出力する jamTakeOperationLog.bat について，オプションで，「部署」，「ユーザ名」および「設置場所」の情報を CSV ファイルに出力できるようにした。	**設計・構築**：7.3.1(2)，7.3.1(3)，7.3.1(6)
［セットアップ］ダイアログから仮想ディレクトリの設定を実行することで，Asset Information Manager で使用する MIME の設定を再登録できるようにした。	**設計・構築**：11.5.4(1) ～ 11.5.4(3)
jamdbexport.bat を実行することで，資産管理データベースのバックアップを CSV 形式で取得できるようにした。	**設計・構築**：11.13.1(2)

（凡例）

設計・構築：JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド

JP1/NETM/Asset Information Manager 08-51

追加・変更内容	変更個所
JP1/NETM/DM のディレクトリ情報から取得する情報の詳細，および取得する際の引き当て方法を明記した。	**設計・構築**：5.9.9
案件画面の定義で日付のデータ型を設定した場合，テキストフィールドの横にカレンダーを表示するボタンが表示されるようにした。	**設計・構築**：10.4.1，10.4.3(3)(b) **運用**：3.1.2(1)，3.1.2(3)
カレンダーで，前月および翌月の月をボタンから表示できるようにした。	**運用**：1.2

（凡例）

設計・構築：JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド

運用：JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 運用ガイド

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは，次に示すプログラムプロダクトの運用方法について説明したものです。
- P-2642-1N84　JP1/NETM/Asset Information Manager

以降，このマニュアルでは，「JP1/NETM/Asset Information Manager」を「Asset Information Manager」と略します。
このマニュアルでは，Asset Information Manager を運用するための，機能の詳細と操作方法を説明しています。なお，このマニュアルを含め，Asset Information Manager のマニュアルには次の 3 冊があります。各マニュアルの目的を次に示しますので，必要に応じてお読みください。

JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager **導入ガイド**

最初にお読みいただくマニュアルです。
Asset Information Manager の機能概要や代表的な使用方法を紹介しています。

JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager **設計・構築ガイド**

Asset Information Manager を構築するに当たって検討しておく必要があることやインストール・セットアップの手順を説明しています。また，Asset Information Manager を業務形態に合わせて最適化する方法も説明しています。

JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager **運用ガイド**

Asset Information Manager を運用するための，機能の詳細と操作方法を説明しています。

■対象読者

このマニュアルは，次の方にお読みいただくことを前提に説明しています。
- 資産情報を管理する資産管理者の方
- 資産情報を参照して，その情報を業務に利用する方
- Windows Server 2008，Windows Server 2003，Windows XP Professional または Windows 2000 の使用方法を理解している方
- リレーショナルデータベースに関する基本的な知識をお持ちの方
- Microsoft SQL Server または ORACLE に関する知識をお持ちの方（Microsoft SQL Server または ORACLE をご使用の場合）
- JP1/NETM/DM，JP1/ 秘文，Network Node Manager，JP1/IM，JP1/IM - IDM，JP1/IM - CM，NetInsight II，EUR または JP1/Lan Licenser の各製品と連携する場合は，連携する製品の使用方法を理解している方
- ソフトウェアのライセンスに関する基本的な知識をお持ちの方

■マニュアルの構成

このマニュアルは，次に示す章と付録から構成されています。

第 1 章　基本操作手順

Asset Information Manager の操作画面の，基本的な操作方法や設定について説明しています。また，目的に応じた業務メニューの選び方についても説明しています。

第 2 章　資産管理業務の実行

各業務で実行する作業の内容，および操作画面の操作方法について説明しています。

第 3 章　案件を使用した資産管理業務の実行

案件を使用した資産管理業務の実行方法について説明しています。

第 4 章　共通情報の管理

システムを運用するための共通情報を管理する業務の実行方法について説明しています。

付録 A　各バージョンの変更内容

各バージョンでの変更内容について説明しています。

付録 B　用語解説

このマニュアルで使用する用語を解説しています。

■関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 導入ガイド（3020-3-L33）※
- JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド（3020-3-L34）※

注※　読書手順には，これらのマニュアルを含めて，利用目的別に，各マニュアルの記述個所を示しています。

インベントリ情報の収集，操作ログの収集およびソフトウェアの配布について知りたい場合

- JP1 Version 8 JP1/NETM/DM 導入・設計ガイド (Windows(R) 用)（3020-3-L36）
- JP1 Version 8 JP1/NETM/DM 構築ガイド (Windows(R) 用)（3020-3-L37）
- JP1 Version 8 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用)（3020-3-L38）
- JP1 Version 8 JP1/NETM/DM 運用ガイド 2(Windows(R) 用)（3020-3-L39）

操作ログの収集について知りたい場合

- JP1 Version 8 JP1/ 秘文 LogManager（3020-3-L86）

ノード情報の収集および監視図を表示するために必要な機能について知りたい場合

- JP1 Version 8 JP1/Cm2/Network Node Manager ネットワーク管理ガイド（3020-3-L01）
- JP1 Version 8 JP1/Cm2/Network Node Manager 拡張／分散化ガイド（3020-3-L02）

フロアレイアウト図の表示およびフロアレイアウト図からの資産情報の表示に必要な機能について知りたい場合

- JP1 Version 8 JP1/NetInsight II -Facility Manager（3020-3-L46）

JP1 イベントの情報を基に，資産管理システムの問題点を管理するために，必要な機能について知りたい場合

- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド（3020-3-K01）
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager リファレンス（3020-3-K02）
- JP1 Version 8 JP1/Base 運用ガイド（3020-3-K06）

インシデントの登録およびインシデントが発生した機器の資産情報の表示に必要な機能について知りたい場合

- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Incident Master（3020-3-K09）

資産管理システムの情報を基に，構成管理をするために必要な機能について知りたい場合

- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド（3020-3-K04）
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス（3020-3-K05）

案件に該当する機器の資産情報の表示に必要な機能について知りたい場合

- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Service Support システム構築・運用ガイド（3020-3-K14）

資産管理システムの情報を基に，クライアントのセキュリティ管理をするために必要な機能について知りたい場合

- JP1 Version 8 JP1/NETM/Client Security Control（3020-3-L31）

情報を PDF ファイル形式の帳票として表示・印刷する場合

- 帳票作成機能 EUR EUR 導入（3020-7-471）
- 帳票作成機能 EUR EUR 帳票設計（3020-7-481）
- 帳票作成機能 EUR EUR 帳票出力（3020-7-483）
- 帳票作成機能 EUR EUR Print Service 帳票出力（3020-7-484）

ソフトウェア稼働情報の収集について知りたい場合

- JP1 Version 6 JP1/Lan Licenser（3020-3-B04）

Embedded RDB のデータベースから出力されるメッセージについて知りたい場合

- JP1 Version 7i JP1 組み込みデータベース メッセージ（3020-3-F15）

■ JP1 Version 8 でのマニュアル体系の変更について

Version 8 では，Asset Information Manager のマニュアル体系を「導入」，「設計・構築」，「運用」の各使用目的に合わせて，1 冊から 3 冊に変更しました。
Version 7i のマニュアルの構成と，Version 8 の各マニュアルとの対応は，次のようになっています。

Version 7i	Version 8
1 章　概要	**導入**
2 章　代表的な使用方法の紹介	
3 章　Asset Information Manager を使用するための基礎知識	**設計・構築**
4 章　システム構成	
5 章　インストールとセットアップ	
6 章　他製品と連携した資産管理の実現	

Version 7i	Version 8
7 章　CSV データの登録と出力	
8 章　基本操作手順	**運用**
9 章　資産管理業務の実行	
10 章　案件を使用した資産管理業務の実行	
11 章　共通情報の管理	
12 章　操作画面およびユーザ権限の変更	**設計・構築**
13 章　案件の定義	
14 章　トラブルシューティング	
15 章　連携製品から取得できる情報と発行する JP1 イベントの詳細	
16 章　管理情報の詳細	
付録 A　メモリ所要量とディスク占有量	
付録 B　フォルダ構成	
付録 C　環境設定情報に対応するセクション名およびキー名	
付録 D　データベースの移行および資産管理サーバのリプレース	
付録 E　クラスタシステムでの Asset Information Manager の運用	
付録 F　プロセス一覧	
付録 G　各バージョンの変更内容	**導入**, **設計・構築**, **運用**
付録 H　用語解説	**導入**, **設計・構築**, **運用**

（凡例）

導入：JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 導入ガイド

設計・構築：JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド

運用：JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 運用ガイド

■読書手順

Asset Information Manager のマニュアルは，利用目的に合わせて章を選択して読むことができます。利用目的別に，各マニュアルの次に示す記述個所をお読みいただくことをお勧めします。

利用目的	マニュアル	記述個所
Asset Information Manager の概要および便利な機能について知りたい	**導入**	1 章　概要
		2 章　代表的な使用方法の紹介

利用目的	マニュアル	記述個所
資産管理システムを導入するときに検討する内容について知りたい	**設計・構築**	1 章　設計の概要
		2 章　資産管理システムで実施する業務の検討
		3 章　運用方法の検討
		4 章　システム構成の検討
JP1/NETM/DM と連携した資産管理システムを構築したい	**導入**	1 章　概要
		2 章　代表的な使用方法の紹介
	設計・構築	4 章　システム構成の検討
		5 章　インストールとセットアップ
		12 章　連携製品から取得できる情報と発行する JP1 イベントの詳細
		付録
機器の管理について知りたい	**導入**	2.2　IP アドレスの使用状況を管理する
		2.3　棚卸を実施する
	運用	1 章　基本操作手順
		2.1　機器管理
		4 章　共通情報の管理
契約の管理について知りたい	**運用**	1 章　基本操作手順
		2.2　契約管理
		4 章　共通情報の管理
問題点の管理について知りたい	**導入**	1.2.1　JP1 製品と連携した統合資産管理
	設計・構築	2.2.1　JP1/IM，JP1/IM - IDM と連携して問題点を管理する
		6.3　JP1/IM と連携するための設定
		6.4　JP1/IM - IDM と連携するための設定
		12.5　Asset Information Manager から発行する JP1 イベントの詳細
	運用	1 章　基本操作手順
		2.3　問題点管理
		4 章　共通情報の管理
ライセンスの管理について知りたい	**導入**	1.2.7　多様なライセンス形態に対応したライセンス管理
		2.4　ライセンスが適正に運用されているかを確認する

利用目的	マニュアル	記述個所
	設計・構築	3.2.4　ソフトウェア名の割り当て方法の設定
		5.1.1　JP1/NETM/DM と連携するために必要な作業の流れ
	運用	1 章　基本操作手順
		2.4　ライセンス管理
		4 章　共通情報の管理
ソフトウェア，パッチなどの適用状況の管理について知りたい	**導入**	1.2.9　パッチの適用状況の管理
		2.5　WSUS サーバと連携して更新プログラムを適用する
	運用	1 章　基本操作手順
		2.5　ソフトウェア適用管理
		4 章　共通情報の管理
ソフトウェアの利用状況の管理について知りたい	**導入**	2.10　不要なソフトウェアがないかどうかを確認する
	設計・構築	2.2.7　JP1/Lan Licenser と連携してソフトウェアの稼働状況を管理する
		6.9　JP1/Lan Licenser と連携するための設定
	運用	1 章　基本操作手順
		2.6　ソフトウェア利用管理
		4 章　共通情報の管理
ユーザが操作した履歴の管理について知りたい	**導入**	2.9　操作ログからユーザの操作を確認する
	設計・構築	2.2.3　JP1/NETM/DM，JP1/ 秘文と連携して操作ログを管理する
		6.1　JP1/ 秘文と連携するための設定
	運用	1 章　基本操作手順
		2.7　セキュリティ管理
		4 章　共通情報の管理
案件を使用して資産管理業務を実行したい	**導入**	1.2.8　フローによる申請・承認業務の実行
		2.8　案件を使用して障害を対策する
	設計・構築	10 章　案件の定義
	運用	3 章　案件を使用した資産管理業務の実行
		4 章　共通情報の管理

利用目的	マニュアル	記述個所
資産管理システムの環境を使いやすく変更したい	**導入**	2.6　資産情報の状態，管理項目および操作画面を追加する
		2.7　ユーザ権限に応じて実行できる機能を制限する
	設計・構築	3.1　アクセス制限
		5 章　インストールとセットアップ
		8 章　Asset Information Manager を使用するための基礎知識
		9 章　操作画面およびユーザ権限の変更
		12 章　連携製品から取得できる情報と発行する JP1 イベントの詳細
		13 章　管理情報の詳細
	運用	4 章　共通情報の管理
トラブル発生時の対処方法を知りたい	**設計・構築**	11 章　トラブルシューティング
ほかの製品と連携して実現できる機能について知りたい	**導入**	1 章　概要
	設計・構築	2.2　他製品と連携した資産管理システムの検討
		5 章　インストールとセットアップ
		6 章　他製品と連携した資産管理の実現
		12 章　連携製品から取得できる情報と発行する JP1 イベントの詳細

（凡例）

導入：JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 導入ガイド

設計・構築：JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド

運用：JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 運用ガイド

■このマニュアルでの表記

このマニュアルでは，次のような略称で表記しています。

このマニュアルでの表記	正式名称
Acrobat Reader	Acrobat(R) Reader
Adobe Reader	Adobe(R) Reader(R)
AIX	AIX(R)
AMD Athlon	AMD Athlon(TM)
AMD Duron	AMD Duron(TM)
AMD Opteron	AMD Opteron(TM)
AMD Sempron	AMD Sempron(TM)

このマニュアルでの表記		正式名称
AMD Turion		AMD Turion(TM)
Asset Information Manager または AIM		JP1/NETM/Asset Information Manager
Asset Information Manager Embedded RDB Edition		JP1/NETM/Asset Information Manager Embedded RDB Edition
EUR		EUR Print Service - Portable Document Format report 05-00 以降, EUR Print Service 05-00 以降および EUR Professional Edition 05-00 以降
JP1/Base		JP1/Base 06-51 以降
JP1/IM		JP1/Integrated Management - Manager, JP1/Integrated Management - Rule Operation, JP1/Integrated Management - View, JP1/Integrated Manager - Central Console, JP1/Integrated Manager - Central Scope および JP1/Integrated Manager - View
JP1/IM - CM		JP1/Integrated Management - Central Information Master および JP1/Integrated Manager - Central Information Master
JP1/IM - IDM		JP1/Integrated Management - Incident Master
JP1/IM - Manager		JP1/Integrated Management - Manager および JP1/Integrated Manager - Central Console
JP1/IM - Service Support		JP1/Integrated Management - Service Support
JP1/Lan Licenser		JP1/Lan Licenser 06-51 以降
JP1/NETM/CSC		JP1/NETM/Client Security Control - Agent および JP1/NETM/Client Security Control - Manager
JP1/NETM/DM		JP1/NETM/DM Client, JP1/NETM/DM Client - Base, JP1/NETM/DM Client - Delivery Feature, JP1/NETM/DM Client - Operation Log Feature および JP1/NETM/DM Manager
JP1/NETM/DM Client		JP1/NETM/DM Client, JP1/NETM/DM Client - Base, JP1/NETM/DM Client - Delivery Feature および JP1/NETM/DM Client - Operation Log Feature
JP1/秘文	JP1/秘文 CG Pro	JP1/秘文 Advanced Edition CopyGuard Professional
	JP1/秘文 IC	JP1/秘文 Advanced Edition Information Cypher
	JP1/秘文 IF	JP1/秘文 Advanced Edition Information Fortress
	JP1/秘文 IF Mail Option	JP1/秘文 Advanced Edition Information Fortress Mail Option

このマニュアルでの表記		正式名称
	JP1/ 秘文 IS	JP1/ 秘文 Advanced Edition Information Share
	JP1/ 秘文 LogManager	JP1/ 秘文 Advanced Edition LogManager
	JP1/ 秘文 Log Server	JP1/ 秘文 Advanced Edition Log Server
	JP1/ 秘文 MailGuard	JP1/ 秘文 Advanced Edition MailGuard
	JP1/ 秘文 管理サーバ	JP1/ 秘文 Advanced Edition Management Server
MBSA		Microsoft(R) Baseline Security Analyzer
Microsoft Internet Explorer		Microsoft(R) Internet Explorer(R) 6 SP1 以降および Windows(R) Internet Explorer(R) 7
Microsoft SQL Server	Microsoft SQL Server 2000	Microsoft(R) SQL Server 2000 Enterprise Edition および Microsoft(R) SQL Server 2000 Standard Edition
	Microsoft SQL Server 2005	Microsoft(R) SQL Server 2005 Enterprise Edition, Microsoft(R) SQL Server 2005 Enterprise x64 Edition, Microsoft(R) SQL Server 2005 Standard Edition および Microsoft(R) SQL Server 2005 Standard x64 Edition
	Microsoft SQL Server 7.0	Microsoft(R) SQL Server 7.0 および Microsoft(R) SQL Server 7.0 Enterprise Edition
NetInsight II	NetInsight II -AS	JP1/NetInsight II -Asset Manager Interface 07-00 以降
	NetInsight II -CS	JP1/NetInsight II -Client Subsystem 07-00 以降
	NetInsight II -FM	JP1/NetInsight II -Facility Manager 07-00 以降
Network Node Manager		JP1/Cm2/Network Node Manager 250, JP1/Cm2/Network Node Manager Enterprise, JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition 250 および JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition Enterprise
ORACLE		Oracle8i および Oracle9i
Pentium		Pentium(R)
Windows 2000 ※1		Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Operating System, Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional Operating System および Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System
Windows 95 ※1		Microsoft(R) Windows(R) 95 Operating System
Windows 98 ※1		Microsoft(R) Windows(R) 98 Operating System
Windows CE		Microsoft(R) Windows(R) CE, Handheld PC Professional Edition

このマニュアルでの表記	正式名称
Windows Me ※1	Microsoft(R) Windows(R) Millennium Edition Operating System
Windows NT 4.0 ※1	Microsoft(R) Windows NT(R) Server Enterprise Edition Version 4.0 および Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network Operating System Version 4.0
Windows Server 2003 ※1	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition および Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
Windows Server 2003 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition および Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
Windows Server 2008 ※1※2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise および Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
Windows XP ※1	Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition Operating System および Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System
Windows XP Professional	Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System
WSUS	Microsoft(R) Windows Server(R) Update Services

注※1

OS による機能差がない場合，Windows Server 2008，Windows Server 2003，Windows XP，Windows 2000，Windows NT 4.0，Windows Me，Windows 98 および Windows 95 を総称して Windows と表記します。

注※2

Server Core インストールは対象外です。

■このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する主な英略語を次に示します。

英略語	正式名称
AMD	Advanced Micro Devices
CD	Compact Disc
CD-R	Compact Disc Recordable
CD-R/W	Compact Disc Read/Write
CPU	Central Processing Unit
CSV	Comma Separated Value

英略語	正式名称
DAT	Digital Audio Tape
DBMS	Data Base Management System
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol
DVD	Digital Versatile Disk
EULA	End User License Agreement
FAQ	Frequently Asked Question
FD	Floppy Disk
HD	Hard Disk
HTTP	Hyper Text Transfer Protocol
ID	IDentification
IT	Information Technology
MIB	Management Information Base
MO	Magneto-Optical disk
ODBC	Open Data Base Connectivity
OS	Operating System
PC	Personal Computer
PDF	Portable Document Format
RDB	Relational Database
SNMP	Simple Network Management Protocol
SQL	Structured Query Language
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol
URL	Uniform Resource Locator
USB	Universal Serial Bus
WS	Work Station
WWW	World Wide Web

■マニュアル間の参照指示について

マニュアル「JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 導入ガイド」,「JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド」または「JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 運用ガイド」間で，相互にマニュアルを参照していただく場合，次の形式で参照先を示しています。

『AA については，マニュアル「BBB」の「n.n.n　XXXXX」を参照してください。』

AA

参照していただく内容です。

BBB

参照先マニュアルの略称です。マニュアル名称の共通部分（「JP1 Version 8 JP1/NETM/

Asset Information Manager」の部分）を省略しています。省略されている部分を補ってお読みください。

n.n.n

参照先の章・節・項番号です。(1) や (a) などの括弧付き項番が付く場合もあります。

XXXXX

参照先の標題（見出し）です。

■このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで画面の構成要素を説明するときに使用する記号を，次のように定義します。

記号	意味と例
［ ］	ウィンドウ名，ダイアログ名，ボタン名およびキーボードのキーを示しています。 （例） ［コンソール］ウィンドウ ［登録］ダイアログ ［OK］ボタン ［Ctrl］
［A］＋［B］	＋の前に示した［A］キーを押しながら，＋の後ろに示した［B］キーを押すことを示しています。 （例） ［Ctrl］+［C］
「 」	画面中に表示されている項目を示しています。 （例） 「資産番号」テキストボックス
「 」ー「 」	画面のメニューから項目を選択することを示しています。 （例） 「オブジェクト」ー「インポート」

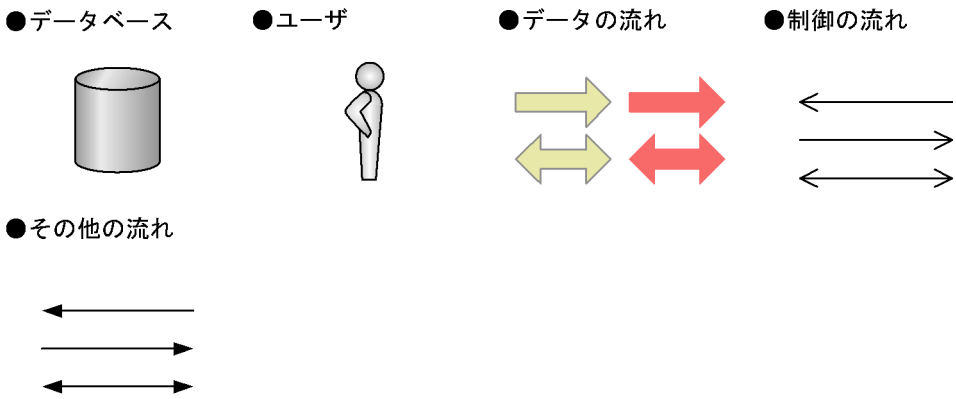
■このマニュアルで使用する構文要素

このマニュアルで使用する構文要素（ユーザの指定値の範囲）とその意味を次に示します。

構文要素	意味
英字	A ～ Z　a ～ z
英小文字	a ～ z
英大文字	A ～ Z
数字	0 ～ 9
英数字	英字または数字
記号	! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > @ [¥] ^ ` _ { | } ~ ? スペース

■図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を，次のように定義します。



■ HTML ヘルプについて

Asset Information Manager では，次に示す HTML ヘルプを提供しています。() 内には，HTML ヘルプのファイル名を示します。

JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager（assetim.chm）

次のマニュアルを統合したものです。

- JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 導入ガイド（aimintro.chm）
- JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド（aimconst.chm）
- JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 運用ガイド（aimuse.chm）

JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager **アクセス定義ファイル作成ガイド**（assetscr.chm）

HTML ヘルプは，Microsoft Internet Explorer 5.01 以降がインストールされているマシンで参照してください。

HTML ヘルプは，下記フォルダに格納されています。

Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥help

また，assetim.chm は，Asset Information Manager をインストールしている PC の Windows のスタートメニューから，「プログラム」－「Asset Information Manager」－「ヘルプ」を選択して表示することもできます。

■常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは，常用漢字を使用することを基本としていますが，次に示す用語については，常用漢字以外の漢字を使用しています。

- 鍵（かぎ）
- 個所（かしょ）
- 必須（ひっす）
- 稟議（りんぎ）

■ KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト），1MB（メガバイト），1GB（ギガバイト），1TB（テラバイト）はそれぞれ1,024 バイト，$1{,}024^2$ バイト，$1{,}024^3$ バイト，$1{,}024^4$ バイトです。

目次

1 基本操作手順 1

1.1 Asset Information Manager へのログインとログアウト 2

1.1.1 ログイン 2

1.1.2 ログアウト 4

1.2 各部の名称と使い方 5

1.3 検索操作の流れ 9

1.4 登録操作の流れ 12

1.5 ユーザ権限による操作画面の機能の違い 17

2 資産管理業務の実行 21

2.1 機器管理 22

2.1.1 機器の保有台数を調査する（保有機器集計） 22

2.1.2 機器を検索する（保有機器一覧） 23

2.1.3 利用されていない機器を検索する（不稼働機器一覧） 26

2.1.4 機器情報を登録する（新規機器登録） 29

2.1.5 機器の管理情報を変更する（一括変更） 32

2.1.6 棚卸が必要な機器の台数を調べる（棚卸未実施機器集計） 35

2.1.7 棚卸の実績を登録する（棚卸確認） 36

2.1.8 機器の変更履歴を管理する（変更履歴） 38

2.2 契約管理 40

2.2.1 契約情報を登録する（新規契約登録） 40

2.2.2 契約情報を変更する（契約一覧） 42

2.3 問題点管理 50

2.3.1 システム上の問題点を管理する（問題点一覧） 50

2.4 ライセンス管理 56

2.4.1 ライセンスの利用状況を調査する（保有ライセンス一覧） 56

2.4.2 超過利用されているライセンスを調査する（超過ライセンス一覧） 59

2.4.3 期限切れのライセンスを調査する（不正利用ライセンス一覧） 62

2.4.4 利用していないライセンスを調査する（遊休ライセンス一覧） 64

2.4.5 未登録ソフトウェアの利用状況を調査する（未登録ソフトウェア利用一覧） 67

2.4.6 ライセンスを追加する（新規ソフトウェア登録） 68

2.4.7 ソフトウェアを検索する（保有ソフトウェア一覧） 74

2.4.8 ライセンスの管理部署を変更する（ライセンス移管） 79

2.4.9 ボリューム契約情報を登録する（ボリューム契約登録） 82
2.4.10 ボリューム契約情報を変更する（ボリューム契約一覧） 82
2.4.11 ライセンスの集計を実行する（集計管理） 86
2.4.12 インストールソフトウェアの変更履歴を管理する（変更履歴） 90
2.5 ソフトウェア適用管理 93
2.5.1 ソフトウェアの適用状況を管理する（ソフトウェア適用状況） 93
2.5.2 ソフトウェアの配布状況を確認する（配布状況） 103
2.5.3 WSUS の更新プログラムを管理する（WSUS 更新プログラム管理） 106
2.6 ソフトウェア利用管理 116
2.6.1 ソフトウェアの稼働状況を調査する（ソフトウェア稼働状況） 116
2.6.2 ソフトウェアの不正インストールを調査する（許可外インストール） 120
2.6.3 使用したプログラムを確認する（プログラム起動履歴） 121
2.6.4 操作したウィンドウを確認する（ウィンドウタイトル変更履歴） 124
2.6.5 JP1/Lan Licenser と連携してソフトウェアの稼働時間を調査する（稼働状況） 125
2.7 セキュリティ管理 129
2.7.1 操作ログを確認する（操作ログ一覧） 129
2.7.2 操作ログを集計する（操作ログ集計） 140
2.7.3 ユーザの操作を追跡する 148
2.8 各機器の詳細情報の管理 157
2.8.1 機器の詳細情報を参照および変更する（「機器」タブ） 157
2.8.2 ネットワーク情報を参照および変更する（「ネットワーク」タブ） 159
2.8.3 インストールされているソフトウェアを参照および変更する（「ソフトウェア」タブ） 161
2.8.4 パッチ情報を参照および追加する（「パッチ情報」タブ） 166
2.8.5 ウィルス対策ソフトウェア情報を参照および追加する（「ウィルス対策」タブ） 168
2.8.6 割り当てられたライセンス情報を参照および変更する（「ライセンス」タブ） 170
2.8.7 インベントリ情報を参照する（「インベントリ」タブ） 172
2.8.8 契約情報を参照および変更する（「契約」タブ） 173
2.8.9 保守履歴を参照および変更する（「保守履歴」タブ） 175
2.8.10 変更履歴を参照する（「変更履歴」タブ） 178

3 案件を使用した資産管理業務の実行 181
3.1 案件を作成する（新規案件） 182
3.1.1 新規に案件を作成する 183
3.1.2 障害連絡票の作成例 184
3.1.3 サンプルとして提供されている案件の使用例 189

3.2 受信した案件を処理する（受信トレイ） 194
3.2.1 案件を承認または却下する 195
3.2.2 代行受信者を設定する 197
3.2.3 却下された案件を再度送信する 198
3.3 送信した案件の確認と引き戻し（送信トレイ） 199
3.3.1 送信した案件の状況を確認する 199
3.3.2 送信した案件を引き戻す 200
3.3.3 保存した案件を送信する 200
3.3.4 案件の進ちょくを確認する 201
3.3.5 案件を削除する 201
3.4 案件の管理（実行案件管理） 202
3.5 FAQ（案件の作成と処理） 203

4 共通情報の管理 205
4.1 ユーザと組織の情報を変更する（ユーザ組織管理） 206
4.1.1 部署を追加する 207
4.1.2 ユーザを追加する 208
4.1.3 ユーザまたは組織を削除する 209
4.1.4 ユーザまたは組織を移動する 209
4.2 ユーザを検索する（ユーザ検索） 211
4.3 設置場所の情報を変更する（設置場所管理） 212
4.3.1 設置場所を追加する 212
4.3.2 設置場所を削除する 214
4.3.3 設置場所を移動する 214
4.4 IP グループ情報を変更する（IP グループ管理） 215
4.4.1 IP グループを追加する 216
4.4.2 IP アドレスの使用状況を参照する 217
4.4.3 IP アドレスを機器に割り当てる 218
4.4.4 機器に割り当てられている IP アドレスを解除する 219
4.4.5 IP アドレスの使用状況をダウンロードする 220
4.4.6 IP グループを削除する 220
4.5 機器のカタログ情報を管理する（機器カタログ管理） 221
4.5.1 機器カタログを登録する 221
4.5.2 機器カタログを削除する 222
4.6 ソフトウェア名を対応づける（ソフトウェア名称管理） 224
4.6.1 ソフトウェア名を登録する 225

4.6.2 ソフトウェア名を統合する 226
4.6.3 ソフトウェア名を削除する 226
4.6.4 ソフトウェア名および属性を変更する 227
4.6.5 インストールソフトウェア名を割り当てる 227
4.6.6 インストールソフトウェア名の割り当てを解除する 229
4.6.7 ライセンス情報を登録する 229
4.6.8 ライセンス情報を変更する 230
4.6.9 ダウングレードソフトウェアを追加する 230
4.6.10 ダウングレードソフトウェアの対象から解除する 231
4.7 インストールソフトウェア情報を変更する（インストールソフトウェア管理） 232
4.7.1 インストールソフトウェア名を登録する 233
4.7.2 インストールソフトウェア情報を変更する 234
4.7.3 ソフトウェア名に割り当てる 235
4.7.4 インストールソフトウェア名を削除する 236
4.8 種別や状態を追加および変更する（コード管理） 237
4.8.1 コードを追加する 238
4.8.2 コードの表示文字列を変更する 239
4.8.3 コード情報を削除する 239
4.8.4 コードの指定範囲による意味の違い 239
4.8.5 複数のクラスで共有しているコード ID 243
4.8.6 追加および削除できないコード情報 244
4.9 個人情報を参照および変更する（個人情報） 246
4.10 資産情報を一括で更新する（インポート） 247
4.10.1 インポートする CSV ファイルを作成する 248
4.10.2 インポートの条件を作成する 256
4.10.3 インポートを実行する 261
4.10.4 インポートの条件を削除する 262
4.11 資産情報を CSV 形式で出力する（エクスポート） 263
4.11.1 エクスポートの条件を作成する 264
4.11.2 エクスポートを実行する 265
4.11.3 エクスポートの条件を削除する 267
4.12 インポートの結果を確認する（インポート結果一覧） 268
4.13 ログを参照する（ログ一覧） 270

付録 273
付録 A 各バージョンの変更内容 274

付録 B　用語解説 287

索引 303

1 基本操作手順

この章では，Asset Information Manager の操作画面を使用するに当たって，共通する基本的な操作方法や設定について説明します。
また，目的に応じた業務メニューの選び方についても説明します。

1.1 Asset Information Manager **へのログインとログアウト**

1.2 **各部の名称と使い方**

1.3 **検索操作の流れ**

1.4 **登録操作の流れ**

1.5 **ユーザ権限による操作画面の機能の違い**

1.1 Asset Information Manager へのログインとログアウト

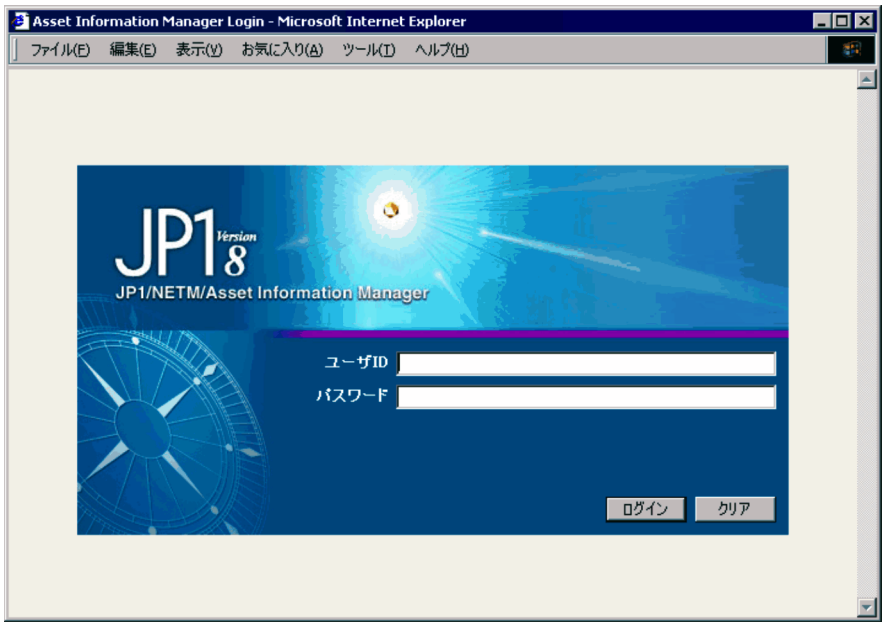
この節では，Asset Information Manager へのログインとログアウトの方法について説明します。

1.1.1 ログイン

Asset Information Manager を使用するには，WWW ブラウザで専用のログイン画面を呼び出し，Asset Information Manager へログインする必要があります。Asset Information Manager へログインする手順を次に示します。

1. WWW ブラウザを起動して，ログイン画面を呼び出す。
   ログイン画面を呼び出すには，WWW ブラウザから URL にアクセスします。ログイン画面の URL は，http:// ホスト名 /jp1asset/login.htm です。
   Asset Information Manager のログイン画面を次の図に示します。

図 1-1 ログイン画面



「ユーザ ID」テキストボックス
ユーザ ID を入力します。

「パスワード」テキストボックス
パスワードを入力します。

［ログイン］ボタン

Asset Information Manager にログインし，初期画面が表示されます。

［クリア］ボタン

「ユーザ ID」および「パスワード」に指定した値がクリアされます。

2. **Asset Information Manager のユーザ ID とパスワードを入力する。**

インストール直後は資産管理者（ユーザ ID およびパスワード「admin」）だけが利用できます。初回ログイン時，または Asset Information Manager のユーザを登録していない場合は，資産管理者でログインしてください。そのあとで，業務メニュー「ユーザ組織管理」で Asset Information Manager を利用するユーザを登録してください。

ユーザの登録方法については，「4.1.2　ユーザを追加する」を参照してください。

注意事項

セキュリティを確保するため，資産管理者のデフォルトのパスワードは，ログイン後に必ず変更するようにしてください。また，定期的なパスワードの変更をお勧めします。

Asset Information Manager がサンプルで提供している，ユーザと部署の情報をインポートした場合，次のユーザ ID およびパスワードでログインできます。

ユーザ ID ごとのユーザ権限を次の表に示します。

表 1-1　ユーザ ID に設定されているユーザ権限

ユーザ ID およびパスワード	ユーザ権限	ユーザ名	所属部署
user1	管理者	資産太郎	資産管理部
user2	利用者	資産次郎	資産管理部
user3	利用者	庶務太郎	総務部／庶務課
user4	利用者	経理太郎	総務部／経理課
user5	利用者	営業太郎	営業部／営業 1 課
user6	利用者	営業次郎	営業部／営業 2 課

サンプル提供のユーザと部署の情報をインポートする方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.11　操作画面で使用できるサンプルデータのインポート」を参照してください。

3. **［ログイン］ボタンをクリックする。**

Asset Information Manager の認証が成功すると，次の図に示す初期画面が表示されます。

図 1-2　初期画面

1.1.2　ログアウト

1. **画面の右上に表示されている「ログアウト」アンカーをクリックする。**
   ログアウトが成功すると，「ログアウトしました。」の文字列が表示されたあと，ログイン画面が表示されます。
   この画面から，再度 Asset Information Manager へログインすることもできます。ログインする場合は，ユーザ ID とパスワードを入力してください。

なお，ログアウトの操作をしない場合でも，セットアップ時に指定した時間が過ぎると，自動的にログアウトされます。自動的にログアウトされた場合は，操作画面から業務を実行したときに，「既にログアウトされています。」の文字列が表示されたあと，ログイン画面が表示されます。

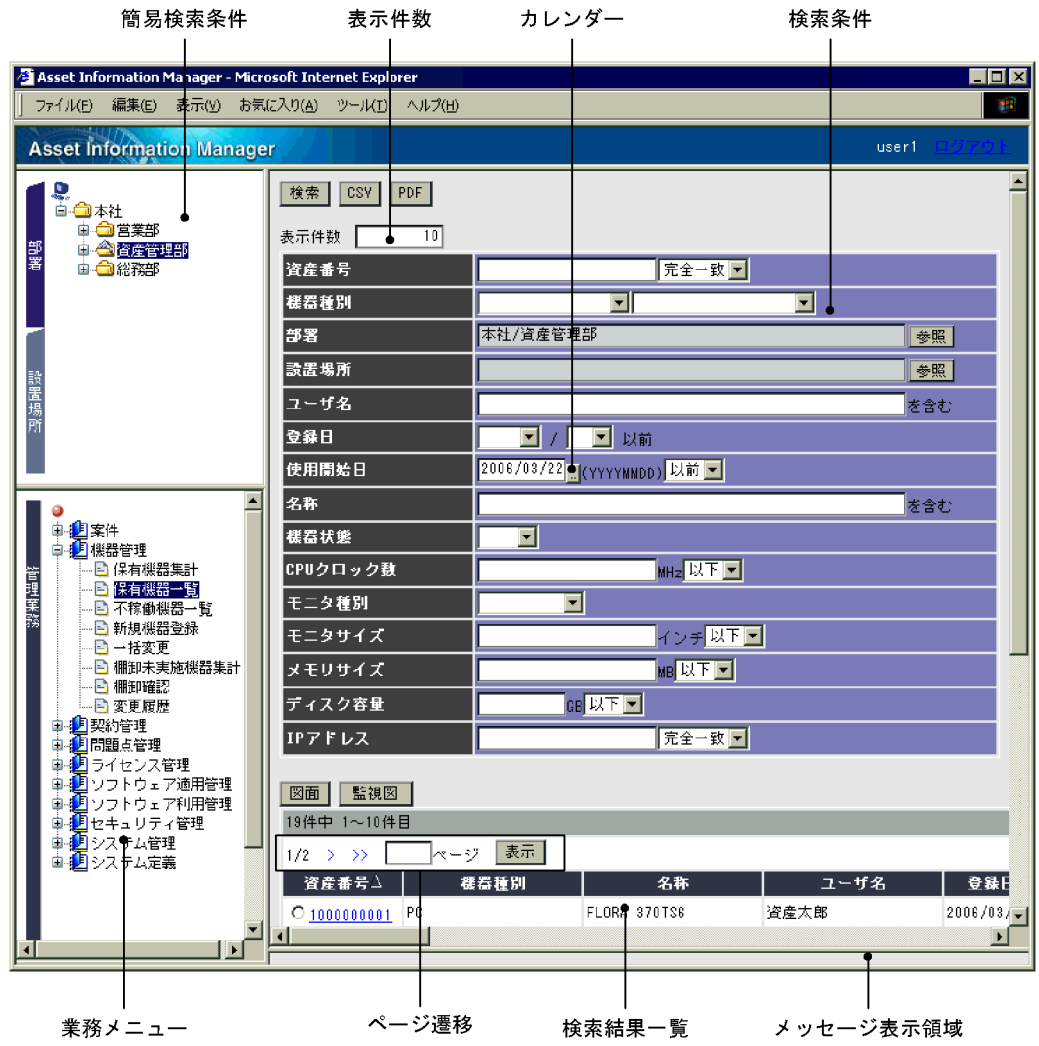
自動的にログアウトする時間は，［サーバセットアップ］ダイアログの「セッション情報」の「無通信監視時間」で設定します。［サーバセットアップ］ダイアログでの設定方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.3.3　セッション情報の設定」を参照してください。

1.2 各部の名称と使い方

この節では，資産管理業務を行う操作画面の各部の名称と使い方について説明します。

操作画面は，資産管理業務に合わせた各種処理画面で構成されています。操作画面の各部の名称を次の図に示します。

図 1-3 操作画面の各部の名称



簡易検索条件

部署および設置場所を検索条件に指定するとき，または登録および更新の値を指定するときに，ツリー上の部署および設置場所を選択します。

部署と設置場所はタブで切り換えます。

なお，表示される部署および設置場所は，ユーザ権限によって異なります。ユーザ

権限によるアクセス制限の設定については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「3.1.3　組織階層単位でのアクセス制限の設定」を参照してください。

表示件数

表示件数の入力領域に，検索結果を表示させたい件数を指定して，［検索］ボタンをクリックすることで，1 ページに表示する検索結果の件数を変更します。指定できる件数は 1 ～ 1,000 件で，指定した画面だけで有効です。デフォルトの表示件数は 200 件です。

表示件数の入力領域を非表示にして，全画面で同じ件数を表示する場合は，［サーバセットアップ］ダイアログの「基本情報」で設定します。表示件数の入力領域を非表示にする方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.3.4(4)　表示件数欄の表示」を参照してください。

カレンダー

カレンダーを使って，日付を指定します。ボタンをクリックすると，カレンダーが表示されます。

カレンダーを使った日付の指定方法を次の図に示します。

図 1-4　カレンダーを使った日付の指定方法

カレンダーを閉じるときは，カレンダー以外の部分（背景など）をクリックします。

検索条件

選択した業務内容に応じて，資産情報を検索するための条件が表示されます。

検索条件に指定する値は，資産管理システムの運用形態に合わせて変更することもできます。また，指定できる検索条件を，ユーザ権限に応じて変更することもできます。それぞれの変更方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「9.2 管理項目の変更（管理項目編集）」または「9.3　ユーザ権限に応じた操作画面の変更（業務フィルター）」を参照してください。

業務メニュー

実行したい業務に合わせて選択します。

ツリー上から実行したい業務メニューを選択すると，各処理に応じた画面が，右側

に表示されます。
なお，簡易検索条件と同様に，表示される業務メニューはユーザ権限によって異なります。
資産管理システムの運用形態に合わせて表示する業務メニューを選択することもできます。業務メニューの表示・非表示の選択方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「9.4　実行できる業務の変更（利用可能業務割り当て）」を参照してください。

ページ遷移

検索結果が複数ページにわたる場合，アンカーをクリックして，ほかのページを表示します。
各アンカーをクリックすると表示されるページを次に示します。

- **「>」**
  次のページが表示されます。
- **「<」**
  一つ前のページが表示されます。
- **「>>」**
  最後のページが表示されます。
- **「<<」**
  最初のページが表示されます。

また，入力領域に移動したいページを指定して［表示］ボタンをクリックすると，指定したページを表示できます。

検索結果一覧

検索条件と一致する資産情報が一覧で表示されます。検索結果には，ログインしたユーザが処理できる権限を持つ資産情報が表示されます。
この検索結果一覧から選択して，詳細情報の参照や編集などの処理を行います。
項目のタイトルに▽（または△）が表示されている場合，タイトルをクリックすると，一覧を昇順または降順にソートできます。

メッセージ表示領域

処理の進行状況を表すメッセージが表示されます。

ボタン

操作画面のボタンについて次に説明します。

- **［CSV］ボタン**
  検索結果一覧，集計結果一覧など，画面に表示された一覧情報を CSV ファイルとしてダウンロードします。
- **［PDF］ボタン**
  検索結果一覧，集計結果一覧など，画面に表示された一覧情報を PDF 形式で出力できます。例えば，保有機器一覧では，資産番号のバーコードを出力できます。
  検索結果を PDF 形式で出力するには，EUR と連携する必要があります。
- **［図面］ボタン**
  該当する資産の設置場所をフロアレイアウト図で確認できます。フロアレイアウ

ト図を表示するには，NetInsight II と連携する必要があります。

- **［監視図］ボタン**
  該当する資産を含むネットワークの構成を監視図で確認できます。監視図を表示するには，Network Node Manager と連携する必要があります。

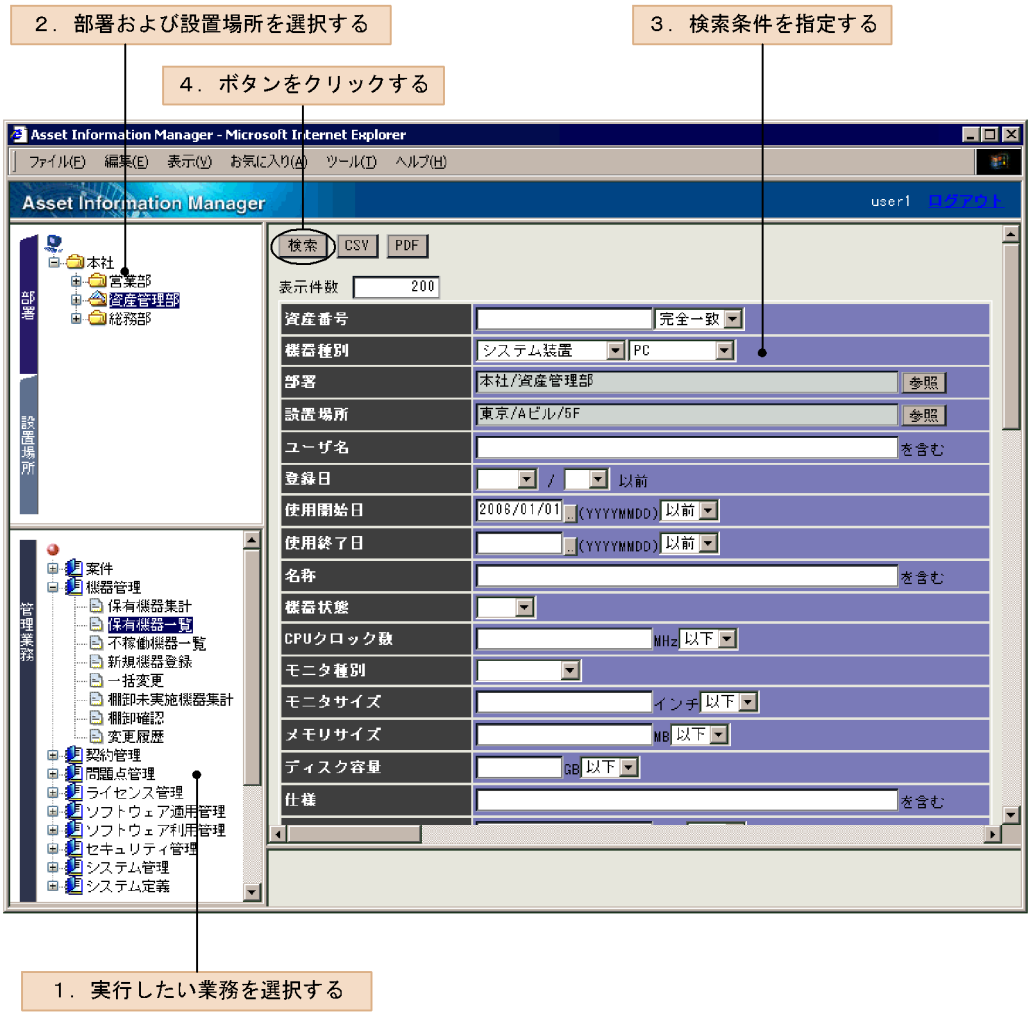
［PDF］ボタン，［図面］ボタンまたは［監視図］ボタンを使用するために必要な設定方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.3　資産管理サーバの設定」を参照してください。

1.3　検索操作の流れ

資産管理システムでは，管理している資産情報を業務目的に合わせて集計したり，検索したりできます。

ここでは，検索条件を指定して資産情報を検索し，検索結果を基に各種処理を行う操作の流れを説明します。検索操作の流れと，各手順に該当する操作画面上の位置を次に示します。

図 1-5　検索操作の流れ



1. **業務メニューから実行したい業務（例えば「保有機器一覧」）を選択する。**
   選択した業務メニューに応じた画面が表示されます。
2. **簡易検索条件または［参照］ボタンから，部署および設置場所を選択する。**
   条件に指定したい部署または設置場所をツリーから選択すると，簡単に検索条件に指

定できます。部署と設置場所のツリーは，タブで切り換えます。
一度指定した条件をクリアする場合は，ツリーのトップのアイコンをクリックしてください。

3. **部署，設置場所以外の検索条件を指定する。**
検索条件は，メニューによって異なります。検索条件を複数指定した場合は，AND 条件で検索されます。

4. **［検索］ボタンをクリックする。**
検索結果一覧が表示されます。
検索結果を CSV ファイルとして出力したり，検索された機器の設置場所をフロアレイアウト図で確認したりできます。

（1） 資産情報を検索するときのポイント

どの条件を指定して検索するかについて，資産情報を検索するときのポイントを次に示します。

「資産番号」または「契約番号」で検索する

検索したい資産の資産番号がわかっている場合には，資産番号を入力して「完全一致」を選択します。資産番号は各資産にユニークに割り当てられている番号なので，1 回の検索で資産を特定できます。
また，資産番号をカテゴリ分けして設定している場合や，一部しかわからない場合などは，「部分一致」，「前方一致」または「後方一致」を指定して検索できます。なお，契約情報を検索するときの契約番号も同様です。

「機器種別」で検索する

機器種別は，「システム装置」，「ネットワーク装置」，「拡張装置」の装置を指定したあとに，さらに詳細な種別で絞り込めます。
2 段階に種別を指定することで，種別ごとに機器を洗い出したい場合や，特定の機器を絞り込みたい場合など，目的に応じて情報を絞り込めます。

「ソフトウェア名」で検索する

Asset Information Manager で管理するソフトウェアの名称には次の 3 種類があります。それぞれ名称が異なる場合がありますので，注意してください。

- **ソフトウェア名**
ライセンス管理の対象として登録したソフトウェアの名称です。検索条件の「ソフトウェア名」は，通常このソフトウェア名を指します。
- **インストールソフトウェア名**
機器にインストールされているソフトウェアとして登録された名称です。そのため，JP1/NETM/DM で取得したインベントリ情報を登録した場合は，JP1/NETM/DM で収集されたソフトウェアの名称となります。
- **稼働ソフトウェア名**
JP1/Lan Licenser で取得した，機器にインストールされているソフトウェアの名称です。業務メニュー「稼働状況」からソフトウェアの稼働状況を検索する場合だけ，この名称で条件を指定します。

部分一致で検索する

検索条件に「部分一致」,「前方一致」もしくは「後方一致」を指定した場合，またはユーザ名など「を含む」と表示されている項目の場合，検索時に大文字と小文字，全角と半角，かたかなとひらがなが区別されます。ただし，資産管理データベースに Microsoft SQL Server を使用している場合，データベースの照合順序に従うため，区別しないで検索することもできます。

1.4　登録操作の流れ

資産管理システムでは，機器，契約，ソフトウェアなどの情報を，操作画面から登録できます。

ここでは，機器，契約，ソフトウェアなどの資産情報を登録する操作の流れを説明します。登録操作の流れと，各手順に該当する操作画面上の位置を次に示します。

図 1-6　登録操作の流れ

1. **業務メニューから実行したい業務（例えば「新規機器登録」）を選択する。**
   選択した業務メニューに応じた画面が表示されます。
2. **表示された画面で各項目を指定する。**
   項目名に「★」が付いている項目は，必ず指定してください。
   部署および設置場所の項目は，簡易検索条件から選択して指定します。
   ユーザ名は直接入力するか，または［参照］ボタンを使用して指定します。
   また，添付ファイルを指定する場合，［添付］ボタンを使用して指定します。
3. **［登録］ボタンをクリックする。**

指定した内容が資産管理データベースに登録されます。

(1) 部署の指定方法

操作画面からアンカーやボタンをクリックして表示されるダイアログでは，［参照］ボタンを使用して部署を指定します。部署を指定する手順を次に示します。

1. **部署の指定領域の［参照］ボタンをクリックする。**
   ［部署参照］ダイアログが表示されます。
2. **ツリーから指定したい部署を選択して，［決定］ボタンをクリックする。**
   ［部署参照］ダイアログが閉じて，選択した部署が指定されます。
   部署を選択した状態の［部署参照］ダイアログを次の図に示します。

図 1-7 ［部署参照］ダイアログ

(2) ユーザ名の指定方法

ユーザ名は［参照］ボタンを使用して指定する方法と，直接入力する方法があります。指定するユーザが Asset Information Manager に登録されている場合は，どちらかの方法で登録してください。機器を利用しているだけのユーザなど，Asset Information Manager に登録されていないユーザ名を指定する場合は，直接入力してください。

［参照］ボタンを使用してユーザ名を指定する手順を次に示します。

1. **ユーザ名の指定領域の［参照］ボタンをクリックする。**
   ［ユーザ参照］ダイアログが表示されます。
2. **ツリーから指定したいユーザが所属する部署を選択する。**
   選択した部署に所属するユーザの一覧が表示されます。
3. **ユーザ名を選択して，［決定］ボタンをクリックする。**
   ［ユーザ参照］ダイアログが閉じて，選択したユーザが指定されます。
   ユーザを選択した状態の［ユーザ参照］ダイアログを次の図に示します。

図 1-8 ［ユーザ参照］ダイアログ

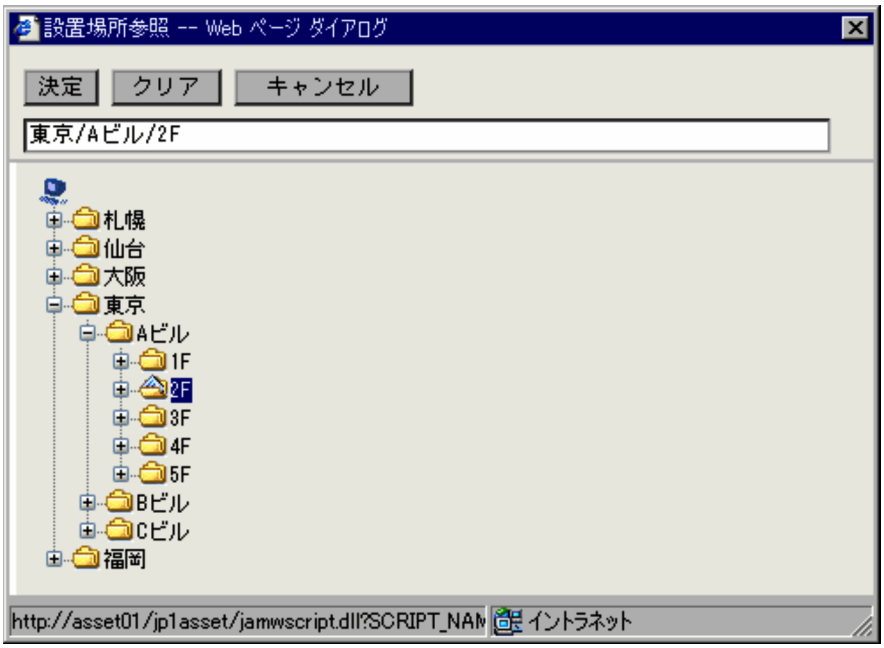
(3) 設置場所の指定方法

操作画面からアンカーやボタンをクリックして表示されるダイアログでは，［参照］ボタンを使用して設置場所を指定します。設置場所を指定する手順を次に示します。

設置場所の指定方法を次に示します。

1. **設置場所の指定領域の［参照］ボタンをクリックする。**
   ［設置場所参照］ダイアログが表示されます。
2. **ツリーから指定したい設置場所を選択して，［決定］ボタンをクリックする。**
   ［設置場所参照］ダイアログが閉じて，選択した設置場所が指定されます。
   設置場所を選択した状態の［設置場所参照］ダイアログを次の図に示します。

図 1-9 ［設置場所参照］ダイアログ



(4) 添付ファイルの指定方法

契約書やライセンス証書など，契約の情報と一緒に管理したいファイルを，添付ファイルとして登録できます。添付ファイルを指定する手順を次に示します。

1. **添付ファイルの指定領域の［添付］ボタンをクリックする。**
   ［添付ファイル編集］ダイアログが表示されます。
2. **［追加］ボタンをクリックする。**
   ［ファイル登録］ダイアログが表示されます。
3. **［参照］ボタンをクリックする。**
   ファイルを選択するダイアログが表示されます。
4. **追加したいファイルを選択して，［開く］ボタンをクリックする。**
   「保存ファイル名」および「アップロードファイル」に，指定したファイルが追加されます。「保存ファイル名」に表示された文字列は編集できます。
5. **［決定］ボタンをクリックする。**
   指定したファイルが追加されます。
6. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
   ［ファイル登録］ダイアログが閉じます。
7. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
   ［添付ファイル編集］ダイアログが閉じます。
   なお，この時点では，追加したファイルは，まだ資産管理システムには登録されてい

ません。添付ファイルの指定領域のある画面で［登録］または［更新］ボタンをクリックすると，資産管理システムに登録されます。
ファイルが登録される前に追加したファイルを開くと，「保存ファイル名」で指定した名称と異なるファイル名でダウンロードされます。
ファイルを指定した状態の［添付ファイル編集］ダイアログを次の図に示します。

図 1-10 ［添付ファイル編集］ダイアログ

1.5 ユーザ権限による操作画面の機能の違い

この節では，ユーザ権限ごとに利用できる操作画面の業務メニューの違いを示し，ユーザ権限に応じて資産情報の参照が限定されることについて説明します。

(1) 利用できる業務メニューの違い

ユーザ権限によって，操作画面で利用できる機能は異なります。操作画面を使用する場合のユーザ権限には，「利用者」および「管理者」があります。

デフォルトの設定での，ユーザ権限ごとに利用できる操作画面の業務メニューを次の表に示します。

表 1-2 ユーザ権限による操作画面の業務メニューの違い

業務カテゴリ	業務メニュー	利用者	管理者
案件	新規案件	○	○
	受信トレイ	○	○
	送信トレイ	○	○
	実行案件管理	×	○
機器管理	保有機器集計	○	○
	保有機器一覧	○	○
	不稼働機器一覧	○	○
	新規機器登録	○	○
	一括変更	○	○
	棚卸未実施機器集計	○	○
	棚卸確認	×	○
	変更履歴	○	○
契約管理	新規契約登録	×	○
	契約一覧	×	○
問題点管理	問題点一覧	○	○
ライセンス管理	保有ライセンス一覧	○	○
	超過ライセンス一覧	○	○
	不正利用ライセンス一覧	○	○
	遊休ライセンス一覧	×	○
	未登録ソフトウェア利用一覧	○	○
	新規ソフトウェア登録	○	○
	保有ソフトウェア一覧	○	○
	ライセンス移管	○	○
	ボリューム契約登録	○	○

業務カテゴリ	業務メニュー	利用者	管理者
	ボリューム契約一覧	○	○
	集計管理	×	○
	変更履歴	○	○
ソフトウェア適用管理	ソフトウェア適用状況	×	○
	配布状況	×	○
	WSUS 更新プログラム管理	×	○
ソフトウェア利用管理	ソフトウェア稼働状況	○	○
	許可外インストール	○	○
	プログラム起動履歴	×	○
	ウィンドウタイトル変更履歴	×	○
	稼働状況	×	×
セキュリティ管理	操作ログ一覧	×	○
	操作ログ集計	×	○
システム管理	ユーザ組織管理	×	○
	ユーザ検索	○	○
	設置場所管理	×	○
	IP グループ管理	×	○
	機器カタログ管理	×	○
	ソフトウェア名称管理	×	○
	インストールソフトウェア管理	×	○
	コード管理	×	○
	個人情報	○	○
	インポート	×	○
	エクスポート	×	○
	インポート結果一覧	×	○
	ログ一覧	×	○
システム定義	権限管理	×	○
	管理項目編集	×	○
	業務フィルター	×	○
	利用可能業務割り当て	×	○
	ユーザレポート作成	×	○
	インベントリ情報の引き当て	×	○
	変更履歴取得項目	×	○
	案件定義	×	○
	職権管理	×	○

（凡例）
　○：利用できる
　×：利用できない

なお，ユーザ権限ごとに利用する業務メニューは変更できます。操作画面に表示するメニューの変更方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「9.4　実行できる業務の変更（利用可能業務割り当て）」を参照してください。

（2）参照できる資産情報の違い

ユーザの権限によって，操作画面から参照できる資産情報が限定されます。

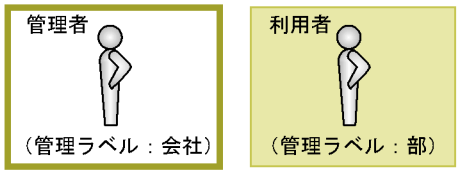
組織階層単位でアクセス制限をしている場合，ユーザ権限に設定した管理ラベルと同じ管理ラベルを設定している部署以下の資産情報だけを参照できます。組織階層単位でのアクセス制限の設定方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「3.1.3　組織階層単位でのアクセス制限の設定」を参照してください。

サンプル提供のユーザおよび部署の情報をインポートした場合の，組織構成と管理ラベルを次の図に示します。

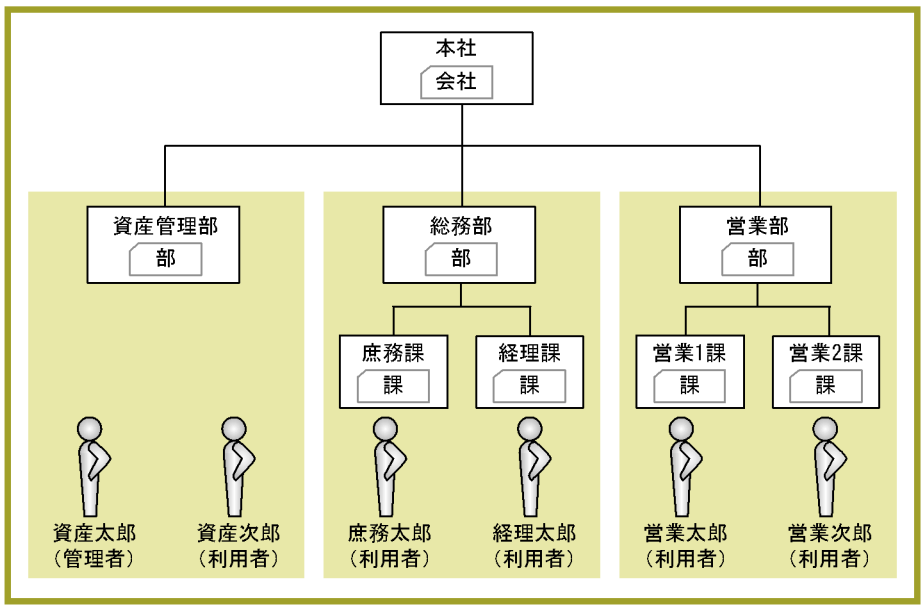
サンプルのユーザおよび部署情報をインポートする手順については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.11　操作画面で使用できるサンプルデータのインポート」を参照してください。

図 1-11 サンプル提供の組織構成で参照できる範囲

■ユーザ権限の設定



■組織階層の設定



（凡例）

：管理者の権限で参照できる範囲

：利用者の権限で参照できる範囲

：管理ラベル

2 資産管理業務の実行

この章では，各業務で実行する作業の内容，および操作画面の操作方法について説明します。

2.1 **機器管理**

2.2 **契約管理**

2.3 **問題点管理**

2.4 **ライセンス管理**

2.5 **ソフトウェア適用管理**

2.6 **ソフトウェア利用管理**

2.7 **セキュリティ管理**

2.8 **各機器の詳細情報の管理**

2.1　機器管理

この節では，機器に関する資産管理業務の実行方法について説明します。

機器管理では，部署ごとに保有台数を集計したり，特定の機器を検索したりして，一元的に管理している情報を機器の管理台帳としてさまざまな用途に利用できます。

機器管理に関する業務は，業務カテゴリ「機器管理」の下に表示されます。

各メニューから実行できる操作について，画面を示しながら説明します。各タイトルの（）内には，選択するメニューを示します。

2.1.1　機器の保有台数を調査する（保有機器集計）

任意の管理項目を観点として，保有機器の台数を部署，設置場所ごとや，組織全体にわたって集計します。機器種別ごとの台数，リプレース対象の機器の台数を部署または設置場所ごとに調査できます。また，「機器状態」を集計観点として「運用」，「在庫」など機器状態別に台数を調査したり，「登録日」を集計観点として導入実績を調査したりすることもできます。

保有機器の台数は，業務メニュー「保有機器集計」をクリックすると表示される保有機器集計画面で集計します。保有機器集計画面を次の図に示します。

図 2-1　保有機器集計画面

保有機器集計画面では，運用として扱われる状態の機器が集計されます。

(1) 条件を指定して保有機器を集計する

部署ごと，または設置場所ごとに保有機器を集計するには，検索条件の「集計単位」で「部署」または「設置場所」を選択します。部署または設置場所で集計する範囲を絞り込む場合は，簡易検索条件または［参照］ボタンで指定してください。

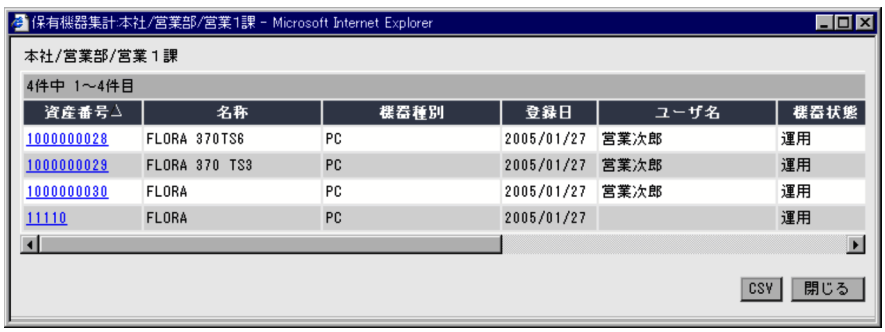
また，機器状態別や製造者別に保有機器を集計するには，検索条件の「集計観点」で集計する項目を選択します。集計項目を変更するには，検索条件の「集計観点」で「資産情報」または「ハードウェア資産情報」を選択して，右側のプルダウンで詳細情報を選択します。デフォルトは，「ハードウェア資産情報」の「機器種別」です。

(2) 集計結果の内訳を表示する

集計結果に表示されている「集計観点」で指定した詳細情報のアンカーをクリックすると，各集計結果の内訳が表示されます。ここから，各機器の詳細情報を表示することもできます。各機器の詳細情報の参照および編集方法については，「2.8　各機器の詳細情報の管理」を参照してください。

「集計観点」で指定した詳細情報の内訳が表示された画面を次の図に示します。

図 2-2 「集計観点」で指定した詳細情報の内訳が表示された画面（保有機器集計）



(3) 集計結果の表示幅を変更する

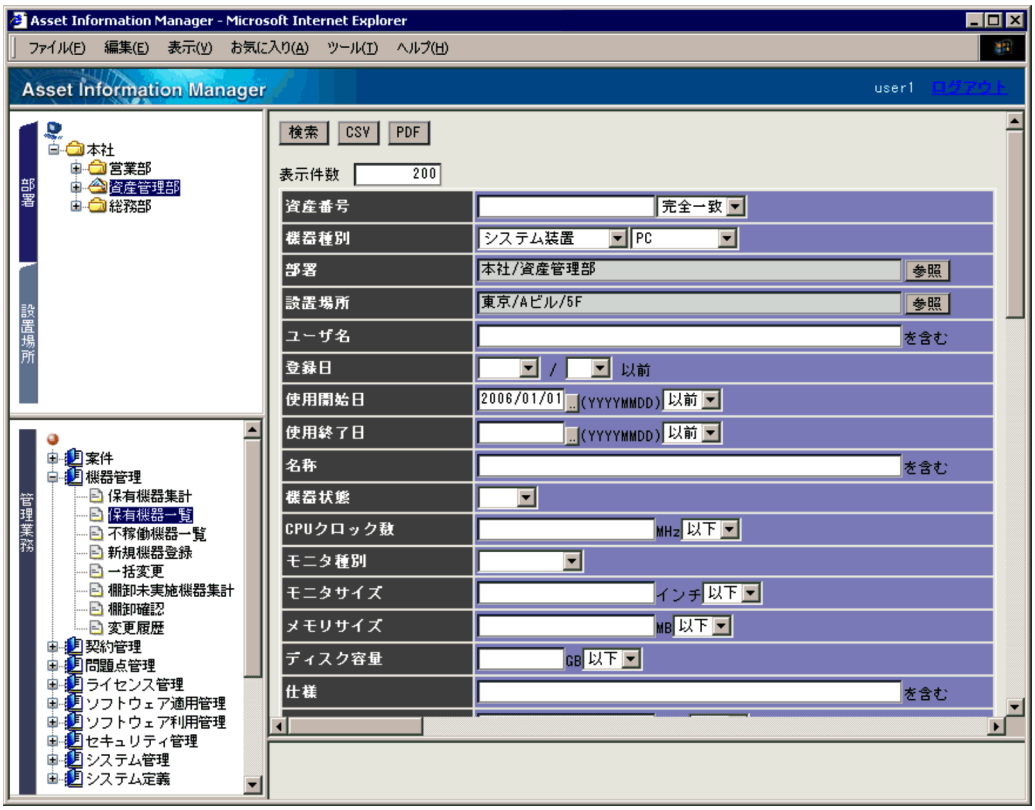
集計結果の項目の表示幅を変更できます。表示幅を変更する方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「9.3.6(3)　検索結果リストの項目の幅を設定する」を参照してください。

2.1.2　機器を検索する（保有機器一覧）

保有している機器の中から，目的の機器を検索します。例えば，「登録日の古い機器」や「一定レベル以下の性能の機器」など，さまざまな目的に合わせて機器をリストアップできます。また，リストアップした機器の情報を変更することもできます。

機器の検索は，業務メニュー「保有機器一覧」をクリックすると表示される保有機器一覧画面から実行します。保有機器一覧画面を次の図に示します。

図 2-3　保有機器一覧画面



保有機器一覧画面では，運用として扱われる状態の機器が検索されます。

(1) 目的に合わせて検索条件を指定する

保有機器一覧では，必要に応じて検索条件を指定します。保有機器を検索する場合の，条件の指定例を次に示します。

● リプレース対象の機器を検索する

老朽化した機器と一定レベル以下の性能の機器を検索するには，「登録日」，「CPU クロック数」，「メモリサイズ」などを指定します。

● 修理対象の機器を検索する

対象機器の名称がわかっている場合は，「名称」を指定して検索します。ただし，すべての機器に名称が登録されていない場合は，「機器種別」を指定して漏れなく検索します。

検索条件に IP アドレスを指定して部分一致または前方一致で検索する場合，2 けた以下の数値の指定方法に注意してください。例えば，「33.22.1」を指定して検索すると，「33.22.100.XXX」～「33.22.199.XXX」が検索されます。そのため，「33.22.1.XXX」を検索したいときは，「33.22.1.」とピリオドを入力するか，または「33.22.001」のように

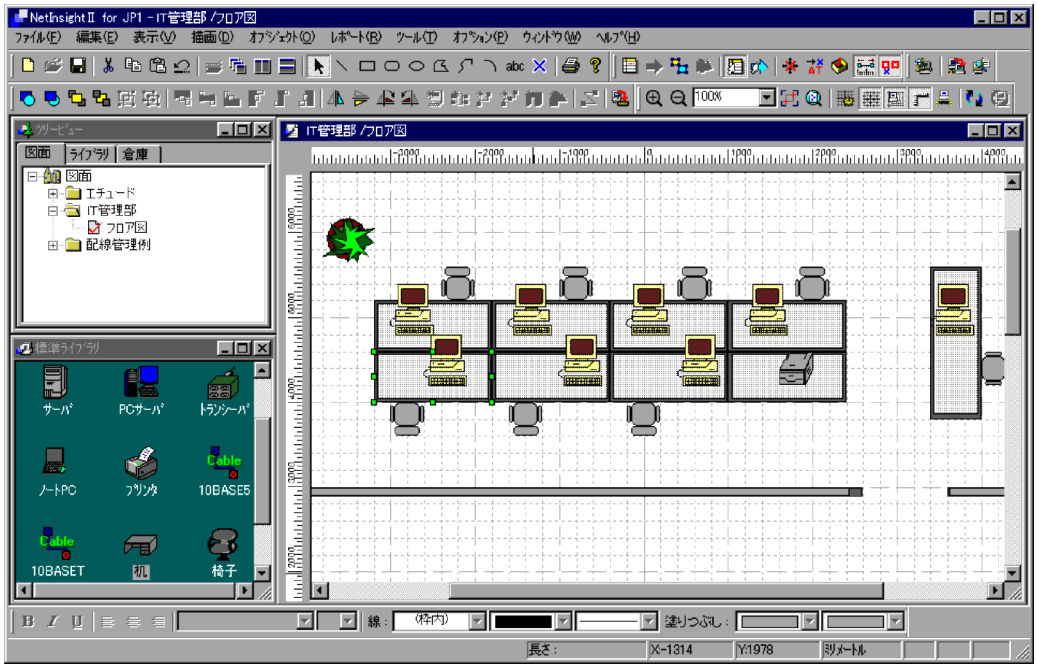
前ゼロを入力してください。また，「XXX.22.1.XXX」を検索したいときは，「.22.1.」または「022.001」と指定してください。

(2) フロアレイアウト図で機器の設置場所を確認する

フロアレイアウト図を表示して，機器の設置場所を確認します。

検索結果の一覧からフロアレイアウト図を表示したい機器を選択して，［図面］ボタンをクリックすると，該当する機器のフロアレイアウト図を表示できます。フロアレイアウト図を次の図に示します。

図 2-4　フロアレイアウト図



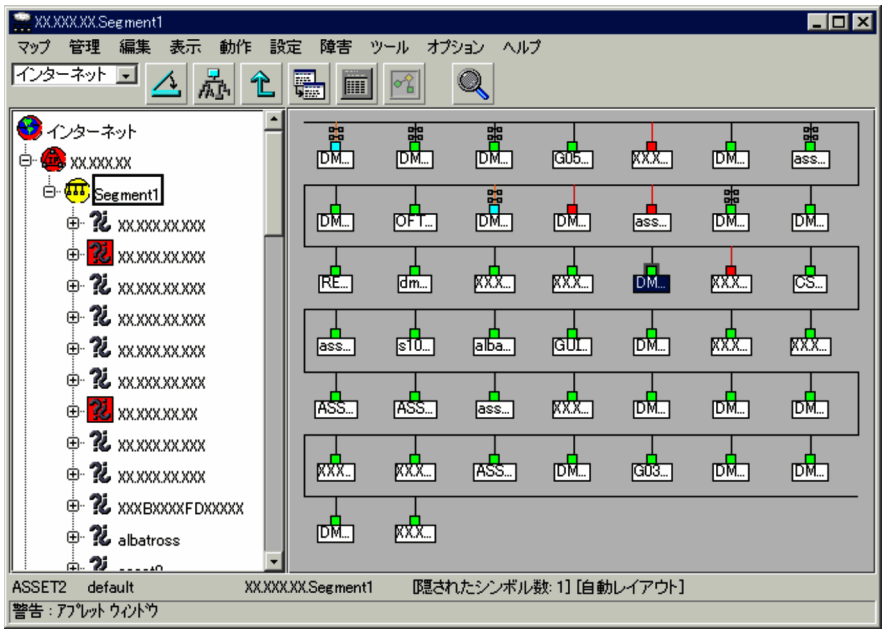
フロアレイアウト図を表示するには，NetInsight II と連携している必要があります。NetInsight II と連携するための設定については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「6.7　NetInsight II と連携するための設定」を参照してください。

(3) 監視図でネットワークの構成を確認する

監視図を表示して，機器を含むネットワークの構成を確認します。

検索結果の一覧から監視図を表示したい機器を選択して，［監視図］ボタンをクリックすると，該当する機器の監視図を表示できます。監視図を次の図に示します。

図 2-5　監視図



監視図を表示するには，Network Node Manager と連携している必要があります。Network Node Manager と連携するための設定については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「6.2　Network Node Manager と連携するための設定」を参照してください。

(4) 機器の詳細情報を表示する

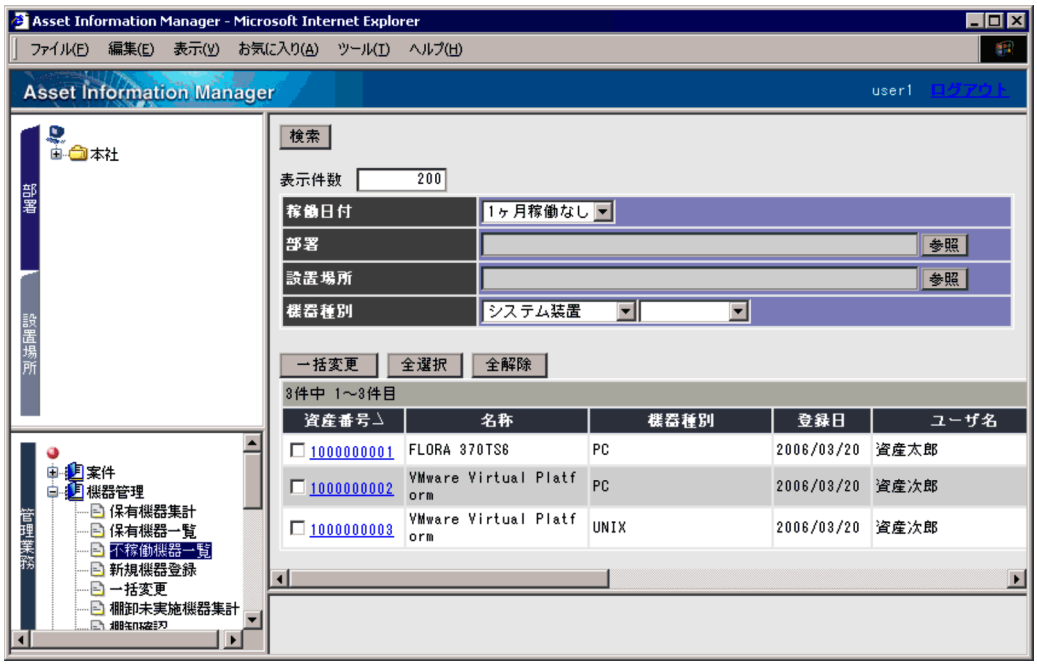
検索結果の一覧で「資産番号」のアンカーをクリックすると，［機器詳細］ダイアログが表示されて，機器の詳細情報を参照および編集できます。各機器の詳細情報の参照および編集方法については，「2.8　各機器の詳細情報の管理」を参照してください。

2.1.3　利用されていない機器を検索する（不稼働機器一覧）

利用されていない機器の有無を調査します。各部署からの機器の配布要求に対して，利用されていない機器を割り当てられるため，効率良く資産を運用できます。

利用されていない機器とは，一定期間情報が更新されていない機器を指します。利用されていない機器は，業務メニュー「不稼働機器一覧」をクリックすると表示される不稼働機器一覧画面から検索します。不稼働機器一覧画面を次の図に示します。

図 2-6　不稼働機器一覧画面



不稼働機器一覧画面では，使用中として扱われる状態の機器の中から，検索条件「稼働日付」に指定した期間利用されていない機器が検索されます。

不稼働機器一覧には，稼働状況を管理する対象となっている機器だけが表示されます。稼働状況を管理するかどうかは，［機器詳細］ダイアログで設定できます。

● **JP1 製品と連携して資産情報を取得している場合**

JP1 製品と連携して定期的に資産情報を更新している場合は，一定期間，連携先からの情報の更新がない機器が不稼働機器として検索されます。

JP1/NETM/DM と連携している場合

JP1/NETM/DM でインベントリ情報を収集した日からの期間です。

JP1/Lan Licenser と連携している場合

Asset Information Manager に JP1/Lan Licenser の情報を登録した日からの期間です。

Network Node Manager と連携している場合

Asset Information Manager に Network Node Manager の情報を登録した日からの期間です。

Network Node Manager では，「ネットワークポーリングの設定」によって，問い合わせに対して一定期間応答のないノードはマップから削除されます。デフォルトは 1 週間です。「ネットワークポーリングの設定」の詳細については，マニュアル「JP1/Cm2/Network Node Manager ネットワーク管理ガイド」を参照してください。

マップから削除されたノードの情報は，Asset Information Manager 上で情報が更新されないため，不稼働機器として表示されるようになります。不稼働機器として表示したくない場合は，稼働管理の対象外に設定してください。

JP1 製品と連携して情報を登録する方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「7. CSV データの登録と出力」を参照してください。また，稼働管理の対象外にする方法については，「2.8.1 機器の詳細情報を参照および変更する（「機器」タブ）」を参照してください。

(1) 機器の詳細情報を表示する

検索結果の一覧で「資産番号」のアンカーをクリックすると，［機器詳細］ダイアログが表示されて，機器の詳細情報を参照および編集できます。各機器の詳細情報の参照および編集方法については，「2.8 各機器の詳細情報の管理」を参照してください。

(2) 不稼働機器の状態を一括で変更する

不稼働の機器を一括で「廃棄」状態にする場合を例に，不稼働機器の管理情報を変更する手順を次に示します。

1. **必要に応じて検索条件「部署」および「設置場所」を指定し，「機器状態」に「運用」を指定して，［検索］ボタンをクリックする。**
   条件に一致する機器が検索されます。
2. **［全選択］ボタンをクリックして，［一括変更］ボタンをクリックする。**
   ［変更情報設定］ダイアログが表示されます。
3. **「機器状態」のチェックボックスをチェックする。**
4. **「機器状態」のプルダウンから「廃棄」を選択する。**
   「機器状態」に「廃棄」が指定されます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
5. **［更新］ボタンをクリックする。**
   ［変更情報設定］ダイアログが閉じて，「機器状態」が「運用」の機器が「廃棄」に変更されます。
   ［変更情報設定］ダイアログでは，変更したい項目を，チェックボックスをチェックして選択します。登録されている値を削除するには，チェックボックスをチェックしたあと，値を設定しないで［更新］ボタンをクリックしてください。ただし，「機器状態」，「稼働管理種別」，「機器種別」の値は削除できません。

   機器状態に「廃棄」を指定した状態の［変更情報設定］ダイアログを次の図に示します。

図 2-7　［変更情報設定］ダイアログ

2.1.4　機器情報を登録する（新規機器登録）

新規に機器を登録します。JP1/NETM/DM から情報を収集できない拡張装置や，ネットワークに接続されていない機器などを登録して，管理対象の機器を追加できます。

新規機器の登録は，業務メニュー「新規機器登録」をクリックすると表示される新規機器登録画面から実行します。新規機器登録画面を次の図に示します。

図 2-8　新規機器登録画面

複数の機器を登録する場合の資産番号

「台数」に数値を指定することで，同じ機器の情報を一度に登録できます。新規機器登録画面からは，500 台まで一度に登録できます。

ただし，2 台以上の機器を登録する場合，資産番号は指定した値ではなく自動採番された値で登録されます。

そのため，資産番号を指定して登録したい場合は，「資産番号」以外の共通情報を指定した状態で，「資産番号」に順次値を指定しながら 1 台ずつ登録してください。

ユーザ名の指定方法

ユーザ名は，［参照］ボタンを使用して指定するか，または直接入力で指定します。直接入力で指定すると，Asset Information Manager のユーザに登録されていないユーザ名も指定できます。

ただし，同姓同名のユーザが複数人登録されている場合，ユーザ名だけでユーザを特定できないため，直接入力では指定できません。［参照］ボタンを使用して指定してください。

(1) 機器カタログを利用した登録方法

機器の情報には，CPU やメモリサイズなど，製品ごとに決まっている項目があります。それらの項目を製品ごとに登録したものを**機器カタログ**と呼びます。

あらかじめ登録されている機器カタログの中から，登録したい製品を選択することで，製品によって決まっている項目を入力する手間を省けます。

機器カタログの登録方法，およびカタログを利用して指定できる項目については，「4.5 機器のカタログ情報を管理する（機器カタログ管理)」を参照してください。

機器カタログを参照して機器情報を登録する手順を次に示します。

1. **画面右上の［カタログ参照］ボタンをクリックする。**
   ［機器カタログ参照］ダイアログが表示されます。
2. **必要に応じて検索条件を指定する。**
   機器の「機器種別」,「名称」,「型式」,「製造者」の中から指定します。
3. **［検索］ボタンをクリックする。**
   カタログの一覧が表示されます。各項目のタイトルをクリックすると，一覧を昇順または降順にソートできます。
   「名称」のアンカーをクリックすると，カタログの内容を参照できます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
4. **該当するカタログを選択して［決定］ボタンをクリックする。**
   ［機器カタログ参照］ダイアログが閉じて，カタログの情報が項目に指定されます。
5. **カタログによって登録されない項目を指定して，［登録］ボタンをクリックする。**
   項目名に「★」の付いた項目は，必ず指定してください。
   指定した内容で，機器の情報が登録されます。
   ここで登録した情報は，保有機器一覧画面などの検索結果から表示する［機器詳細］ダイアログで変更できます。

目的の機器カタログを検索した状態の［機器カタログ参照］ダイアログを次の図に示します。

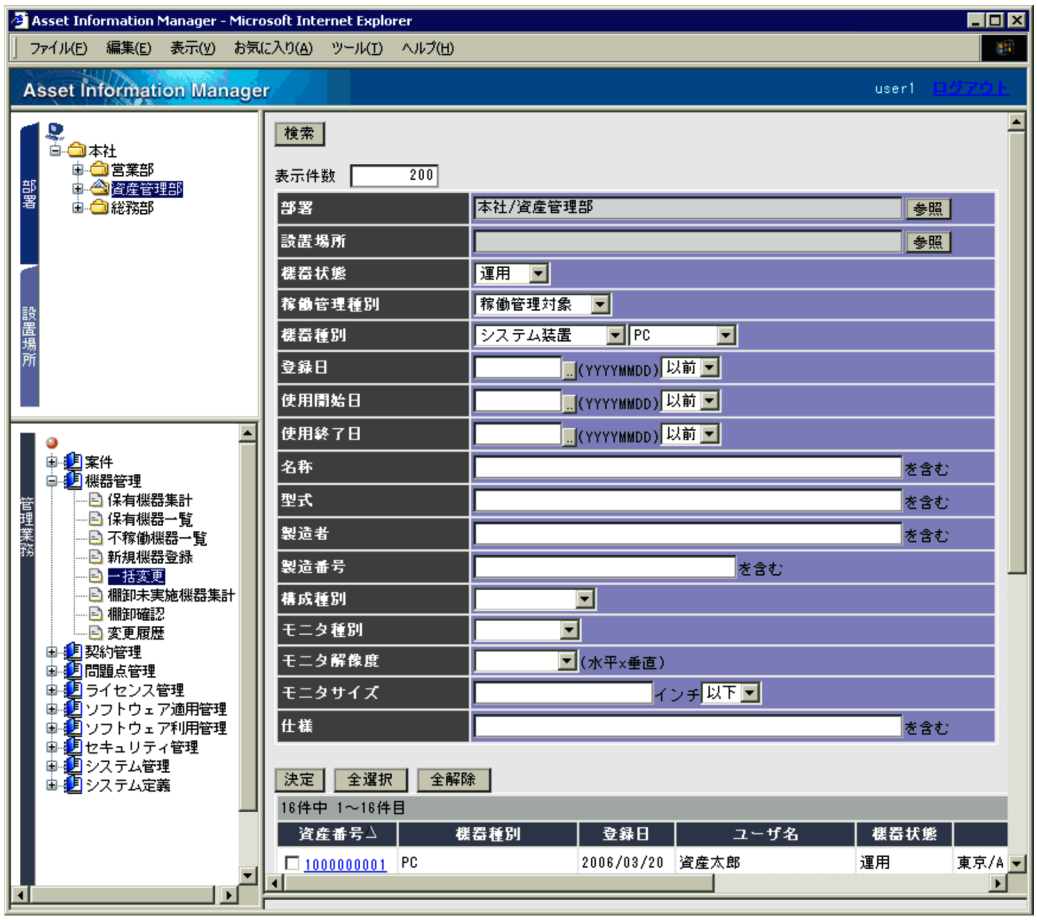
図 2-9 ［機器カタログ参照］ダイアログ

2.1.5 機器の管理情報を変更する（一括変更）

異動やレイアウト変更の場合に，機器の管理情報である「部署」,「設置場所」,「機器状態」などを一括して変更します。

機器の管理情報の一括変更は，業務メニュー「一括変更」をクリックすると表示される一括変更画面から実行します。一括変更画面を次の図に示します。

図 2-10　一括変更画面



「資産番号」のアンカーをクリックすると，各機器の詳細情報を参照および編集できます。

(1) 設置場所を変更する

A ビルの営業部が B ビルに移転する場合を例に，機器の管理情報の変更手順を次に示します。

1. **検索条件「部署」に「本社／営業部」，「設置場所」に「東京／ A ビル」，「機器状態」に「運用」を指定して，［検索］ボタンをクリックする。**
   A ビルで使用している営業部の機器が検索されます。
2. **［全選択］ボタンをクリックして，［決定］ボタンをクリックする。**
   ［変更情報設定］ダイアログが表示されます。
3. **「設置場所」のチェックボックスをチェックする。**
4. **「設置場所」の［参照］ボタンをクリックして，［設置場所参照］ダイアログから「B**

ビル」を選択する。
「設置場所」に「東京／ B ビル」が指定されます。
キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。

5. **［更新］ボタンをクリックする。**
［変更情報設定］ダイアログが閉じて，A ビルの営業部が使用している機器の設置場所が B ビルに変更されます。
［変更情報設定］ダイアログでは，変更したい項目を，チェックボックスをチェックして選択します。登録されている値を削除するには，チェックボックスをチェックしたあと，値を設定しないで［更新］ボタンをクリックしてください。ただし，「機器状態」，「稼働管理種別」，「機器種別」の値は削除できません。

変更後の設置場所を指定した状態の［変更情報設定］ダイアログを次の図に示します。

図 2-11 ［変更情報設定］ダイアログ

2.1.6　棚卸が必要な機器の台数を調べる（棚卸未実施機器集計）

部署または設置場所ごとに，棚卸が終わっていない機器を集計します。棚卸業務の進ちょく状況を確認して，未実施の機器の棚卸を指示できます。

棚卸未実施機器の台数は，業務メニュー「棚卸未実施機器集計」をクリックすると表示される棚卸未実施機器集計画面から集計します。棚卸未実施機器集計画面を次の図に示します。

図 2-12　棚卸未実施機器集計画面

運用として扱われる状態の機器の中から，検索条件に指定した「棚卸開始日」以降に，棚卸が実施されていない機器が一覧で表示されます。

(1) 部署ごとの棚卸未実施機器を集計する

部署ごとに棚卸未実施機器を集計するには，検索条件の「集計単位」で「部署」を選択します。集計する部署の範囲を絞り込む場合は，簡易検索条件または［参照］ボタンで部署を指定してください。

(2) 設置場所ごとの棚卸未実施機器を集計する

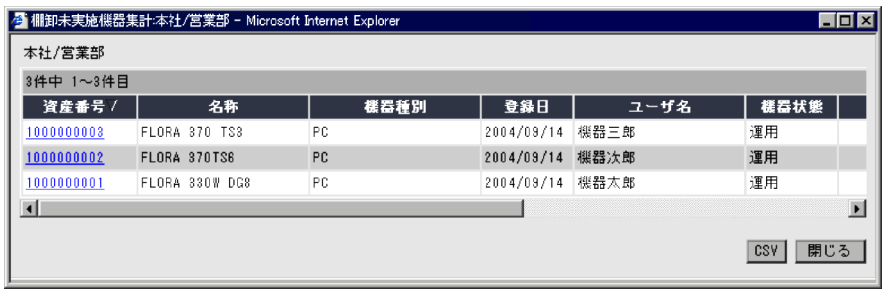
設置場所ごとに棚卸未実施機器を集計するには，検索条件の「集計単位」で「設置場所」を選択します。集計する設置場所の範囲を絞り込む場合は，簡易検索条件または［参照］ボタンで設置場所を指定してください。

(3) 集計結果の内訳を表示する

集計結果の「機器種別」のアンカーをクリックすると，各機器種別の内訳が表示されます。ここから，各機器の詳細情報を表示することもできます。各機器の詳細情報の参照および編集方法については，「2.8　各機器の詳細情報の管理」を参照してください。

機器種別の内訳が表示された画面を次の図に示します。

図 2-13　機器種別の内訳が表示された画面（棚卸未実施機器集計）



(4) 集計結果をダウンロードする

集計された棚卸未実施機器の一覧を，CSV ファイルとしてダウンロードできます。棚卸未実施機器集計画面または集計結果の内訳が表示された画面で［CSV］ボタンをクリックすると，棚卸が済んでいない機器の一覧が CSV ファイルとしてダウンロードされます。

CSV ファイルとしてダウンロードされる内容は，「部署」，「設置場所」，「資産番号」，「名称」，「機器種別」，「登録日」，「ユーザ名」および「機器状態」です。

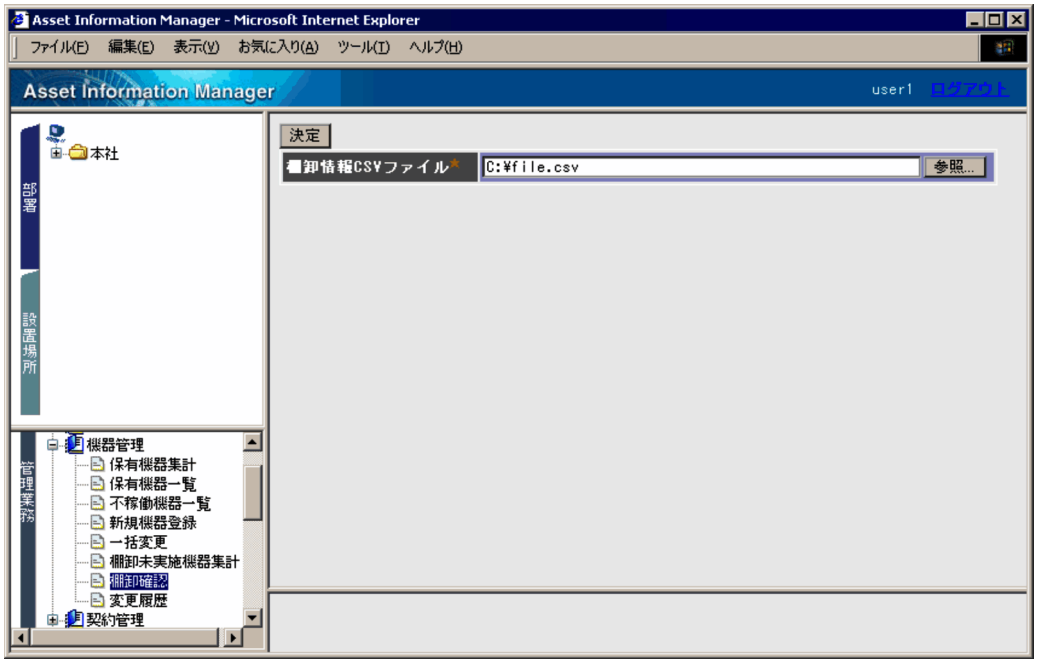
2.1.7　棚卸の実績を登録する（棚卸確認）

棚卸未実施機器を集計する基となる機器の棚卸実績を，資産管理データベースに登録します。

なお，デフォルトの設定では，棚卸実績の登録は，管理者だけが実行できます。

棚卸実績の登録は，業務メニュー「棚卸確認」をクリックすると表示される棚卸確認画面から実行します。棚卸確認画面を次の図に示します。

図 2-14　棚卸確認画面



「棚卸情報 CSV ファイル」に，棚卸実績の CSV ファイル名を指定します。

なお，CSV ファイル以外のファイルを指定しないように注意してください。ファイルサイズが大きい場合，エラーが出力されるまでに時間が掛かります。

棚卸情報 CSV ファイルの記述形式

棚卸実績として資産管理データベースに登録する CSV ファイルの記述形式を次に示します。

表 2-1　棚卸情報を登録するための記述形式

カラム	項目名	内容	省略の可否
1	資産番号	棚卸が済んだことを登録する資産の資産番号を記述します。	○
2	棚卸日付	棚卸を実施した日付を，次の形式で記述します。「YYYY/MM/DD」	△※

（凡例）

○：必ず記述する項目

△：必要に応じて記述する項目

注※

省略した場合は，CSV ファイルを登録した日が棚卸日付となります。

注意事項

Asset Information Manager に登録する CSV ファイルを編集する場合，

Microsoft Excel を使用して直接ファイルを開くと，コード，ID など先頭に 0 が付く数値は，先頭の 0 が自動的に削除されてしまうため，元の情報とは異なる値で更新されてしまうことがあります。そのため，Microsoft Excel を使用するときは，「テキストファイルのインポート」機能を使用して，列のデータ形式を「文字列」に設定したあと，ファイルを読み込んで編集してください。

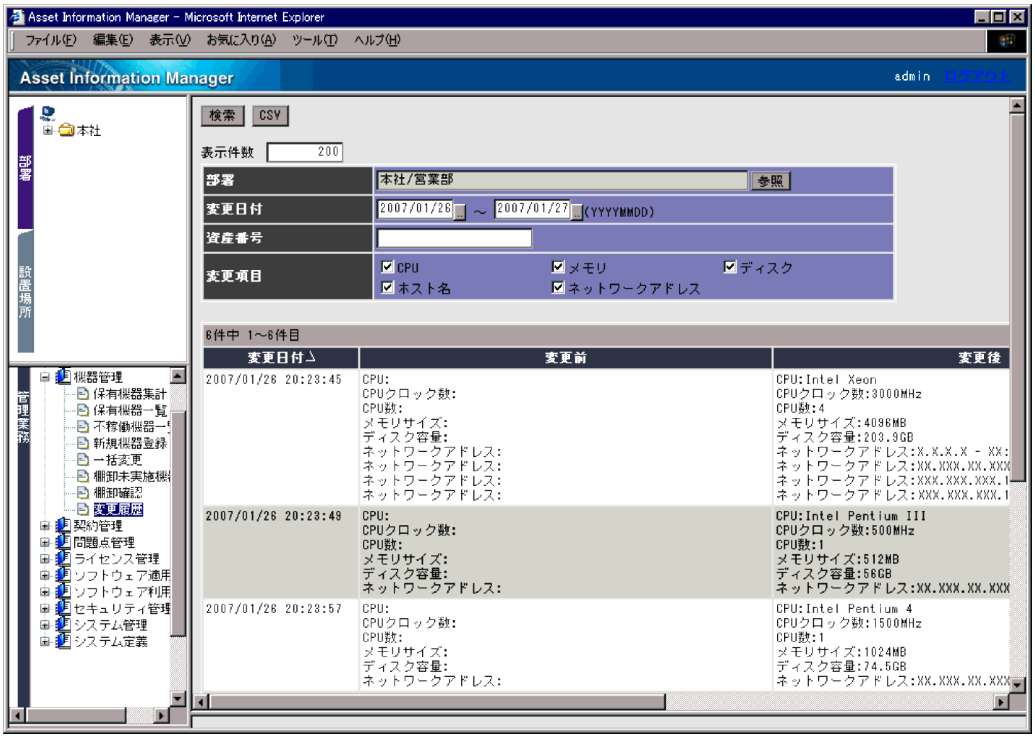
2.1.8　機器の変更履歴を管理する（変更履歴）

システム装置の CPU，メモリサイズ，ディスク容量の変更履歴を管理します。メモリサイズやディスク容量の変化を参照して，メモリ，ハードディスクドライブなどの増設や取り外しがあったことを確認できます。また，IP アドレスおよび MAC アドレスの変更履歴も管理できます。

機器の変更履歴は，JP1/NETM/DM のインベントリ情報，および Network Node Manager のノード情報を登録する際に取得されます。そのため，機器の変更履歴を管理するには，JP1/NETM/DM または Network Node Manager との連携が必要です。

機器の変更履歴の管理は，業務メニュー「変更履歴」をクリックすると表示される変更履歴画面から実行します。変更履歴画面を次の図に示します。

図 2-15　変更履歴画面



検索結果一覧で，「資産番号」のアンカーをクリックすると，［機器詳細］ダイアログが

表示されて，該当する機器の詳細を参照できます。

機器の変更履歴のメール通知

変更履歴を取得した場合，変更があった機器の台数を資産管理者にメールで通知させることができます。変更があった機器の台数をメールで通知する方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.9.10　機器の情報の変更通知」を参照してください。

（1）期間を指定して変更履歴を取得する

変更履歴画面では，機器の変更履歴として取得したい期間を，検索条件に指定します。検索を実行することで，指定した期間での，機器の CPU，メモリおよびディスク容量に関する変更履歴を調査できます。

「機器の CPU，メモリおよびディスク容量に変更があった時期を知りたい」，「機器ごとのシステム装置に関する変更履歴を知りたい」というようなときには，管理している部署を選択し，「変更日付」に履歴を知りたい期間の開始日と終了日を指定して検索します。

開始日を省略して終了日だけを指定した場合，インベントリ情報を取得した日付のうち，最も古い日付から終了日までの履歴が取得されます。

また，終了日を省略して開始日だけを指定した場合，開始日から最新の日付までの履歴が取得されます。

（2）ネットワークアドレスの変更履歴を取得する

IP アドレスまたは MAC アドレスに変更があったかどうかを知りたい場合は，検索条件に「ネットワークアドレス」を指定します。

ネットワークアドレス（IP アドレスおよび MAC アドレス）の変更履歴を取得するには，あらかじめ業務メニュー「変更履歴取得項目」で，変更履歴を取得する項目として IP アドレスまたは MAC アドレスを設定しておく必要があります。変更履歴として取得する項目の設定については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「9.7　変更履歴として取得する項目の選択（変更履歴取得項目）」を参照してください。

「ネットワークアドレス」には，「IP アドレス - MAC アドレス」の形式で，IP アドレスと MAC アドレスが表示されます。ただし，どちらか片方だけを変更履歴として取得する設定になっている場合は，片方だけが表示されます。

注意事項

ネットワークアドレスの変更履歴は，MAC アドレスの値をキーにして取得されます。そのため，変更履歴として MAC アドレスを取得しない設定になっている場合，IP アドレスの変更がないときも変更履歴が取得されることがあります。

2.2　契約管理

この節では，保守，リースおよびレンタル契約の契約に関する資産管理業務の実行方法について説明します。

契約管理では，契約の情報を新規に登録したり，既存の契約内容を編集したりします。

契約管理に関する業務は，業務カテゴリ「契約管理」の下に表示されます。各メニューから実行できる操作について，画面を示しながら説明します。各タイトルの（）内には，選択するメニューを示します。

2.2.1　契約情報を登録する（新規契約登録）

機器およびソフトウェアの各種契約の情報を登録します。

新規契約の登録では，契約の対象となる機器またはソフトウェアの情報は登録しません。契約後，対象となる機器やソフトウェアが決定したら，業務メニュー「契約一覧」から対象を追加してください。

なお，デフォルトの設定では，新規契約の登録は，管理者だけが実行できます。

新規契約情報の登録は，業務メニュー「新規契約登録」をクリックすると表示される新規契約登録画面から実行します。新規契約登録画面を次の図に示します。

図 2-16　新規契約登録画面

(1) 契約会社カタログを利用した登録方法

保守契約やリース契約を結ぶ契約会社に関する項目を，過去の履歴を流用して指定できます。過去の履歴を流用して指定できる項目は，「契約会社」，「住所」，「連絡先」および「担当者名」です。

過去の履歴を流用して契約会社に関する項目を指定する手順を次に示します。

1. **「契約会社」の［参照］ボタンをクリックする。**
   ［契約会社カタログ］ダイアログが表示されます。
   ［契約会社カタログ］ダイアログには，最近登録された契約会社が 20 件まで表示されます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
2. **指定したい契約会社を選択して，［決定］ボタンをクリックする。**
   ［契約会社カタログ］ダイアログが閉じて，「契約会社」，「住所」，「連絡先」および「担当者名」の値が指定されます。
3. **そのほかの項目を指定して，［登録］ボタンをクリックする。**
   項目名に「★」が付いた項目は必ず指定してください。
   なお，契約書のデータを「添付ファイル」に登録することもできます。添付ファイルを指定する方法については，「1.4(4)　添付ファイルの指定方法」を参照してください。
   指定した値で，契約情報が登録されます。

   ［参照］ボタンをクリックすると表示される［契約会社カタログ］ダイアログを次の図に示します。

図 2-17　［契約会社カタログ］ダイアログ

登録されている内容を削除したい場合は，削除したい契約会社を選択して［削除］ボタンをクリックしてください。

2.2.2　契約情報を変更する（契約一覧）

期限が迫った契約を検索したり，登録されている各種契約情報を変更したりします。また，新規に登録した契約情報に，対象となる機器やソフトウェアを追加します。

なお，デフォルトの設定では，契約情報は管理者だけが変更できます。

契約情報は，業務メニュー「契約一覧」をクリックすると表示される契約一覧画面から変更します。契約一覧画面を次の図に示します。

図 2-18　契約一覧画面

(1) 契約終了日の迫った契約を検索する

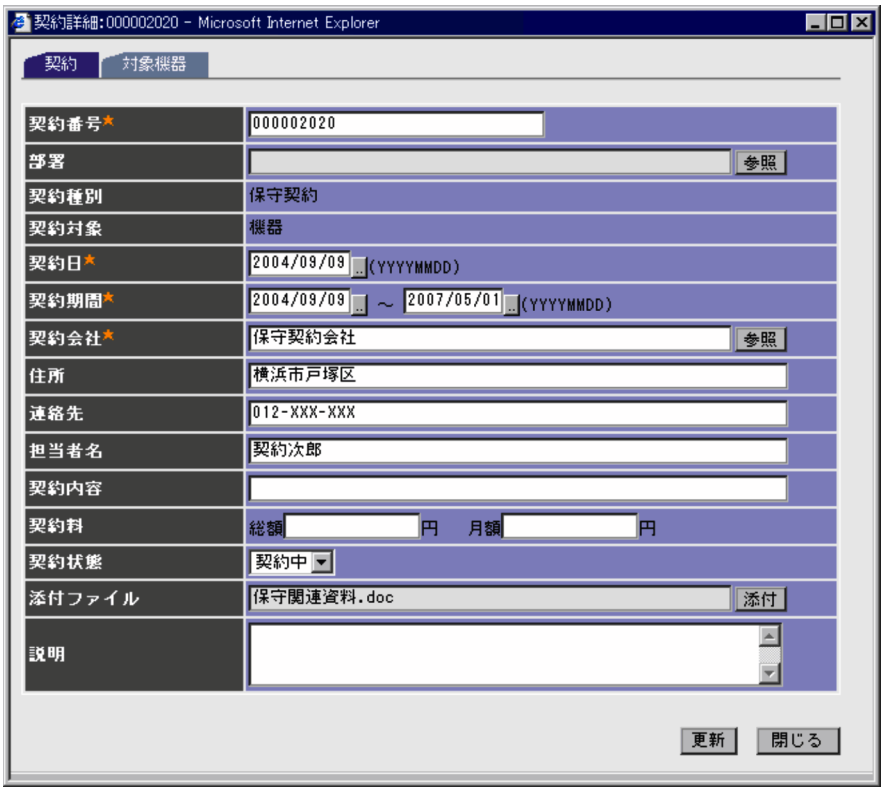
契約終了日の迫った契約を検索するには，検索条件で「契約終了日」を指定します。

契約終了日の迫った契約は，操作画面から検索するほかに，Windows のタスクスケジューラに登録されているタスク「期限切れ契約情報通知」を利用して，管理者にメール通知させることができます。タスクを利用したメール通知の設定方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.9　タスクスケジューラに登録されるタスクの設定」を参照してください。

(2) 契約情報を参照および変更する

「契約番号」のアンカーをクリックすると，次の図に示す［契約詳細］ダイアログが表示されて，契約情報の各項目を変更できます。

図 2-19 ［契約詳細］ダイアログ



契約情報を編集して［更新］ボタンをクリックすると，指定した内容で契約情報を更新できます。キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。

契約履歴を取得する設定になっている場合は，［更新］ボタンをクリックすると，契約履歴として登録するかどうかを選択するダイアログが表示されます。［はい］を選択すると，更新内容が登録されて契約履歴が登録されます。［いいえ］を選択すると，契約履歴は登録されないで，更新内容だけが登録されます。

契約履歴を取得するには，［サーバセットアップ］ダイアログの「契約履歴の取得」で「取得する」を選択してください。

(3) 契約対象の機器を追加する

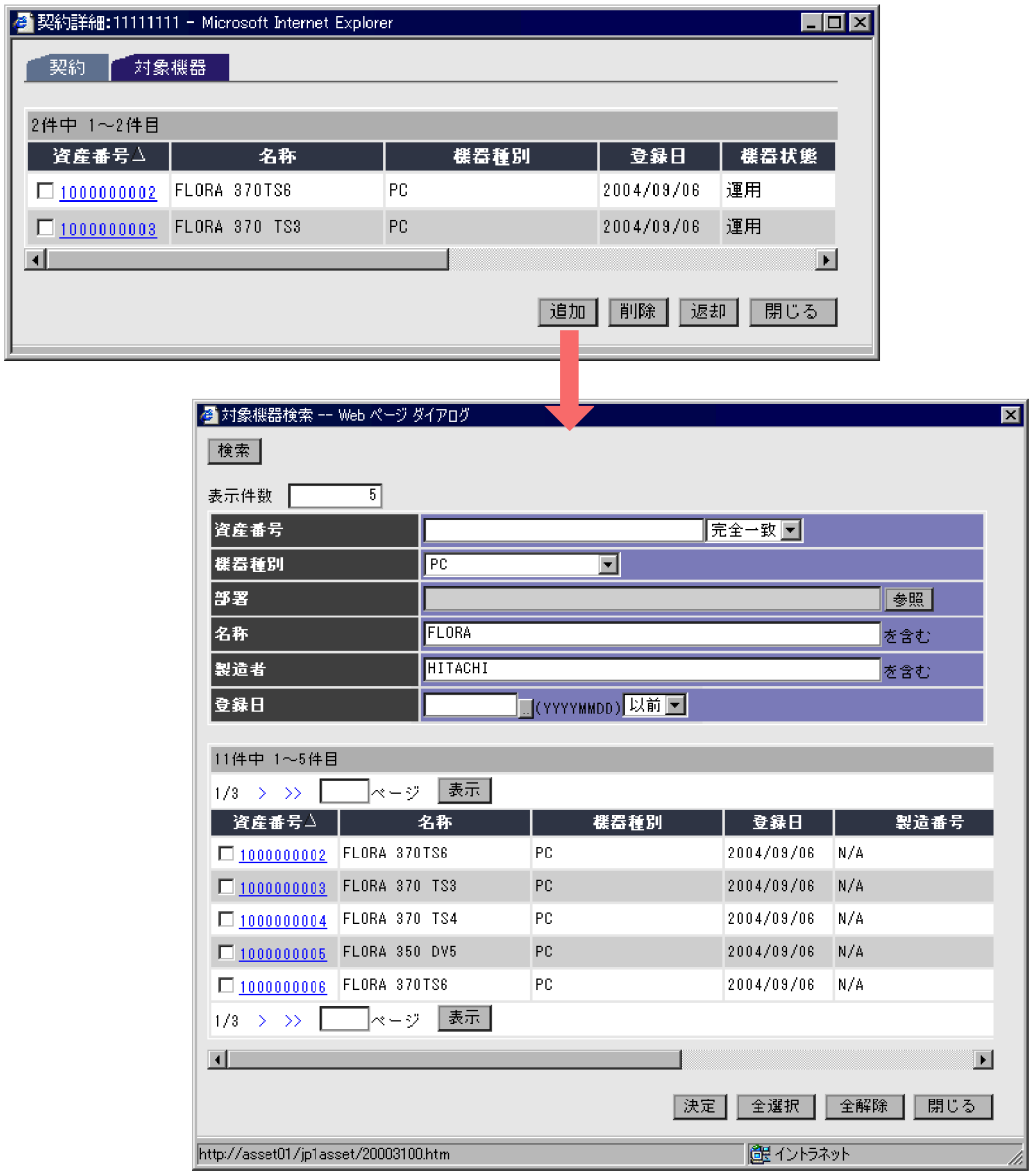
契約対象の機器を追加する手順を次に示します。

1. **契約対象の機器を追加したい契約を検索する。**
   「満了」および「抹消」状態の契約には，対象機器を追加できません。
2. **検索結果の一覧で，「契約番号」のアンカーをクリックする。**
   ［契約詳細］ダイアログが表示されます。
3. **「対象機器」タブの［追加］ボタンをクリックする。**
   ［対象機器検索］ダイアログが表示されます。

4. **必要に応じて条件を指定して［検索］ボタンをクリックする。**
   ほかの契約の対象となっていない機器の中から，条件に一致する機器が検索されます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
5. **検索結果から機器を選択して［決定］ボタンをクリックする。**
   選択した機器が契約対象に追加されます。

「対象機器」タブから［対象機器検索］ダイアログを表示して対象機器を追加する流れを次の図に示します。

図 2-20　対象機器を追加する流れ



(4) 契約対象の機器を変更する

契約対象の機器を変更（削除または返却）する手順を次に示します。

1. **契約対象の機器を変更したい契約を検索する。**
   「満了」および「抹消」状態の契約からは，対象機器を削除，返却できません。
2. **検索結果の一覧で，「契約番号」のアンカーをクリックする。**
   ［契約詳細］ダイアログが表示されます。

3. **「対象機器」タブをクリックする。**
   契約対象となっている機器の一覧が表示されます。
   キャンセルする場合は，［削除］や［返却］ボタンをクリックする前に，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
   - **対象機器を削除する場合**
     削除したい機器のチェックボックスをチェックして［削除］ボタンをクリックします。
   - **リース契約の機器の一部を返却する場合**
     返却したい機器のチェックボックスをチェックして［返却］ボタンをクリックします。

4. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
   ［契約詳細］ダイアログが閉じて，契約対象の機器が変更されます。

(5) 契約対象のソフトウェアを追加する

契約対象のソフトウェアを追加する手順を次に示します。

1. **契約対象のソフトウェアを追加したい契約を検索する。**
   「満了」および「抹消」状態の契約には，対象ソフトウェアを追加できません。

2. **検索結果の一覧で，「契約番号」のアンカーをクリックする。**
   ［契約詳細］ダイアログが表示されます。

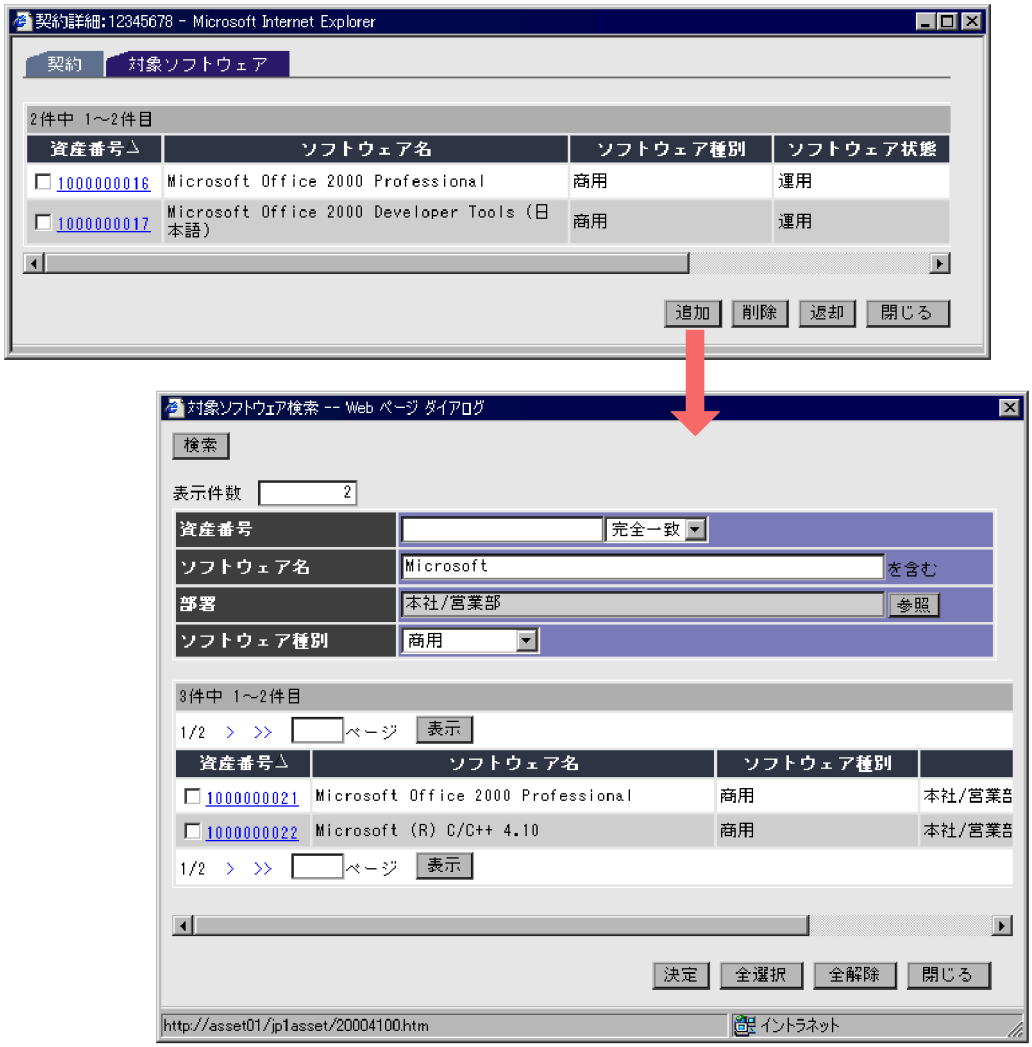
3. **「対象ソフトウェア」タブの［追加］ボタンをクリックする。**
   ［対象ソフト検索］ダイアログが表示されます。

4. **必要に応じて条件を指定して［検索］ボタンをクリックする。**
   条件に一致するソフトウェアが検索されます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。

5. **検索結果からソフトウェアを選択して［決定］ボタンをクリックする。**
   選択したソフトウェアが契約対象に追加されます。

   「対象ソフトウェア」タブから［対象ソフトウェア検索］ダイアログを表示して対象ソフトウェアを追加する流れを次の図に示します。

図 2-21　対象ソフトウェアを追加する流れ



(6) 契約対象のソフトウェアを変更する

契約対象のソフトウェアを変更（削除または返却）する手順を次に示します。

1. **契約対象のソフトウェアを変更したい契約を検索する。**
   「満了」および「抹消」状態の契約からは，対象ソフトウェアを削除，返却できません。
2. **検索結果の一覧で，「契約番号」のアンカーをクリックする。**
   ［契約詳細］ダイアログが表示されます。
3. **「対象ソフトウェア」タブをクリックする。**
   契約対象となっているソフトウェアの一覧が表示されます。
   キャンセルする場合は，［削除］や［返却］ボタンをクリックする前に，［閉じる］ボ

タンをクリックしてください。

- **対象ソフトウェアを削除する場合**
  削除したいソフトウェアのチェックボックスをチェックして［削除］ボタンをクリックします。
- **対象ソフトウェアの一部を返却する場合**
  返却したいソフトウェアのチェックボックスをチェックして［返却］ボタンをクリックします。

4. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
   ［契約詳細］ダイアログが閉じて，契約対象のソフトウェアが変更されます。

(7) 契約更改の履歴を参照する

契約内容を更新した履歴と，過去の契約内容を参照できます。契約履歴を参照するには，［サーバセットアップ］ダイアログの「契約履歴の取得」で「取得する」を選択してください。［契約詳細］ダイアログに［履歴情報］ボタンが表示されて，契約履歴を参照できるようになります。

契約履歴を参照する手順を次に示します。

1. **［契約詳細］ダイアログの［履歴情報］ボタンをクリックする。**
   ［契約履歴］ダイアログが表示されます。
2. **詳細を参照したい「更改日時」のアンカーをクリックする。**
   ［契約履歴詳細］ダイアログが表示されます。
   添付ファイルを含めた契約内容の確認，および CSV ファイルへの出力ができます。
   ［契約詳細］ダイアログから［契約履歴］ダイアログおよび［契約履歴詳細］ダイアログを表示して，契約履歴の詳細を確認する手順を次の図に示します。

図 2-22　契約履歴の詳細を確認する流れ

- 「資産番号」のアンカーをクリックすると，該当する［機器詳細］ダイアログ（または［ソフトウェア資産詳細］ダイアログ）が表示されます。ただし，契約対象の機器またはソフトウェアがすでに削除されている場合は，資産番号だけが表示されます。
- CSV ファイルへの出力時は，添付ファイルの内容は出力されません。

2.3　問題点管理

この節では，問題点に関する資産管理業務の実行方法について説明します。

問題点管理では，資産管理システムで発生している問題点とその対処状況を管理します。JP1/IM と連携している場合，JP1/IM で管理している JP1 イベントおよび SNMP トラップの情報を共有できます。また，JP1/IM - IDM と連携している場合，JP1/IM - IDM から問題点として登録したインシデントの内容を管理できます。

JP1/IM と連携する方法についてはマニュアル「設計・構築ガイド」の「6.3　JP1/IM と連携するための設定」を，JP1/IM - IDM と連携する方法については「6.4　JP1/IM - IDM と連携するための設定」を参照してください。

問題点管理の業務は，業務カテゴリ「問題点管理」の下に表示されます。

各メニューから実行できる操作について，画面を示しながら説明します。各タイトルの（）内には，選択するメニューを示します。

2.3.1　システム上の問題点を管理する（問題点一覧）

JP1 イベント，JP1 イベントに変換された SNMP トラップ，インシデントから登録した問題点および Asset Information Manager で登録した障害情報から，資産管理システムの問題点を管理します。

問題点の情報は，業務メニュー「問題点一覧」をクリックすると表示される問題点一覧画面から参照できます。問題点一覧画面を次の図に示します。

図 2-23　問題点一覧画面

JP1 イベント，JP1 イベントに変換された SNMP トラップ，インシデントから登録した問題点および登録した障害情報の一覧が表示されます。「登録日」のアンカーをクリックすると，詳細情報を参照できます。

注意事項

SNMP トラップの「障害発生ホスト」には，SNMP トラップを収集した JP1/Base が起動しているサーバの IP アドレス（またはホスト名）が表示されます。

（1）目的に合わせて検索条件を指定する

資産管理システム上の問題点を検索する場合の，条件の指定例を次に示します。

● 重大な障害を検索する

重大な障害がないかどうかを調査するため，条件を指定して障害情報を検索するには，検索条件の「重大度」を指定します。

● 過去の障害対策を参考にする

過去の障害対策を参照するには，障害の内容，対策の内容などを検索条件に指定します。類似した障害の対策情報を参考にすることで，発生した障害に迅速に対応できます。

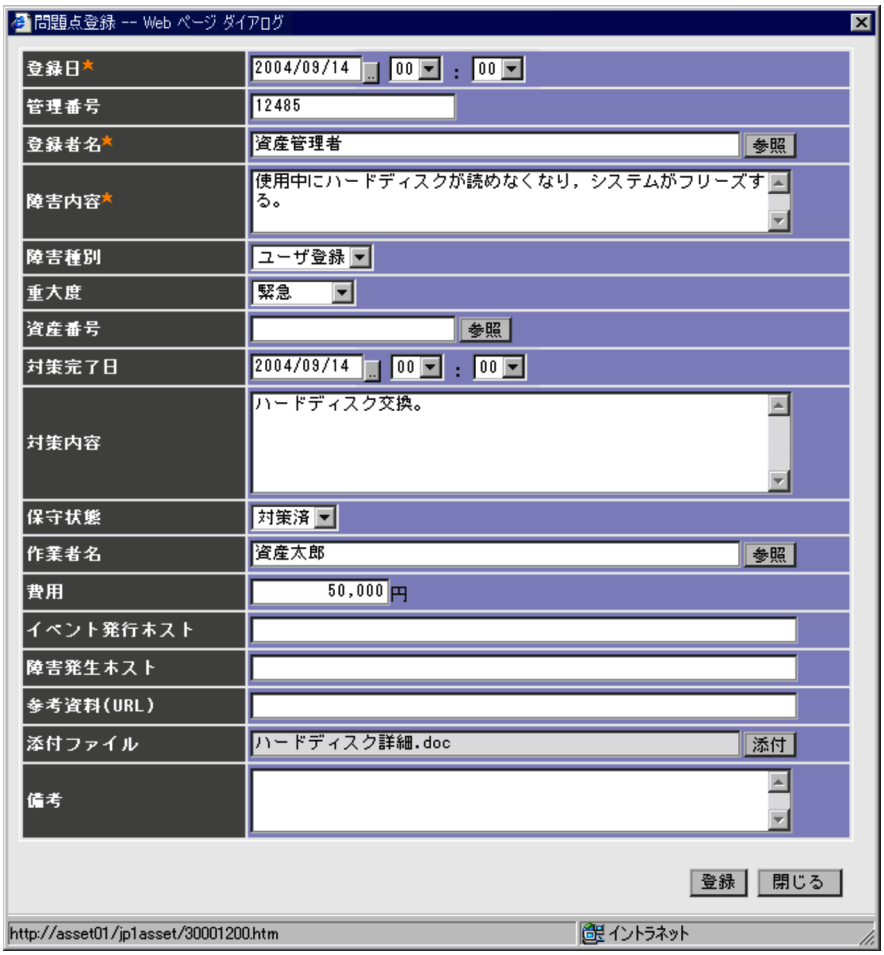
(2) 障害情報を登録する

障害情報を登録する手順を次に示します。

1. **[新規登録] ボタンをクリックする。**
   [問題点登録] ダイアログが表示されます。
2. **障害内容を指定して，[登録] ボタンをクリックする。**
   項目名に「★」の付いた項目は，必ず指定してください。
   「障害種別」は，デフォルトでは「ユーザ登録」だけが選択できます。必要に応じて追加または変更してください。「障害種別」の追加・変更方法は，「4.8　種別や状態を追加および変更する（コード管理）」を参照してください。
3. **[閉じる] ボタンをクリックする。**
   [問題点登録] ダイアログが閉じて，指定した内容が登録されます。

登録内容を指定した［問題点登録］ダイアログを次に示します。

図 2-24 ［問題点登録］ダイアログ



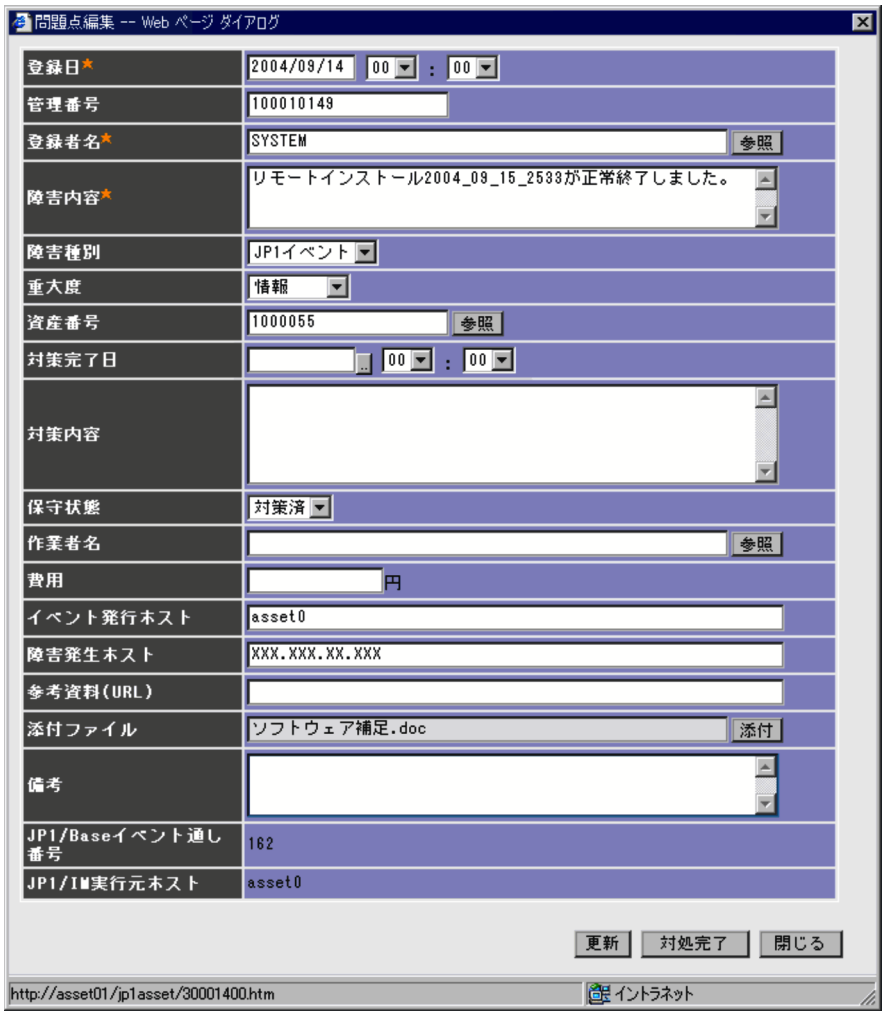
(3) 障害情報を変更する

登録されている障害情報を変更する手順を次に示します。

1. **検索結果の一覧で，変更したい情報の「登録日」のアンカーをクリックする。**
   ［問題点詳細］ダイアログが表示されます。
2. **［編集］ボタンをクリックする。**
   ［問題点編集］ダイアログが表示されます。
3. **情報を変更して，［更新］ボタンをクリックする。**
   項目名に「★」の付いた項目は，必ず指定してください。
   ［問題点編集］ダイアログが閉じて，指定した内容で更新されます。

   ［問題点編集］ダイアログを次に示します。

図 2-25 ［問題点編集］ダイアログ



(4) 対処完了を JP1/IM に通知する

資産管理システムでの問題が解決した場合，JP1/IM へ対処が完了したことを通知できます。通知された JP1 イベントの状態は，JP1/IM で「対策済」に変更されます。対処完了を通知するための設定については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「6.3.1(2) 障害の対処完了通知の設定」を参照してください。

JP1/IM に対処完了を通知する手順を次に示します。

1. **検索結果の一覧で，対処を完了した JP1 イベントまたは SNMP トラップの「登録日」のアンカーをクリックする。**
   ［問題点詳細］ダイアログが表示されます。
2. **［編集］ボタンをクリックする。**

［問題点編集］ダイアログが表示されます。

3. **対策内容を指定して，［対処完了］ボタンをクリックする。**
［対処完了］ボタンは，JP1/IM から取得した JP1 イベントおよび SNMP トラップの場合だけ表示されます。
項目名に「★」の付いた項目は，必ず指定してください。
JP1/IM へ対処が完了したことが通知されます。

4. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
［問題点編集］ダイアログが閉じます。

(5) 障害情報を削除する

検索結果の一覧で，削除したい障害情報のチェックボックスをチェックして，［削除］ボタンをクリックすると，障害情報を削除できます。

2.4 ライセンス管理

この節では，ライセンスに関する資産管理業務の実行方法について説明します。

ライセンス管理では次の業務を実行します。

- 集計された結果を基に，超過しているライセンスや不正利用のライセンスがないかどうかなど，ライセンスの利用状況を確認する。
- 利用していないソフトウェアを基に，遊休ライセンスを確認する。
- 購入したソフトウェアの情報を登録したり，ライセンスの管理部署を変更したりといった，ソフトウェア資産情報をメンテナンスする。
- ボリュームライセンスの情報を登録して，ポイント制のライセンスを管理する。

ライセンスの集計は，業務メニュー「集計管理」から実行する方法と，Windows のタスクスケジューラに登録されたタスク「ライセンス超過通知」または「ライセンスの集計」を利用して定期的に実行する方法があります。なお，集計の基となる情報を JP1/NETM/DM のインベントリ情報から取得する場合，取得する情報の種類は，［サーバセットアップ］ダイアログで指定します。この場合，ソフトウェア情報およびソフトウェアインベントリ情報が取得できる設定にしてください。

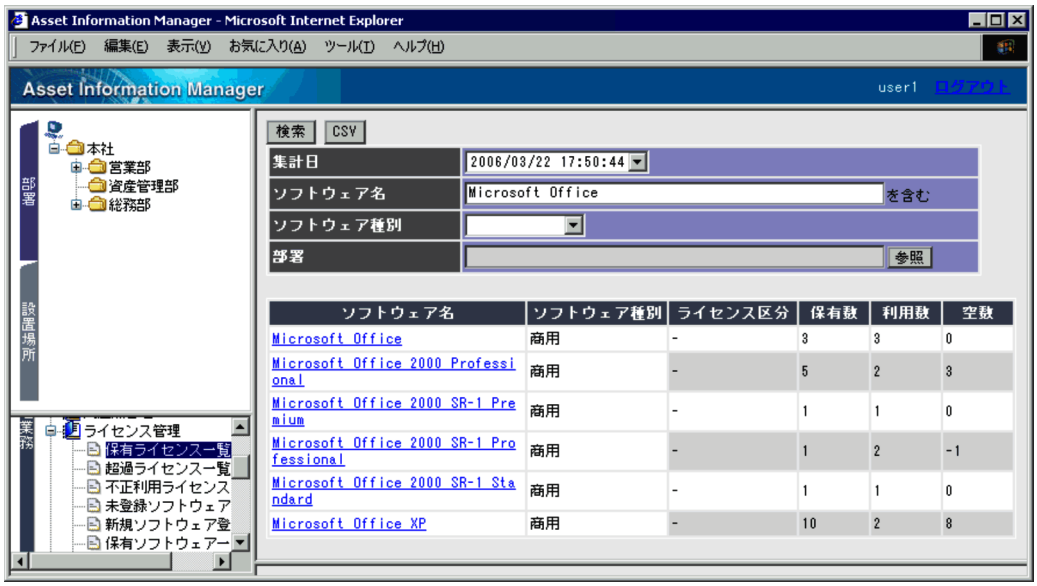
ライセンス管理に関する業務は，業務カテゴリ「ライセンス管理」の下に表示されます。各メニューから実行できる操作について，画面を示しながら説明します。各タイトルの（）内には，選択するメニューを示します。

2.4.1 ライセンスの利用状況を調査する（保有ライセンス一覧）

ソフトウェアのライセンス保有数，利用数および空き数を集計して，利用状況を調査します。ライセンスをダウングレードソフトウェアに適用している場合は，その数も含めて集計されます。

ライセンス数の利用状況は，業務メニュー「保有ライセンス一覧」をクリックすると表示される保有ライセンス一覧画面から集計します。保有ライセンス一覧画面を次の図に示します。

図 2-26　保有ライセンス一覧画面



保有ライセンス一覧画面では，運用として扱われる状態で，使用期間内のソフトウェアが集計されます。

検索条件「集計日」に何も表示されていない場合

保有ライセンス一覧は，あらかじめ集計された結果を基に，ライセンスの利用状況を集計します。検索条件の「集計日」に何も表示されていない場合は，まず，集計管理画面から集計を実行してください。集計の実行方法については，「2.4.11(1)　集計を実行する」を参照してください。

集計結果の見方

- 「ライセンス区分」が「－（ハイフン）」の場合は，ライセンス情報を登録していないソフトウェア，またはライセンス区分が「その他」のソフトウェアであることを示しています。
- 「保有数」および「空数」が「－（ハイフン）」の場合は，自部署で保有している無制限ライセンスであることを示しています。
  なお，自部署で保有しているフリーウェアの場合も同様に表示されます。
- ソフトウェア名称管理で，一つのソフトウェア名に複数のインストールソフトウェア名を対応づけている場合，利用数は一つとしてカウントされます。
  例えば，インストールソフトウェア名「ソフトウェア AA」および「ソフトウェア AB」をソフトウェア名「ソフトウェア A」に対応づけたとします。その場合，同じマシンに「ソフトウェア AA」と「ソフトウェア AB」の両方がインストールされていても，「ソフトウェア A」の利用数は一つとしてカウントされます。

(1) 部署ごとの内訳を表示する

保有ライセンス一覧画面で，集計結果の「ソフトウェア名」のアンカーをクリックする

と，ライセンス区分ごとに，各部署の保有数，割り当て数，利用数，空き数，および下位の部署も含めた累計を表示できます。部署ごとの内訳が表示された画面を次の図に示します。

図 2-27　部署ごとの内訳が表示された画面（保有ライセンス一覧）

- ライセンス情報を登録していないソフトウェアや，ライセンス区分が「その他」のソフトウェアは，保有数と利用数が集計されます。利用数には，保有部署のマシンにインストールされている数が表示されます。
- 「割当数」には，ライセンス区分が「マシン許諾」の場合は割り当てた機器の台数，「ユーザ許諾」の場合は割り当てたユーザの人数が表示されます。
  また，他部署に割り当てた数が（）内に表示されます。
- 「利用数」および「利用数累計」には，ダウングレードソフトウェアがインストールされている数が，（）内に表示されます。

(2) インストール先の一覧を表示する

部署ごとの内訳が表示された画面で，「部署」のアンカーをクリックすると，該当するソフトウェアがインストールされている機器の一覧を表示できます。該当するソフトウェアがインストールされている機器が表示された画面を次の図に示します。

図 2-28　インストールされている機器が表示された画面（保有ライセンス一覧）

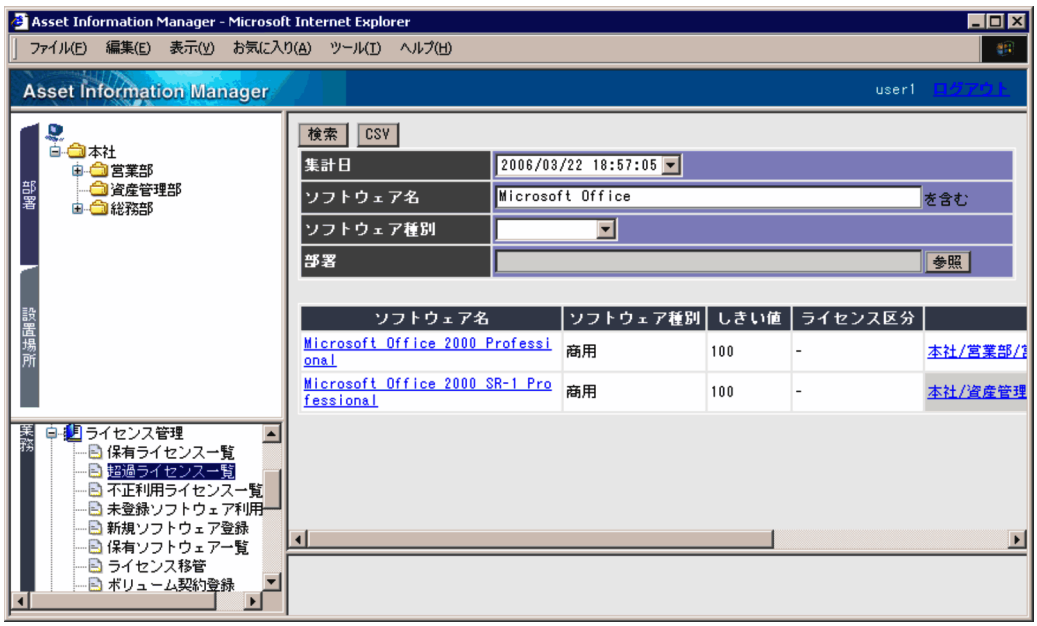
ここに表示されるのは，ライセンスが集計された時点での情報です。そのため，選択した一覧に表示されている内容と［機器詳細］ダイアログの内容が異なる場合や，対象の機器が削除されている場合がありますので，注意してください。

2.4.2　超過利用されているライセンスを調査する（超過ライセンス一覧）

部署ごとに，しきい値を超えてインストールされているソフトウェアを調査します。

しきい値を超えてインストールされているソフトウェアの検索は，業務メニュー「超過ライセンス一覧」をクリックすると表示される超過ライセンス一覧画面から集計します。超過ライセンス一覧画面を次の図に示します。

図 2-29　超過ライセンス一覧画面



超過ライセンス一覧画面では，運用として扱われる状態で，使用期間内のソフトウェアの中から集計されます。

「ライセンス区分」が「－（ハイフン）」の場合は，ライセンス情報を登録していないソフトウェア，またはライセンス区分が「その他」のソフトウェアです。

検索条件「集計日」に何も表示されていない場合

超過ライセンス一覧は，あらかじめ集計された結果を基に検索します。検索条件の「集計日」に集計日が表示されていない場合は，まず，集計管理画面から集計を実行してください。集計の実行方法については，「2.4.11(1)　集計を実行する」を参照してください。

ライセンス超過のメール通知

Windows のタスクスケジューラに登録されたタスク「ライセンス超過通知」でライセンスの利用状況を集計する場合，しきい値を超えてインストールされているソフトウェアをメールで通知させることができます。ライセンス使用超過を監視するタスクの設定については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.9　タスクスケ

ジューラに登録されるタスクの設定」を参照してください。

(1) 部署ごとの内訳を表示する

超過ライセンス一覧画面で，集計結果の「ソフトウェア名」のアンカーをクリックすると，ライセンス区分ごとに，各部署の保有数，割り当て数，利用数，空き数，および下位の部署も含めた累計を表示できます。部署ごとの内訳が表示された画面を次の図に示します。

図 2-30　部署ごとの内訳が表示された画面（超過ライセンス一覧）

- 「割当数」には，ライセンス区分が「マシン許諾」の場合は割り当てた機器の台数，「ユーザ許諾」の場合は割り当てたユーザの人数が表示されます。
  また，他部署に割り当てた数が（）内に表示されます。
- 「利用数」および「利用数累計」には，ダウングレードソフトウェアがインストールされている数が（）内に表示されます。

(2) インストール先の一覧を表示する

超過ライセンス一覧画面または部署ごとの内訳が表示された画面で，「部署」のアンカーをクリックすると，該当するソフトウェアがインストールされている機器の一覧を表示できます。該当するソフトウェアがインストールされている機器が表示された画面を次の図に示します。

図 2-31　インストールされている機器が表示された画面（超過ライセンス一覧）

ライセンスが割り当てられている機器は，「資産番号」の欄に アイコンが表示されます。機器の利用者に対してライセンスが割り当てられている場合も，同様にアイコンが表示されます。

ここに表示されるのは，ライセンスが集計された時点での情報です。そのため，選択した一覧に表示されている内容と［機器詳細］ダイアログの内容が異なる場合や，対象の

機器が削除されている場合がありますので，注意してください。

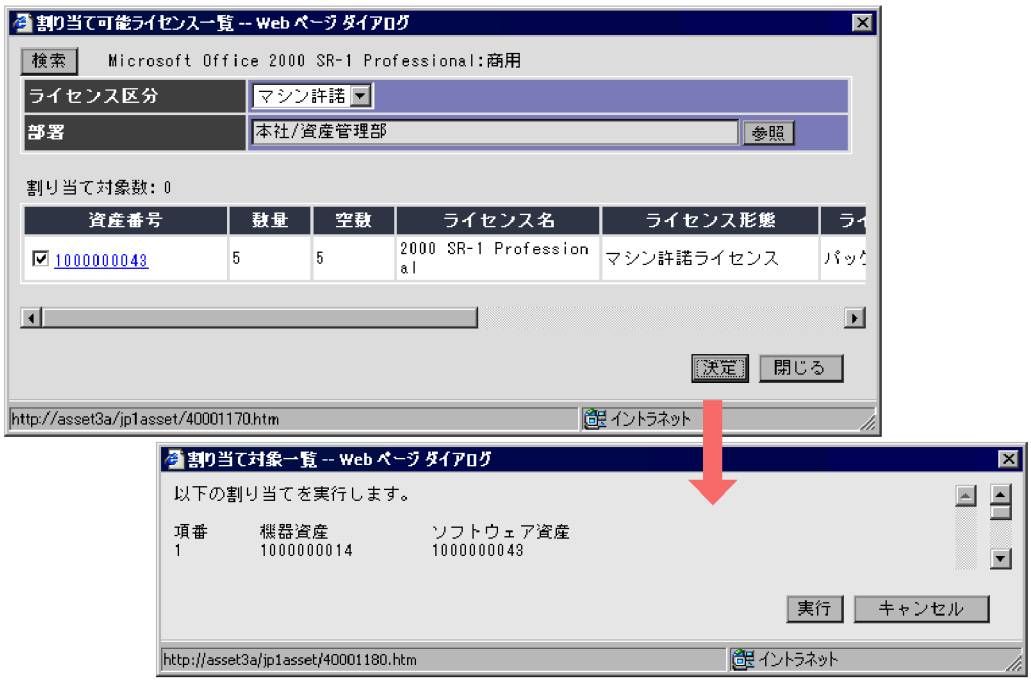
(3) 機器またはユーザにライセンスを割り当てる

超過ライセンスとして検索された機器またはユーザに，余っているライセンスの中からライセンスを割り当てます。[超過ライセンス利用機器一覧] ダイアログから，ライセンスを割り当てる手順を次に示します。

1. **[超過ライセンス利用機器一覧] ダイアログで，ライセンスを割り当てる機器（またはライセンスを割り当てるユーザが利用している機器）のチェックボックスをチェックする。**
   すでにライセンスが割り当てられている機器（またはライセンスを割り当てられているユーザが利用している機器）は，チェックしないでください。
2. **[割り当て] ボタンをクリックする。**
   [割り当て可能ライセンス一覧] ダイアログが表示されます。
3. **必要に応じて検索条件を指定して，[検索] ボタンをクリックする。**
   検索条件に一致する，ライセンスが余っているソフトウェアが表示されます。検索対象となるのは，ソフトウェア状態が「運用」のソフトウェアだけです。
4. **割り当てたいソフトウェアのチェックボックスをチェックして，[決定] ボタンをクリックする。**
   [割り当て対象一覧] ダイアログが表示されます。
5. **割り当てる機器とソフトウェアを確認して，[実行] ボタンをクリックする。**
   [割り当て対象一覧] ダイアログに割り当て結果が表示されます。
   ユーザ許諾ライセンスの場合，選択した機器の中に同一のユーザが利用している機器があったときは，ライセンスの割り当て数は 1 となります。
   割り当てるソフトウェアにキー情報が登録されていなかった場合は，「プロダクト ID」，「ライセンスキー」および「シリアル No.」は空白のまま割り当てられます。
6. **[閉じる] ボタンをクリックする。**
   [割り当て対象一覧] ダイアログおよび [割り当て可能ライセンス一覧] ダイアログが閉じます。

   [割り当て可能ライセンス一覧] ダイアログから [割り当て対象一覧] ダイアログを表示して，ライセンスを割り当てる流れを次の図に示します。

図 2-32　超過ライセンスの機器（または機器を利用しているユーザ）にライセンスを割り当てる流れ



(4) ライセンスの割り当てを解除する

ライセンスの割り当てを解除する手順を次に示します。

1. **［超過ライセンス利用機器一覧］ダイアログで，ライセンスの割り当てを解除したい機器（またはライセンスを解除したいユーザが利用している機器）のチェックボックスをチェックする。**
2. **［解除］ボタンをクリックする。**
   確認のダイアログが表示されるので，［OK］ボタンをクリックすると，選択した機器（またはユーザ）へのライセンスの割り当てがすべて解除されます。

2.4.3　期限切れのライセンスを調査する（不正利用ライセンス一覧）

ライセンスの使用期限を過ぎたソフトウェア，および資産としては管理する（ソフトウェア名を登録している）がライセンスを保有していないソフトウェアを調査します。

不正利用ライセンスの調査は，業務メニュー「不正利用ライセンス一覧」をクリックすると表示される不正利用ライセンス一覧画面から実行します。不正利用ライセンス一覧画面を次の図に示します。

図 2-33　不正利用ライセンス一覧画面

検索条件「集計日」に何も表示されていない場合

不正利用ライセンス一覧は，あらかじめ集計された結果を基に検索します。検索条件の「集計日」に集計日が表示されていない場合は，まず，集計管理画面から集計を実行してください。集計の実行方法については，「2.4.11(1)　集計を実行する」を参照してください。

ダウングレードソフトウェアが割り当てられている場合

ソフトウェア名が登録されていてライセンスを保有していないソフトウェアでも，ダウングレードソフトウェアとしてライセンスが割り当てられている場合，不正利用ライセンスとしてはカウントされません。

(1) 部署ごとの内訳を表示する

不正利用ライセンス一覧画面で，集計結果の「ソフトウェア名」のアンカーをクリックすると，各部署の利用数を表示できます。部署ごとの内訳が表示された画面を次の図に示します。

図 2-34　部署ごとの内訳が表示された画面（不正利用ライセンス一覧）

(2) インストール先の一覧を表示する

部署ごとの内訳が表示された画面で,「部署」のアンカーをクリックすると，該当するソフトウェアがインストールされている機器の一覧を表示できます。該当するソフトウェアがインストールされている機器が表示された画面を次の図に示します。

図 2-35 インストールされている機器が表示された画面（不正利用ライセンス一覧）

ここに表示されるのは，ライセンスが集計された時点での情報です。そのため，選択した一覧に表示されている内容と［機器詳細］ダイアログの内容が異なる場合や，対象の機器が削除されている場合がありますので，注意してください。

2.4.4 利用していないライセンスを調査する（遊休ライセンス一覧）

ユーザが利用していないライセンスを調査します。ライセンスが足りない部署に余っているライセンスを移管したり，不要なライセンスを把握したりするのに役立ちます。

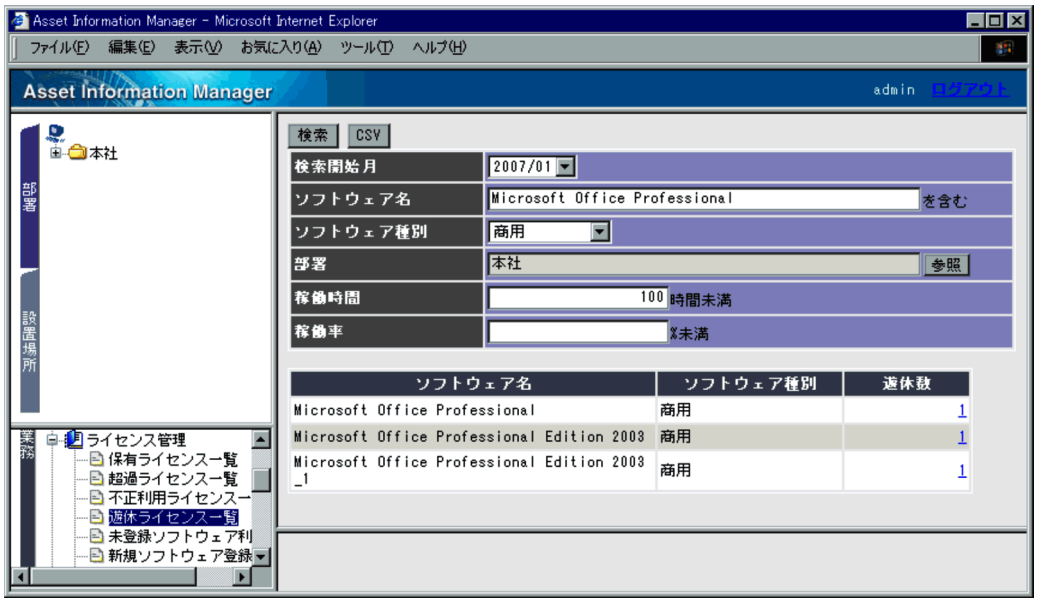
遊休ライセンスを調査するには，JP1/NETM/DM 08-10 以降でソフトウェアの稼働時間を取得している必要があります。JP1/NETM/DM と連携する方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.1.1　JP1/NETM/DM と連携するために必要な作業の流れ」を参照してください。

注意事項

稼働時間を取得するソフトウェアの名称とバージョンには，ソフトウェアに割り当てられているインストールソフトウェアと同じ値を設定してください。

遊休ライセンスの調査は，業務メニュー「遊休ライセンス一覧」をクリックすると表示される遊休ライセンス一覧画面から実行します。遊休ライセンス一覧画面を次の図に示します。

図 2-36　遊休ライセンス一覧画面



検索結果には，条件に指定した稼働時間または稼働率未満の機器にインストールされているソフトウェアと機器の台数（遊休数）が表示されます。

検索結果の見方

JP1/NETM/DM で稼働情報を取得していないソフトウェアの場合は，遊休数にカウントされます。

(1) 条件を指定してソフトウェアの遊休数を表示する

条件を指定して，［検索］ボタンをクリックすると，条件に一致するソフトウェアの遊休数が表示されます。検索条件のうち，「検索開始月」，「部署」，「稼働時間」および「稼働率」の指定方法を次に示します。「稼働時間」または「稼働率」は，必ず指定してください。

- **「検索開始月」**
  何月から遊休ライセンスを検索するかを指定します。6 か月前までの月を指定できます。デフォルトは，検索を実行する月です。
- **「部署」**
  遊休数を確認したい部署を指定します。ここで指定するのは，機器の部署です。
- **「稼働時間」**
  検索期間内でソフトウェアが稼働した時間の基準値を指定します。指定できる値は，0 ～ 5,000 時間です。0 を指定した場合，ソフトウェアがインストールされている資産のうち，稼働時間が取得されなかったものが検索されます。
- **「稼働率」**
  検索期間内でのソフトウェアの稼働率の基準値を指定します。稼働率とは，検索対象の機器の稼働時間に対するソフトウェアの稼働時間の割合です。指定できる値は，0

～ 100% です。0 を指定した場合，ソフトウェアがインストールされている資産のうち，稼働時間が取得されなかったものが検索されます。

(2) 部署ごとの内訳を表示する

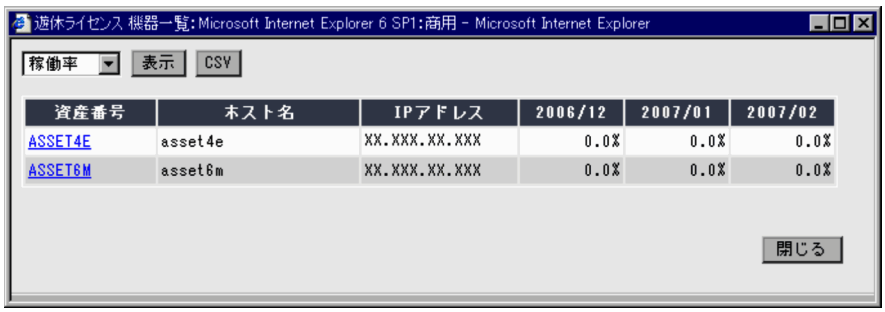
遊休ライセンス一覧画面で，検索結果の「遊休数」のアンカーをクリックすると，各部署の遊休数を表示できます。部署ごとの内訳が表示された画面を次の図に示します。

図 2-37 部署ごとの内訳が表示された画面（遊休ライセンス一覧）

(3) ソフトウェアの稼働率および稼働時間を表示する

部署ごとの内訳が表示された画面で，「遊休数」のアンカーをクリックすると，該当するソフトウェアがインストールされている機器の，ソフトウェアの稼働率および稼働時間を一覧で表示できます。該当するソフトウェアがインストールされている機器が表示された画面を次の図に示します。

図 2-38 インストールされている機器が表示された画面（遊休ライセンス一覧）



プルダウンで「稼働率」または「稼働時間」を選択して，［表示］ボタンをクリックすると，月ごとの稼働率または稼働時間が表示されます。

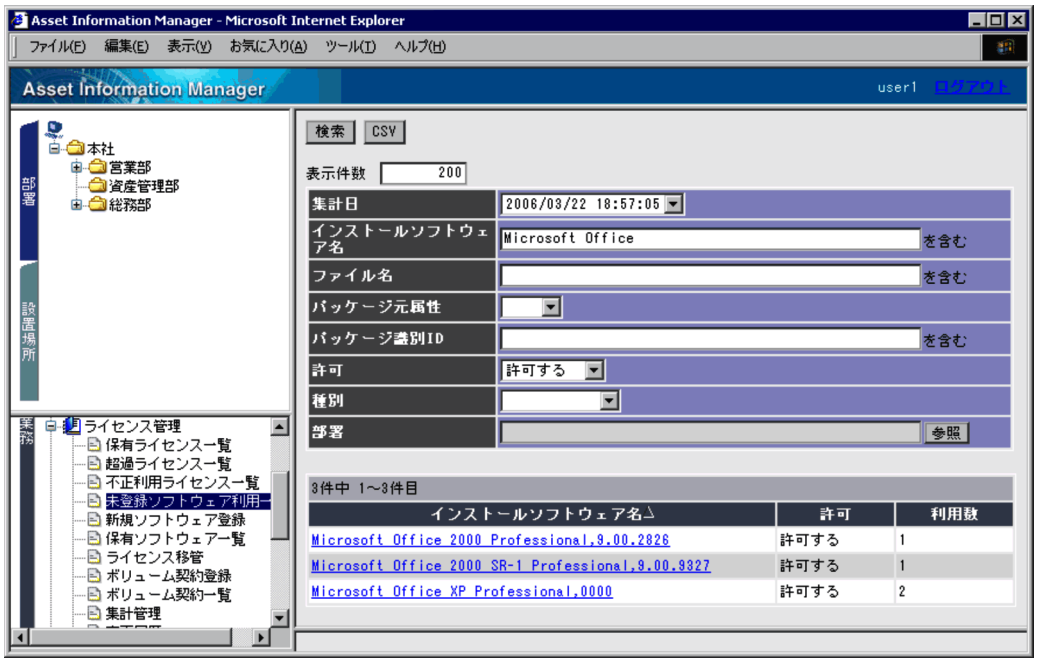
2.4.5　未登録ソフトウェアの利用状況を調査する（未登録ソフトウェア利用一覧）

資産として管理しない（ソフトウェア名を登録していない）ソフトウェアの利用状況を調査します。

ライセンスを管理する必要がないフリーウェアなど，ソフトウェア名を登録していないソフトウェアでも利用数を集計できます。

未登録ソフトウェアの利用状況の調査は，業務メニュー「未登録ソフトウェア利用一覧」をクリックすると表示される未登録ソフトウェア利用一覧画面で実行します。未登録ソフトウェア利用一覧画面を次の図に示します。

図 2-39　未登録ソフトウェア利用一覧画面



未登録ソフトウェア利用一覧は，あらかじめ集計された結果を基に検索します。検索条件の「集計日」に集計日が表示されていない場合は，まず，集計管理画面から集計を実行してください。集計の実行方法については，「2.4.11(1)　集計を実行する」を参照してください。

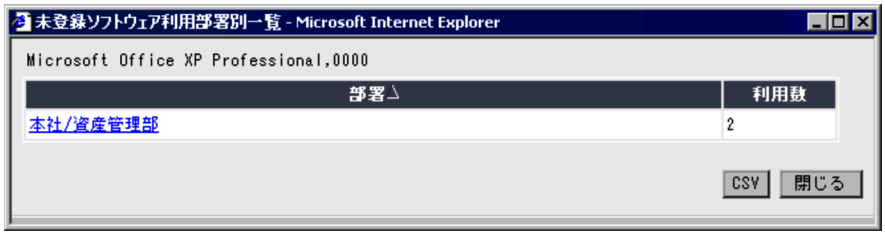
「インストールソフトウェア名」には，インストールソフトウェア名，バージョンに加えて，ファイル名が登録されている場合は，ファイル名，ファイルサイズ，ファイル日付が表示されます。

(1) 部署ごとの内訳を表示する

未登録ソフトウェア利用一覧画面で，集計結果の「インストールソフトウェア名」のア

ンカーをクリックすると，各部署の利用数を表示できます。部署ごとの内訳が表示された画面を次の図に示します。

図 2-40　部署ごとの内訳が表示された画面（未登録ソフトウェア利用一覧）



(2) インストール先の一覧を表示する

部署ごとの内訳が表示された画面で，「部署」のアンカーをクリックすると，該当するソフトウェアがインストールされている機器の一覧を表示できます。該当するソフトウェアがインストールされている機器が表示された画面を次の図に示します。

図 2-41　インストールされている機器が表示された画面（未登録ソフトウェア利用一覧）

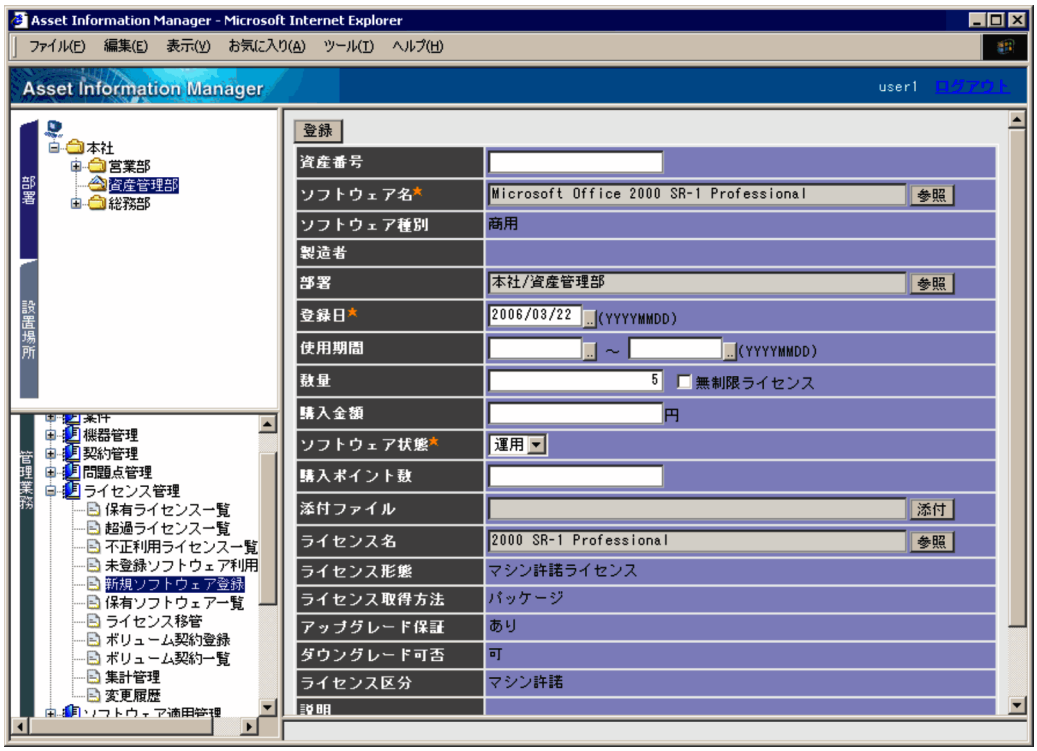
ここに表示されるのは，ライセンスが集計された時点での情報です。そのため，選択した一覧に表示されている内容と［機器詳細］ダイアログの内容が異なる場合や，対象の機器が削除されている場合がありますので，注意してください。

2.4.6　ライセンスを追加する（新規ソフトウェア登録）

新規購入または追加購入したライセンスを登録します。

ライセンスの登録は，業務メニュー「新規ソフトウェア登録」をクリックすると表示される新規ソフトウェア登録画面から実行します。新規ソフトウェア登録画面を次の図に示します。

図 2-42　新規ソフトウェア登録画面



各項目を指定して［登録］ボタンをクリックすると，ライセンスを登録できます。項目名に「★」の付いた項目は，必ず指定してください。

- 「ソフトウェア名」，「ソフトウェア種別」および「製造者」は，「ソフトウェア名」の［参照］ボタンをクリックすると表示される［ソフトウェア参照］ダイアログで指定します。
- 「数量」には，「ソフトウェア種別」が「フリーウェア」の場合は何も指定しないでください。
- 「添付ファイル」では，ライセンス証書などのデータを登録できます。添付ファイルを指定する方法については「1.4(4)　添付ファイルの指定方法」を参照してください。
- 「ライセンス名」，「ライセンス形態」，「ライセンス取得方法」，「アップグレード保証」，「ダウングレード可否」，「ライセンス区分」，「説明」および「備考」は，「ライセンス名」の［参照］ボタンをクリックすると表示される［ライセンス情報参照］ダイアログで指定します。
- 「使用期間」には，体験版の有効期限や，リースの契約終了日を指定します。

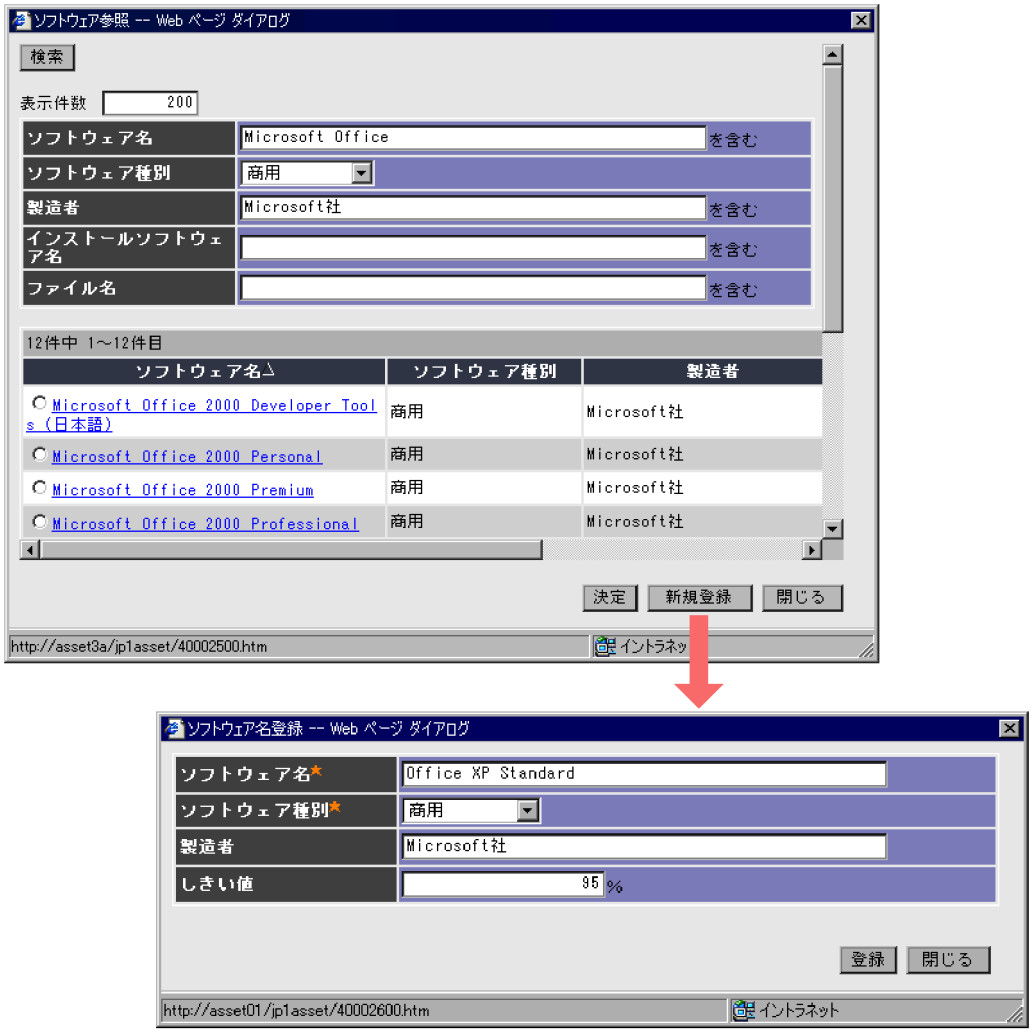
(1)「ソフトウェア名」を指定する

新規ライセンスを登録する際の，「ソフトウェア名」の指定方法を次に示します。ここでは，新規にソフトウェア名を登録して，インストールソフトウェア名の割り当ても一度に実行する場合の手順を示します。

1. **新規ソフトウェア登録画面で「ソフトウェア名」の［参照］ボタンをクリックする。**
   ［ソフトウェア参照］ダイアログが表示されます。
2. **登録したいソフトウェアの名称を検索条件に指定して［検索］ボタンをクリックする。**
   目的のソフトウェア名があった場合は，「ソフトウェア名」のラジオボタンを選択状態にして，［決定］ボタンをクリックします。
   「インストールソフトウェア名」には，各ソフトウェア名に割り当てられているインストールソフトウェア名が表示されます。複数のインストールソフトウェア名が割り当てられている場合は，アンカーをクリックすると表示されるポップアップで，割り当てられているインストールソフトウェア名を参照できます。
3. **検索結果に登録したいソフトウェア名がない場合は，［新規登録］ボタンをクリックする。**
   ［ソフトウェア名登録］ダイアログが表示されます。
4. **各項目を指定して［登録］ボタンをクリックする。**
   項目名に「★」の付いた項目は，必ず指定してください。
   ソフトウェア名が登録されて，［ソフトウェア参照］ダイアログに戻ります。
5. **登録したソフトウェア名のアンカーをクリックする。**
   ［ソフトウェア名称詳細］ダイアログが表示されます。
6. **「割り当て」タブで［追加］ボタンをクリックする。**
   ［インストールソフトウェア追加］ダイアログが表示されます。
7. **割り当てたいインストールソフトウェア名を検索する。**
   ほかのソフトウェア名に割り当てられていないインストールソフトウェア名の中から検索されます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
8. **検索結果で，割り当てたいインストールソフトウェア名のチェックボックスをチェックして［決定］ボタンをクリックする。**
   ［インストールソフトウェア追加］ダイアログが閉じて，選択したインストールソフトウェア名が，割り当て済みインストールソフトウェア名に追加されます。
9. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
   ［ソフトウェア名称詳細］ダイアログが閉じて，［ソフトウェア参照］ダイアログに戻ります。
10. **登録したソフトウェア名を指定して［決定］ボタンをクリックする。**
    ［ソフトウェア参照］ダイアログが閉じて，新規ソフトウェア登録画面に戻ります。
    「ソフトウェア名」，「ソフトウェア種別」および「製造者」には，登録した内容が指定されます。

［ソフトウェア名登録］ダイアログでソフトウェア名を登録して，「ソフトウェア名」を指定する流れを次の図に示します。

図 2-43　ソフトウェア名を指定する流れ



(2)「ライセンス名」を指定する

新規にライセンス情報を登録する際の，「ライセンス名」の指定方法を次に示します。

1. **新規ソフトウェア登録画面で「ライセンス名」の［参照］ボタンをクリックする。**
   ［ライセンス情報参照］ダイアログが表示されます。
   ［ライセンス情報参照］ダイアログに該当するライセンス情報があった場合は，「ライセンス名」のラジオボタンを選択状態にして，［決定］ボタンをクリックします。
2. **［新規登録］ボタンをクリックする。**
   ［ライセンス情報登録］ダイアログが表示されます。
3. **各項目を指定して［登録］ボタンをクリックする。**
   項目を指定する際は，次の点に注意してください。

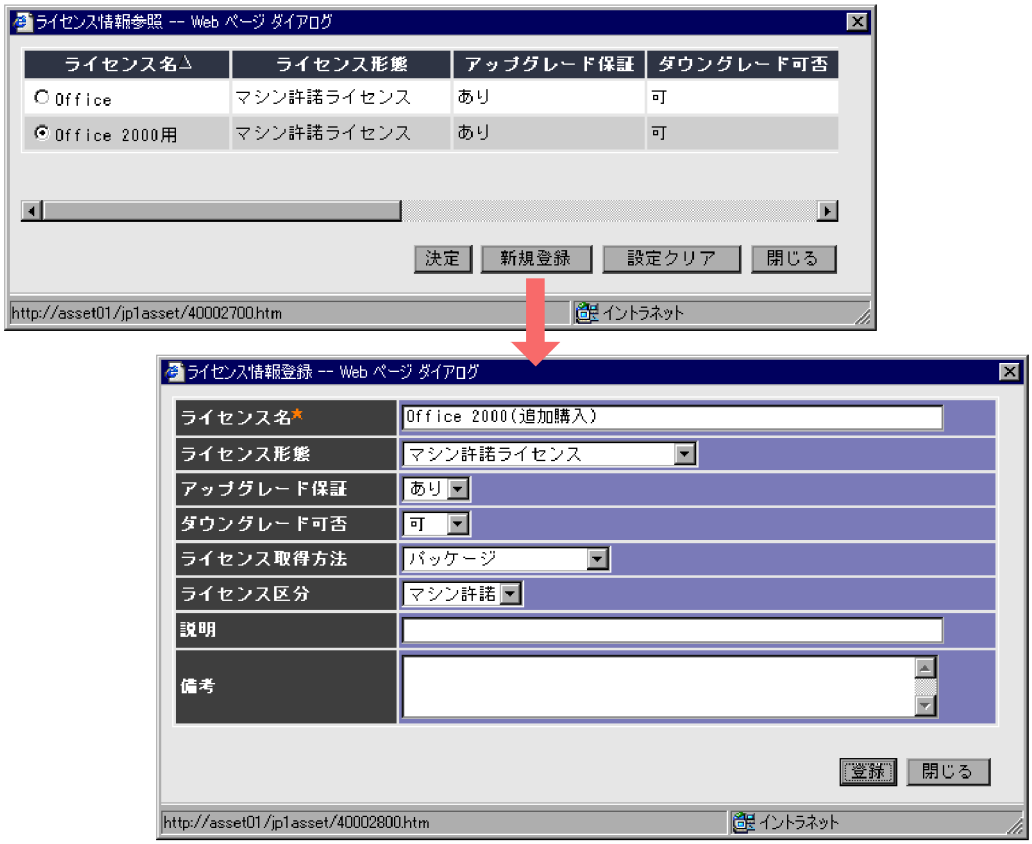
- 項目名に「★」の付いた項目は，必ず指定してください。
- ライセンスは，「ライセンス区分」に指定した値で集計されます。「ライセンス形態」，「ライセンス取得方法」などは，ライセンス情報を管理するための補足情報として登録してください。
- 「ダウングレード可否」を「可」に設定する場合は，登録するライセンスのソフトウェア名に，ダウングレードのソフトウェア名を登録する必要があります。ダウングレードのソフトウェア名を登録する手順については，「4.6.4　ソフトウェア名および属性を変更する」を参照してください。

ライセンス情報が登録されて，［ライセンス情報参照］ダイアログに戻ります。

4. **登録したライセンスのラジオボタンを選択状態にして，［決定］ボタンをクリックする。**
   新規ソフトウェア登録画面に戻ります。
   「ライセンス名」，「ライセンス形態」，「ライセンス取得方法」，「アップグレード保証」，「ダウングレード可否」，「ライセンス区分」，「説明」および「備考」に，登録した内容が指定されます。

   ［ライセンス情報登録］ダイアログでライセンス情報を登録して，「ライセンス名」を指定する流れを次の図に示します。

図 2-44　ライセンス名を指定する流れ



一度指定したライセンス情報をクリアするには

一度指定したライセンス情報を，何も指定しない状態に戻すには，もう一度［参照］ボタンをクリックして，表示された［ライセンス情報参照］ダイアログで，［設定クリア］ボタンをクリックします。

登録したライセンス情報を変更するには

登録したライセンス情報は，［ソフトウェア名称詳細］ダイアログの「ライセンス」タブで変更します。ライセンス情報を変更する手順については，「4.6.8　ライセンス情報を変更する」を参照してください。

(3) アップグレード時の注意事項

すでに資産管理データベースに登録されているソフトウェアのアップグレード版を登録する場合，インストールソフトウェア名との対応を考慮して，ソフトウェア名を登録する必要があります。

例えば，無償アップグレードのようにバージョンが変わっても購入の記録が残らない場合，アップグレード後のライセンスを導入したら，新旧どちらのソフトウェア名でライセンスを管理するかを選択します。アップグレード後のソフトウェア名で管理する場合

は，［ソフトウェア名称詳細］ダイアログでソフトウェア名を新しい名称に変更して，このソフトウェア名に対して新しいインストールソフトウェア名を追加で割り当ててください。

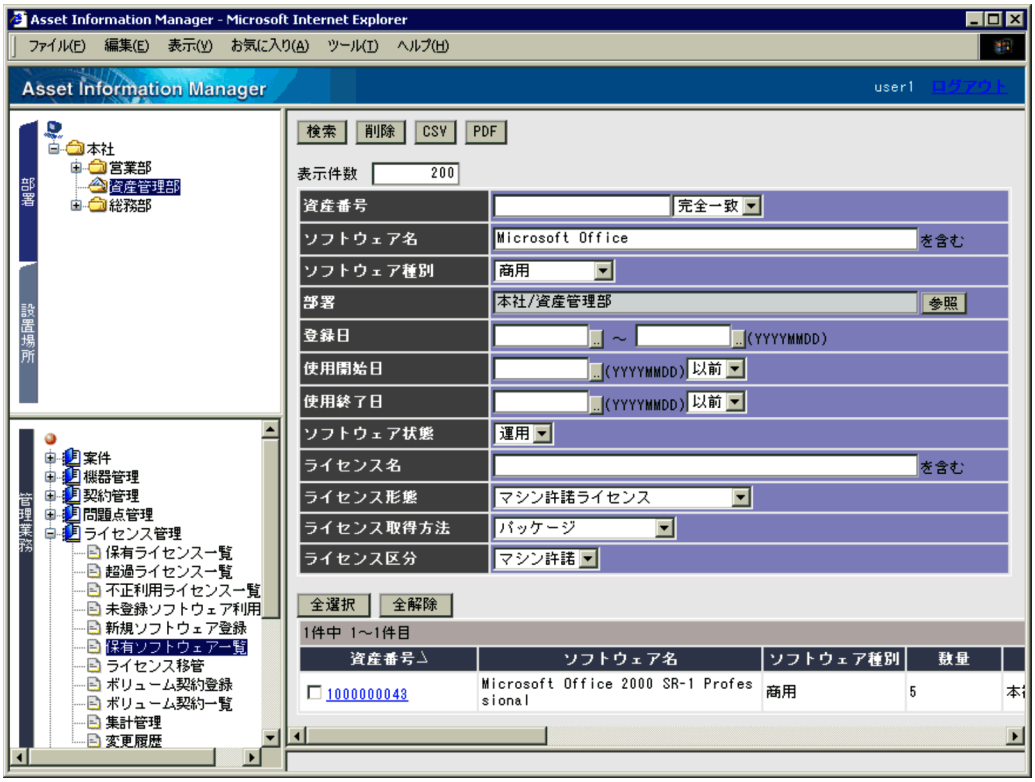
2.4.7 ソフトウェアを検索する（保有ソフトウェア一覧）

保有しているソフトウェアの中から，目的のソフトウェアを検索します。例えば，「使用したいソフトウェアが登録されているかどうか」や「ソフトウェア A の管理部署はどこか」など，さまざまな目的に合わせてソフトウェアを検索できます。

また，検索したソフトウェアのライセンスを機器やユーザに割り当てます。

ソフトウェアの検索およびライセンスの割り当ては，業務メニュー「保有ソフトウェア一覧」をクリックすると表示される保有ソフトウェア一覧画面から実行します。保有ソフトウェア一覧画面を次の図に示します。

図 2-45 保有ソフトウェア一覧画面



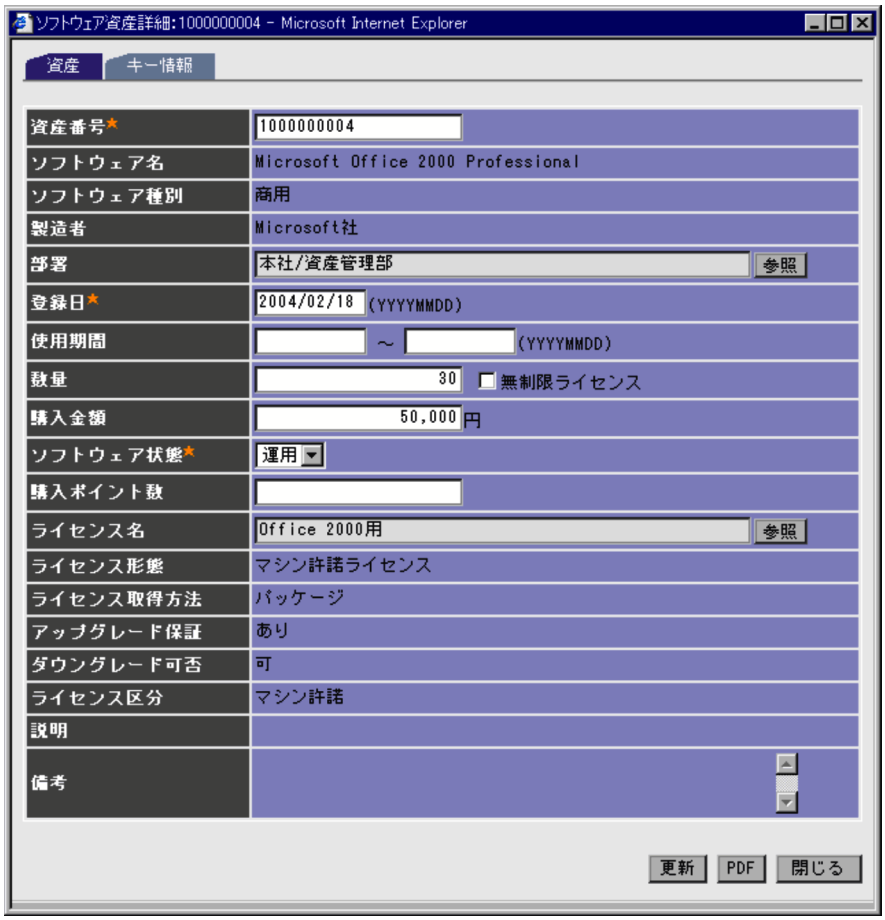
保有ソフトウェア一覧画面では，ライセンスを保有する部署ごとに検索結果が表示されます。

(1) ソフトウェア資産情報を変更する

検索結果の一覧で「資産番号」のアンカーをクリックすると，次の図に示す［ソフトウェア資産詳細］ダイアログが表示されて，ソフトウェア資産情報を変更できます。

ソフトウェアの名称やライセンスに関する情報は「資産」タブに表示されます。

図 2-46　［ソフトウェア資産詳細］ダイアログ（「資産」タブ）



ソフトウェアの各項目を編集して［更新］ボタンをクリックすると，指定した内容でソフトウェア資産情報を更新できます。編集する際は，項目名に「★」の付いた項目は，必ず指定してください。キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。

なお，ここではライセンスが割り当てられているソフトウェアの「ライセンス名」は変更できません。また，移管したソフトウェアの「ライセンス名」も変更できません。

ライセンスに関する情報は，「ライセンス名」の［参照］ボタンから一括して指定できます。ライセンスを割り当てる場合は，まずライセンス情報を登録する必要があります。ライセンスの登録手順については，「2.4.6(2)　「ライセンス名」を指定する」を参照して

ください。

ソフトウェア種別を「フリーウェア」に変更した場合の保有数の変更

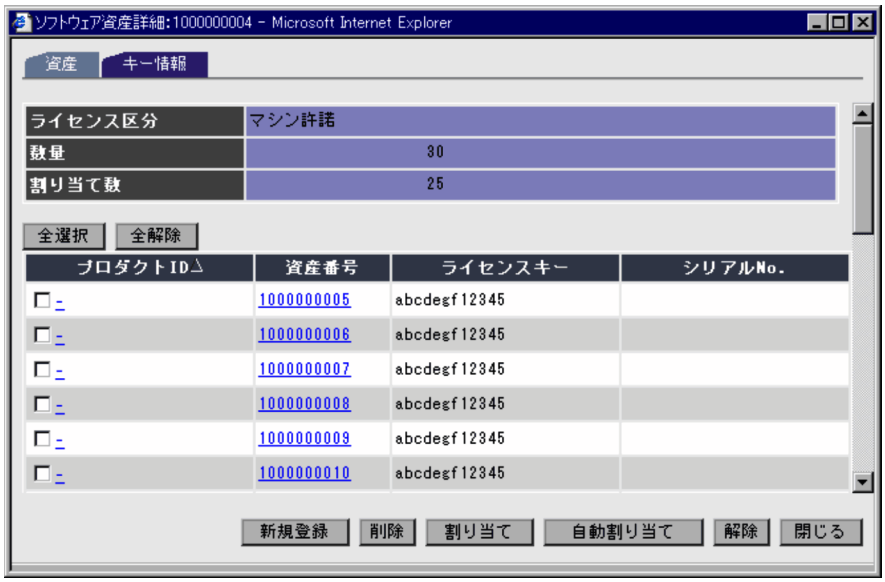
ソフトウェア種別を「商用」または「シェアウェア」で登録したあとに，「フリーウェア」に変更した場合，自動的には無制限ライセンスに変更されません。そのため，ソフトウェア種別を「フリーウェア」に変更したソフトウェアは，登録されている保有数を削除してから「無制限ライセンス」のチェックボックスにチェックして，無制限ライセンスに変更してください。

(2) ライセンスを割り当てる

保有するライセンスのインストール先を正確に管理するために，プロダクト ID やシリアル番号などのライセンスを識別する情報（**キー情報**）を機器やユーザと対応づけます。なお，ライセンスの割り当て先を管理しない場合は，この作業は不要です。

ライセンスの割り当ては，［ソフトウェア資産詳細］ダイアログの「キー情報」タブから実行します。

図 2-47 ［ソフトウェア資産詳細］ダイアログ（「キー情報」タブ）



「ライセンス区分」，「数量」，「割り当て数」には，「資産」タブで設定したライセンス情報が表示されます。この内容に従って，ライセンスキーを割り当てます。

また，一覧には登録されているキー情報が表示されます。「資産番号」または「ユーザ ID」が表示されている項目が，割り当て済みの情報です。「資産番号」のアンカーをクリックすると，［機器詳細］ダイアログが表示されて，割り当てられている機器の詳細情報を参照できます。

ライセンスの割り当ては，ライセンス区分に従って登録されるため，あらかじめ［ソフトウェア資産詳細］ダイアログの「資産」タブで，「ライセンス区分」を登録しておいて

ください。

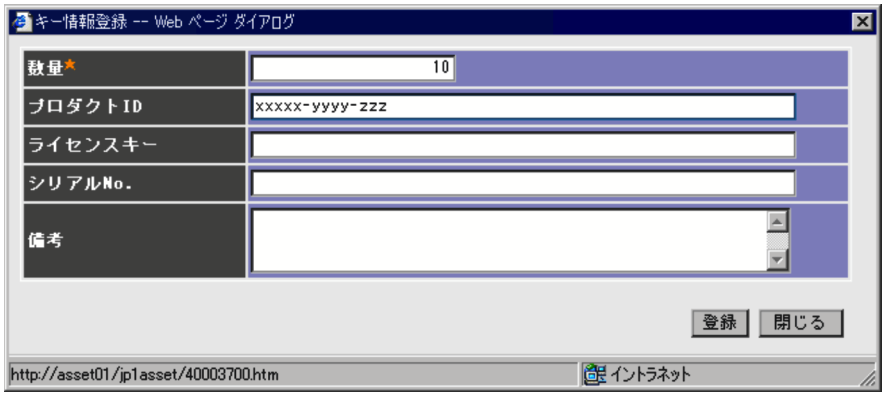
(a) キー情報の登録

ライセンスを割り当てるためのキー情報を登録する手順を次に示します。

1. **［ソフトウェア資産詳細］ダイアログの「キー情報」タブで［新規登録］ボタンをクリックする。**
   ［キー情報登録］ダイアログが表示されます。
2. **キー情報の各項目を指定する。**
   「数量」には，キー情報を一度に作成する数を指定します。
3. **［登録］ボタンをクリックする。**
   ［キー情報登録］ダイアログが閉じて，［ソフトウェア資産詳細］ダイアログに，登録したキー情報が表示されます。

   登録する情報を指定した状態の［キー情報登録］ダイアログを次の図に示します。

図 2-48　［キー情報登録］ダイアログ



(b) 利用先の割り当て

登録したキー情報をライセンスの利用先に割り当てる手順を次に示します。

1. **［ソフトウェア資産詳細］ダイアログの「キー情報」タブで，登録したキー情報のチェックボックスをチェックする。**
2. **1 台ずつ割り当てる場合は，［割り当て］ボタンをクリックする。**
   割り当て先指定ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

図 2-49　割り当て先指定ダイアログ

「資産番号」または「ユーザ ID」を指定して，［決定］ボタンをクリックすると，割り当て先指定ダイアログが閉じてキー情報が割り当てられます。

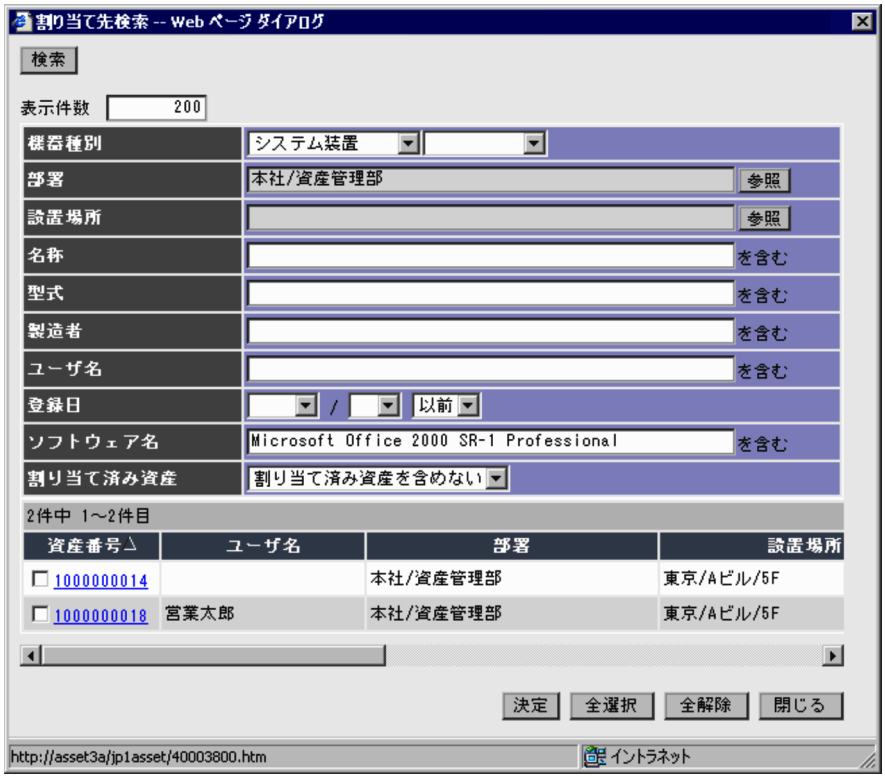
3. **複数の機器を一括して割り当てる場合は，［自動割り当て］ボタンをクリックする。**
［割り当て先検索］ダイアログが表示されます。

4. **任意の検索条件を指定して［検索］ボタンをクリックする。**
該当する機器が検索されます。

5. **ライセンスを割り当てる機器のチェックボックスをチェックして，［決定］ボタンをクリックする。**
［割り当て先検索］ダイアログが閉じて，選択した機器またはユーザに，キー情報が割り当てられます。

目的の機器を検索した状態の［割り当て先検索］ダイアログを次の図に示します。

図 2-50 ［割り当て先検索］ダイアログ



利用先が割り当てられたライセンス情報は，変更および削除できません。ライセンス情報を変更および削除する際は，割り当てをすべて解除してください。

(3) ライセンスの割り当てを変更する

ライセンスの割り当て時に登録したキー情報および利用先の割り当てを変更する方法を

次に示します。

(a) キー情報の変更

登録したキー情報を変更するには，［ソフトウェア資産詳細］ダイアログの「キー情報」タブで，変更したいキー情報の「プロダクト ID」のアンカーをクリックします。

表示された［キー情報詳細］ダイアログで該当する項目を変更して，［更新］ボタンをクリックしてください。

(b) 利用先の変更

ライセンスの利用先を変更する手順を次に示します。

1. **［ソフトウェア資産詳細］ダイアログの「キー情報」タブで，変更したい項目のチェックボックスをチェックして，［解除］ボタンをクリックする。**
   割り当てを変更する前に，既存の割り当てを解除しておく必要があります。
2. **変更したい項目のチェックボックスをチェックして，［割り当て］ボタンをクリックする。**
   割り当て先指定ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
3. **割り当て先の「資産番号」または「ユーザ ID」を指定して，［決定］ボタンをクリックする。**
   割り当て先指定ダイアログが閉じて，割り当て先が変更されます。

(4) ソフトウェア資産情報を削除する

検索結果の一覧で，削除したいソフトウェアのチェックボックスをチェックして，［削除］ボタンをクリックすると，ソフトウェア資産情報を削除できます。

(5) 検索結果をダウンロードする

検索結果の一覧を CSV ファイルとしてダウンロードできます。ダウンロードしたいソフトウェアのチェックボックスをチェックして，［CSV］ボタンをクリックすると，検索結果が CSV ファイルとしてダウンロードされます。

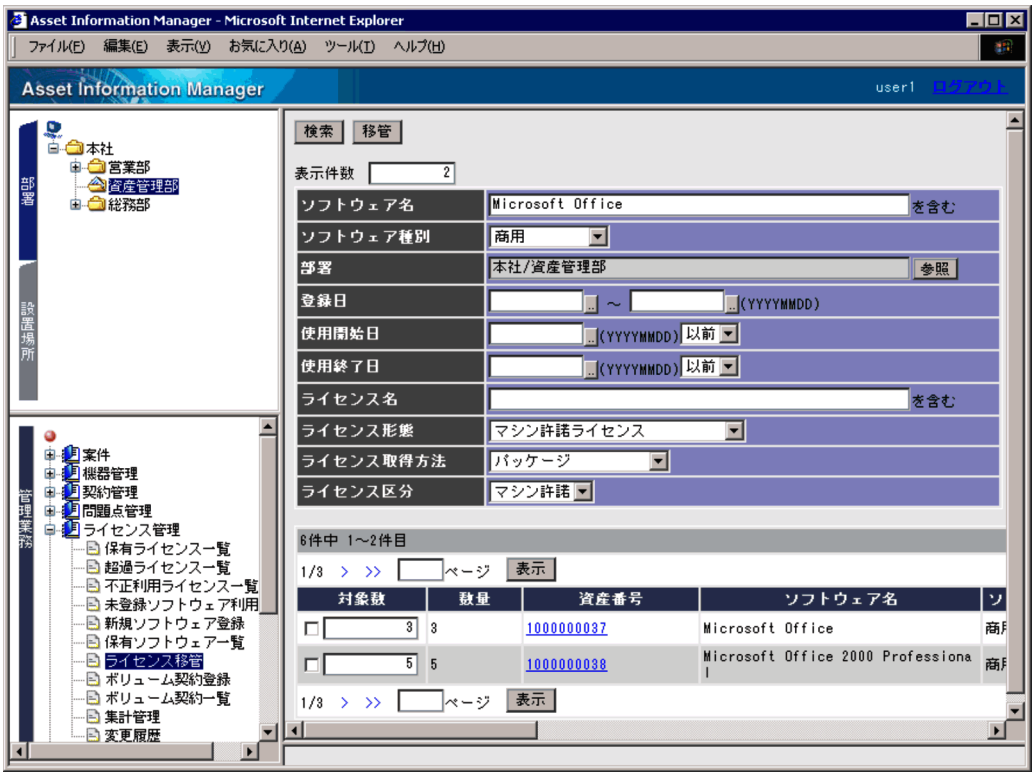
CSV ファイルとしてダウンロードされる内容は，「資産番号」，「ソフトウェア名」，「ソフトウェア種別」，「数量」，「部署」，「登録日」，「使用開始日」，「使用終了日」，「ソフトウェア状態」，「ライセンス名」，「ライセンス形態」，「ライセンス取得方法」および「ライセンス区分」です。

2.4.8 ライセンスの管理部署を変更する（ライセンス移管）

ライセンスの管理部署を変更します。

ライセンスの管理部署の変更は，業務メニュー「ライセンス移管」をクリックすると表示されるライセンス移管画面から実行します。ライセンス移管画面を次の図に示します。

図 2-51　ライセンス移管画面



(1) ライセンスキーと併せて移管する

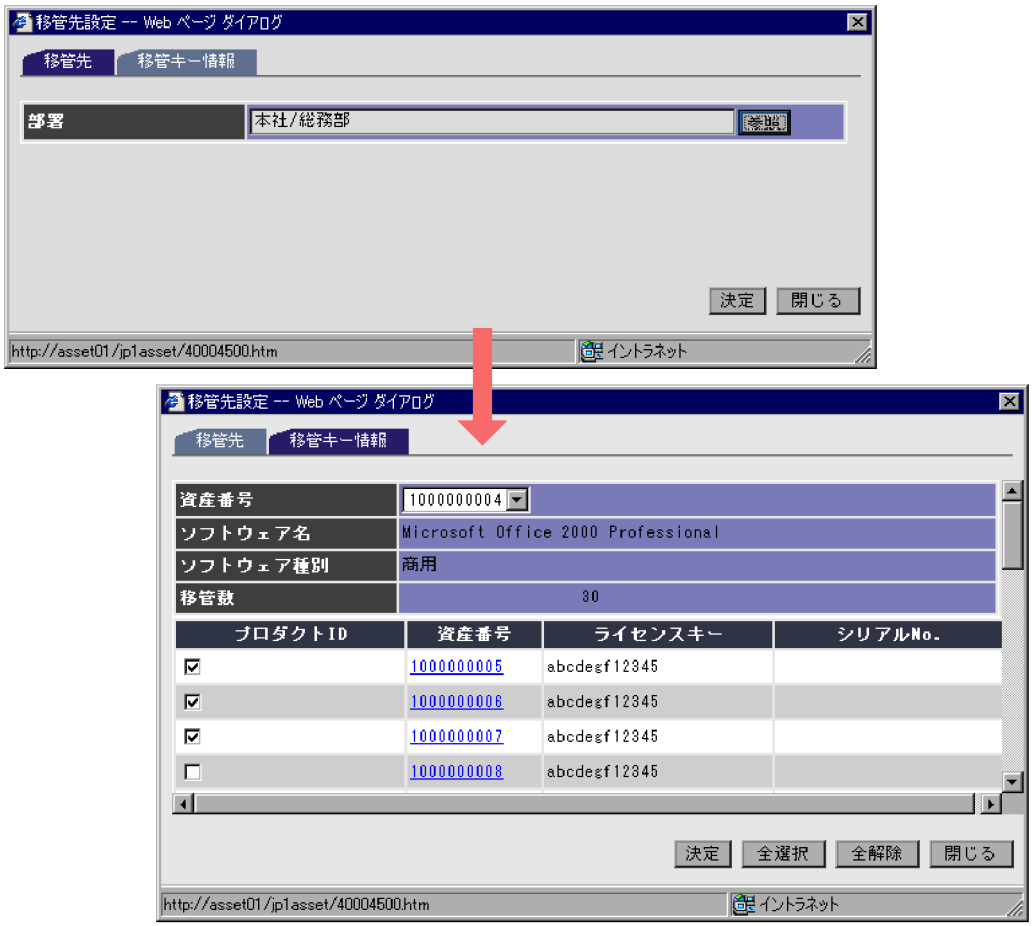
ライセンスの管理部署を変更する手順を次に示します。

1. **管理部署を変更したいソフトウェアを検索する。**
2. **検索結果の一覧で，管理部署を変更したいソフトウェアのチェックボックスをチェックする。**
3. **変更したいライセンスの数を「対象数」に指定する。**
4. **［移管］ボタンをクリックする。**
   ［移管先設定］ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
5. **「移管先」タブで移管先部署を指定する。**
6. **「移管キー情報」タブで移管するキー情報のチェックボックスをチェックする。**
   ライセンスの割り当て先を管理していない場合，この手順は不要です。
7. **「移管先」タブで［決定］ボタンをクリックする。**
   ［移管先設定］ダイアログが閉じて，指定した数のライセンスが移管されます。

ソフトウェアの購入金額および購入ポイントは，ソフトウェア単位で管理されます（ラ

イセンス数に応じて分割および統合されません）。そのため，移管先には，移管元のソフトウェアの購入金額および購入ポイントがそのまま引き継がれます。

図 2-52　ライセンスキーと併せて移管する流れ



(2) フリーウェアおよび無制限ライセンスを移管する

フリーウェアおよび無制限ライセンスのソフトウェアの場合は，移管するときに，［移管先設定］ダイアログで移管元の情報を削除するかどうかを選択します。

削除する場合は，「移管元のフリーウェアまたは無制限ライセンスを削除します」のチェックボックスをチェックして［決定］ボタンをクリックします。

この設定で移管すると，移管元のソフトウェア資産情報のライセンス数が 0 になります。移管元のソフトウェア資産情報が不要な場合は，保有ソフトウェア一覧画面で削除してください。

また，移管先の部署に同一の資産番号のソフトウェアがあった場合，移管元か移管先のどちらかが無制限ライセンスになっていたら，移管後は無制限ライセンスとなります。

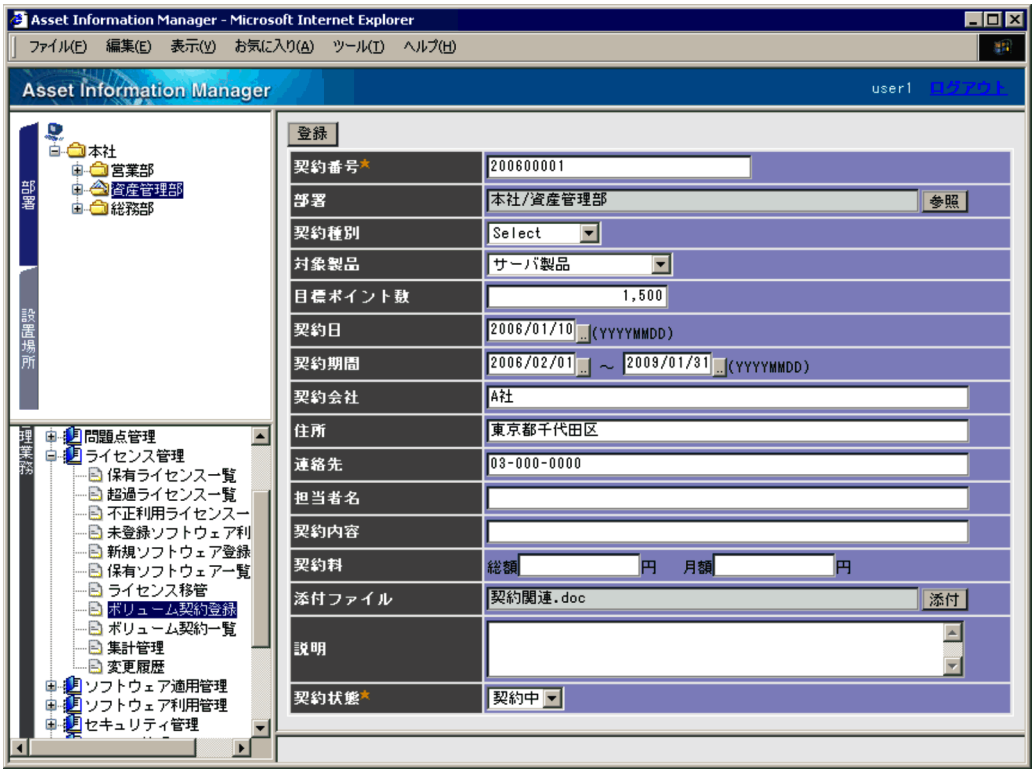
2.4.9 ボリューム契約情報を登録する（ボリューム契約登録）

ボリュームライセンスの契約情報を登録します。ボリュームライセンスの情報を登録しておくことで，ポイント制のライセンス管理が実行できます。

ボリュームライセンスの登録では，契約の対象となるソフトウェアの情報は登録しません。契約後，対象となるソフトウェアを業務メニュー「ボリューム契約一覧」で追加してください。

ボリュームライセンスの情報は，業務メニュー「ボリューム契約登録」をクリックすると表示されるボリューム契約登録画面で登録します。ボリューム契約登録画面を次の図に示します。

図 2-53 ボリューム契約登録画面



各項目を指定して，［登録］ボタンをクリックすると登録できます。「契約番号」は必ず指定してください。

2.4.10 ボリューム契約情報を変更する（ボリューム契約一覧）

ボリュームライセンスの購入ポイントの達成状況を確認したり，登録内容を変更したり

します。また，新規に登録したボリュームライセンスに，対象となるソフトウェアを追加します。

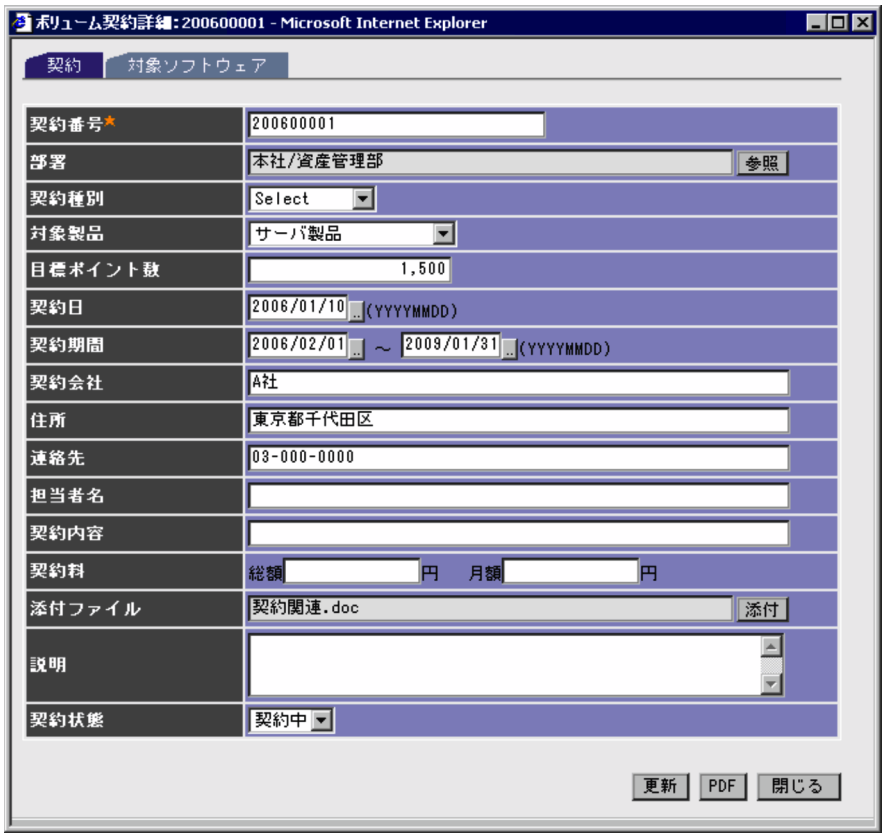
ボリュームライセンスの情報は，業務メニュー「ボリューム契約一覧」をクリックすると表示されるボリューム契約一覧画面から変更します。ボリューム契約一覧画面を次の図に示します。

図 2-54　ボリューム契約一覧画面

(1) 契約内容を参照および変更する

検索結果一覧の「契約番号」のアンカーをクリックすると，次の図に示す［ボリューム契約詳細］ダイアログが表示されて，ボリューム契約情報の各項目を変更できます。

図 2-55 ［ボリューム契約詳細］ダイアログ



ボリューム契約情報を編集して，［更新］ボタンをクリックすると，指定した内容でボリューム契約情報を更新できます。キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。

(2) 対象のソフトウェアを追加する

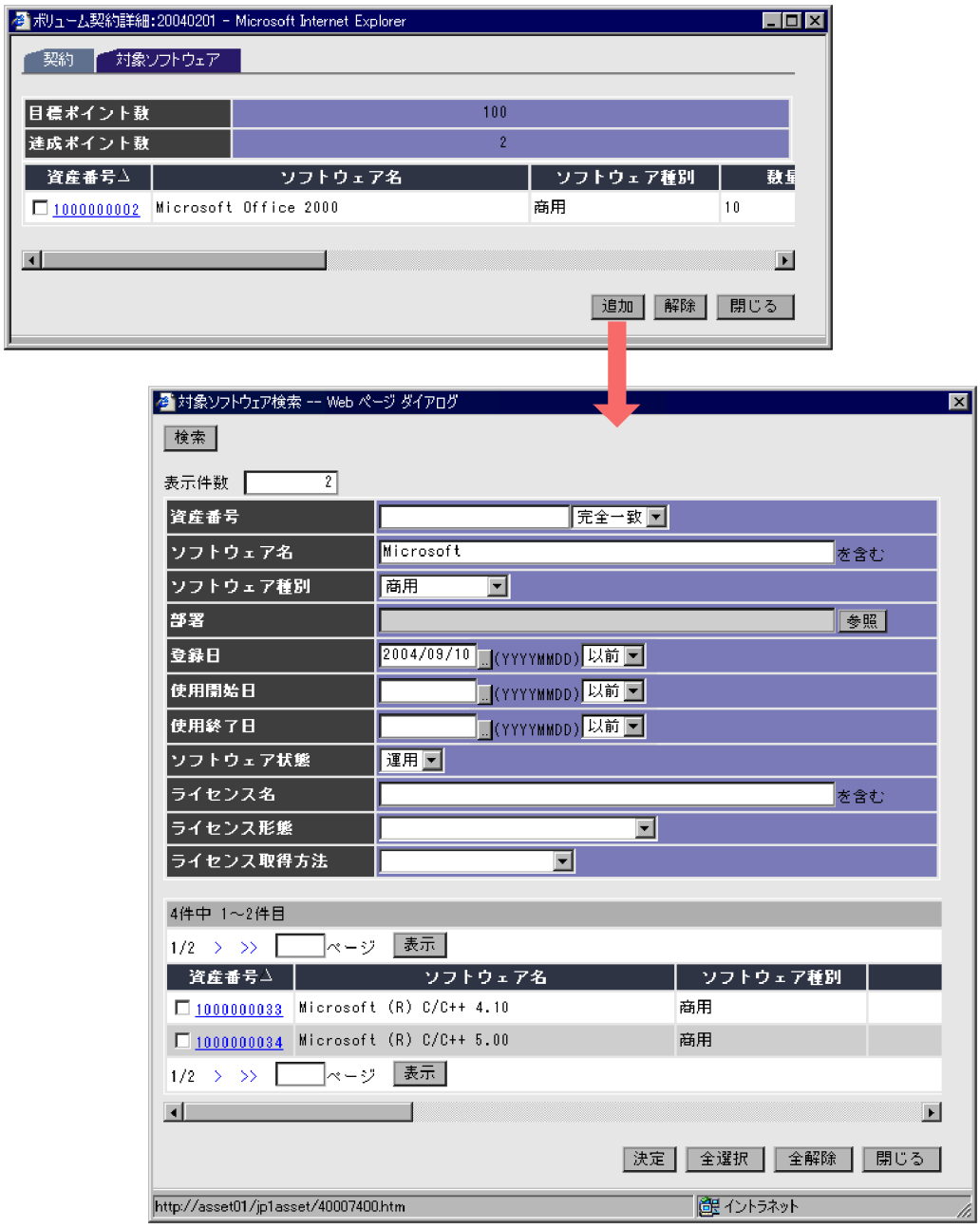
契約対象のソフトウェアを追加する手順を次に示します。

1. **契約対象のソフトウェアを追加したい契約を検索する。**
   「満了」および「抹消」状態の契約には，対象を追加できません。
2. **検索結果一覧で，「契約番号」のアンカーをクリックする。**
   ［ボリューム契約詳細］ダイアログが表示されます。
3. **「対象ソフトウェア」タブの［追加］ボタンをクリックする。**
   ［対象ソフトウェア検索］ダイアログが表示されます。
4. **必要に応じて条件を指定して［検索］ボタンをクリックする。**
   条件に一致するソフトウェアが検索されます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
5. **検索結果からソフトウェアを選択して［決定］ボタンをクリックする。**

選択したソフトウェアが契約対象に追加されます。

「対象ソフトウェア」タブから［対象ソフトウェア検索］ダイアログを表示して対象ソフトウェアを追加する流れを次の図に示します。

図 2-56　ボリューム契約の対象ソフトウェアを追加する流れ



（3）対象のソフトウェアを変更する

契約対象のソフトウェアを変更する手順を次に示します。

1. **契約対象のソフトウェアを変更したい契約を検索する。**
   「満了」および「抹消」状態の契約からは，対象ソフトウェアを変更できません。
2. **検索結果一覧で，「契約番号」のアンカーをクリックする。**
   ［ボリューム契約詳細］ダイアログが表示されます。
3. **「対象ソフトウェア」タブをクリックする。**
   キャンセルする場合は，［解除］ボタンをクリックする前に，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
   解除したいソフトウェアのチェックボックスをチェックして［解除］ボタンをクリックします。
4. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
   ［ボリューム契約詳細］ダイアログが閉じて，契約対象のソフトウェアが変更されます。

2.4.11 ライセンスの集計を実行する（集計管理）

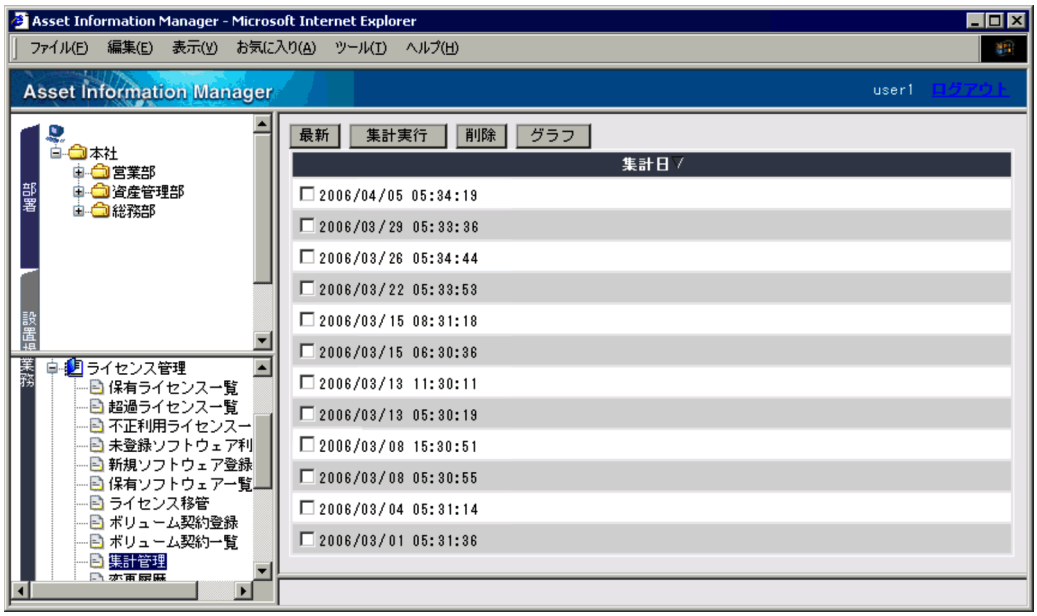
ライセンス管理の各業務に利用するための集計を実行します。

ライセンス管理の「保有ライセンス一覧」，「超過ライセンス一覧」，「不正利用ライセンス一覧」，「未登録ソフトウェア利用一覧」では，あらかじめ集計した結果を基に，各業務の目的に合わせて情報を抽出します。

なお，デフォルトの設定では，集計管理は管理者だけが実行できます。

ライセンスの集計は，業務メニュー「集計管理」をクリックすると表示される集計管理画面から実行します。集計管理画面を次の図に示します。

図 2-57　集計管理画面



ライセンスの集計は，Windows のタスクスケジューラに登録されたタスク「ライセンス超過通知」または「ライセンスの集計」を利用して定期的に集計することもできます。

「集計日」には，タスクで実行された集計を含めた集計の履歴が表示されます。表示されている情報を最新の状態に更新するには，［最新］ボタンをクリックしてください。

Windows のタスクスケジューラに登録されたタスクを利用して，定期的に集計する方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.9　タスクスケジューラに登録されるタスクの設定」を参照してください。

注意事項

数千台の大規模システムで集計を多数実行する際に，データベースに大量の古い集計結果のデータが残っていると，データの検索，追加および削除に時間が掛かるため，集計の性能が劣化します。
資産管理システムが数千台規模になるときは，古くなった集計結果を定期的に削除してください。

(1) 集計を実行する

集計を実行するには，［集計実行］ボタンをクリックします。集計が終了すると，「集計日」に実行した日時の履歴が表示されます。

ライセンス数の集計を実行するためには，各機器にインストールされているソフトウェアの情報を資産管理データベースに登録して，ソフトウェア名と対応づける作業が必要です。

インストールソフトウェア情報の登録方法についてはマニュアル「設計・構築ガイド」

の「3.2.4　ソフトウェア名の割り当て方法の設定」を参照してください。また，ソフトウェア名と対応づける方法については「4.6　ソフトウェア名を対応づける（ソフトウェア名称管理）」を参照してください。

(2) ライセンス数の推移をグラフで表示する

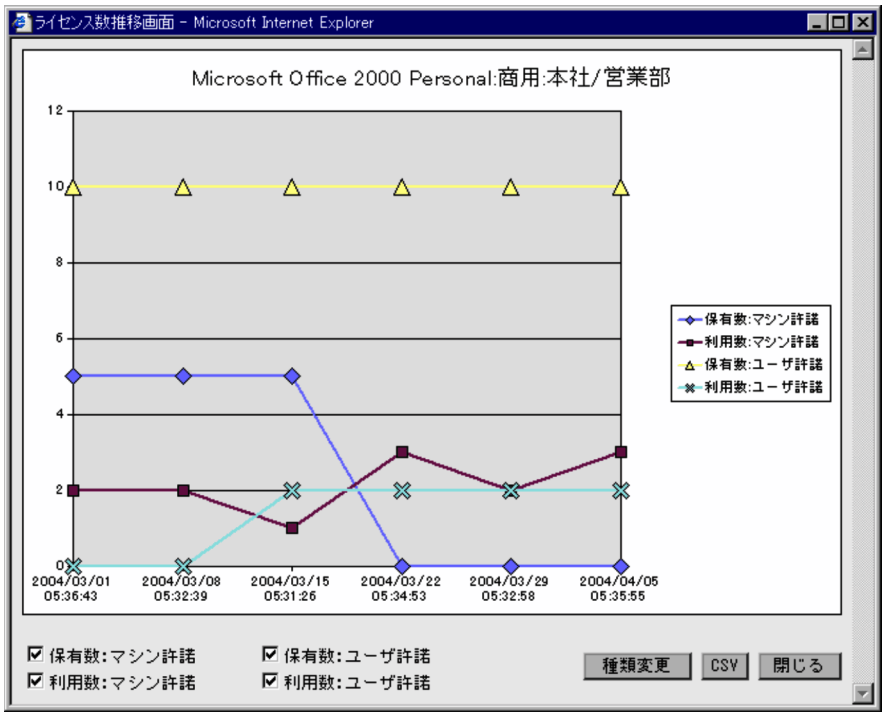
「集計日」に表示されている集計の結果から，ライセンスの保有数および利用数の推移をグラフで表示できます。グラフで表示される範囲は，「集計日」に表示されている履歴の範囲となります。

なお，ライセンス数の推移をグラフで表示するには，グラフを表示するユーザの PC に Microsoft Office をインストールする必要があります。

ライセンス数の推移をグラフで表示する手順を次に示します。

1. **［グラフ］ボタンをクリックする。**
   グラフ対象選択画面が表示されます。
2. **必要に応じて検索条件を指定して，グラフ表示したいソフトウェアを検索する。**
   条件に一致するソフトウェアが検索されます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
3. **検索結果の「ソフトウェア名」または「部署」のアンカーをクリックする。**
   ライセンス数推移画面が表示されます。
   すべての部署のライセンス数をグラフ表示したい場合は「ソフトウェア名」のアンカーを，部署ごとにライセンス数をグラフ表示したい場合は「部署」のアンカーをクリックしてください。

図 2-58　ライセンス数推移画面



ライセンス区分ごとに，保有数と利用数の推移が表示されます。グラフに表示するかどうかは，グラフ下のチェックボックスで選択します。

無制限ライセンスに切り換えた場合

途中で無制限ライセンスに切り換えたソフトウェアの場合，グラフ上では保有数 0 として表示されます。

コンポーネントのダウンロードを無効にする

Microsoft Office をインストールしていない環境でグラフを表示しようとした場合，Microsoft Internet Explorer の設定によっては Office Web コンポーネントのダウンロードが実行されます。コンポーネントがダウンロードされないようにするには，次の手順でダウンロードを無効にしてください。

1. **Microsoft Internet Explorer の「ツール」－「インターネットオプション」を選択する。**
   ［インターネットオプション］ダイアログが表示されます。
2. **「セキュリティ」タブの［レベルのカスタマイズ］ボタンをクリックする。**
   ［セキュリティの設定］ダイアログが表示されます。
3. **「署名済み ActiveX コントロールのダウンロード」および「未署名の ActiveX コントロールのダウンロード」を「無効にする」に設定する。**
4. **［OK］ボタンをクリックする。**
   設定が有効になって［セキュリティの設定］ダイアログが閉じます。

(a) グラフの種類を切り換える

グラフの種類には，折れ線グラフ，棒グラフ（横），棒グラフ（縦）の 3 種類があります。ライセンス数推移画面で，［種類変更］ボタンをクリックすると，順番にグラフが切り換わります。

(3) グラフ表示したデータをダウンロードする

グラフ表示したライセンス数の推移を，CSV ファイルとしてダウンロードできます。「ソフトウェア名」のアンカーをクリックして表示した画面で［CSV］ボタンをクリックすると，グラフに表示された情報が CSV ファイルとしてダウンロードされます。

CSV ファイルとしてダウンロードされる内容は，「集計日」，「ライセンス区分」，「部署」，「保有数」および「利用数」です。

(4) 集計結果を削除する

集計結果を削除するには，集計管理画面で削除したい集計結果のチェックボックスをチェックして，［削除］ボタンをクリックします。

2.4.12 インストールソフトウェアの変更履歴を管理する（変更履歴）

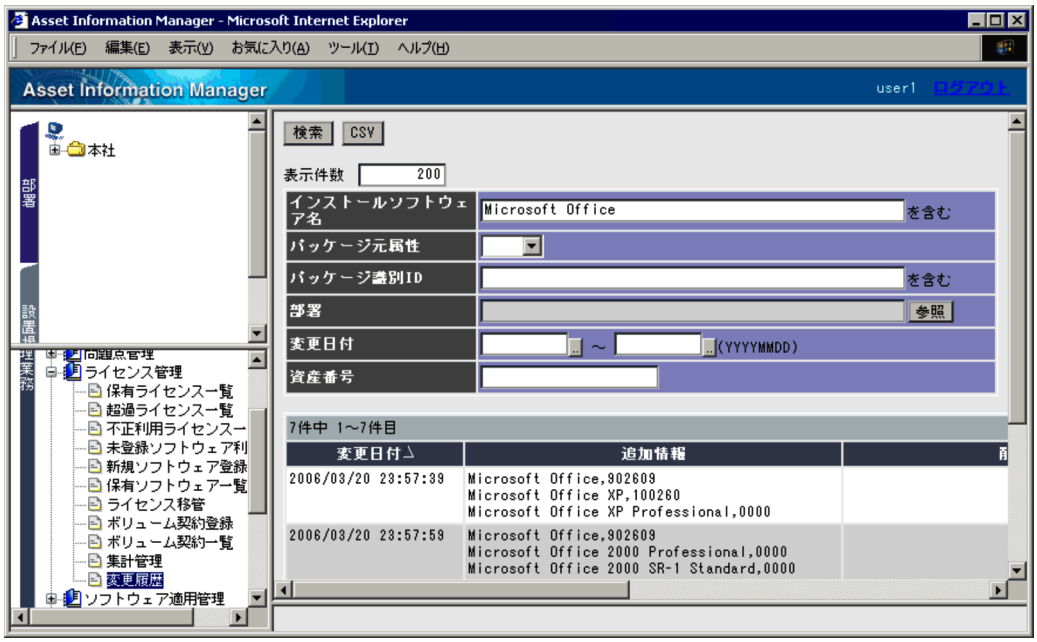
機器にインストールされているソフトウェアの変更履歴を管理します。

ソフトウェアの変更履歴は，JP1/NETM/DM のインベントリ情報を登録する際に取得されます。そのため，ソフトウェアの変更履歴を管理するには，JP1/NETM/DM との連携が必要です。

インベントリ情報から取得した内容を操作画面から変更した場合でも，変更履歴に残ります。ただし，操作画面から追加したインストールソフトウェアの情報を，インベントリ情報と引き当てる前に削除した場合は，変更履歴として取得されません。

ソフトウェアの変更履歴の管理は，業務メニュー「変更履歴」をクリックすると表示される変更履歴画面から実行します。変更履歴画面を次の図に示します。

図 2-59　変更履歴画面



変更履歴の検索結果一覧で，「資産番号」のアンカーをクリックすると，［機器詳細］ダイアログが表示されて，該当するソフトウェアの詳細を参照できます。

(1) 期間を指定して変更履歴を取得する

変更履歴画面では，インストールソフトウェアの変更履歴として取得したい期間を，検索条件に指定します。検索を実行することで，指定した期間で，機器にどのようなソフトウェアがインストールされているかを調査できます。また，特定のソフトウェアをインストールしたことのある機器を調査するためにも役立ちます。

「機器にインストールされているソフトウェアのインストール時期を知りたい」，「機器ごとのソフトウェアの情報に関する変更履歴を知りたい」というようなときには，管理している部署を選択し，「変更日付」に履歴を知りたい期間の開始日と終了日を指定して検索します。

開始日を省略して終了日だけを指定した場合，インベントリ情報を取得した日付のうち，最も古い日付から終了日までの履歴が取得されます。

また，終了日を省略して開始日だけを指定した場合，開始日から最新の日付までの履歴が取得されます。

(2) 変更履歴として取得される情報

変更履歴として取得される情報は，Windows のコントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」（または「プログラムの追加と削除」）で設定できるソフトウェアの情報です。

JP1/NETM/DM のインベントリ情報を取得する際に，次の情報に変更があった場合，履歴が取得されます。なお，ソフトウェアインベントリ情報は取得されませんので注意してください。

- インストールパッケージ情報
- Microsoft Office 情報

また，Asset Information Manager の操作画面から次の項目を編集すると履歴が取得されます。

- ファイル日付
- ファイル名
- ファイルサイズ
- インストールソフトウェア名
- バージョン
- パッケージ識別 ID
- パッケージ元属性

なお，固有情報に追加した管理項目の変更履歴は取得されません。

注意事項

Asset Information Manager 07-10 の資産管理データベースからバージョンアップした場合，移行直後のインベントリ情報の取り込みでは，ウィルス対策製品情報と Microsoft Office 情報の削除が履歴として取得されません。
そのため，資産管理データベースを移行した場合は，移行後にインベントリ情報を収集するようにしてください。

2.5 ソフトウェア適用管理

この節では，ソフトウェア適用に関する資産管理業務の実行方法について説明します。

ソフトウェア適用管理では，JP1/NETM/DM と連携することで，Asset Information Manager で管理している機器にインストールされているソフトウェアの適用状況を確認できます。また，選択した機器に対してソフトウェアを配布できます。さらに，ソフトウェアの配布状況を確認することもできます。

また，WSUS と連携することで，更新プログラムを管理することもできます。

ソフトウェア適用管理に関する業務は，業務カテゴリ「ソフトウェア適用管理」の下に表示されます。各メニューから実行できる操作について，画面を示しながら説明します。各タイトルの（）内には，選択するメニューを示します。

業務メニュー「ソフトウェア適用状況」および「配布状況」から業務を実行するには，事前に，次の作業をしてください。

- JP1/NETM/DM からインストールソフトウェア情報を取り込む。
- 配布するソフトウェアを，JP1/NETM/DM でパッケージングしておく。
  パッケージング方法については，マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用)」を参照してください。

2.5.1 ソフトウェアの適用状況を管理する（ソフトウェア適用状況）

機器にパッチ，ウィルス対策ソフトウェアなどのソフトウェアがインストールされているかどうかを調査するために，条件を指定して機器を検索します。また，ソフトウェアがインストールされていない機器に対して，パッケージング済みのソフトウェアを配布します。

ソフトウェアの適用状況は，業務メニュー「ソフトウェア適用状況」をクリックすると表示されるソフトウェア適用状況画面から管理します。この画面の検索結果から選択した対象機器をインストール先として，JP1/NETM/DM のジョブが実行され，選択したパッケージが転送およびインストールされます。また，インストール先に JP1/NETM/DM のあて先グループを指定することもできます。

ソフトウェアの適用状況を調査して，対策が必要な機器にパッケージをインストールするまでの流れを次に示します。

1. **ソフトウェアの適用状況を調査して，対策が必要な機器を指定する。**
   「対象機器」タブでソフトウェア名や適用状態などを条件に検索して，パッケージをインストールしたい機器を選択します。「対象機器」タブでの操作については，「種別」で選択したメニューに従って，「(1)　インストールソフトウェアの適用状況を検索する」，「(2)　パッチの適用状況を検索する」，および「(3)　ウィルス対策ソフト

ウェアの適用状況を検索する」をそれぞれ参照してください。
また，インストール先を「あて先」タブで指定することもできます。「あて先」タブでの操作については，「(4) インストール先にあて先を指定する」を参照してください。

2. **配布したいパッケージを選択する。**
「パッケージ」タブで機器にインストールしたいパッケージを選択します。「パッケージ」タブでの操作については，「(5) インストールするパッケージを選択する」を参照してください。

3. **パッケージのインストールを実行する。**
手順 1. および手順 2. で設定した値でパッケージをインストールします。インストールの実行については，「(6) パッケージのインストールを実行する」を参照してください。

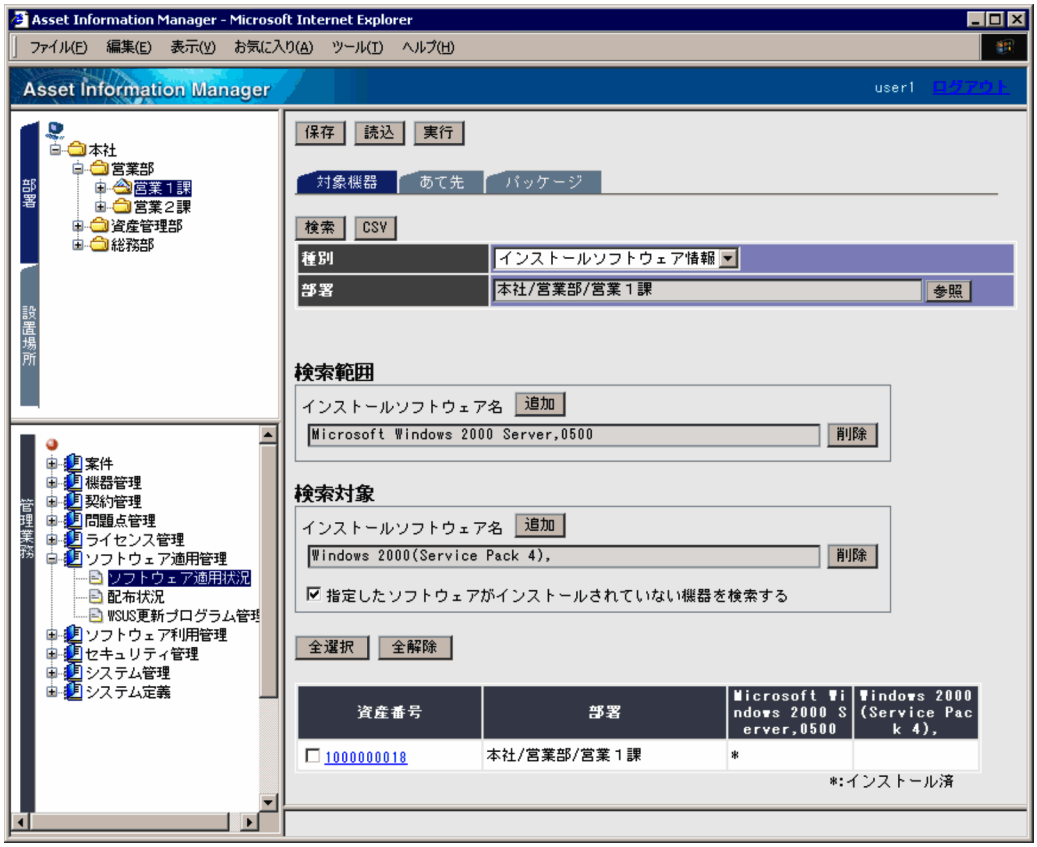
(1) インストールソフトウェアの適用状況を検索する

インストールソフトウェアの適用状況を確認し，検索結果の一覧からインストールの対象機器を選択します。

例えば，インストールが義務づけられているソフトウェアがインストールされていない機器に，該当するソフトウェアをインストールするように指示できます。

「種別」のプルダウンで「インストールソフトウェア情報」を選択した場合のソフトウェア適用状況画面を次の図に示します。

図 2-60　ソフトウェア適用状況画面の「対象機器」タブ（インストールソフトウェア情報）



この場合，パッチ，ウィルス対策ソフトウェア以外のソフトウェアが対象となります。

保存してある検索条件を利用する場合は，［読込］ボタンをクリックして条件を選択します。

新規に検索条件を指定して適用状況を確認し，検索結果の一覧からインストールの対象機器を選択する手順を次に示します。

1. **「部署」，「検索範囲」および「検索対象」に，検索条件とするインストールソフトウェアを指定する。**
   「検索範囲」と「検索対象」は，それぞれ次のように指定してください。
   - **検索範囲**
     インストールしたいソフトウェアの前提となるソフトウェア（例えば，Windows 2000 Professional）を指定してください。
   - **検索対象**
     インストールされているかどうかを知りたいソフトウェア（例えば，Service Pack 4）を指定してください。指定したソフトウェアがインストールされていない機器を検索したい場合は，「指定したソフトウェアがインストールされていない機器を

検索する」のチェックボックスをチェックしてください。

条件とするソフトウェアは，［参照］ボタンをクリックして表示される［ソフトウェア検索］ダイアログで，インストールソフトウェアを検索した結果から選択できます。
なお，「検索範囲」および「検索対象」に複数のソフトウェアを指定した場合は，それぞれのソフトウェアが OR 条件で検索されます。

2. **［検索］ボタンをクリックする。**
検索が実行され，「検索範囲」に指定したソフトウェアがインストールされていて，「検索対象」に指定したソフトウェアがインストールされている（またはインストールされていない）機器が，検索結果として表示されます。
なお，一度指定した検索条件を保存しておくことで，次回からそれを読み込んで利用できます。保存する際は，検索条件の内容がわかるような名称を指定することをお勧めします。

3. **検索結果の一覧で，インストールの対象とする機器のチェックボックスをチェックする。**
チェックした機器がソフトウェアのインストール対象となります。なお，チェックできるのは JP1/NETM/DM からインベントリ情報を取り込んだ機器だけです。

(2) パッチの適用状況を検索する

パッチの適用状況を確認して，パッチを適用する必要がある機器を選択します。

例えば，最新のパッチが適用されていない機器に該当するパッチを配布することで，セキュリティ対策が実施できます。

検索対象は，JP1/NETM/DM がインストールされている機器だけです。

また，パッチが未適用の機器を検索するには，JP1/NETM/DM 07-50 以降と連携する必要があります。JP1/NETM/DM が 07-50 より前のバージョンでも，［機器詳細］ダイアログの「パッチ情報」タブから未適用のパッチ情報を追加した場合には，未適用の機器を検索できます。

「種別」のプルダウンで「パッチ情報」を選択した場合のソフトウェア適用状況画面を次の図に示します。

図 2-61　ソフトウェア適用状況画面の「対象機器」タブ（パッチ情報）

保存してある検索条件を利用する場合は，［読込］ボタンをクリックして条件を選択します。

パッチが未適用の機器を検索して，検索結果の一覧から適用する対象機器を選択する手順を次に示します。

1. **「検索するパッチ名」の［追加］ボタンをクリックする。**
   ［パッチ検索］ダイアログが表示されます。
2. **必要に応じて条件を指定してパッチを検索する。**
   条件に一致するパッチが一覧で表示されます。
3. **適用状況を確認したいパッチのチェックボックスをチェックして，［決定］ボタンをクリックする。**
   選択したパッチが「検索するパッチ名」に指定されます。
   必ず一つ以上パッチ名を指定してください。
   削除する場合は，「検索するパッチ名」で削除したいパッチの［削除］ボタンをクリックします。
4. **「適用状態」のプルダウンから「未適用」を選択する。**
   指定したパッチが適用の機器を検索する場合は「適用」を，適用および未適用の機器の両方を検索する場合は「(空白)」を選択します。

5. **［検索］ボタンをクリックする。**
   指定したパッチの少なくとも一つが未適用である機器が，一覧で表示されます。
   なお，一度指定した検索条件を保存しておくことで，次回からそれを読み込んで利用できます。保存する際は，条件の内容がわかるような名称を指定することをお勧めします。

6. **検索結果の一覧で，適用の対象とする機器のチェックボックスをチェックする。**
   チェックした機器がパッチを適用する対象となります。なお，チェックできるのは JP1/NETM/DM からインベントリ情報を取り込んだ機器だけです。

(3) ウィルス対策ソフトウェアの適用状況を検索する

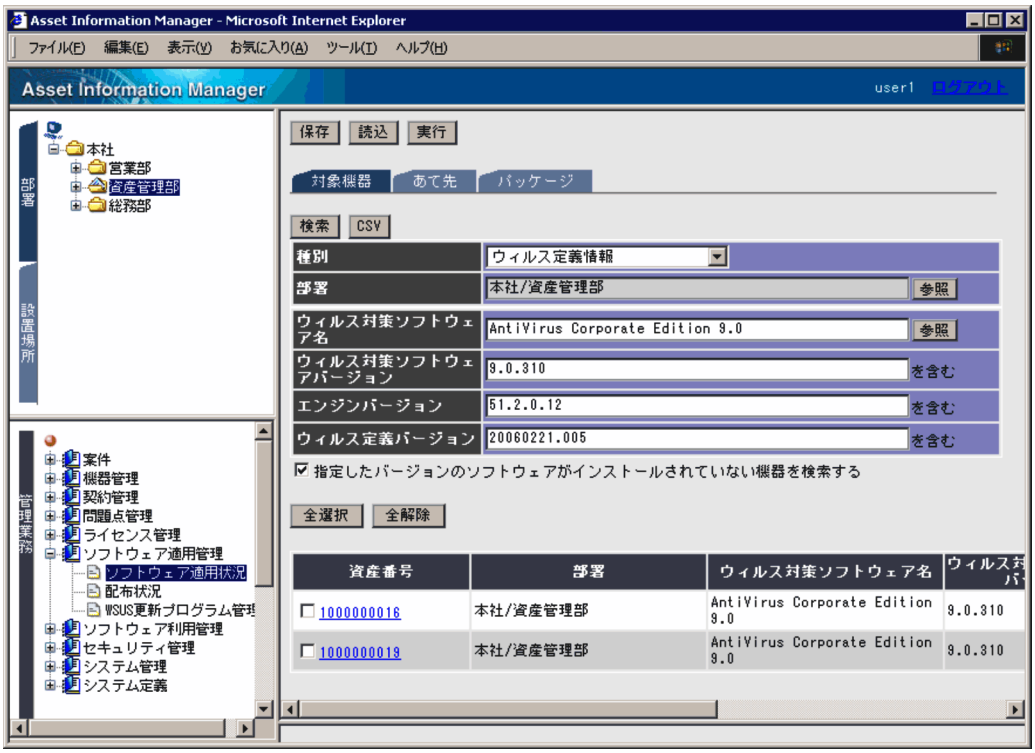
ウィルス対策ソフトウェアやウィルス定義ファイルの適用状況を確認して，必要なソフトウェアや定義ファイルをインストールする機器を選択します。

例えば，最新のウィルス定義バージョンのウィルス対策ソフトウェアがインストールされていない機器に，該当するウィルス対策ソフトウェアを配布することで，ウィルス対策が実施できます。

検索対象は，JP1/NETM/DM がインストールされている機器だけです。

「種別」のプルダウンで「ウィルス定義情報」を選択した場合のソフトウェア適用状況画面を次の図に示します。

図 2-62　ソフトウェア適用状況画面の「対象機器」タブ（ウィルス定義情報）



保存してある検索条件を利用する場合は，［読込］ボタンをクリックして条件を選択します。

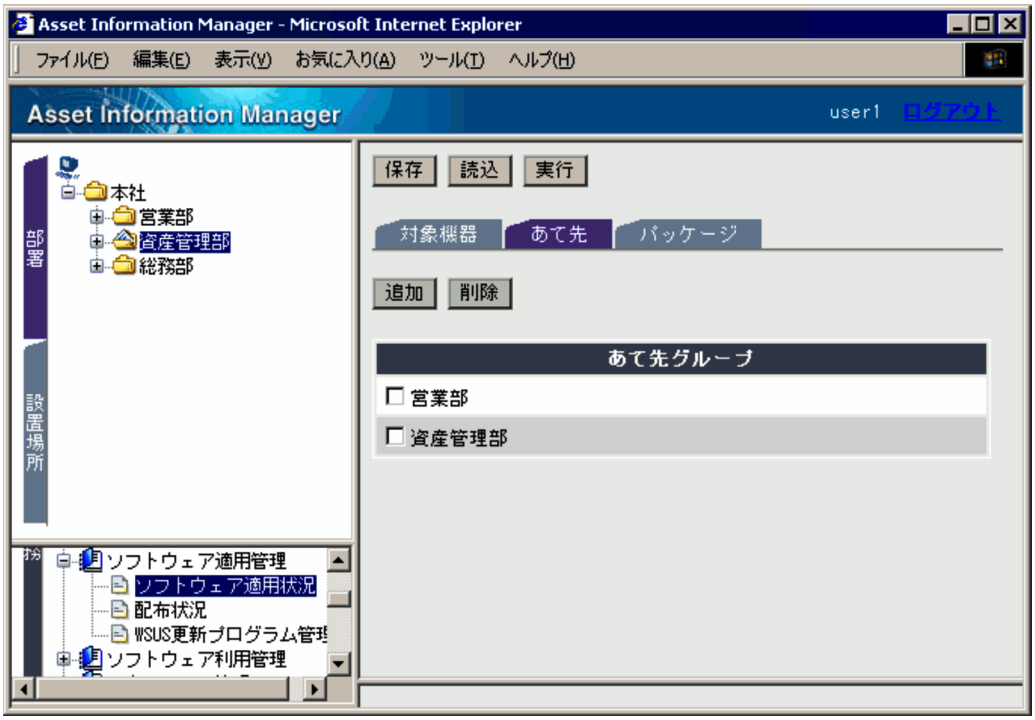
必要なウィルス対策ソフトウェアやウィルス定義ファイルをインストールしていない機器を検索して，検索結果の一覧からインストールの対象機器を選択する手順を次に示します。

1. **検索条件を指定する。**
   ウィルス対策ソフトウェアは，［参照］ボタンをクリックして表示される［ウィルス定義情報参照］ダイアログで選択できます。「ウィルス対策ソフトウェア名」を指定すると，「ウィルス対策ソフトウェアバージョン」および「エンジンバージョン」も一緒に指定されます。
   指定したバージョンのソフトウェアがインストールされていない機器を検索したい場合は，「指定したバージョンのソフトウェアがインストールされていない機器を検索する」のチェックボックスをチェックしてください。
2. **［検索］ボタンをクリックする。**
   条件に一致する機器が一覧で表示されます。
   なお，一度指定した検索条件を保存しておくことで，次回からそれを読み込んで利用できます。保存する際は，条件の内容がわかるような名称を指定することをお勧めします。
3. **検索結果の一覧で，インストールの対象とする機器のチェックボックスをチェックする。**
   チェックした機器がソフトウェアのインストール対象となります。なお，チェックできるのは JP1/NETM/DM からインベントリ情報を取り込んだ機器だけです。

（4）インストール先にあて先を指定する

ソフトウェア適用状況画面の「あて先」タブで，JP1/NETM/DM のあて先グループから，インストール先を指定できます。インストール先は，「対象機器」タブでの指定と同時に指定することもできます。「あて先」タブを次の図に示します。

図 2-63 ソフトウェア適用状況画面の「あて先」タブ



インストール先を選択する手順を次に示します。

1. **［追加］ボタンをクリックする。**
   ［あて先グループ一覧］ダイアログが表示されます。JP1/NETM/DM で登録されているすべてのあて先グループが表示されます。
2. **インストール先に指定したい「あて先グループ」のアンカーをクリックする。**
   あて先の一覧が表示されたダイアログが表示され，あて先を確認できます。
3. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
   あて先の一覧が表示されたダイアログが閉じます。
4. **インストール先に指定したい「あて先グループ」のチェックボックスをチェックして，［決定］ボタンをクリックする。**
   チェックしたあて先グループが，インストール先として，ソフトウェア適用状況画面の「あて先」タブに表示されます。表示されているすべてのあて先グループが，パッケージをインストールする対象となります。
   また，あて先グループは 200 個まで指定できます。「対象機器」タブでインストールの対象となる機器を選択している場合は，199 個まであて先グループを指定できます。

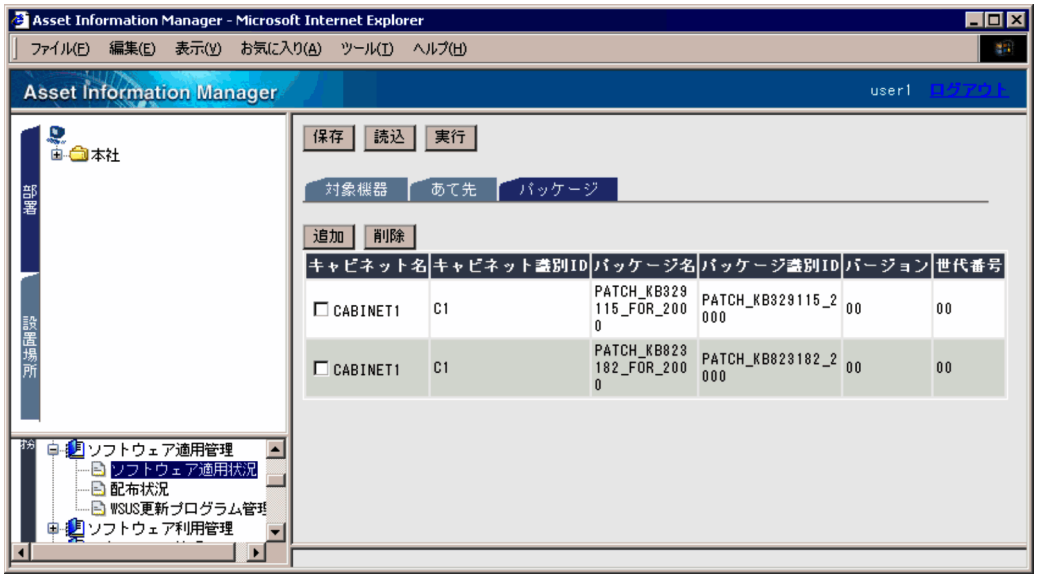
あて先をインストール先から削除したい場合は，そのあて先のチェックボックスをチェックして，［削除］ボタンをクリックしてください。

「あて先」タブを選択した場合，指定したあて先の保存および読み込みはできません。

(5) インストールするパッケージを選択する

ソフトウェア適用状況画面の「パッケージ」タブで，JP1/NETM/DM のキャビネットから，インストールするパッケージを選択します。「パッケージ」タブを次の図に示します。

図 2-64　ソフトウェア適用状況画面の「パッケージ」タブ



インストールするパッケージを選択する手順を次に示します。

1. **［追加］ボタンをクリックする。**
   ［パッケージ選択］ダイアログが表示されます。JP1/NETM/DM にあるすべてのキャビネットがツリーで表示されます。
2. **インストールしたいパッケージが格納されているキャビネットを選択する。**
   選択したキャビネットに格納されているすべてのパッケージが表示されます。
3. **インストールしたいパッケージのチェックボックスをチェックして，［決定］ボタンをクリックする。**
   チェックしたパッケージが，インストールするパッケージとして，ソフトウェア適用状況画面の「パッケージ」タブに表示されます。表示されているすべてのパッケージが，機器にインストールする対象となります。
   なお，一度にインストールできるパッケージの数は 100 個までです。パッケージをインストール対象から削除したい場合は，そのパッケージのチェックボックスをチェックして，［削除］ボタンをクリックしてください。
   また，一度選択したパッケージの条件を保存しておくことで，次回からそれを読み込んで利用できます。保存する際は，パッケージの内容がわかるような名称を指定することをお勧めします。

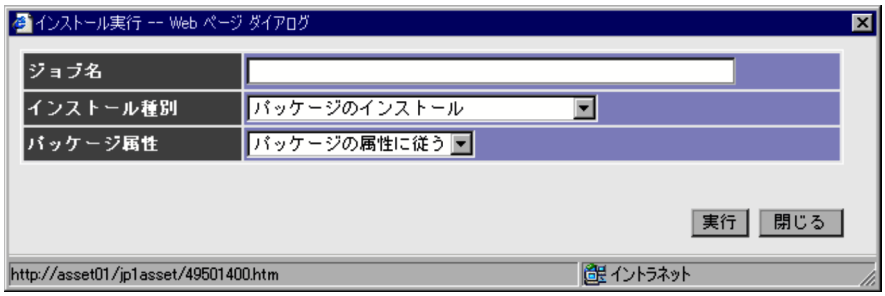
(6) パッケージのインストールを実行する

ソフトウェア適用状況画面の「対象機器」タブでチェックした機器に対して，「パッケージ」タブに表示されているパッケージのインストールを実行します。

ソフトウェア適用状況画面で，インストールを実行する手順を次に示します。

1. **［実行］ボタンをクリックする。**
   次の図に示す［インストール実行］ダイアログが表示されます。

図 2-65 ［インストール実行］ダイアログ



2. **ジョブ名，インストール種別，およびパッケージ属性を設定する。**
   それぞれの設定方法を次に示します。
   - **ジョブ名**
     任意の名称を指定できます。指定できる値は，1 ～ 32 バイトの文字です。ただし，次に示す記号およびスペースは使用できません。
     「¥」，「/」，「*」，「"」，「:」，「'」，「!」，「|」，「.」，「<」，「>」，「?」，「,」，「;」，「{」，「}」
     指定を省略した場合は，インストール種別の選択に従って，次の表に示す形式でジョブ名が設定されます。

表 2-2 設定されるジョブ名の形式

インストール種別	設定されるジョブ名の形式
パッケージのインストール	「NETM_INSTALL 実行日時」
クライアントユーザによるインストール	「NETM_USERINST 実行日時」

   - **インストール種別**
     実行するインストールの種別（ジョブ種別）を，次の 2 種類から選択します。デフォルトは「パッケージのインストール」です。

     パッケージのインストール
     管理者の指示で，対象機器にパッケージを一括してインストールします。

     クライアントユーザによるインストール
     パッケージをインストールする許可を対象機器に与えます。機器を使用するユーザが，任意のタイミングでパッケージをインストールできます。

- **パッケージ属性**
  インストールするパッケージと同一のパッケージがインストール対象の機器にすでにインストールされていた場合に，上書きインストールするかどうかを選択します。デフォルトは「パッケージの属性に従う」です。上書きインストールしたいときは，「上書きインストールする」を選択してください。

3. **［実行］ボタンをクリックする。**
   設定した内容に従って，対象機器にパッケージをインストールするジョブが作成，実行されます。作成されたジョブは，JP1/NETM/DM のジョブ格納フォルダに格納されます。
   なお，同じ名称のジョブは連続して実行しないでください。連続して実行するとエラーになることがあります。同じ名称のジョブを実行したい場合は，1 分以上間隔を置いて実行してください。

2.5.2 ソフトウェアの配布状況を確認する（配布状況）

パッケージをインストールするジョブの実行状況を確認します。ここでは，ソフトウェア適用状況画面から実行したジョブ，および案件を使用して実行したジョブの状況を確認できます。また，ジョブを削除したり，エラーとなったジョブを再実行したりもできます。

なお，ジョブが正常終了したら，インストールソフトウェア情報を JP1/NETM/DM から取り込むことをお勧めします。インストールソフトウェア情報を取り込むことで，ソフトウェアがインストールされたものとして扱われるようになります。

ソフトウェアの配布状況は，JP1/NETM/DM のリモートインストールマネージャか，または業務メニュー「配布状況」をクリックすると表示される配布状況画面で確認します。配布状況画面を次の図に示します。

図 2-66　配布状況画面

ジョブ名の先頭に表示されるアイコンは，そのジョブの実行状態を色で示しています。アイコンの色が示す実行状態については，「(1)　インストールの実行状況を確認する」を参照してください。「条件設定」のアンカーをクリックして表示される［条件設定］ダイアログで条件を設定すると，状態を条件に表示情報を絞り込むこともできます。

条件を設定した場合や，表示を最新にしたい場合は，［最新］ボタンをクリックしてください。

また，ジョブ名のアンカーをクリックすると，［インストール状況］ダイアログが表示されて，ジョブのあて先およびパッケージ単位の詳細な実行状況を確認できます。

なお，配布状況画面には，JP1/NETM/DM のジョブ格納フォルダに格納されているジョブが表示されます。そのため，JP1/NETM/DM などで同じフォルダにジョブを格納した場合，そのジョブの情報も表示されます。

(1) インストールの実行状況を確認する

［インストール状況］ダイアログで確認できる内容について説明します。

図 2-67　［インストール状況］ダイアログ

あて先

実行したジョブの対象機器（あて先）が表示されます。先頭に表示されるアイコンは，実行状態を色で示しています。

パッケージ

実行したジョブでインストールするパッケージが表示されます。

実行状態

ジョブの実行状態が表示されます。表示される実行状態の種類を次の表に示します。一つのジョブに，あて先およびパッケージ単位の実行状態の種類が複数ある場合，ジョブ単位の実行状態としては，次の表で下方にある実行状態が優先して表示されます。

表 2-3 ジョブの実行状態の種類

実行状態	アイコンの色	意味
正常終了	青色	ジョブの実行が正常に終了しました。
実行待ち	緑色	ジョブが作成されましたが，JP1/NETM/DM のサーバで対象機器への転送待ちとなっています。
実行中		対象機器にジョブを転送中です。または，対象機器でジョブを実行中です。
中断中※		JP1/NETM/DM で中断指示が出ているため，ジョブの実行を中断しています。
再開中※		JP1/NETM/DM で再開指示が出ているため，ジョブの実行を再開しています。
待機中※		ジョブを中継するシステムで，ジョブが保管されています。
起動失敗※		ジョブを転送しようとしましたが，ジョブを中継するシステムもしくは対象機器が起動していません。または，対象機器で JP1/NETM/DM Client が非常駐となっています。
インストール待ち		対象機器でインストール待ちとなっています。または，対象機器でジョブが保留されています。
インストール拒否	黄色	クライアントユーザによるインストールジョブで，対象機器を使用するユーザが，パッケージセットアップマネージャでパッケージを削除しました。
通信エラー		ジョブの転送時に通信エラーが発生しました。
異常終了	赤色	ジョブの実行時にエラーが発生しました。または，対象機器でジョブがキャンセルされました。

注※

［インストール状況］ダイアログだけで表示される実行状態です。配布状況画面では「実行中」と表示されます。

実行日時

ジョブを実行した日時が表示されます。

表示されている情報を最新の状態に更新するには，［最新］ボタンをクリックしてください。また，表示される情報を絞り込むには，「条件設定」のアンカーをクリックして表示される［条件設定］ダイアログで条件を設定し，［最新］ボタンをクリックしてください。

(2) ジョブを削除する

正常終了したジョブは早めに削除してください。削除しないで残しておくと，情報がJP1/NETM/DM のデータベースに残り，動作が遅くなることがあります。

ジョブを削除するには，配布状況画面で，削除するジョブのチェックボックスをチェックして，［削除］ボタンをクリックしてください。

(3) ジョブを再実行する

異常終了してしまったジョブは，エラー要因を取り除いてから再実行する必要があります。

ジョブを再実行するには，配布状況画面で，［再実行］ボタンをクリックしてください。あて先およびパッケージ単位に，実行状態が「実行待ち」，「通信エラー」および「異常終了」のジョブが再実行されます。

2.5.3 WSUS の更新プログラムを管理する（WSUS 更新プログラム管理）

WSUS サーバと連携することで，WSUS の更新プログラムを管理します。また，更新プログラムを機器に適用して，適用状況を確認することもできます。

WSUS サーバと連携するには，WSUS サーバの構築後，WSUS サーバと Asset Information Manager 間を通信できるように設定する必要があります。WSUS サーバと通信するための設定については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.3.13(1) WSUS コネクタの URL」を参照してください。

なお，WSUS 更新プログラム管理画面に表示される情報は，すべて WSUS サーバの情報を参照しています。そのため，検索条件や検索条件に指定する値は，業務メニュー「管理項目編集」から変更できません。

WSUS サーバと連携して，更新プログラムを機器に適用するまでの流れを次に示します。WSUS 更新プログラム管理画面では，各タブを選択すると，デフォルトの検索条件で自動的に検索されます。

1. **更新プログラムを適用する機器を確認する。**
   「更新要否一覧」タブまたは「未適用一覧」タブから更新プログラムを適用する機器を確認します。更新プログラムを適用する必要がある機器や適用する必要がない機器の台数，詳細情報などは，「更新要否一覧」タブで確認します。「更新要否一覧」タブでの確認方法については，「(3)　更新プログラムの適用が必要な機器を確認する（「更

新要否一覧」タブ)」を参照してください。また，適用する必要のある機器のうち，未適用の機器がないかどうかは，「未適用一覧」タブで確認します。「未適用一覧」タブでの確認方法については，「(4) 更新プログラムが適用されていない機器を確認する（「未適用一覧」タブ)」を参照してください。

2. **更新プログラムを機器に適用する。**
   各タブで，承認状態を「インストール」に変更すると，機器に更新プログラムが適用されます。承認状態はどのタブでも変更できますが，選択した更新プログラムが 1 台も機器に適用されていない場合，「適用状況一覧」タブには表示されません。承認状態を変更する手順については，「(1) 更新プログラムの承認状態を変更する」を参照してください。

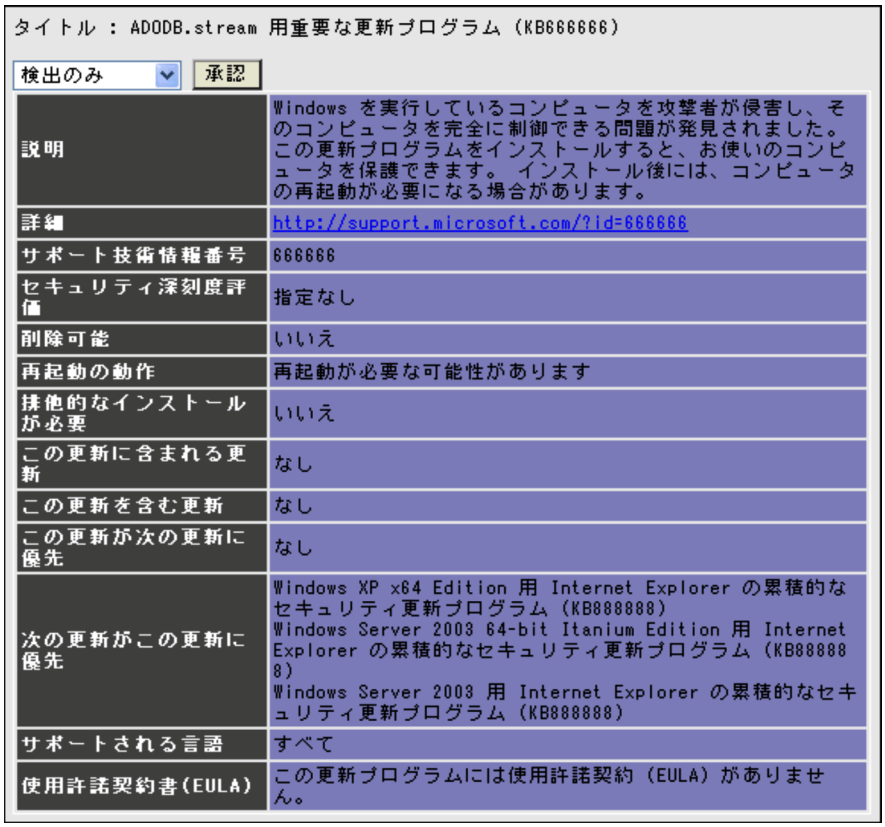
3. **更新プログラムの適用状況を確認する。**
   適用する必要がある機器すべてに更新プログラムが適用されているかを確認したい場合は，「未適用一覧」タブで，未適用の機器がないことを確認します。「未適用一覧」タブで，未適用の機器があった場合，適用に失敗している機器の台数など適用状況の詳細を確認したいときは，「適用状況一覧」タブから確認します。「未適用一覧」タブで適用されているかを確認する方法については，「(4) 更新プログラムが適用されていない機器を確認する（「未適用一覧」タブ)」を参照してください。また，「適用状況一覧」タブで適用状況の詳細を確認する方法については，「(5) 更新プログラムの適用状況を確認する（「適用状況一覧」タブ)」を参照してください。

(1) 更新プログラムの承認状態を変更する

選択した更新プログラムの詳細から承認状態を変更する手順を次に示します。

1. **検索結果で，承認状態を変更したい更新プログラムの「タイトル」のアンカーをクリックする。**
   選択した更新プログラムの詳細が検索結果の下に表示されます。更新プログラムの詳細を次の図に示します。

図 2-68 更新プログラムの詳細



2. **更新プログラムの詳細のプルダウンで変更したい承認状態を選択して，[承認] ボタンをクリックする。**

   更新プログラムの承認状態が変更されます。ただし，「削除」には変更できません。承認状態を変更すると，対象となるすべての機器に適用されます。例えば，「インストール」に変更すると，対象となるすべての機器に更新プログラムが適用されます。各承認状態の選択基準を次に示します。

   - **未承認**

     選択した更新プログラムを適用するかどうか，保留にしておく場合に選択します。承認状態を「未承認」に変更すると，「更新要否一覧」タブ，「未適用一覧」タブおよび「適用状況一覧」タブには表示されなくなります。
   - **検出のみ**

     選択した更新プログラムを適用する必要がある機器を確認したい場合に選択します。承認状態を「検出のみ」に変更すると，「更新要否一覧」タブおよび「未適用一覧」タブで集計結果を確認できます。
   - **インストール**

     選択した更新プログラムを機器に適用したい場合に選択します。承認状態を「インストール」に変更すると，WSUS サーバによって，適用する必要のある機器に選択した更新プログラムが適用されます。また，適用状況を「未適用一覧」タブおよび

「適用状況一覧」タブで確認できます。

- **拒否済み**
  選択した更新プログラムを今後適用しない場合に選択します。承認状態を「拒否済み」に変更すると，選択した更新プログラムを適用できなくなります。また，「更新要否一覧」タブ，「未適用一覧」タブおよび「適用状況一覧」タブには表示されなくなります。

更新プログラムに使用許諾契約書が含まれる場合，最初に承認状態を変更するときに，使用許諾契約書に同意する必要があります。同意すると，承認状態が変更されます。使用許諾契約書の詳細は，更新プログラムの詳細で「使用許諾契約書（EULA）」の「EULA の表示」のアンカーをクリックすると参照できます。

なお，承認状態は，実際の適用状況とは関係なく変更できます。例えば，「インストール」の承認状態を「拒否済み」に変更することもできてしまいますが，すでに適用された更新プログラムはアンインストールされません。承認状態だけが変更されて実態と合わなくならないように注意してください。

（2）新着の更新プログラムを参照する（「新着一覧」タブ）

連携している WSUS サーバの新着の更新プログラムを参照します。承認状態が「検出のみ」でない更新プログラムの詳細も確認できます。また，新着の更新プログラムの承認状態を確認することもできます。

WSUS サーバに新着の更新プログラムがある場合は，Windows のタスクスケジューラに登録されているタスク「WSUS 更新プログラム通知」を利用して，管理者にメール通知させることができます。タスクを利用したメール通知の設定方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.9　タスクスケジューラに登録されるタスクの設定」を参照してください。

WSUS 更新プログラム管理画面の「新着一覧」タブを次の図に示します。

図 2-69 WSUS 更新プログラム管理画面（「新着一覧」タブ）

検索条件の説明を次に示します。

- **クラス**
  更新プログラムのカテゴリで，「セキュリティ問題の修正プログラム」，「重要な更新」などを指しています。
- **同期の期間**
  Microsoft Update と WSUS サーバが同期を取る期間を指しています。検索したい更新プログラムが WSUS サーバに到着したタイミングを含む期間を指定します。
  - **前回の同期**
    前回 Microsoft Update と WSUS サーバが同期を取ったときに取得した更新プログラムだけが検索対象になります。
  - **過去 X 日間（X は 7，14，30，60，90）**
    現在から過去 X 日間で，Microsoft Update と WSUS サーバが同期を取ったときに取得した更新プログラムだけが検索対象になります。
- **承認状態**
  「承認済み」を指定すると，承認状態が「検出のみ」，「インストール」および「削除」の更新プログラムが検索されます。

「新着一覧」タブで新着の更新プログラムの内容を確認する手順を次に示します。

1. **必要に応じて検索条件を指定して更新プログラムを検索する。**
   タブを選択したときは，最新の更新プログラムのうち，Windows の「セキュリティ問題の修正プログラム」および「重要な更新」が検索されています。また，すべての承認状態の更新プログラムが検索されています。

2. **検索結果で，詳細を確認したい更新プログラムの「タイトル」のアンカーをクリックする。**
   選択した更新プログラムの詳細が表示されます。
3. **更新プログラムの承認状態を変更する。**
   更新プログラムの承認状態を変更する手順については，「(1)　更新プログラムの承認状態を変更する」を参照してください。

(3) 更新プログラムの適用が必要な機器を確認する（「更新要否一覧」タブ）

更新プログラムを適用する必要がある機器を確認します。

WSUS 更新プログラム管理画面の「更新要否一覧」タブを次の図に示します。

図 2-70　WSUS 更新プログラム管理画面（「更新要否一覧」タブ）

「更新要否一覧」タブでの操作を次に示します。

1. **必要に応じて検索条件を指定して更新プログラムを検索する。**
   検索条件に指定した更新プログラムごとに，機器に適用する必要があるかどうかの集計結果が「必要」，「不要」および「不明」に分類されて表示されます。
   タブを選択したときは，最新の更新プログラムのうち，Windows の「セキュリティ問題の修正プログラム」および「重要な更新」が検索されています。
2. **集計されている機器を確認したい更新プログラムの「必要」，「不要」および「不明」のアンカーをクリックする。**
   機器の一覧が表示されます。
   各状態の意味を次に示します。
   - **必要**
     選択した更新プログラムを適用する必要のある機器です。

- **不要**
  選択した更新プログラムの適用が不要な機器です。
- **不明**
  選択した更新プログラムを適用する必要があるかどうかがわからない機器です。

機器の一覧で，「コンピュータ名」のアンカーをクリックすると，該当する機器の［機器詳細］ダイアログが表示されて，資産管理データベースで管理している機器の詳細情報を参照できます。機器の詳細情報は，ホスト名と IP アドレスで引き当てられます。

3. **更新プログラムを適用する必要のある機器を確認する。**
4. **更新プログラムの詳細で承認状態を「インストール」に変更する。**
   WSUS サーバによって更新プログラムが機器に適用されます。更新プログラムの承認状態を変更する手順については，「(1)　更新プログラムの承認状態を変更する」を参照してください。

(4) 更新プログラムが適用されていない機器を確認する（「未適用一覧」タブ）

更新プログラムを適用する必要がある機器のうち，更新プログラムを適用していない機器があるかどうかを確認します。

WSUS 更新プログラム管理画面の「未適用一覧」タブを次の図に示します。

図 2-71　WSUS 更新プログラム管理画面（「未適用一覧」タブ）

「未適用一覧」タブで更新プログラムが適用されていない機器に適用する手順を次に示します。

1. **必要に応じて検索条件を指定して更新プログラムを検索する。**

検索条件に指定した更新プログラムごとに，適用されていない機器の集計結果が「必要」および「未適用」に分類されて表示されます。
タブを選択したときは，最新の更新プログラムのうち，Windows の「セキュリティ問題の修正プログラム」および「重要な更新」が検索されています。

2. **検索結果で，未適用の機器を確認したい更新プログラムの「必要」および「未適用」のアンカーをクリックする。**
機器の一覧が表示されます。
各状態の意味を次に示します。
   - **必要**
     選択した更新プログラムを適用する必要のある機器です。
   - **未適用**
     「必要」の機器のうち，選択した更新プログラムが適用されていない機器です。選択した更新プログラムを適用している途中の可能性がある機器や適用に失敗した機器を含みます。

   機器の一覧で，「コンピュータ名」のアンカーをクリックすると，該当する機器の［機器詳細］ダイアログが表示されて，資産管理データベースで管理している機器の詳細情報を参照できます。機器の詳細情報は，ホスト名と IP アドレスで引き当てられます。
3. **更新プログラムが未適用の機器を確認する。**
4. **更新プログラムの詳細で承認状態を「インストール」に変更する。**
WSUS サーバによって更新プログラムが機器に適用されます。更新プログラムの承認状態を変更する手順については，「(1)　更新プログラムの承認状態を変更する」を参照してください。

(5) 更新プログラムの適用状況を確認する（「適用状況一覧」タブ）

更新プログラムごとに，選択した更新プログラムが適用されていない機器の集計結果を確認できます。このタブには，承認状態が「インストール」の更新プログラムが表示されます。また，このタブには，適用の対象となる機器が 1 台もない更新プログラムは表示されません。

WSUS 更新プログラム管理画面の「適用状況一覧」タブを次の図に示します。

図 2-72 WSUS 更新プログラム管理画面（「適用状況一覧」タブ）

「適用状況一覧」タブでの操作を次に示します。

1. **必要に応じて検索条件を指定して更新プログラムを検索する。**
   検索条件に指定した更新プログラムごとに，機器への適用状況の集計結果が「必要」，「不明」，「インストール」および「失敗」に分類されて表示されます。
   タブを選択したときは，最新の更新プログラムのうち，Windows の「セキュリティ問題の修正プログラム」および「重要な更新」が検索されています。

2. **検索結果で，適用状況を確認したい更新プログラムの検索結果の「必要」，「不明」，「インストール」および「失敗」のアンカーをクリックする。**
   機器の一覧が表示されます。
   各状態の意味を次に示します。
   - **必要**
     選択した更新プログラムを適用する必要のある機器です。
   - **不明**
     「必要」の機器のうち，選択した更新プログラムを適用している途中の可能性がある機器です。
   - **インストール**
     「必要」の機器のうち，選択した更新プログラムの適用が完了した機器です。承認状態の「インストール」とは意味が異なります。
   - **失敗**
     「必要」の機器のうち，選択した更新プログラムを適用している途中でエラーが発生した機器です。

   機器の一覧で，「コンピュータ名」のアンカーをクリックすると，該当する機器の［機器詳細］ダイアログが表示されて，資産管理データベースで管理している機器の詳細情報を参照できます。機器の詳細情報は，ホスト名と IP アドレスで引き当てら

れます。

3. **更新プログラムを適用した機器および適用に失敗した機器を確認する。**

4. **更新プログラムの詳細で承認状態を「インストール」に変更する。**
   WSUS サーバによって適用に失敗した機器に，更新プログラムが適用されます。更新プログラムの承認状態を変更する手順については，「(1) 更新プログラムの承認状態を変更する」を参照してください。必要に応じて手順 1. ～手順 3. を繰り返してください。

2.6 ソフトウェア利用管理

この節では，ソフトウェア利用に関する資産管理業務の実行方法について説明します。

ソフトウェア利用管理では，ソフトウェアの稼働状況を調査したり，許可されていないソフトウェアがインストールされていないかを確認したりできます。また，ユーザが使用したプログラムや，操作したウィンドウのタイトルの履歴を取得したりすることもできます。

ソフトウェア利用管理に関する業務は，業務カテゴリ「ソフトウェア利用管理」の下に表示されます。

各メニューから実行できる操作について，画面を示しながら説明します。各タイトルの（）内には，選択するメニューを示します。

2.6.1 ソフトウェアの稼働状況を調査する（ソフトウェア稼働状況）

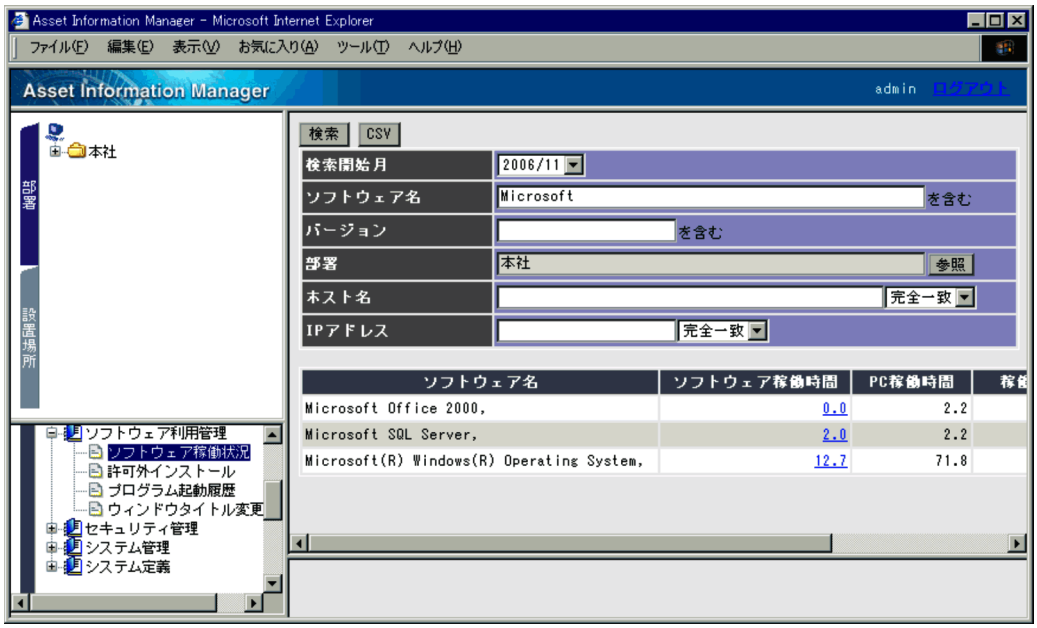
ソフトウェアの稼働時間および稼働率を月ごとに集計します。ソフトウェアの利用時間，稼働率の変化を把握できます。

ユーザが利用していないライセンスを調査したい場合は，業務メニュー「遊休ライセンス一覧」を使用してください。

ソフトウェアの稼働状況を管理するには，JP1/NETM/DM 08-10 以降でソフトウェアの稼働時間を取得する必要があります。JP1/NETM/DM と連携する方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.1.1　JP1/NETM/DM と連携するために必要な作業の流れ」を参照してください。

ソフトウェアの稼働状況は，業務メニュー「ソフトウェア稼働状況」をクリックすると表示されるソフトウェア稼働状況画面から調査できます。ソフトウェア稼働状況画面を次の図に示します。

図 2-73　ソフトウェア稼働状況画面



検索結果の見方

- 「PC 稼働時間」には，機器が稼働していた時間が表示されます。ソフトウェアがまったく稼働していない機器の稼働時間も含まれます。
- 「インストール台数」には，該当するソフトウェアがインストールされている機器の台数が表示されます。表示される台数は，JP1/NETM/DM で管理しているソフトウェア名およびソフトウェアバージョンが一致する，インストールソフトウェアリストが存在する機器の台数です。パッケージ元属性およびパッケージ識別 ID は無視されます。該当するインストールソフトウェアリストが存在しない場合，「－（ハイフン）」が表示されます。検索条件に部署を指定している場合は，該当する部署以下の機器の台数がすべて表示されます。

(1) 条件を指定してソフトウェアの稼働状況を表示する

条件を指定して，［検索］ボタンをクリックすると，条件に一致するソフトウェアの稼働状況が表示されます。検索条件のうち，「検索開始月」，「ソフトウェア名」，「バージョン」および「部署」の指定方法を次に示します。

- **「検索開始月」**
  何月から稼働状況を検索するかを指定します。6 か月前までの月を指定できます。デフォルトは，検索を実行する月です。
- **「ソフトウェア名」**
  JP1/NETM/DM で稼働時間を取得する際に指定した，ソフトウェアの名称を指定します。
- **「バージョン」**

JP1/NETM/DM で稼働時間を取得する際に指定した，ソフトウェアのバージョンを指定します。

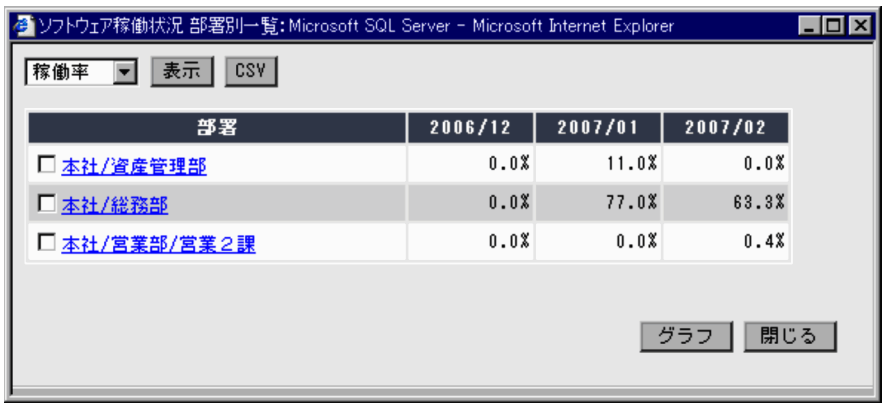
- **「部署」**
  ソフトウェアの稼働状況を確認したい機器の部署を指定します。

(2) 部署ごとの内訳を表示する

検索結果の「ソフトウェア稼働時間」のアンカーをクリックすると，部署ごとに，ソフトウェアの稼働率および稼働時間を表示できます。稼働率とは，機器が稼働していた時間に対するソフトウェア稼働時間の割合のことです。

部署ごとの稼働率の内訳が表示された画面を次の図に示します。

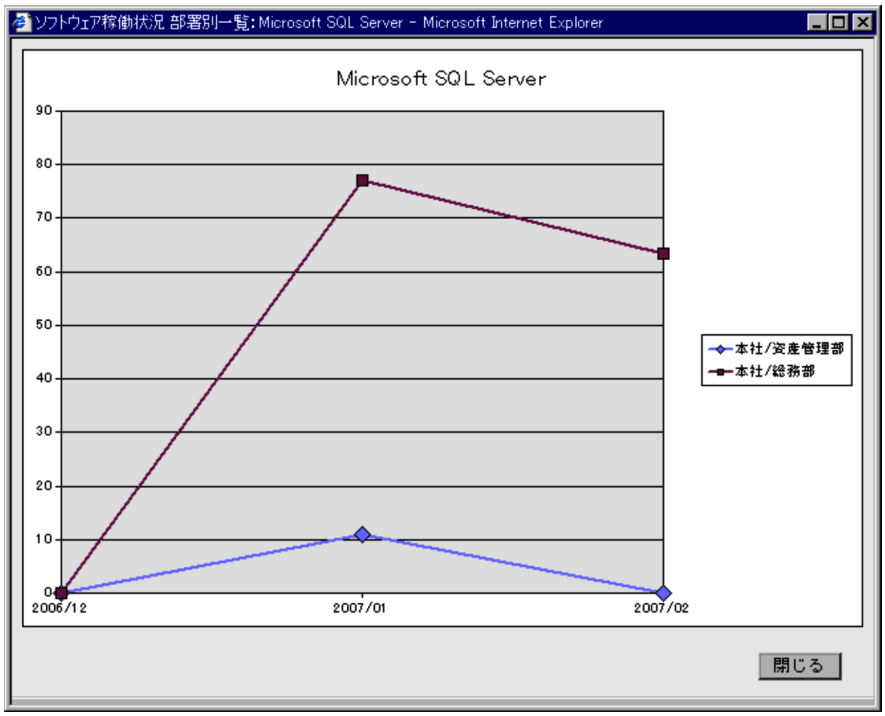
図 2-74 部署ごとの稼働率の内訳が表示された画面



また，「部署」のチェックボックスをチェックして，［グラフ］ボタンをクリックすると，次の図に示すように，部署ごとに，検索期間内の稼働率をグラフで表示できます。グラフで表示できるのは稼働率だけです。部署は 255 個まで選択できます。

なお，稼働率をグラフで表示するには，グラフを表示するユーザの PC に Microsoft Office をインストールする必要があります。

図 2-75　ソフトウェア稼働状況のグラフ表示画面

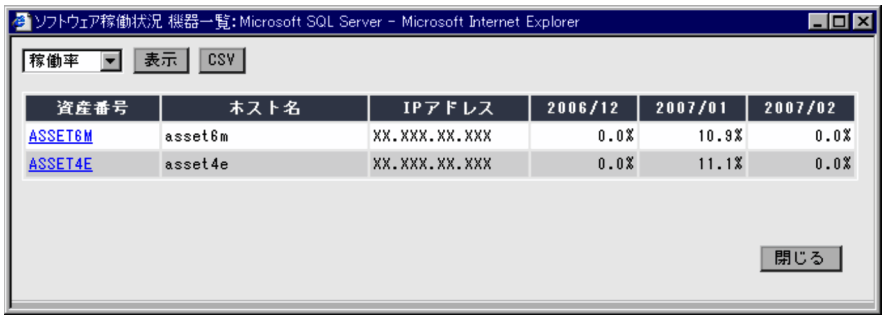


(3) ソフトウェアが使用されている機器の一覧を表示する

部署ごとの内訳を表示した画面から「部署」のアンカーをクリックすると，該当するソフトウェアが使用されている機器の一覧を表示できます。ソフトウェア稼働状況画面の検索結果から「稼働台数」のアンカーをクリックしても，同様の画面が表示されます。表示される情報は，各機器でのソフトウェアの稼働率および稼働時間です。

該当するソフトウェアが使用されている機器が表示された画面を次の図に示します。

図 2-76　使用されている機器が表示された画面



プルダウンで「稼働率」または「稼働時間」を選択して，［表示］ボタンをクリックすると，各機器でのソフトウェアの稼働率または稼働時間が表示されます。

2.6.2　ソフトウェアの不正インストールを調査する（許可外インストール）

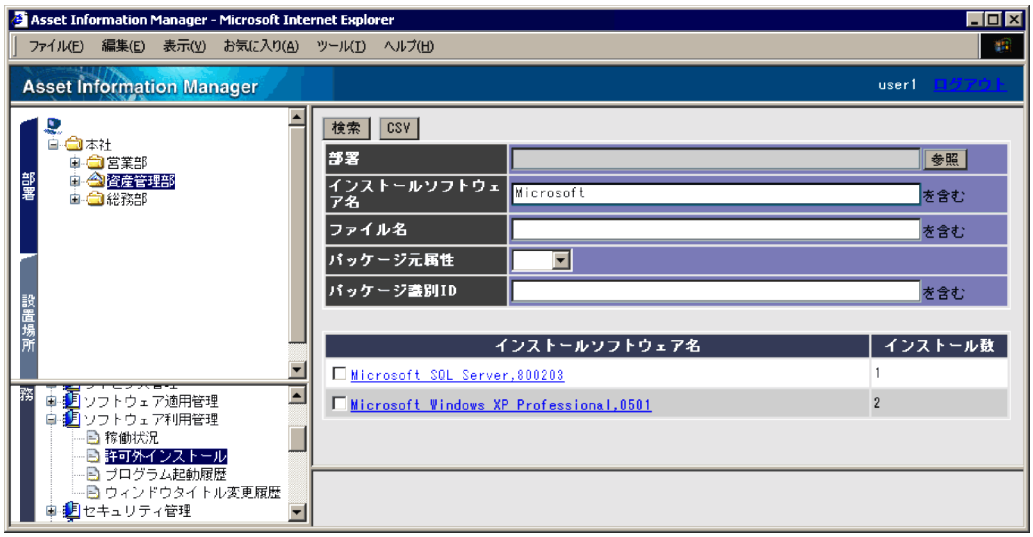
許可されていないソフトウェアが，インストールされているかどうかを調査します。

すでに登録されているソフトウェアのインストールの許可は，インストールソフトウェア管理画面で設定します。また，JP1/NETM/DM のインベントリ情報から新規にインストールソフトウェア名を登録する際は，［サーバセットアップ］ダイアログで設定します。

インストールソフトウェア管理画面での設定方法については，「4.7　インストールソフトウェア情報を変更する（インストールソフトウェア管理）」を，JP1/NETM/DM から新規に登録する際のインストール許可の設定については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.3.7　JP1/NETM/DM 連携の設定」を参照してください。

インストールを許可されていないソフトウェアは，業務メニュー「許可外インストール」をクリックすると表示される許可外インストール画面で調査できます。許可外インストール画面を次の図に示します。

図 2-77　許可外インストール画面



(1) 部署ごとの内訳を表示する

集計結果の「インストールソフトウェア名」のアンカーをクリックすると，部署ごとに，ソフトウェアをインストールしている機器の台数を表示できます。

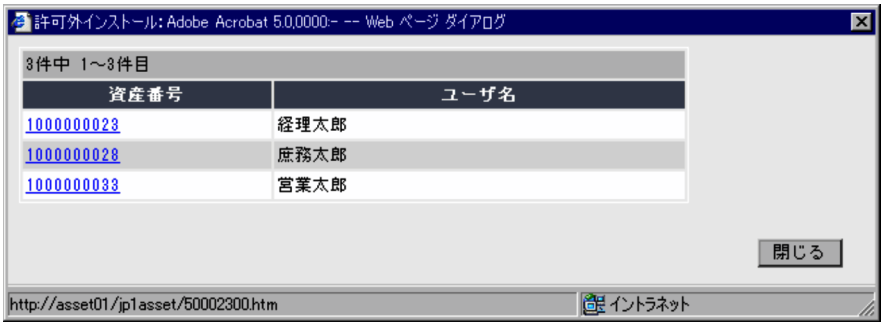
部署ごとに，ソフトウェアをインストールしている機器の台数の内訳が表示された画面を次の図に示します。

図 2-78　部署ごとの内訳が表示された画面（許可外インストール）

(2) インストールしている機器の一覧を表示する

部署ごとに内訳が表示された画面の，「部署」のアンカーをクリックすると，該当するソフトウェアをインストールしている機器の一覧を表示できます。インストールしている機器が表示された画面を次の図に示します。

図 2-79　インストールしている機器が表示された画面（許可外インストール）



(3) 検索結果をダウンロードする

検索結果の一覧を CSV ファイルとしてダウンロードできます。ダウンロードしたいソフトウェアのチェックボックスをチェックして，［CSV］ボタンをクリックすると，検索結果が CSV ファイルとしてダウンロードされます。

CSV ファイルとしてダウンロードされる内容は，「インストールソフトウェア名」，「バージョン」，「ファイル名」，「ファイルサイズ」，「ファイル日付」，「パッケージ識別 ID」，「パッケージ元属性」，「部署」，「資産番号」および「ユーザ名」です。

2.6.3　使用したプログラムを確認する（プログラム起動履歴）

ユーザが使用したプログラムの起動および終了日時の履歴から，プログラムの使用状況

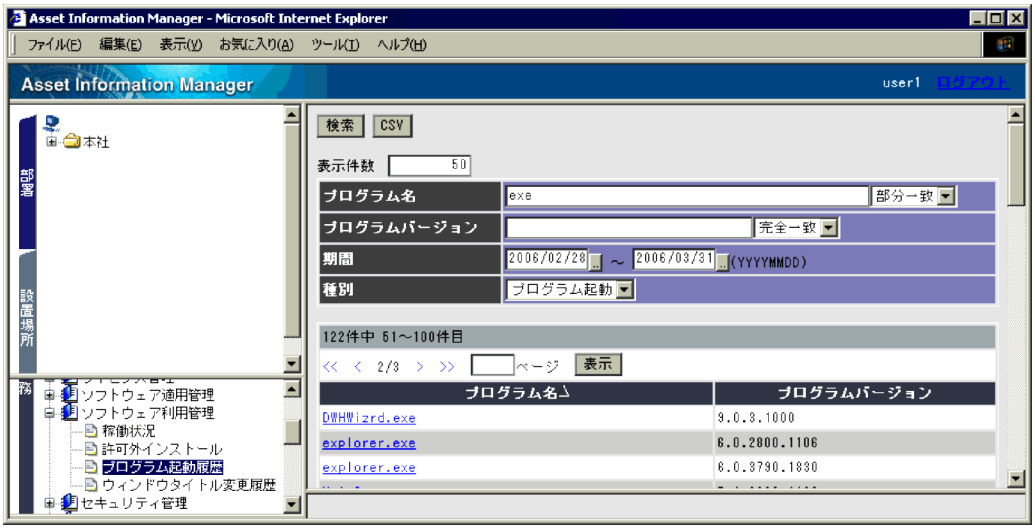
を把握できます。

業務メニュー「プログラム起動履歴」でプログラム起動履歴を参照するには，Windows のタスクスケジューラのタスク「操作履歴の取込み」を実行して，操作ログを取得する必要があります。プログラム起動履歴を取得する方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.9.1　タスクの種類」を参照してください。

なお，デフォルトの設定では，プログラム起動履歴は管理者だけが参照できます。

プログラムの起動履歴は，業務メニュー「プログラム起動履歴」をクリックすると表示されるプログラム起動履歴画面から確認します。プログラム起動履歴画面を次の図に示します。

図 2-80　プログラム起動履歴画面



必要に応じて条件を指定して，［検索］ボタンをクリックすると，条件に一致するプログラム名が一覧で表示されます。

プログラム起動履歴は，管理したい情報だけを取得するように設定できます。また，プログラムのバージョンに関係なく履歴を管理したい場合は，業務メニュー「業務フィルター」でプログラムバージョンを非表示に設定してください。

それぞれの設定方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.9.8　操作履歴の取得範囲およびフィルタリングの指定」または「9.3.6(1)　検索結果リストの表示・非表示を設定する」を参照してください。

(1) 期間を指定して履歴を検索する

期間を指定して使用したプログラムを検索するには，検索条件の「期間」で履歴を確認する期間の開始日と終了日を指定します。

開始日を省略して終了日だけを指定した場合，プログラム起動履歴を取得した日付のう

ち，最も古い日付から終了日までの履歴が検索されます。

また，終了日を省略して開始日だけを指定した場合，開始日から最新の日付までの履歴が検索されます。

(2) プログラムを使用した機器を表示する

検索結果の一覧で「プログラム名」のアンカーをクリックすると，該当するプログラムを使用した機器が一覧で表示されます。ここから，各機器でプログラムを起動および停止した日時を表示することもできます。

プログラムを使用した機器が表示された画面を次の図に示します。

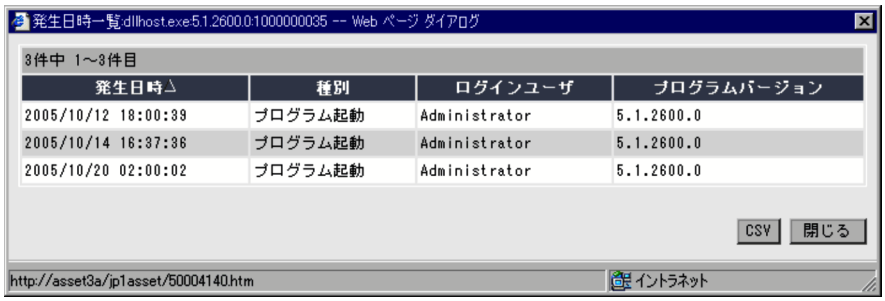
図 2-81　プログラムを使用した機器が表示された画面（プログラム起動履歴）

(3) 機器ごとの履歴を表示する

プログラムの起動および終了日時の履歴を機器ごとに表示できます。(2) で表示された画面の「資産番号」のアンカーをクリックすると，該当する機器の起動および終了日時が表示されます。

機器ごとに起動および終了日時が表示された画面を次の図に示します。

図 2-82　機器ごとに起動および終了日時が表示された画面（プログラム起動履歴）



2.6.4　操作したウィンドウを確認する（ウィンドウタイトル変更履歴）

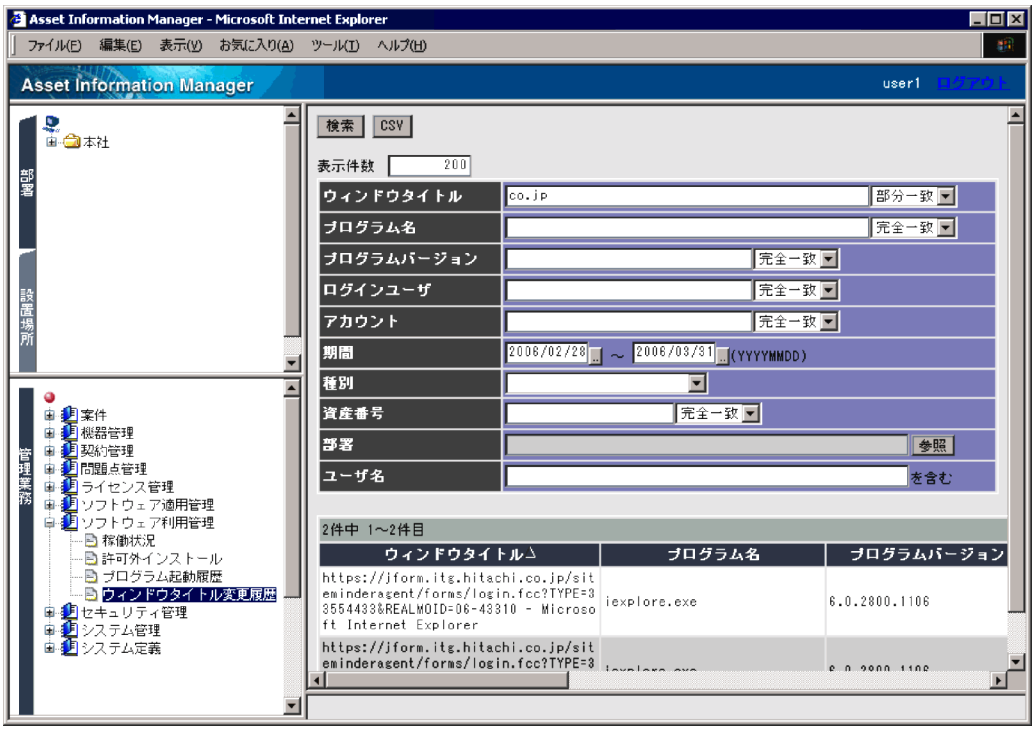
閲覧したサイトなどのタイトルから，ユーザが業務に関係のないサイトを閲覧していないかどうかを把握できます。

業務メニュー「ウィンドウタイトル変更履歴」でウィンドウタイトル変更履歴を参照するには，Windows のタスクスケジューラのタスク「操作履歴の取込み」を実行して，操作ログを取得する必要があります。ウィンドウタイトル変更履歴を取得する方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.9.1　タスクの種類」を参照してください。

なお，デフォルトの設定では，ウィンドウタイトル変更履歴は管理者だけが参照できます。

ウィンドウタイトルの変更履歴は，業務メニュー「ウィンドウタイトル変更履歴」をクリックすると表示されるウィンドウタイトル変更履歴画面から確認します。ウィンドウタイトル変更履歴画面を次の図に示します。

図 2-83　ウィンドウタイトル変更履歴画面



必要に応じて条件を指定して，［検索］ボタンをクリックすると，条件に一致する検索結果の一覧が表示されます。

ウィンドウタイトル変更履歴は，管理したい情報だけを取得できるように設定できます。設定する方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.9.8　操作履歴の取得

範囲およびフィルタリングの指定」を参照してください。

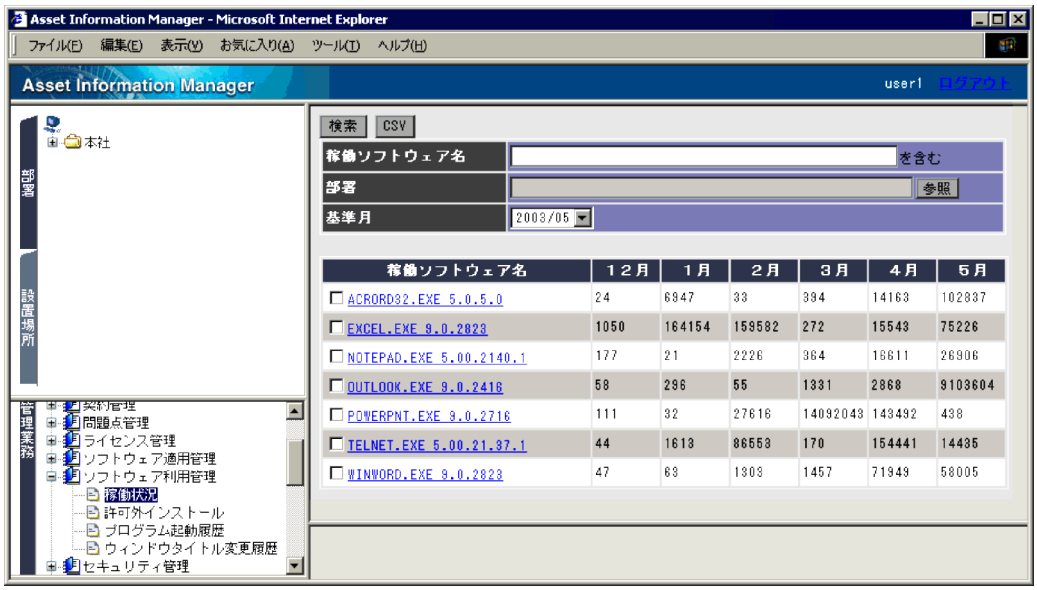
2.6.5　JP1/Lan Licenser と連携してソフトウェアの稼働時間を調査する（稼働状況）

ソフトウェアの稼働時間を月ごとに集計します。利用されていないソフトウェアを検出して削除したり，ライセンスの購入対象から外したりすることで，不要なソフトウェアを管理する手間を省けます。

ソフトウェアの稼働時間を管理するには，JP1/Lan Licenser で取得したソフトウェア稼働情報を資産管理データベースに登録する必要があります。JP1/Lan Licenser のソフトウェア稼働情報を登録する方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「6.9 JP1/Lan Licenser と連携するための設定」を参照してください。

ソフトウェアの稼働時間は，業務メニュー「稼働状況」をクリックすると表示される稼働状況画面から調査できます。ただし，デフォルトでは，業務メニュー「稼働状況」は非表示の設定になっています。稼働状況画面を次の図に示します。

図 2-84　稼働状況画面



検索結果の見方

- 「稼働ソフトウェア名」には，JP1/Lan Licenser で管理している名称が表示されます。検索条件の「稼働ソフトウェア名」にも，JP1/Lan Licenser で管理している名称を指定してください。
- 検索結果には，検索条件の「基準月」で指定した月から過去 6 か月分の稼働状況が表示されます。
- 稼働時間は，各月の総稼働時間を稼働した機器の台数で割った平均値です。該当

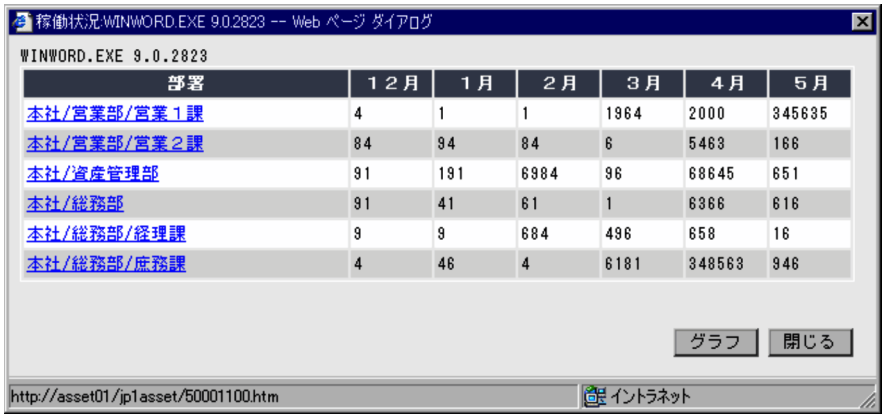
するソフトウェアがインストールされていても，一度も稼働していない機器は，計算の対象外となります。

(1) 部署ごとの内訳を表示する

集計結果の「稼働ソフトウェア名」のアンカーをクリックすると，部署ごとに，ソフトウェアを利用した時間を表示できます。表示される時間は，各部署での平均値です。

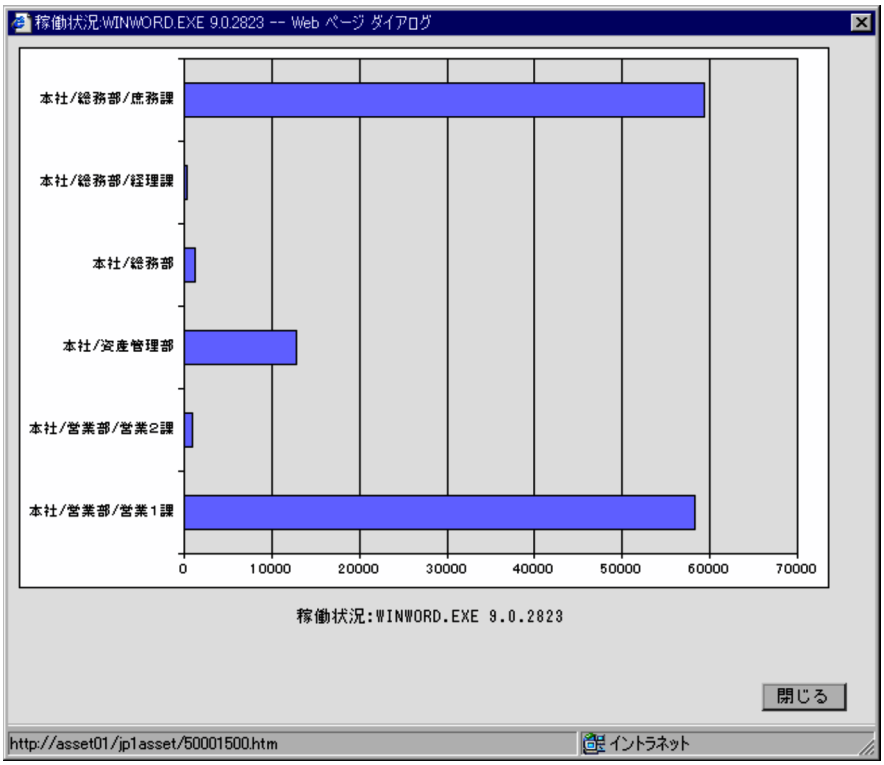
部署ごとの利用時間の内訳が表示された画面を次の図に示します。

図 2-85　部署ごとの利用時間の内訳が表示された画面



また，［グラフ］ボタンをクリックすると，次の図に示すように，部署ごとに 6 か月間の平均稼働時間の合計をグラフで表示できます。ただし，グラフを表示するユーザの PC には，Microsoft Office がインストールされている必要があります。Microsoft Office をインストールしていない場合，Microsoft Internet Explorer の設定によっては Office Web コンポーネントのダウンロードが実行されます。コンポーネントがダウンロードされないようにする手順については，「2.4.11(2)　ライセンス数の推移をグラフで表示する」を参照してください。

図 2-86　稼働状況のグラフ表示画面



(2) 使用されている機器の一覧を表示する

部署ごとの内訳を表示した画面から，「部署」のアンカーをクリックすると，該当するソフトウェアが使用されている機器の一覧を表示できます。表示される時間は，各機器で使用されている時間の合計値です。

該当するソフトウェアが使用されている機器が表示された画面を次の図に示します。

図 2-87　使用されている機器が表示された画面

(3) 検索結果をダウンロードする

検索結果の一覧を CSV ファイルとしてダウンロードできます。ダウンロードしたいソフトウェアのチェックボックスをチェックして，［CSV］ボタンをクリックすると，検索結

果が CSV ファイルとしてダウンロードされます。

CSV ファイルとしてダウンロードされる内容は,「稼働ソフトウェア名」,「部署」,「資産番号」,「コンピュータ名」,「IP アドレス」および 6 か月間の各月の総稼働時間です。

2.7　セキュリティ管理

この節では，セキュリティに関する資産管理業務の実行方法について説明します。

セキュリティ管理では，ユーザが操作したログを操作ログとして管理します。JP1/NETM/DM および JP1/ 秘文で収集した操作ログを一覧で確認できます。操作ログを集計して，部署ごとの状況を把握することもできます。また，ファイル操作の操作ログを収集している場合は，ユーザがファイルをどのように操作したかを追跡できます。

JP1/NETM/DM と連携する方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.1.1　JP1/NETM/DM と連携するために必要な作業の流れ」を参照してください。また，JP1/ 秘文と連携する方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「6.1　JP1/ 秘文と連携するための設定」を参照してください。

セキュリティ管理の業務は，業務カテゴリ「セキュリティ管理」の下に表示されます。

各メニューから実行できる操作について，画面を示しながら説明します。各タイトルの（）内には，選択するメニューを示します。

2.7.1　操作ログを確認する（操作ログ一覧）

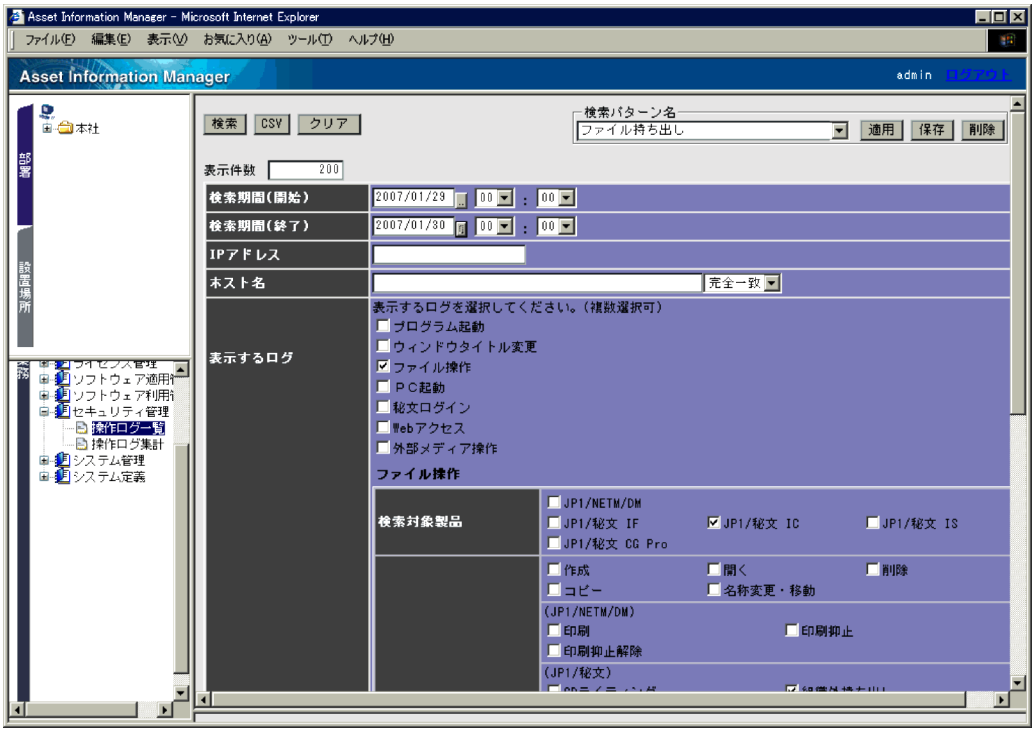
ファイルを作成した日時，PC を停止した日時などユーザが操作したログを確認します。操作ログ一覧画面では，JP1/NETM/DM および JP1/ 秘文のデータベースを直接参照して，データベースに格納されている操作ログを，機器ごとに確認できます。

なお，JP1/ 秘文と連携しない場合は，［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/ 秘文との連携設定」で「連携しない」を設定してください。

デフォルトの設定では，操作ログ一覧は管理者だけが実行できます。

操作ログは，業務メニュー「操作ログ一覧」をクリックすると表示される操作ログ一覧画面から確認します。操作ログ一覧画面を次の図に示します。

図 2-88　操作ログ一覧画面



必要に応じて条件を指定して，［検索］ボタンをクリックすると，条件に一致する検索結果の一覧が表示されます。

(1) 操作ログを検索する

検索条件を指定して操作ログを検索します。検索条件の内容によっては，検索結果が大量に表示されるおそれがあります。そのため，目的の情報を絞り込めるように，適切な検索条件を指定してください。

また，あらかじめ設定されている検索パターンを使用して，操作ログを検索する方法もあります。検索パターンを使用して操作ログを検索する手順については，「(2)　検索パターンを使用して操作ログを検索する」を参照してください。

操作ログを検索する手順を次に示します。

1. **検索条件を指定する。**
   「表示するログ」で，検索したい操作ログのチェックボックスをチェックします。「表示するログ」の指定方法については，「(a)　「表示するログ」の指定方法」を参照してください。
   条件を初期状態に戻すには，［クリア］ボタンをクリックします。
2. **［検索］ボタンをクリックする。**
   検索条件に一致する操作ログが表示されます。表示される操作ログのうち，状態が

「エラー」の JP1/ 秘文の操作ログは，枠が黄色く，「警告」の JP1/ 秘文の操作ログは，枠が赤く表示されます。状態が「正常」の操作ログには，枠は表示されません。
検索結果に表示される操作ログの件数は，［サーバセットアップ］ダイアログの「操作ログの検索結果取得件数」で設定した JP1/NETM/DM と JP1/ 秘文のテーブルごとの件数です。
手順 1. で指定した条件を検索パターンとして登録することもできます。検索パターンを登録する手順については，「(2)(b)　検索パターンの登録および更新」を参照してください。

ユーザの操作は，「ファイル名」のアンカーをクリックすると表示される［ファイル操作トレース］ダイアログから追跡できます。ユーザの操作を追跡する手順については，「2.7.3　ユーザの操作を追跡する」を参照してください。

(a)「表示するログ」の指定方法

「表示するログ」では，確認したい操作ログのチェックボックスをチェックして，表示された検索項目に条件を設定します。確認したい操作ログに対応するチェックボックスと連携製品を次の表に示します。

表 2-4　確認したい操作ログに対応するチェックボックスと連携製品

確認したい操作ログ	対応するチェックボックス	連携製品
使用したプログラムの起動，停止または抑止の日時	「プログラム起動」	JP1/NETM/DM
ウィンドウのタイトル変更	「ウィンドウタイトル変更」	JP1/NETM/DM
• フォルダまたはファイルの操作 • 印刷操作	「ファイル操作」	JP1/NETM/DM または JP1/ 秘文
PC を起動，終了，ログオンまたはログオフした操作	「PC 起動」	JP1/NETM/DM
JP1/ 秘文でのログイン，ログアウト，パスワード変更などの操作	「秘文ログイン」	JP1/ 秘文
アクセスした Web ページのタイトルまたは URL	「Web アクセス」	JP1/NETM/DM
外部メディアを接続または切断した操作	「外部メディア操作」	JP1/NETM/DM

「表示するログ」での指定方法を次に示します。

- どの操作ログを確認する場合も，「種別」のチェックボックスは必ずチェックしてください。
- フォルダまたはファイルの操作を確認したい場合，次の方法で指定してください。
  - 「検索対象製品」では，管理対象のクライアントにインストールされている製品をチェックしてください。
  - 「検索対象製品」で「JP1/NETM/DM」のチェックボックスをチェックした場合，「ドライブ種別（JP1/NETM/DM）」のチェックボックスも必ずチェックしてください。

- 「検索対象製品」で「JP1/ 秘文 IF」,「JP1/ 秘文 IC」,「JP1/ 秘文 IS」または「JP1/ 秘文 CG Pro」のチェックボックスをチェックした場合,「状態（JP1/ 秘文)」のチェックボックスも必ずチェックしてください。
- 「ファイル名」のパス名を設定して「前方一致」を選択した場合，設定したパス以下のフォルダおよびファイルが検索されます。
  例えば,「C:¥ABC¥」と設定したとき,「C:¥ABC¥」のパス以下にあるフォルダおよびファイルが検索されます。また,「C:¥ABC」と設定したとき,「C:¥ABC¥」のほかに,「C:¥ABCD¥」,「C:¥ABCE¥」などのパス以下にあるフォルダおよびファイルも検索されます。
- JP1/NETM/DM および JP1/ 秘文と連携している場合，同一の操作ログが JP1/ NETM/DM および JP1/ 秘文から取得されることがあります。その場合，同一の操作ログが 2 件，検索結果に表示されます。
- JP1/ 秘文 IF Mail Option および JP1/ 秘文 MailGuard からは，操作ログを取得できません。

- JP1/ 秘文でのログイン，ログアウト，パスワード変更などの操作を確認したい場合,「状態（JP1/ 秘文)」のチェックボックスは必ずチェックしてください。

また,「表示するログ」で「ファイル操作」を選択し，JP1/NETM/DM のファイル操作を検索するときの注意事項を次に示します。

- 「種別」で「作成」,「開く」,「削除」,「コピー」または「名称変更・移動」を指定する場合，同時に検索できる検索条件は,「ファイル名」,「ドライブ種別 (JP1/NETM/DM)」,「プログラム名」および「ログインユーザ」です。
- 「種別」で「印刷」,「印刷抑止」または「印刷抑止解除」を指定する場合，同時に検索できる検索条件は,「ログインユーザ」および「ドキュメント名 (JP1/NETM/DM)」です。
- 「種別」で,「作成」,「開く」,「削除」,「コピー」および「名称変更・移動」のうち一つ以上を指定し，かつ,「印刷」,「印刷抑止」および「印刷抑止解除」のうち一つ以上を指定した場合，同時に検索できる検索条件は,「ドライブ種別 (JP1/NETM/DM)」および「ログインユーザ」です。
- 検索条件で「ファイル名」（または「プログラム名」）と「ドキュメント名 (JP1/ NETM/DM)」の両方に値を指定した場合，検索結果は 0 件となります。

(b) ファイル操作の「種別」に対応する各製品の操作ログ

検索条件「表示するログ」で「ファイル操作」を選択した場合に指定する「種別」は，JP1/NETM/DM および JP1/ 秘文の複数の種別をまとめて扱っている項目があります。

ファイル操作の「種別」の項目に対応する，各製品の操作ログの種別を次の表に示します。なお，ここでは，JP1/ 秘文 CG Pro を除いた，JP1/ 秘文 IF，JP1/ 秘文 IC，および JP1/ 秘文 IS を JP1/ 秘文と総称します。

表 2-5 「種別」の項目に対応する各製品の操作ログの種別

「種別」の項目	JP1/NETM/DM での操作ログの種別	JP1/ 秘文での操作ログの種別※1	JP1/ 秘文 CG Pro での操作ログの種別
作成	• ファイル作成 • フォルダ作成	• 作成（アクセス対象が「プリンタ」を除く） • フォルダ作成	• ファイルの新規作成
開く	• ファイルオープン	• オープン • 書き込み	• ファイルを開く • ファイルに書き込み • ファイルを読む
削除	• ファイル削除 • フォルダ削除	• 削除 • フォルダ削除	• ファイルの削除
コピー	• ファイルコピー • フォルダコピー	• コピー • フォルダコピー • 共有機密ファイルコピー※2	－
名称変更・移動	• ファイル移動 • フォルダ移動 • ファイル名称変更 • フォルダ名称変更	• 名称変更・移動 • 共有機密ファイル移動※3	• ファイルの別名保存
印刷	• 印刷	－	－
印刷抑止	• 印刷抑止	－	－
印刷抑止解除	• 印刷抑止解除（結果が「成功」または「失敗」のもの）	－	－
CD ライティング	－	• ライティングソフト	－
組織外持ち出し	－	• 組織外持ち出し	－
平文持ち出し	－	• 平文持ち出し	－
機密ファイル作成	－	• 機密ファイル作成	－
通常印刷	－	•「作成」でアクセス対象が「プリンタ」	－
透かし印刷	－	•「作成」でアクセス対象が「プリンタ」（透かしが挿入されたもの）	－
閉じる	－	－	• ファイルのクローズ
上書き保存	－	－	• ファイルの上書き保存
復号	－	－	• 復号
暗号化	－	－	• 暗号化
パスワード認証	－	－	• パスワード認証
パスワード変更	－	－	• パスワード変更

「種別」の項目	JP1/NETM/DM での操作ログの種別	JP1/ 秘文での操作ログの種別※1	JP1/ 秘文 CG Pro での操作ログの種別
ライセンスキー登録	－	－	• ライセンスキー登録
メディアに書き込み	－	－	• メディアに書き込み
JP1/ 秘文 管理サーバへの認証	－	－	• 秘文 AE 管理サーバへの認証
JP1/ 秘文 管理サーバ情報変更	－	－	• 秘文サーバ情報変更
JP1/ 秘文 CG Pro エラー発生	－	－	• 秘文 AE CopyGuard Professional エラー発生
JP1/ 秘文 CG Pro 起動	－	－	• 秘文 AE CopyGuard Professional 起動
JP1/ 秘文 CG Pro への持ち出し	－	－	• 秘文 AE CopyGuard Professional への持ち出し
JP1/ 秘文 CG Pro からの持ち込み	－	－	• 秘文 AE CopyGuard Professional からの持ち込み
ログの改ざんチェック	－	－	• ログの改ざんチェック

（凡例）

－：該当しない

注※ 1

JP1/ 秘文 IF，JP1/ 秘文 IC および JP1/ 秘文 IS での操作ログの種別です。

注※ 2

検索結果の「種別」には，「共有機密ファイルコピー」と表示されます。

注※ 3

検索結果の「種別」には，「共有機密ファイル移動」と表示されます。

(2) 検索パターンを使用して操作ログを検索する

検索パターンには，検索したい操作ログの検索条件があらかじめ登録されています。検索パターンを使用して操作ログを検索することで，検索ごとに検索条件を設定する手間が省けます。「検索パターン名」の設定領域を次の図に示します。

図 2-89 「検索パターン名」の設定領域

- **「検索パターン名」コンボボックス**
  登録されている検索パターンの中から検索パターンを選択します。デフォルトで提供されている検索パターンについては，「(a) デフォルトで提供されている検索パターン」を参照してください。
- **［適用］ボタン**
  クリックすると，選択した検索パターンが検索条件に反映されます。
- **［保存］ボタン**
  クリックすると，コンボボックスに表示されている検索パターン名で，検索パターンが登録または更新されます。検索パターンを登録および更新する方法については，「(b) 検索パターンの登録および更新」を参照してください。
- **［削除］ボタン**
  クリックすると，コンボボックスに表示されている検索パターンが削除されます。検索パターンを削除する方法については，「(c) 検索パターンの削除」を参照してください。

ファイルを持ち出す操作ログを検索する場合を例に，検索パターンを使用して操作ログを検索する手順を次に示します。

1. **「検索パターン名」コンボボックスで，検索パターン「ファイル持ち出し」を設定する。**
   「ファイル持ち出し」は，デフォルトで提供されている検索パターンです。デフォルトで提供されているほかの検索パターンについては，「(a) デフォルトで提供されている検索パターン」を参照してください。必要に応じて検索条件を修正します。
   また，条件を初期状態に戻すには，［クリア］ボタンをクリックします。

2. **［適用］ボタンをクリックする。**
   検索パターンが検索条件に反映されます。検索パターン「ファイル持ち出し」で設定される検索条件を次に示します。
   - 「表示するログ」:「ファイル操作」
   - 「検索対象製品」:「JP1/ 秘文 IC」
   - 「種別」:「組織外持ち出し」,「平文持ち出し」
   - 「状態（JP1/ 秘文）」:「正常」,「エラー」,「警告」

   検索結果が大量に表示されるおそれがあるため，検索する前に，検索条件を確認してください。

3. **［検索］ボタンをクリックする。**
   検索条件に一致する操作ログが表示されます。表示される操作ログのうち，状態が「エラー」の JP1/ 秘文の操作ログは，枠が黄色く，「警告」の JP1/ 秘文の操作ログは，枠が赤く表示されます。状態が「正常」の JP1/ 秘文の操作ログ，および JP1/ NETM/DM の操作ログには，枠は表示されません。

検索結果に表示される操作ログの件数は，［サーバセットアップ］ダイアログの「操作ログの検索結果取得件数」で設定した JP1/NETM/DM と JP1/ 秘文のテーブルごとの件数です。
手順 1. で設定した検索パターンの条件を変更した場合は，検索パターンとして新規に登録することもできます。検索パターンを登録する手順については，「(b)　検索パターンの登録および更新」を参照してください。

(a) デフォルトで提供されている検索パターン

デフォルトで提供されている検索パターンの説明，および表示するログを次の表に示します。

表 2-6　JP1/NETM/DM との連携時に選択できる検索パターンの説明および表示するログ

検索パターン	説明	表示するログ
サイト閲覧	ユーザが閲覧したサイトなどのウィンドウタイトルを確認します。	• ウィンドウタイトル変更
コピー検出	フォルダまたはファイルのコピーを確認します。	• ファイル操作
プログラム起動抑止	プログラムの起動の抑止を確認します。	• プログラム起動
全ログ出力	すべての操作ログを確認します。	• プログラム起動 • ウィンドウタイトル変更 • ファイル操作 • PC 起動 • 秘文ログイン
プログラム起動全出力	プログラムの起動，停止，または抑止を確認します。	• プログラム起動
ウィンドウタイトル変更全出力	ウィンドウタイトルの変更を確認します。	• ウィンドウタイトル変更
ファイル操作全出力	フォルダまたはファイルに対するユーザの操作を確認します。	• ファイル操作
Web アクセス	アクセスした Web ページのタイトルまたは URL を確認します。	• Web アクセス
印刷ログ	印刷操作を確認します。	• ファイル操作
外部メディア操作	外部メディアを接続または切断した操作を確認します。	• 外部メディア操作
ＰＣ 起動全出力	PC の起動・停止，ログオン・ログオフを確認します。	• PC 起動

表 2-7 JP1/秘文との連携時に選択できる検索パターンの説明および表示するログ

検索パターン	説明	表示するログ
ファイル持ち出し	ファイルの持ち出しを確認します。	• ファイル操作
コピー検出	フォルダまたはファイルのコピーを確認します。	• ファイル操作
秘文ログイン失敗	JP1/秘文へのログインの失敗を確認します。	• 秘文ログイン
ファイル持ち出し抑止	ファイルを持ち出す際，警告が出て持ち出せなかったことを確認します。	• ファイル操作
全ログ出力	すべての操作ログを確認します。	• プログラム起動 • ウィンドウタイトル変更 • ファイル操作 • PC 起動 • 秘文ログイン
ファイル操作全出力	フォルダまたはファイルに対するユーザの操作を確認します。	• ファイル操作
秘文ログイン全出力	JP1/秘文でのログイン，ログアウト，パスワード変更などの操作を確認します。	• 秘文ログイン
印刷ログ	印刷操作を確認します。	• ファイル操作

(b) 検索パターンの登録および更新

検索パターンを登録および更新する手順を次に示します。検索パターンは幾つでも登録できます。

1. **検索条件を設定する。**
   目的に応じて検索条件を設定します。検索結果が大量に表示されるおそれがあるため，適切な検索条件を設定してください。
   すでに登録されている検索パターンを更新する場合は，検索パターンを選択して［適用］ボタンをクリックすると，検索条件が設定されます。そのあとで，検索条件を変更します。

2. **「検索パターン名」コンボボックスに検索パターン名を入力する。**
   検索パターンを更新する場合は，更新後の検索パターン名が入力されていることを確認します。

3. **［保存］ボタンをクリックする。**
   登録，または更新を確認するダイアログが表示されます。

4. **［OK］ボタンをクリックする。**
   設定した条件で検索パターンが保存されます。
   手順 2. で指定した検索パターン名が登録されていない場合は，検索パターンが新規に

登録されます。すでに登録されている検索パターン名を設定した場合は，設定した検索条件で検索パターンが更新されます。
なお，登録時に［OK］ボタンをクリックする際，同時に，ほかのユーザが同じ名称で登録した場合はエラーになります。その場合は，別の検索パターン名で保存してください。

注意事項

Asset Information Manager 08-00 以降からバージョンアップする場合，デフォルトで提供されていた検索パターンは上書きされてしまいます。必要に応じて，あらかじめ検索パターンを別名で保存しておいてください。

(c) 検索パターンの削除

検索パターンを削除する手順を次に示します。

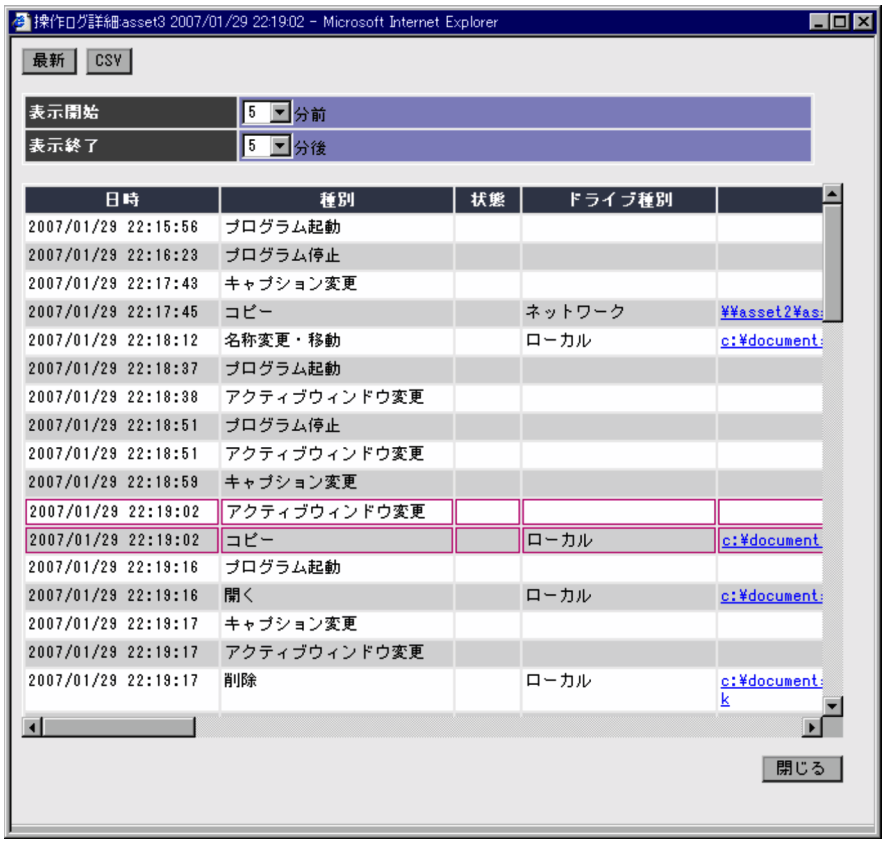
1. **「検索パターン名」コンボボックスで，削除したい検索パターンを選択する。**
2. **［削除］ボタンをクリックする。**
   削除を確認するダイアログが表示されます。
3. **［OK］ボタンをクリックする。**
   設定した検索パターンが削除されます。

(3) 機器ごとの操作ログの詳細を確認する

検索結果の「日時」のアンカーをクリックすると［操作ログ詳細］ダイアログが表示されます。ホスト名が等しい機器の操作ログを，指定した時間の範囲で確認できます。

［操作ログ詳細］ダイアログを次に示します。

図 2-90　［操作ログ詳細］ダイアログ



ログを確認したい範囲の時間（分）を「表示開始」および「表示終了」に指定して［最新］ボタンをクリックすると，該当する機器の操作ログのうち，選択したログの時刻を基準として，指定した時間の範囲内で全種類の操作ログを確認できます。基準となる時刻の操作ログは，枠が紫色で表示されています。時間は，0 ～ 30 分の範囲で指定できます。デフォルトでは，指定したログの前後それぞれ 5 分間のログが表示されています。

ユーザの操作は，「ファイル名」のアンカーをクリックすると表示される［ファイル操作トレース］ダイアログから追跡できます。ユーザの操作を追跡する手順については，「2.7.3　ユーザの操作を追跡する」を参照してください。

(4) 機器の資産情報を確認する

検索結果の「ホスト名」のアンカーから該当する機器の詳細情報を参照できます。参照できる詳細情報は，Asset Information Manager で管理している情報です。選択した「ホスト名」に該当する機器が 1 台の場合，「ホスト名」のアンカーをクリックすると［機器詳細］ダイアログが表示されて，該当する機器の詳細情報を参照できます。

該当する機器が 2 台以上の場合，「ホスト名」のアンカーをクリックすると［操作ログ 機器一覧］ダイアログが表示されて，該当する資産の一覧を参照できます。［操作ログ 機器

一覧］ダイアログの「資産番号」のアンカーをクリックすると［機器詳細］ダイアログが表示されて，該当する機器の詳細情報を参照できます。

(5) 検索結果をダウンロードする

検索結果の一覧を CSV ファイルとしてダウンロードできます。CSV ファイルに出力したい操作ログの検索条件を設定し，［CSV］ボタンをクリックすると，検索結果が CSV ファイルとしてダウンロードできます。

CSV ファイルに出力される操作ログの件数は，操作ログ一覧画面に表示される検索結果の取得件数と同様に，［サーバセットアップ］ダイアログの「操作ログの検索結果取得件数」で設定した JP1/NETM/DM と JP1/ 秘文のテーブルごとの件数です。

検索条件に該当する操作ログを全件出力したい場合は，Administrators 権限を持つユーザで jamTakeOperationLog.bat を実行します。jamTakeOperationLog.bat の実行方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「7.3.1　jamTakeOperationLog.bat の実行」を参照してください。

2.7.2 操作ログを集計する（操作ログ集計）

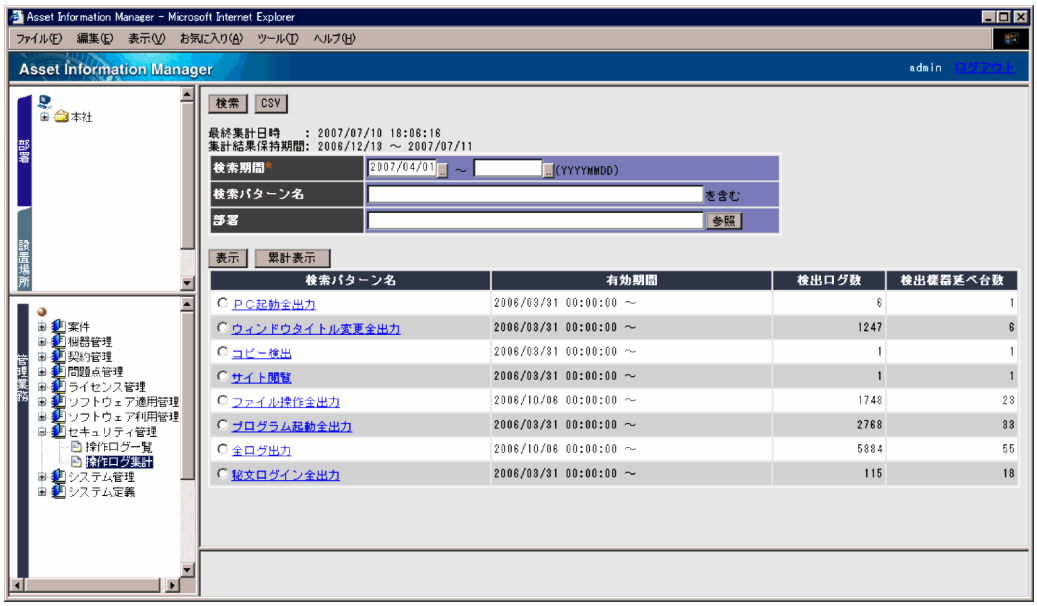
操作ログの集計結果から，部署ごとの状況を確認します。ファイル持ち出しなどの操作がどのくらい実行されたか，検出された操作ログの件数がどのように変化しているかなどを確認できます。

なお，JP1/ 秘文と連携しない場合は，［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/ 秘文との連携設定」で「連携しない」を設定してください。

デフォルトの設定では，操作ログ集計は管理者だけが実行できます。

操作ログの集計結果は，業務メニュー「操作ログ集計」をクリックすると表示される操作ログ集計画面から確認します。操作ログ集計画面を次の図に示します。

図 2-91　操作ログ集計画面



正しい集計結果を取得するために，管理対象のクライアントから正確に操作ログを収集してください。

操作ログ集計画面から集計結果を確認するには，jamOperationLogAddUp コマンドを実行して操作ログを集計しておく必要があります。jamOperationLogAddUp コマンドを実行する方法については，「(5)　jamOperationLogAddUp（操作ログの集計）コマンドの実行」を参照してください。

(1) 条件を指定して集計結果を表示する

必要に応じて検索条件を指定して［検索］ボタンをクリックすると，操作ログの集計結果を確認できます。「検索期間」には，集計結果を確認したい期間を指定します。1 年以内の期間を指定してください。検索期間の開始日は，必ず指定してください。検索期間の終了日を指定しなかった場合，検索を実行した日が検索期間の終了日に指定されます。

検索結果の見方

- 「検索パターン名」には，業務メニュー「操作ログ一覧」に登録されている検索パターンが表示されます。「検索パターン名」のアンカーをクリックすると，該当する検索パターンの検索条件を参照できます。
- 「有効期間」には，検索パターンが保存されていた期間が表示されます。
- 「検出ログ数」には，集計結果として検出された操作ログの数が表示されます。ただし，次の場合，操作ログに引き当たる資産情報が不定となるため，集計結果が実際と異なることがあります。
  - JP1/NETM/DM で操作ログを収集した機器のうち，運用キーとなる値が一致する機器が資産管理データベースに無く，ホスト名が一致する機器が複数登録されている

場合
- JP1/ 秘文で操作ログを収集した機器のうち，コンピュータ名が一致する機器が資産管理データベースに複数登録されている場合

- 「検出機器延べ台数」には，指定した検索期間内に操作ログが検出された機器の延べ台数が表示されます。

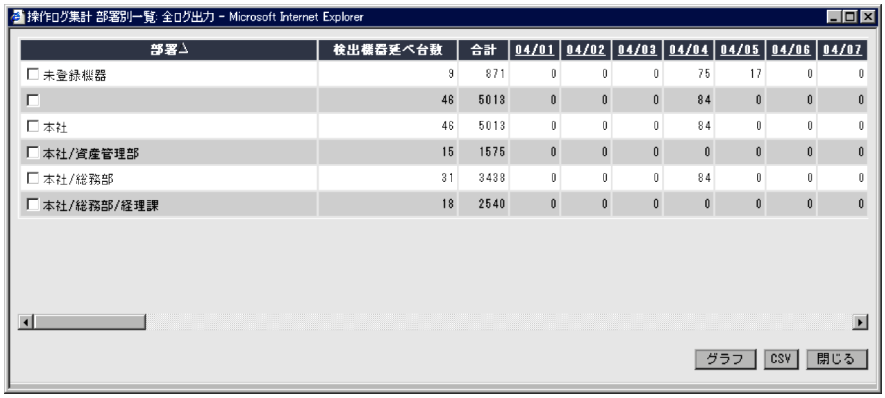
操作ログの集計後に，部署情報または IP グループ情報を変更した場合は，変更した内容は集計結果に反映されません。

(2) 部署ごとの内訳を表示する

操作ログ集計画面で，検索結果の「検索パターン名」のラジオボタンを選択して，［表示］または［累計表示］ボタンをクリックすると，検索条件に指定した部署内の集計結果が表示されます。［表示］ボタンをクリックすると，該当する部署の集計結果が表示されます。［累計表示］ボタンをクリックすると，下位の部署を含んだ集計結果が表示されます。

部署ごとの内訳が表示された画面を次の図に示します。

図 2-92 部署ごとの内訳が表示された画面（累計表示）



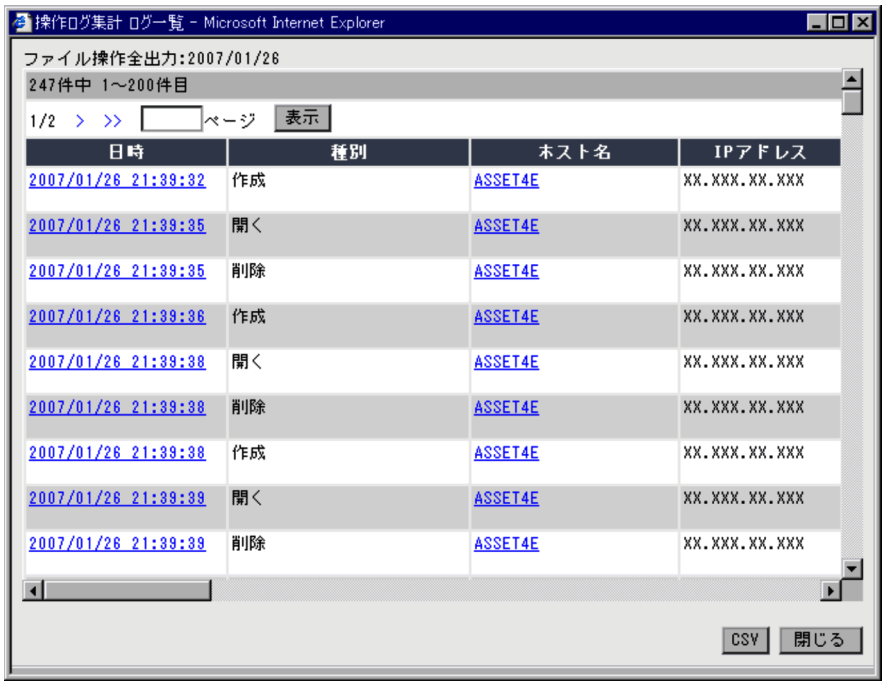
管理対象の機器の資産情報が資産管理データベースにない場合，「未登録機器」として集計結果が表示されます。

(3) 操作ログを表示する

部署ごとの内訳が表示された画面で，「日付」のアンカーをクリックすると，［操作ログ集計 ログ一覧］ダイアログが表示されて，クリックした日付の操作ログを確認できます。

［操作ログ集計 ログ一覧］ダイアログを次の図に示します。

図 2-93　［操作ログ集計 ログ一覧］ダイアログ



機器ごとの操作ログの詳細は，「日時」のアンカーをクリックすると表示される［操作ログ詳細］ダイアログから確認できます。操作ログの詳細を確認する手順については，「2.7.1(3)　機器ごとの操作ログの詳細を確認する」を参照してください。

機器の詳細情報は，「ホスト名」のアンカーから確認できます。機器の詳細情報を確認する手順については，「2.7.1(4)　機器の資産情報を確認する」を参照してください。

ユーザの操作は，「ファイル名」のアンカーをクリックすると表示される［ファイル操作トレース］ダイアログから追跡できます。ユーザの操作を追跡する手順については，「2.7.3　ユーザの操作を追跡する」を参照してください。

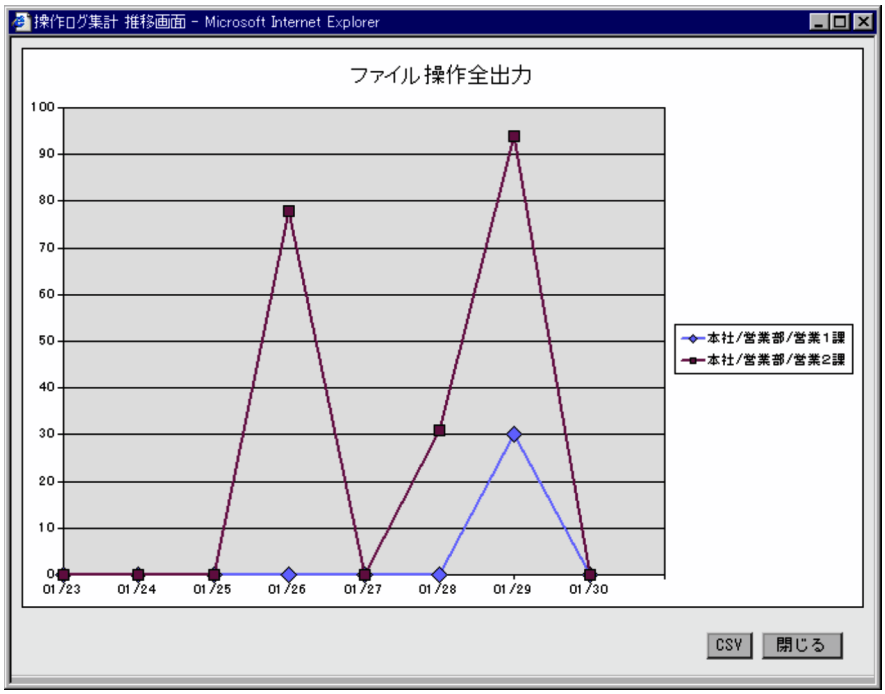
(4) 操作ログの集計結果をグラフで表示する

部署ごとの内訳が表示された画面で，集計結果を表示したい部署のチェックボックスをチェックして［グラフ］ボタンをクリックすると，操作ログ集計 推移画面が表示されます。操作ログ集計 推移画面では，該当する操作ログの数の推移をグラフで確認できます。部署は，255 個まで選択できます。

なお，操作ログの集計結果をグラフで表示するには，グラフを表示するユーザの PC に Microsoft Office をインストールする必要があります。

操作ログ集計 推移画面を次の図に示します。

図 2-94 操作ログ集計 推移画面



(5) jamOperationLogAddUp（操作ログの集計）コマンドの実行

操作ログの集計を実行する jamOperationLogAddUp コマンドの機能，形式，オプション，戻り値，コマンド実行時の注意事項および実行例について説明します。また，Windows のタスクスケジューラにタスクを登録して，定期的に jamOperationLogAddUp コマンドを実行するための設定についても説明します。

なお，コマンドの実行ファイルは次のフォルダに格納されています。

Asset Information Manager のインストールフォルダ￥exe

(a) 機能

操作ログを集計します。

(b) 形式

```
jamOperationLogAddUp -p "検索パターン名" [-s 集計基点日] [-d 集計日数]
[-k 集計結果保持日数]
```

(c) オプション

-p "検索パターン名"

検索条件となる検索パターン名を指定します。登録されている検索パターンの名称を指定してください。このオプションは，必ず指定してください。検索パターンは，

複数指定できます。複数指定する場合は，「-p " コピー検出 " " ファイル持ち出し " " ファイル持ち出し抑止 "」のように，検索パターン名の間に半角スペースを入れて指定してください。
なお，検索パターン名に「"」が含まれている場合は，二つ続けて「"」を指定してください。例えば，「" 平文持ち出し "」という検索パターン名の場合は，「-p """ 平文持ち出し """」のように指定します。

-s 集計基点日

操作ログを集計する基準の日（集計基点日）を「-s yyyymmdd」（yyyy は 2000 ～ 9999 の整数）の形式で指定します。なお，集計基点日の翌日以降の期間を集計していた場合，その集計結果は削除されます。このオプションは省略できます。省略すると，コマンドの実行日の前日が集計基点日となります。

-d 集計日数

集計基点日から x 日前までを，集計期間として「-d Dx」（x は 0 ～ 2,192 の整数）の形式で指定します。集計基点日の操作ログも含めて x+1 日分集計されます。このオプションは省略できます。省略すると，集計基点日から 6 日前までの期間で集計します。例えば，5 月 4 日が集計基点日の場合，3 日前の 5 月 1 日から集計したいときは，「-d D3」と指定します。

-k 集計結果保持日数

集計基点日から y 日前を，集計結果を保持しておく期限として「-k Dy」（y は 0 ～ 2,192 の整数）の形式で指定します。なお，指定した日より過去の集計結果は削除されます。集計結果保持日数には，集計日数より大きい値を指定してください。このオプションは省略できます。省略すると，集計基点日から 6 日前までの集計結果は保持され，それより過去の集計結果が削除されます。
なお，集計結果保持日数に大きな値を指定すると，資産管理データベースの容量が大きくなります。集計結果を保持する期限を検討して，指定してください。

（d）戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。
1	正常終了（集計結果なし）。
2	パラメタが不正です。
3	該当する検索パターンが存在しません。
4	JP1/NETM/DM との接続でエラーが発生しました。
5	JP1/ 秘文との接続でエラーが発生しました。
6	環境不正です。
7	DLL ロードエラーが発生しました。

戻り値	内容
8	操作ログ集計関数でエラーが発生しました。
9	レジストリ情報取得時にエラーが発生しました。
10	jamscript.exe 実行時にエラーが発生しました。

(e) コマンド実行時の注意事項

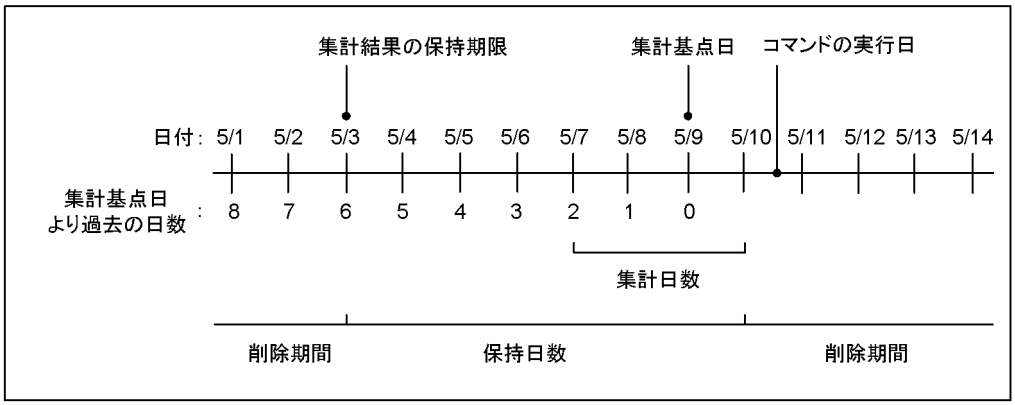
- Administrators 権限を持つユーザで jamOperationLogAddUp コマンドを実行してください。
- 検索パターンを更新している場合，前回の集計と重複した期間で操作ログを集計したときは，前回の集計結果が削除されます。比較するために過去の結果を残したい場合など，集計結果が削除されないようにするには，異なる検索パターン名で保存し，変更前および変更後の検索パターンで集計してください。
- 集計する検索パターン数，クライアント数，部署数，および集計結果の保持日数が増えると，資産管理データベースの容量が大きくなり，集計に時間が掛かります。
- ユーザ組織管理画面で部署を移動した場合は，jamOperationLogAddUp コマンドを実行する前に，必ずタスク「データメンテナンス」を実行してください。タスク「データメンテナンス」を実行しないで jamOperationLogAddUp コマンドを実行すると，「検出ログ数」および「検出機器延べ台数」が正しい値で表示されません。
- コマンドの実行中に日付が変わると，正しく集計されません。そのため，夜間に実行する場合は，日付の変更後すぐに実行するなど，コマンドの実行中に日付が変わらないようにしてください。

(f) 実行例

実行例 1

```
jamOperationLogAddUp - p " ファイル持ち出し " -d D2 -k D6
```

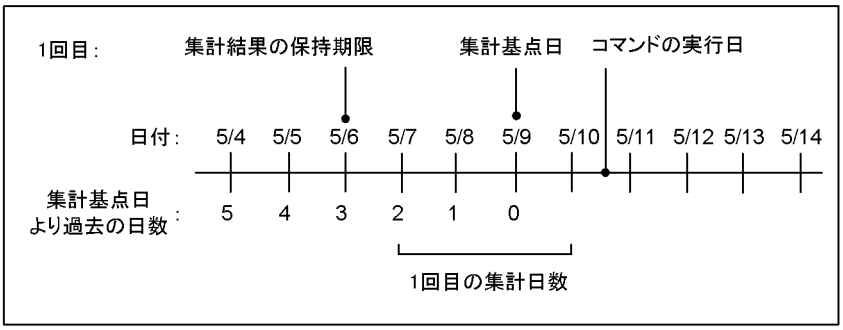
この例では，コマンドの実行日の前日を集計基点日として，集計基点日から 2 日前までの操作ログが集計されます。また，集計基点日の 6 日前より過去の集計結果が削除されます。
例えば，5 月 10 日にコマンドを実行した場合，5 月 7 日～ 5 月 9 日の期間で 3 日分の操作ログが集計され，5 月 3 日より過去の集計結果が削除されます。

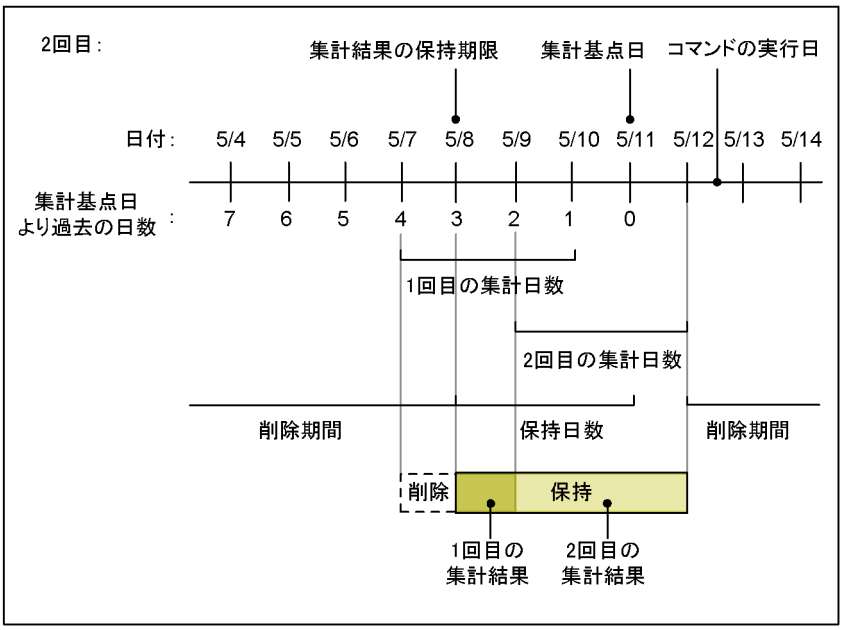


実行例 2

```
jamOperationLogAddUp - p " ファイル持ち出し " -d D2 -k D3
```

この例では，集計期間が，過去の集計期間と重複する場合について説明します。
例えば，1 回目の集計として 5 月 10 日にコマンドを実行した場合，5 月 7 日～ 5 月 9 日の期間で 3 日間分の操作ログが集計されます。次に，2 回目の集計として 5 月 12 日にコマンドを実行した場合，5 月 9 日～ 5 月 11 日の期間で 3 日分の操作ログが集計されます。このとき，5 月 9 日の集計結果は上書きされます。2 回目にコマンドを実行することで，5 月 8 日より過去の集計結果が削除されるため，1 回目に集計した 5 月 7 日の集計結果は削除されます。
集計結果としては，1 回目に集計した 5 月 8 日の集計結果と 2 回目に集計した 5 月 9 日～ 5 月 11 日の集計結果が保存されています。





(g) jamOperationLogAddUp（操作ログの集計）コマンドを定期実行するための設定

jamOperationLogAddUp コマンドは，Windows のタスクスケジューラにタスクとして登録することで，定期的に実行することもできます。タスクを登録するには，タスクのプロパティダイアログで，「タスク」タブの「実行するファイル名」に，次の内容を追加してください。

`-f Asset Information Manager` のインストールフォルダ
`¥exe¥jamOperationLogAddUp` コマンドの実行形式

「jamOperationLogAddUp コマンドの実行形式」は，(b) と同じです。

2.7.3　ユーザの操作を追跡する

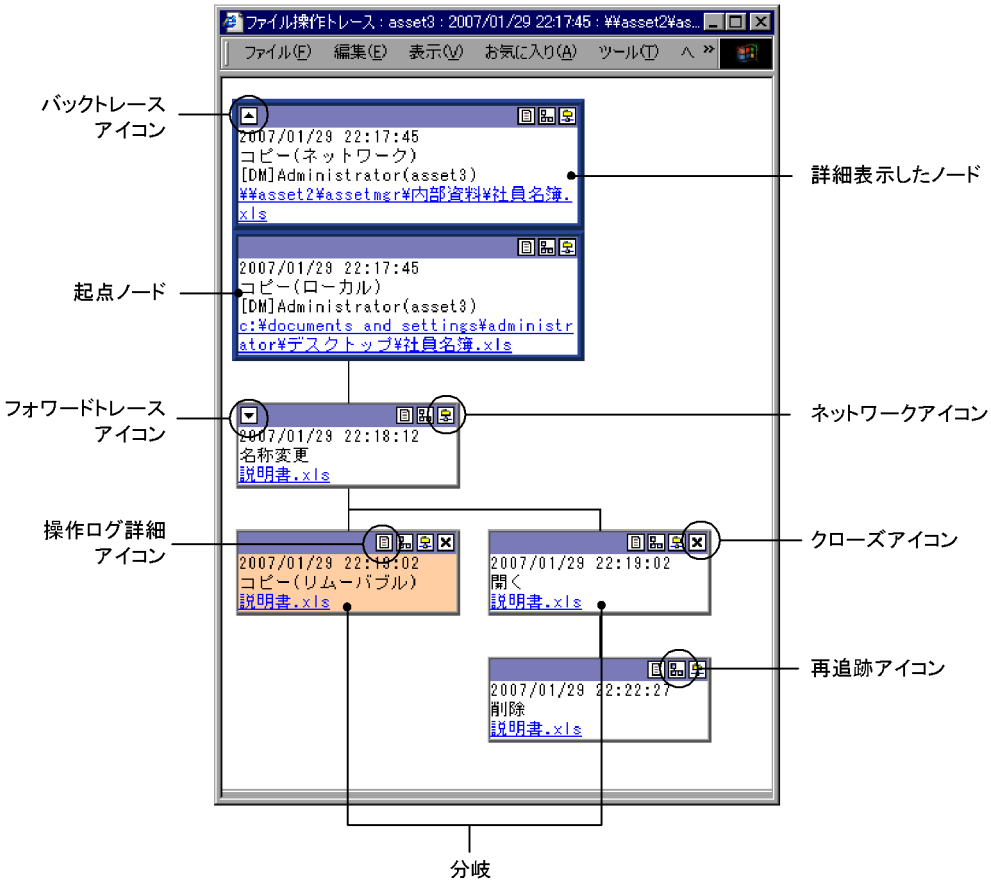
ユーザがファイルをどのように操作したかを，一連の操作の流れとして確認できます。また，ネットワーク上の別の機器から，ファイルをコピーしたり，削除したりした場合

も，操作を追跡できます。

ユーザの操作は，業務メニュー「操作ログ一覧」の検索結果，［操作ログ詳細］ダイアログ，および［操作ログ集計 ログ一覧］ダイアログの「ファイル名」のアンカーをクリックすると表示される［ファイル操作トレース］ダイアログから追跡します。

［ファイル操作トレース］ダイアログを次の図に示します。

図 2-95　［ファイル操作トレース］ダイアログ



一つの操作ログは，一つのノード（ ）として表示されます。

選択した操作ログのノード（起点ノード）は，太い枠線で表示されます。そのほかのノードは，起点ノードと連続している操作のノードです。ファイルを媒体へコピーするなど，不正操作のおそれがあるノードは色が付いて表示されます。

ノードのアイコンおよび表示項目について次に示します。

：バックトレースアイコン

該当するノードより過去の操作が表示されます。表示されたノードから，ファイルがどのように操作されてきたかを確認できます。バックトレースアイコンをクリックしたときに，一度に表示される階層の数は，［サーバセットアップ］ダイアログの「トレース時の表示階層」で設定します。

：フォワードトレースアイコン

該当するノードよりあとの操作が表示されます。表示されたノードから，ファイルがどのように操作されてきたかを確認できます。フォワードトレースアイコンをクリックしたときに，一度に表示される階層の数は，［サーバセットアップ］ダイアログの「トレース時の表示階層」で設定します。

** ：操作ログ詳細アイコン**

該当するノードの［操作ログ詳細］ダイアログが表示されます。［操作ログ詳細］ダイアログには，前後 5 分間の操作ログが表示されます。表示されている操作ログの「ファイル名」のアンカーから，新たに操作を追跡できます。

** ：再追跡アイコン**

該当するノードを起点ノードとした［ファイル操作トレース］ダイアログが表示されて，新たに操作を追跡できます。

** ：ネットワークアイコン**

該当するノードのファイルを操作した可能性のある，ネットワーク上の機器の一覧が表示されます。機器の一覧からは，別の機器の［ファイル操作トレース］ダイアログを表示して，さらに操作を追跡できます。別の機器の操作を追跡する手順については，「(2)　別の機器の操作を追跡する」を参照してください。

** ：クローズアイコン**

該当するノードを閉じます。一度閉じたノードを再度表示させる場合は，分岐直前のノードのバックトレースアイコンまたはフォワードトレースアイコンをクリックします。

日時

該当するノードの操作が実行された日時が表示されます。

種別

該当するノードの種別が表示されます。ノードに表示される種別は，各連携製品で取得している操作ログの種別と対応しています。ただし，起点ノード以外では，ノードの種別に表示される名称が異なります。それぞれの対応については，「(3)　ノードの種別と操作ログの種別との対応」を参照してください。

「コピー」，「移動」および「名称変更」のノードは，操作前および操作後のノードが表示されます。過去の操作を追跡する場合は，操作前のファイル名のノードが表示されます。また，あとの操作を追跡する場合は，操作後のファイル名のノードが表示されます。

ドライブ種別

「ネットワーク」,「リムーバブル」および「CDROM」に対する操作の場合に表示されます。ファイル名のアンカーをクリックすると,「ローカル」,「RAMDISK」および「その他」に対する操作の場合も,ドライブ種別が表示されます。

製品種別

該当するノードの操作ログを取得した製品です。JP1/NETM/DM から取得した場合は,「[DM]」と表示されます。JP1/ 秘文から取得した場合は,「[秘文]」と表示されます。この項目は,ファイル名のアンカーをクリックして詳細表示したときだけ表示されます。

ユーザ名

Windows にログオンしたときのユーザ名です。この項目は,ファイル名のアンカーをクリックして詳細表示したときだけ表示されます。

ホスト名

該当するノードのホスト名です。この項目は,ファイル名のアンカーをクリックして詳細表示したときだけ表示されます。

ファイル名

該当するノードのファイル名です。ファイル名のアンカーをクリックすると,該当するノードの種別,Windows にログオンしたときのユーザ名,ファイル名のフルパスなどの詳細情報が表示されます。

分岐

日時が同一の操作,およびコピーの操作は,分岐して表示されます。なお,日時が同一の操作のノードには,ほかのログが含まれている可能性もあります。

ノードにマウスカーソルを重ねると表示されるポップアップで,日時およびファイル名のフルパスを参照できます。

また,次のノードは,色が付いて表示されます。() 内には,ノードの種別を示します。

- 起点ノード以外の「ファイルを印刷する」,「透かし印刷」,「ライティングソフト起動」,「メディアに書き込み」,「秘文持ち出し(組織外)」,「組織外持ち出し(平文)」および「JP1/ 秘文 AE CopyGuard Professional への持ち出し」に当たる操作のノード(CFL(PRT),CFL(PRT/WATER MARK ADDED),MED,VFO,VFP および EXP)
- 起点ノードより過去に,ファイル削除をした操作のノード(削除)
- 起点ノードより過去に,ファイルコピー,ファイル移動およびファイルリネームをした操作のノード(コピー,移動および名称変更)
  一つあとのノードで,「ネットワーク」,「リムーバブル」または「CDROM」に対する操作をした場合に,色が付いて表示されます。
- 起点ノードよりあとに,ファイル作成をした操作のノード(作成)
- 起点ノードよりあとに,「ネットワーク」,「リムーバブル」および「CDROM」に対して操作したノード

[ファイル操作トレース]ダイアログに表示されている追跡のイメージを印刷する場合

は，メニューバーの「ファイル」－「印刷」メニューから印刷してください。

注意事項

- 同じ操作のノードでも，ホスト名にドメイン名が含まれているかどうかは，操作ログを収集した製品によって異なることがあります。
- 「コピー」，「移動」および「名称変更」のノードでは，変更後のファイル名が表示されないことがあります。その際は，分岐している，変更後のファイル名が表示されているノードから追跡してください。
- ファイル名の大文字，小文字だけを変更した場合の「移動」および「名称変更」のノードは表示されません。
- 「開く」，「作成」または「削除」の操作ログと同じ日時の「コピー」の操作ログがある場合，「開く」，「作成」または「削除」を起点に過去の操作を追跡すると，「コピー」のノードは表示されません。この場合，「コピー」を起点として追跡すると，ほかの操作のノードが表示され追跡できます。
- 「通常印刷」および「透かし印刷」の操作ログからは，操作を追跡できません。

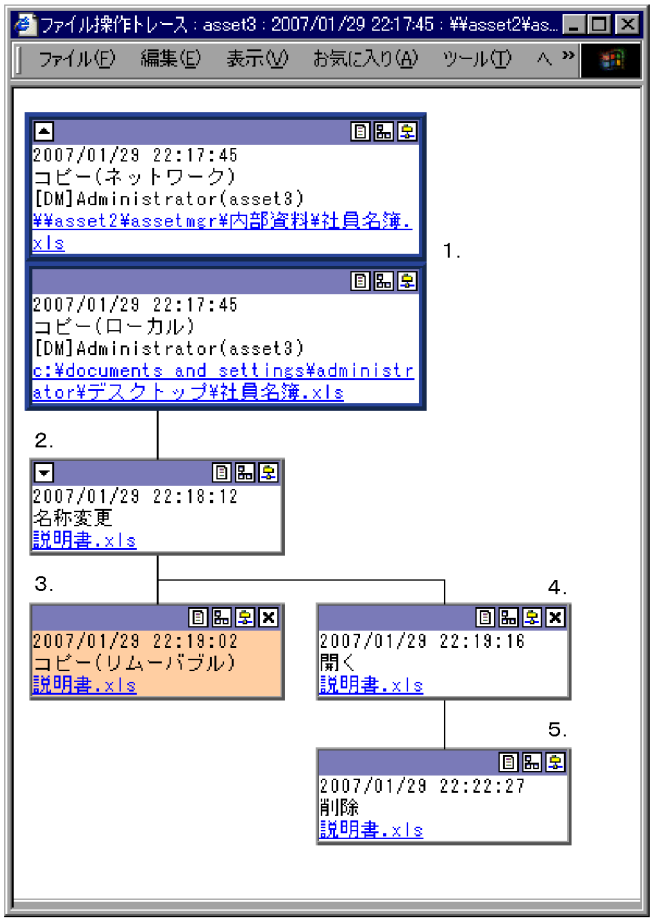
なお，［ファイル操作トレース］ダイアログに表示されるノードは，JP1/NETM/DM および JP1/ 秘文のデータベースに格納されている操作ログが基になっています。そのため，バックアップファイルに格納されている操作ログに対応するノードは表示されません。

(1) 機器ごとの操作を追跡する

［ファイル操作トレース］ダイアログでは，機器ごとの操作の流れが表示されます。

機密情報が含まれたファイル「社員名簿 .xls」の名称を，機密情報であることがわからないように，「説明書 .xls」と変更して持ち出した操作を例に説明します。この場合の［ファイル操作トレース］ダイアログを次の図に示します。

図 2-96　［ファイル操作トレース］ダイアログ（機密情報ファイルの持ち出しを追跡する例）



各ノードで確認できる操作について説明します。図内の 1. ～ 5. は，次の説明の番号に対応しています。

1. **ファイルサーバから「社員名簿 .xls」をデスクトップにコピーした。**
   このノードが起点ノードです。コピーする前後のファイル名を確認できます。
2. **「社員名簿 .xls」のファイル名を「説明書 .xls」に変更した。**
   名称変更後のファイル名を確認できます。「社員名簿 .xls」から「説明書 .xls」にファイル名を変更したことが確認できます。
3. **USB メモリに「説明書 .xls」をコピーした。**
   デスクトップのファイルを USB メモリにコピーしたことを確認できます。
4. **デスクトップの「説明書 .xls」を開いた。**
   コピー元のファイルに対する操作を追跡できます。このノードでは，デスクトップのファイルを開いたことを確認できます。

5. **デスクトップの「説明書 .xls」ファイルを削除した。**
   コピー元のデスクトップのファイルを削除したことを確認できます。

該当するファイルを別の機器から操作した可能性がある場合は，ネットワークアイコンから操作を追跡できます。別の機器の操作を追跡する方法については，「(2) 別の機器の操作を追跡する」を参照してください。

(2) 別の機器の操作を追跡する

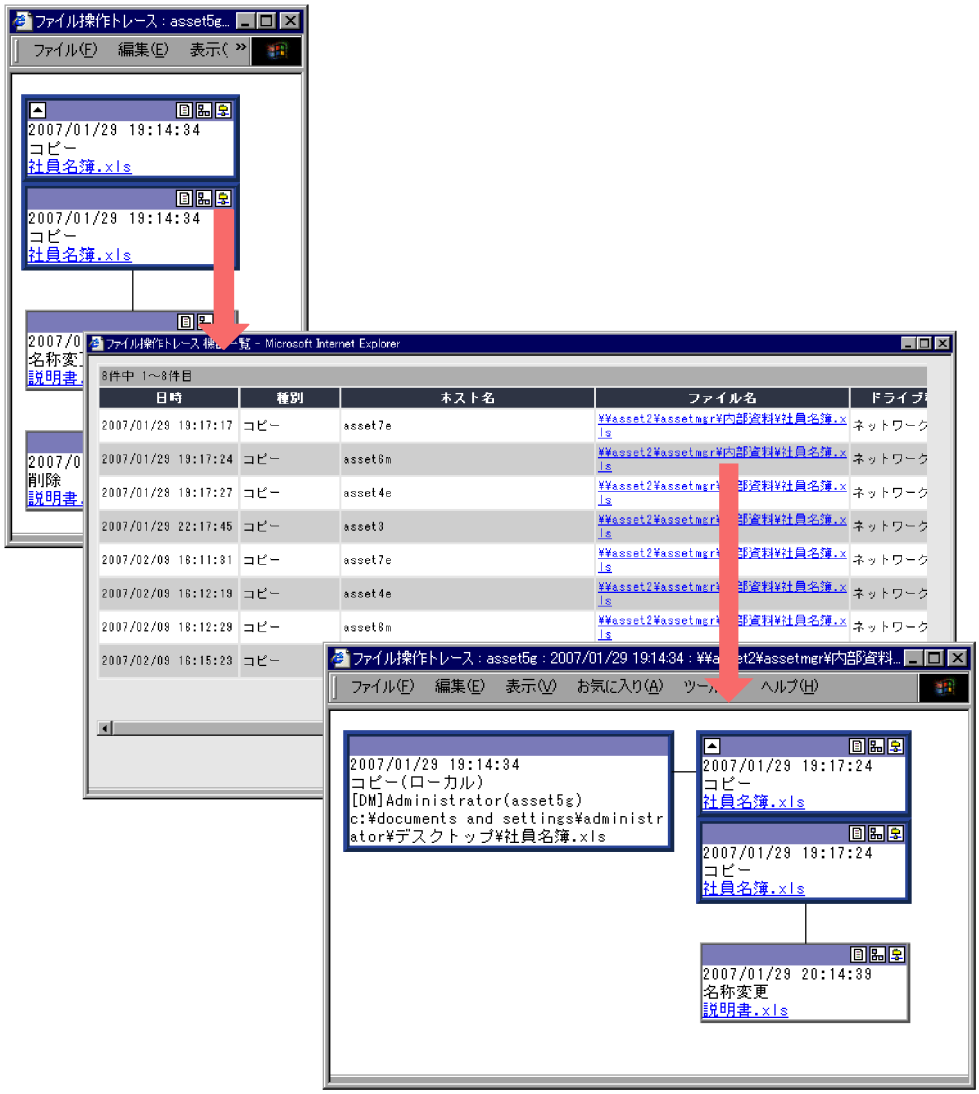
［ファイル操作トレース］ダイアログのネットワークアイコンをクリックすると，該当するファイルを操作した可能性のある機器が一覧で表示されます。

機器の一覧で，操作を追跡したい機器のファイル名のアンカーをクリックすると，その機器の［ファイル操作トレース］ダイアログが表示されて，操作を追跡できます。

別の機器のネットワーク上での操作を追跡する場合，同時刻と見なす時間の範囲を［サーバセットアップ］ダイアログの「トレース時間範囲の設定」で設定します。

ネットワーク上の別の機器からの操作を追跡するために，［ファイル操作トレース］ダイアログを表示する流れを次の図に示します。

図 2-97　［ファイル操作トレース］ダイアログを表示する流れ



起点ノードの左に表示されているノードは，基になっているノードです。

(3) ノードの種別と操作ログの種別との対応

各ノードに表示される種別と，各連携製品で出力している操作ログの種別との対応を，次の表に示します。ノードの種別には，［ファイル操作トレース］ダイアログの起点ノード以外に表示される種別を（）で示します。各製品の操作ログの種別は，各ノードの詳細情報から参照できます。

表 2-8 ノードの種別と操作ログの種別との対応

ノードの種別	各製品の操作ログの種別	出力元製品
コピー（コピー）	ファイルコピー	JP1/NETM/DM
コピー（CPY）	複製ファイル取得機能のコピー操作	JP1/ 秘文
名称変更・移動（移動）	ファイル移動	JP1/NETM/DM
名称変更・移動（名称変更）	ファイルリネーム	
名称変更・移動（REN）	• フォルダ・ファイルの名称を変更する • 同一ドライブ内で移動する • 共有機密フォルダを移動する	JP1/ 秘文
	ファイルの別名保存	JP1/ 秘文 CG Pro
削除（削除）	ファイル削除	JP1/NETM/DM
削除（DEL）	ファイルを削除する	JP1/ 秘文
	ファイルの削除	JP1/ 秘文 CG Pro
作成（作成）	ファイル作成	JP1/NETM/DM
作成（CFL）	ファイルを開く・作成する	JP1/ 秘文
	ファイルの新規作成	JP1/ 秘文 CG Pro
開く（開く）	ファイルオープン	JP1/NETM/DM
開く（OPN）	ファイルを開く	JP1/ 秘文
		JP1/ 秘文 CG Pro
開く（WRI）	ファイルを開く・書き込みモードで開く	JP1/ 秘文
	ファイルに書き込み	JP1/ 秘文 CG Pro
CD ライティング（MED）	ライティングソフト起動	JP1/ 秘文
メディアに書き込み（MED）	メディアに書き込み	JP1/ 秘文 CG Pro
組織外持ち出し（VFO）	秘文持ち出し（組織外）	JP1/ 秘文
平文持ち出し（VFP）	秘文持ち出し（平文）	
機密ファイル作成（ARC）	秘文機密ファイル作成	
復号（DEC）	復号	JP1/ 秘文 CG Pro
暗号化（ENC）	暗号化	
JP1/ 秘文 CG Pro への持ち出し（EXP）	JP1/ 秘文 AE CopyGuard Professional への持ち出し	
JP1/ 秘文 CG Pro からの持ち込み（IMP）	JP1/ 秘文 AE CopyGuard Professional からの持ち込み	

2.8 各機器の詳細情報の管理

この節では，各機器の詳細情報の管理について説明します。各機器の詳細情報は，各業務で検索または集計した結果から，**［機器詳細］ダイアログ**として表示します。

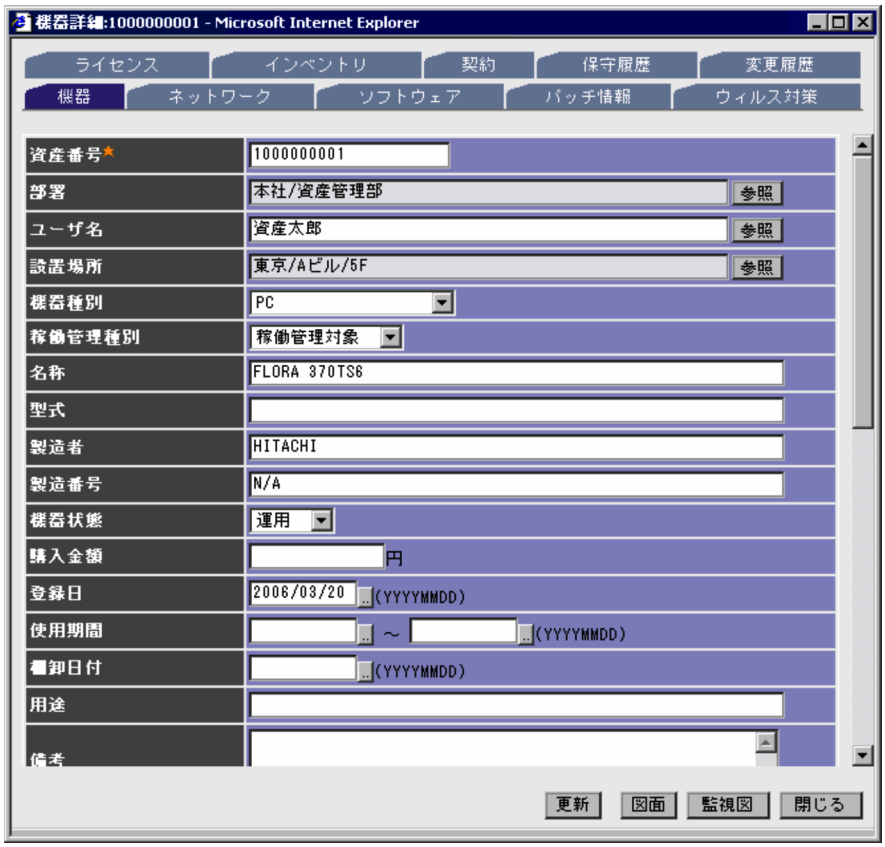
［機器詳細］ダイアログでは，機器に関するさまざまな情報を参照したり，編集したりします。［機器詳細］ダイアログで参照できる情報と表示されるタブを次に示します。

- 資産情報，ハードウェア資産情報（「機器」タブ）
- ネットワーク情報（「ネットワーク」タブ）
- インストールソフトウェア情報（「ソフトウェア」タブ）
- パッチ情報（「パッチ情報」タブ）
- ウィルス定義情報（「ウィルス対策」タブ）
- ライセンス情報（「ライセンス」タブ）
- インベントリ情報（「インベントリ」タブ）
- 契約情報（「契約」タブ）
- 保守履歴（「保守履歴」タブ）
- 移管履歴，変更履歴，ソフトウェア変更履歴（「変更履歴」タブ）

2.8.1 機器の詳細情報を参照および変更する（「機器」タブ）

［機器詳細］ダイアログの「機器」タブでは，「資産番号」，「ユーザ名」，「設置場所」などの資産情報と，「CPU」，「メモリサイズ」などのハードウェア資産情報を参照および編集します。［機器詳細］ダイアログの「機器」タブを次の図に示します。

図 2-98　［機器詳細］ダイアログの「機器」タブ



(1) 稼働管理の対象に設定する

機器を稼働状況の管理対象にするかどうかを設定します。稼働状況の管理対象に設定することで，業務メニュー「不稼働機器一覧」での検索対象にできます。

稼働状況の管理対象にするには，「稼働管理種別」を「稼働管理対象」に設定します。

(2) 部署および設置場所を変更する

機器を使用している部署および設置場所を変更します。［機器詳細］ダイアログで変更した値は，JP1/NETM/DM から取得したインベントリ情報および Network Node Manager から取得したノード情報と異なっていても上書きされません。

［機器詳細］ダイアログで設定した値より，業務メニュー「IP グループ管理」で作成した部署別 IP グループおよび設置場所別 IP グループに対応した値を優先させる場合は，タスク「データメンテナンス」で，IP グループに対応した値で上書きするように設定できます。タスク「データメンテナンス」の実施内容を選択する方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.9.3(3)　実施する作業の変更」を参照してください。

（3） 機器状態を変更する

機器の状態を変更します。

機器状態を「返却」,「廃棄」または「仮廃棄」の状態にすると，Windows のタスクスケジューラに登録されたタスク「データメンテナンス」の実行時に，該当する機器のネットワーク情報の IP アドレス項目，ソフトウェア稼働情報，コンポーネント情報およびインストールソフトウェア情報がすべて削除されます。また，割り当てられていたライセンスキーも解除されます。

なお，操作画面から更新したものについても同様に削除されます。

デフォルトでは,「在庫」,「運用」,「返却」,「廃棄」,「仮廃棄」および「抹消」の状態から選択できます。機器の状態の名称や種類を変更するには,「4.8　種別や状態を追加および変更する（コード管理）」を参照してください。

（4） フロアレイアウト図で機器の設置場所を確認する

NetInsight II と連携している場合，機器の設置場所をフロアレイアウト図で確認できます。フロアレイアウト図を表示するには，［図面］ボタンをクリックします。

NetInsight II と連携するために必要な設定については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「6.7　NetInsight II と連携するための設定」を参照してください。

（5） 監視図でネットワークの構成を確認する

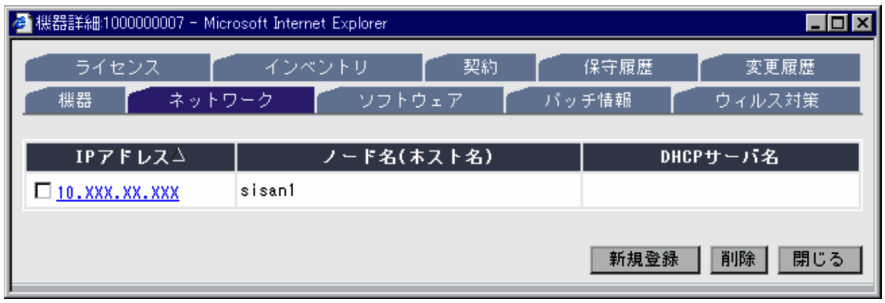
Network Node Manager と連携している場合，ネットワークの構成を監視図で確認できます。監視図を表示するには，［監視図］ボタンをクリックします。

Network Node Manager と連携するために必要な設定については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「6.2　Network Node Manager と連携するための設定」を参照してください。

2.8.2　ネットワーク情報を参照および変更する（「ネットワーク」タブ）

［機器詳細］ダイアログの「ネットワーク」タブでは,「IP アドレス」と関連するネットワーク情報を参照および編集します。［機器詳細］ダイアログの「ネットワーク」タブを次の図に示します。

図 2-99 ［機器詳細］ダイアログの「ネットワーク」タブ



(1) IP アドレスを追加する

IP アドレスを追加する手順を次に示します。

1. **［新規登録］ボタンをクリックする。**
   ［ネットワーク情報登録］ダイアログが表示されます。
   未使用の IP アドレスを検索する必要がない場合は，手順 7. に進んでください。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
2. **未使用の IP アドレスを検索して指定する場合は，［参照］ボタンをクリックする。**
   ［未使用 IP アドレス一覧］ダイアログが表示されます。
3. **指定したい IP グループに応じてタブを選択する。**
4. **必要に応じて検索条件を指定して，［検索］ボタンをクリックする。**
   IP グループが検索されます。
5. **指定したい「IP グループ名」のラジオボタンを選択状態にして，［決定］ボタンをクリックする。**
   ［未使用 IP アドレス］ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
6. **指定したい「未使用 IP アドレス」のラジオボタンを選択状態にして［決定］ボタンをクリックする。**
   IP アドレスが指定されます。
7. **［ネットワーク情報登録］ダイアログで［登録］ボタンをクリックする。**
   指定した値で IP アドレスが追加されます。

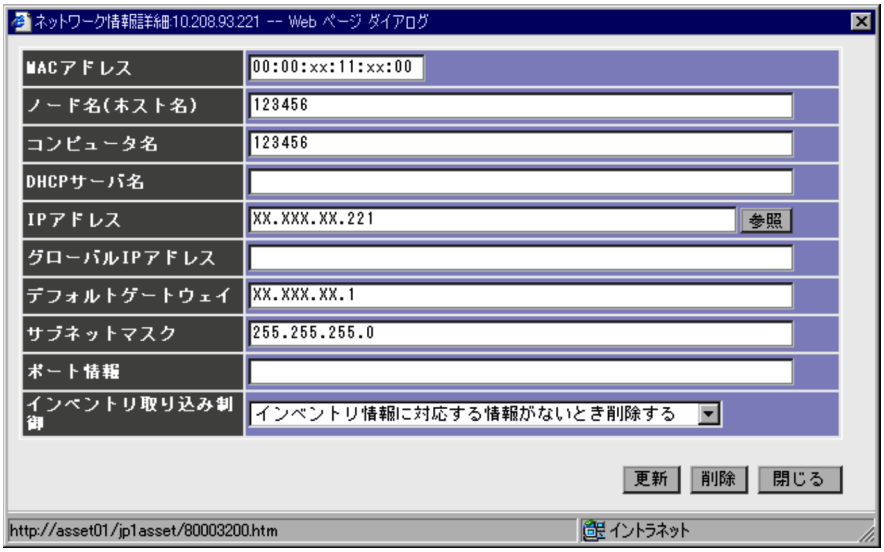
「DHCP サーバ名」と「IP アドレス」を両方指定すると，指定した IP アドレスは登録されますが，利用されていると見なされません。そのため，未使用の IP アドレスのままとなります。

(2) ネットワーク情報を編集する

「IP アドレス」のアンカーをクリックすると表示される［ネットワーク情報詳細］ダイア

ログでは，各 IP アドレスに対応する次の情報を参照および編集できます。［ネットワーク情報詳細］ダイアログを次の図に示します。

図 2-100　［ネットワーク情報詳細］ダイアログ



ネットワーク情報を編集して［更新］ボタンをクリックすると，指定した内容でネットワーク情報を更新できます。また，IP アドレスのチェックボックスをチェックして［削除］ボタンをクリックすると，ネットワーク情報を削除できます。キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。

● JP1/Lan Licenser と連携する場合

JP1/Lan Licenser と連携してソフトウェア稼働情報を管理するには，「コンピュータ名」を指定しておく必要があります。

● インベントリ情報に合わせて削除する場合

JP1/NETM/DM のインベントリ情報に合わせて，ネットワーク情報を削除するかどうかを「インベントリ取り込み制御」で設定できます。JP1/NETM/DM で収集されなかった機器は，ネットワーク上から削除されたものとして扱う場合，「インベントリ情報に対応する情報がないとき削除する」に設定します。

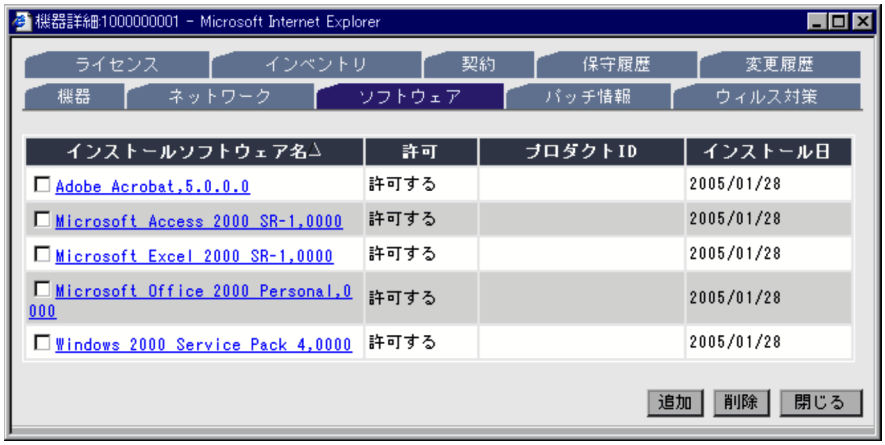
ただし，ネットワークに接続されていない機器や UNIX マシンなど，操作画面から登録した情報の場合は，「インベントリ情報に対応する情報がないとき削除しない」を設定してください。デフォルトは「インベントリ情報に対応する情報がないとき削除しない」になっています。

2.8.3　インストールされているソフトウェアを参照および変更する（「ソフトウェア」タブ）

［機器詳細］ダイアログの「ソフトウェア」タブでは，機器にインストールされているソ

フトウェアの情報を参照および編集します。［機器詳細］ダイアログの「ソフトウェア」タブを次の図に示します。

図 2-101 ［機器詳細］ダイアログの「ソフトウェア」タブ



「インストールソフトウェア名」には，インストールソフトウェア名，バージョンに加えて，ファイル名が登録されている場合は，ファイル名，ファイルサイズ，ファイル日付が表示されます。また，パッケージ識別 ID を取得している場合は，パッケージ元属性およびパッケージ識別 ID も表示されます。

● インベントリ情報に合わせて削除する場合

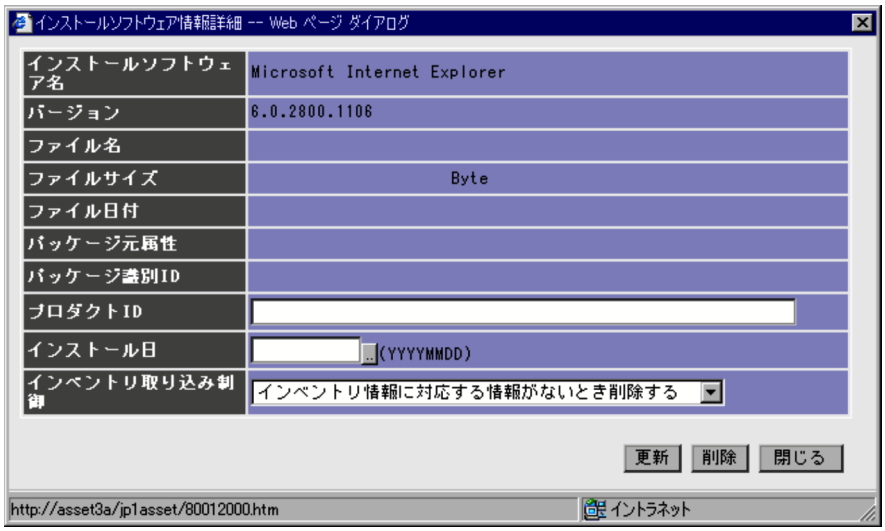
JP1/NETM/DM のインベントリ情報に合わせて，インストールされているソフトウェアの情報を削除するかどうかを，「インベントリ取り込み制御」で設定できます。JP1/NETM/DM で収集されなかったソフトウェアは，その機器からアンインストールされたものとして扱う場合，「インベントリ情報に対応する情報がないとき削除する」を設定してください。

(1) インストールソフトウェア情報を編集する

「インストールソフトウェア名」のアンカーをクリックすると表示される［インストールソフトウェア情報詳細］ダイアログでは，インストールされているソフトウェアのプロダクト ID，インストール日およびインベントリ取り込み制御の設定を変更できます。

［インストールソフトウェア情報詳細］ダイアログを次の図に示します。

図 2-102　［インストールソフトウェア情報詳細］ダイアログ



プロダクト ID は，JP1/NETM/DM 07-00 以降で取得したインベントリ情報を登録している場合，Microsoft Office のプロダクト ID は自動的に登録されますが，それ以外は［機器詳細］ダイアログの「ソフトウェア」タブで登録します。

各項目を編集して［更新］ボタンをクリックすると，指定した内容でインストールソフトウェア情報を更新できます。また，［削除］ボタンをクリックすると，インストールソフトウェア情報を削除できます。キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。

（2） Microsoft Office のコンポーネントの情報を参照する

JP1/NETM/DM 07-00 以降で取得したインベントリ情報を登録している場合，Microsoft Office に含まれるコンポーネントの情報を参照できます。「プロダクト ID」のアンカーをクリックすると，［コンポーネント詳細］ダイアログが表示されて，コンポーネントの情報を参照できます。

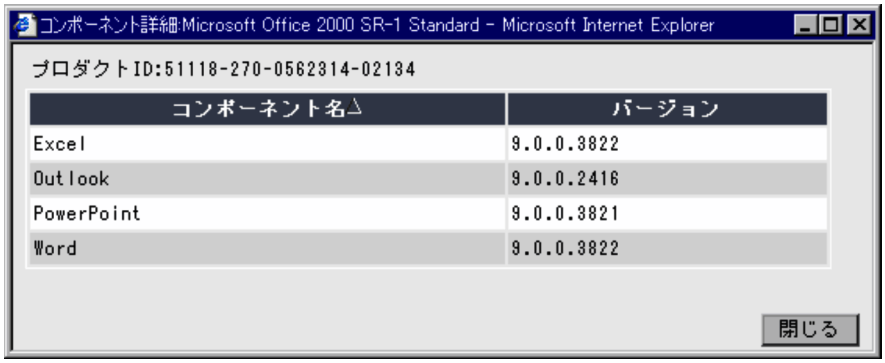
ただし，JP1/NETM/DM で取得できるのは，次の Microsoft Office コンポーネントだけです。

- Microsoft Office 2003
  Word，Excel，Outlook，PowerPoint，Access，Publisher
- Microsoft Office 2000
  Word，Excel，Outlook，PowerPoint，Access，Publisher，FrontPage
- Microsoft Office XP
  Word，Excel，Outlook，PowerPoint，Access，FrontPage

なお，コンポーネント情報の追加および削除はできません。

［コンポーネント詳細］ダイアログを次の図に示します。

図 2-103 ［コンポーネント詳細］ダイアログ



(3) インストールされているソフトウェアを追加する

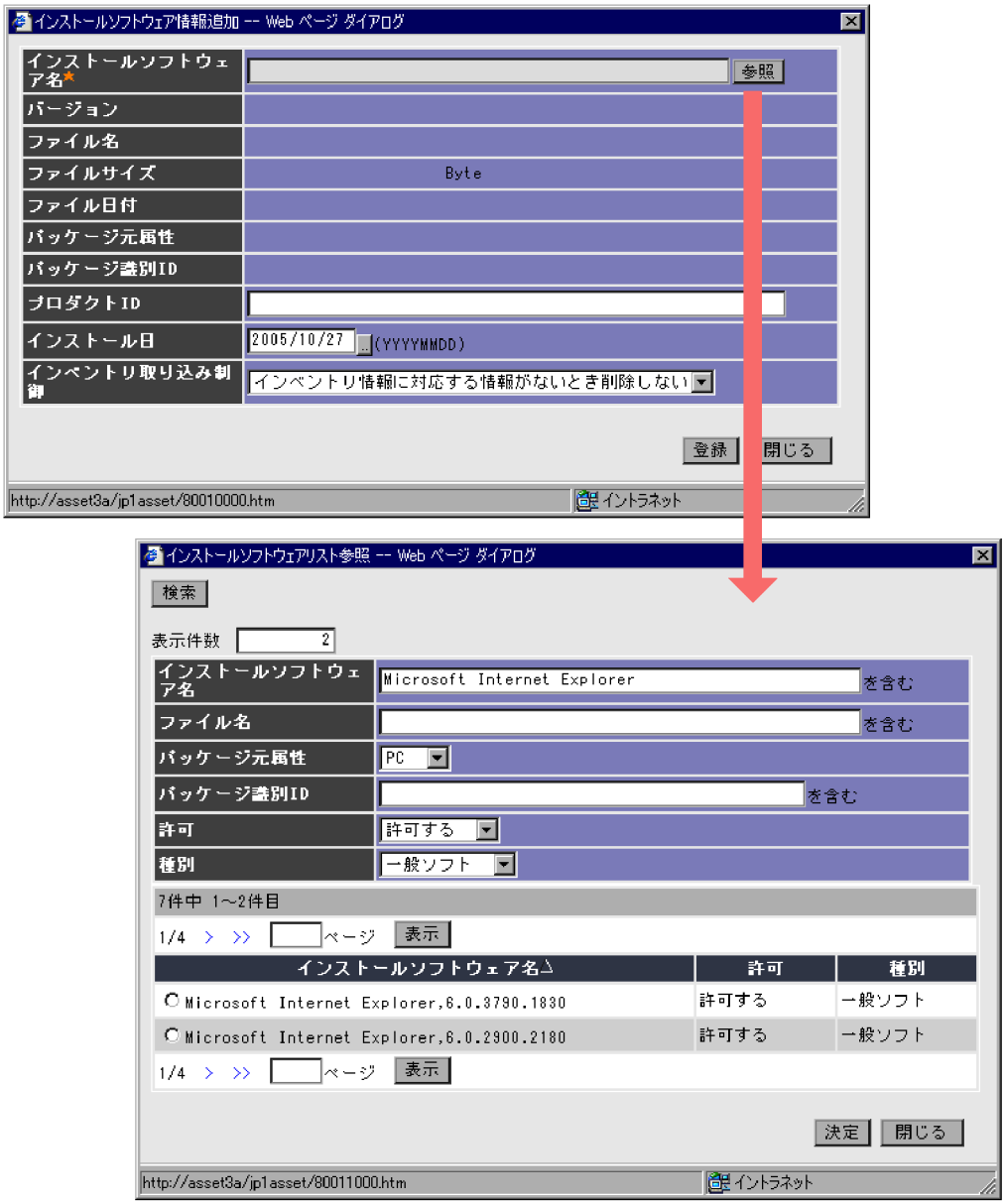
UNIX やネットワークに接続されていない機器にインストールされているソフトウェアを登録できます。

インストールされているソフトウェアを追加する手順を次に示します。

1. **［追加］ボタンをクリックする。**
   ［インストールソフトウェア情報追加］ダイアログが表示されます。
2. **「インストールソフトウェア名」の［参照］ボタンをクリックする。**
   ［インストールソフトウェアリスト参照］ダイアログが表示されます。
3. **必要に応じて検索条件を指定して［検索］ボタンをクリックする。**
   条件に一致するインストールソフトウェア名が検索されます。
4. **登録したい「インストールソフトウェア名」のラジオボタンを選択状態にして，［決定］ボタンをクリックする。**
   ［インストールソフトウェアリスト参照］ダイアログが閉じて，指定したインストールソフトウェアの情報が［インストールソフトウェア情報追加］ダイアログに追加されます。
5. **［登録］ボタンをクリックする。**
   指定した内容が登録されます。

［インストールソフトウェア情報追加］ダイアログからインストールソフトウェアを追加する流れを次の図に示します。

図 2-104　インストールされているソフトウェアを追加する流れ



(4) インストールされているソフトウェアを削除する

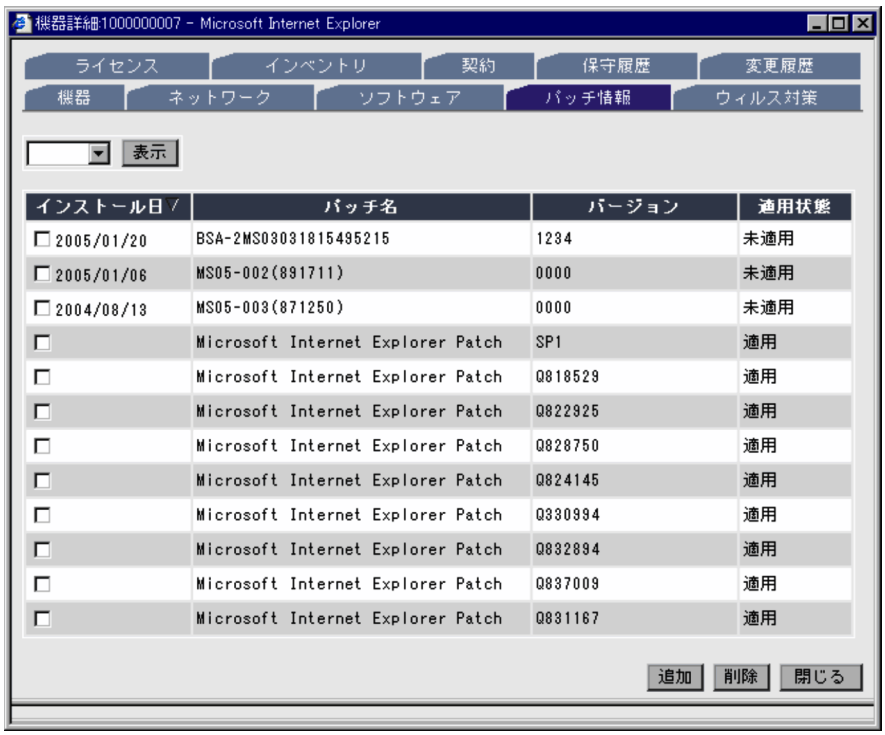
インストールされているソフトウェアを削除するには，削除したいソフトウェアのチェックボックスをチェックして，［削除］ボタンをクリックします。

2.8.4 パッチ情報を参照および追加する（「パッチ情報」タブ）

［機器詳細］ダイアログの「パッチ情報」タブでは，機器に適用されているパッチ情報を参照および追加します。なお，未適用の情報をインベントリ情報から取得するには，JP1/NETM/DM 07-50 以降と連携する必要があります。

［機器詳細］ダイアログの「パッチ情報」タブを次の図に示します。

図 2-105 ［機器詳細］ダイアログの「パッチ情報」タブ



(1) パッチ情報を参照する

パッチ情報を参照する手順を次に示します。

1. **プルダウンから参照したい情報を選択する。**
   「適用」，「未適用」または「(空白)」を選択してください。「適用」と「未適用」の両方のパッチ情報を参照する場合には，「(空白)」を選択します。
   なお，07-50 より前のバージョンの JP1/NETM/DM と連携している場合は，適用されているパッチだけを検索できます。
2. **［表示］ボタンをクリックする。**
   選択した情報のパッチ情報が表示されます。

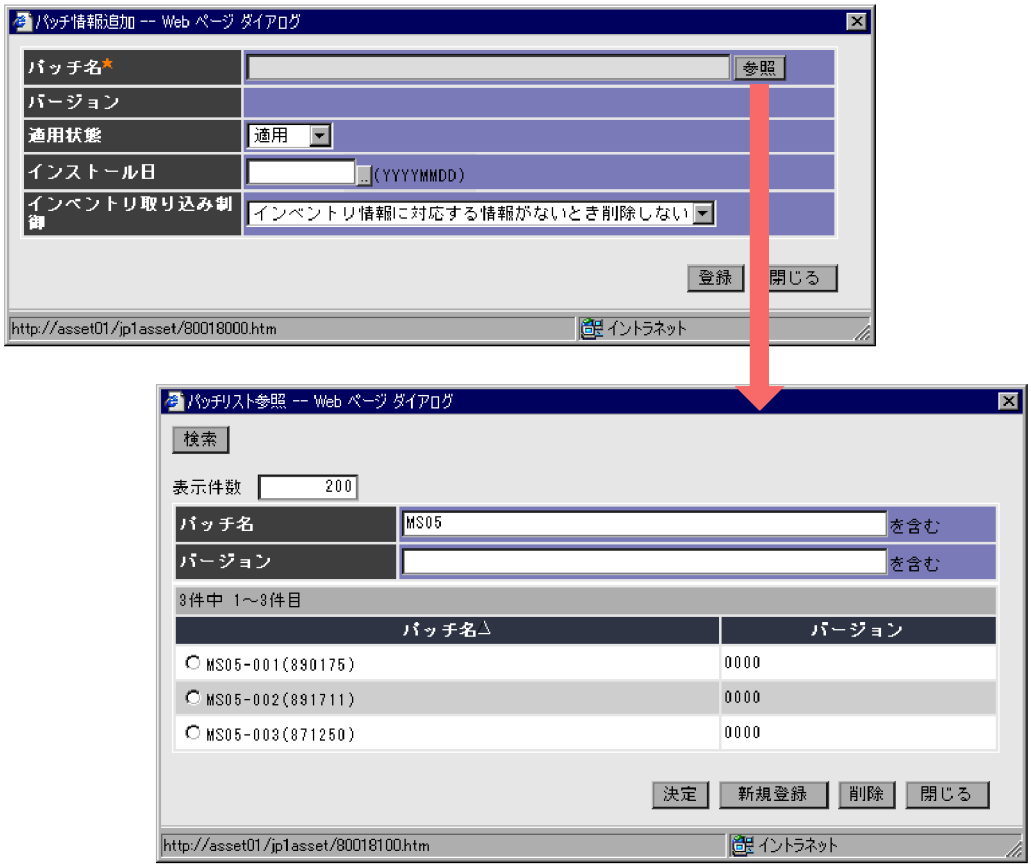
(2) パッチ情報を追加する

適用のパッチを追加する手順を次に示します。

1. **［追加］ボタンをクリックする。**
   ［パッチ情報追加］ダイアログが表示されます。
2. **「パッチ名」の［参照］ボタンをクリックする。**
   ［パッチリスト参照］ダイアログが表示されます。
3. **必要に応じて検索条件を指定して［検索］ボタンをクリックする。**
   条件に一致するパッチ名が検索されます。
   また，新規にパッチ情報を追加したい場合は，［新規登録］ボタンをクリックすると表示される［パッチリスト登録］ダイアログで，パッチ名およびバージョンを指定してください。［登録］ボタンをクリックすると，パッチ情報が登録されます。
4. **登録したい「パッチ名」のラジオボタンを選択状態にして，［決定］ボタンをクリックする。**
   ［パッチリスト参照］ダイアログが閉じて，指定したパッチの情報が［パッチ情報追加］ダイアログに追加されます。
5. **［登録］ボタンをクリックする。**
   指定した内容が登録されます。

［パッチ情報追加］ダイアログからパッチを追加する流れを次の図に示します。

図 2-106 適用されているパッチを追加する流れ



2.8.5 ウィルス対策ソフトウェア情報を参照および追加する（「ウィルス対策」タブ）

［機器詳細］ダイアログの「ウィルス対策」タブでは，機器にインストールされているウィルス定義情報を参照および追加します。

［機器詳細］ダイアログの「ウィルス対策」タブを次の図に示します。

図 2-107　［機器詳細］ダイアログの「ウィルス対策」タブ

(1) ウィルス定義情報を参照する

ウィルス定義情報を参照する手順を次に示します。

1. **プルダウンから参照したい情報を選択する。**
   プルダウンには，ウィルス対策ソフトウェア名，ウィルス対策ソフトウェアバージョンが表示されます。表示させたい情報を選択してください。
2. **［表示］ボタンをクリックする。**
   選択した情報のウィルス定義情報が表示されます。

(2) ウィルス定義情報を追加する

インストールされているウィルス対策ソフトウェアの情報を追加できます。

ウィルス定義情報を追加する手順を次に示します。

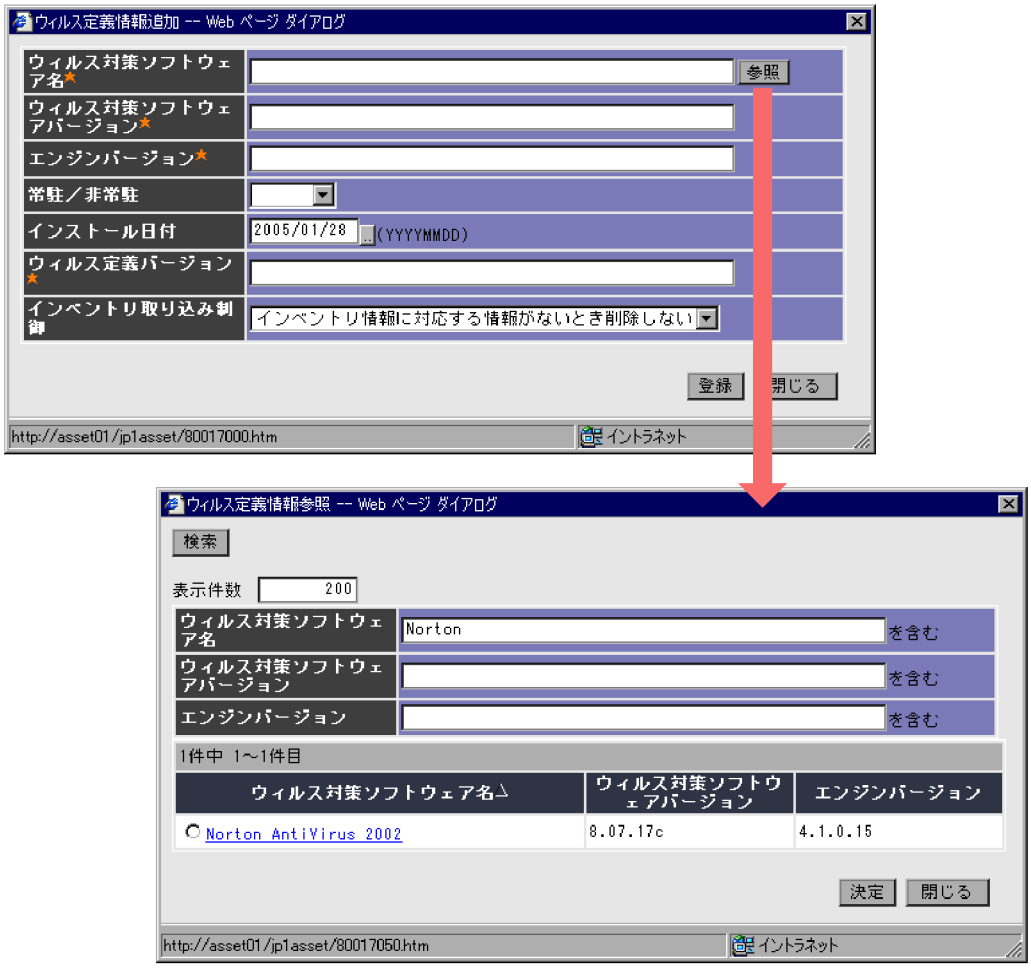
1. **［追加］ボタンをクリックする。**
   ［ウィルス定義情報追加］ダイアログが表示されます。
2. **「ウィルス対策ソフトウェア名」の［参照］ボタンをクリックする。**
   ［ウィルス定義情報参照］ダイアログが表示されます。
3. **必要に応じて検索条件を指定して［検索］ボタンをクリックする。**
   条件に一致するウィルス対策ソフトウェア名が検索されます。
4. **「ウィルス対策ソフトウェア名」のラジオボタンを選択状態にする。**
   ウィルス定義バージョンを登録する場合は，「ウィルス対策ソフトウェア名」のアンカーをクリックすると表示される［ウィルス定義バージョン参照］ダイアログで，登録したい「ウィルス定義バージョン」のラジオボタンを選択状態にしてください。
5. **［決定］ボタンをクリックする。**

［ウィルス定義バージョン参照］ダイアログが閉じて，指定したウィルス定義バージョンの情報が［ウィルス定義情報追加］ダイアログに追加されます。

6. **［登録］ボタンをクリックする。**
   指定した内容が登録されます。

［ウィルス定義情報追加］ダイアログからウィルス対策ソフトウェアを追加する流れを次の図に示します。

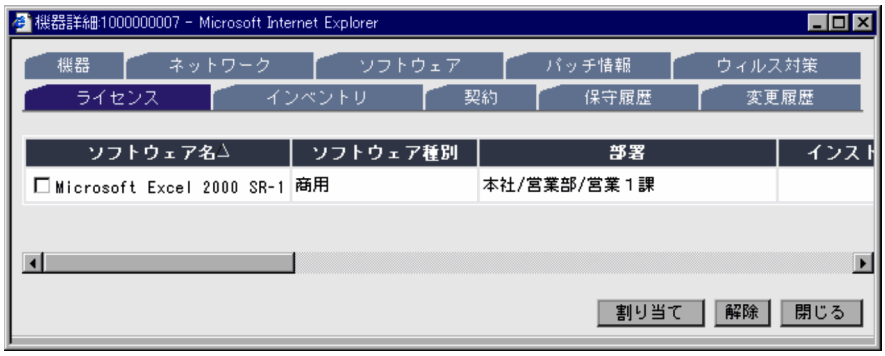
図 2-108　インストールされているウィルス対策ソフトウェアを追加する流れ



2.8.6　割り当てられたライセンス情報を参照および変更する（「ライセンス」タブ）

［機器詳細］ダイアログの「ライセンス」タブでは，機器に割り当てられているライセンスの情報を参照および編集します。［機器詳細］ダイアログの「ライセンス」タブを次の図に示します。

図 2-109　［機器詳細］ダイアログの「ライセンス」タブ



「ソフトウェア名」に，ライセンスが割り当てられているソフトウェア名が表示されます。「インストールソフトウェア名」には，割り当てられたライセンスを利用してインストールされているソフトウェア名が表示されます。

「インストールソフトウェア名」が空欄の場合，割り当てられているライセンスのソフトウェアが，インストールされていないことを示しています。

「資産番号」のアンカーをクリックすると，［ソフトウェア資産詳細］ダイアログが表示されて，ソフトウェア資産情報を変更できます。

(1) 機器に対してライセンスを割り当てる

［機器詳細］ダイアログを表示している機器に，「マシン許諾」のライセンスを割り当てる手順を次に示します。

1. **［割り当て］ボタンをクリックする。**
   ［ライセンス割り当て］ダイアログが表示されます。
2. **必要に応じて条件を指定して，［検索］ボタンをクリックする。**
   条件に一致するマシン許諾のライセンスで，空きがあるものが検索されます。
3. **割り当てたいライセンスのチェックボックスをチェックして，［決定］ボタンをクリックする。**
   ［ライセンス割り当て］ダイアログが閉じて，指定したライセンスが割り当てられます。

   ライセンスを割り当てたいソフトウェアを検索した状態の［ライセンス割り当て］ダイアログを次の図に示します。

図 2-110 ［ライセンス割り当て］ダイアログ

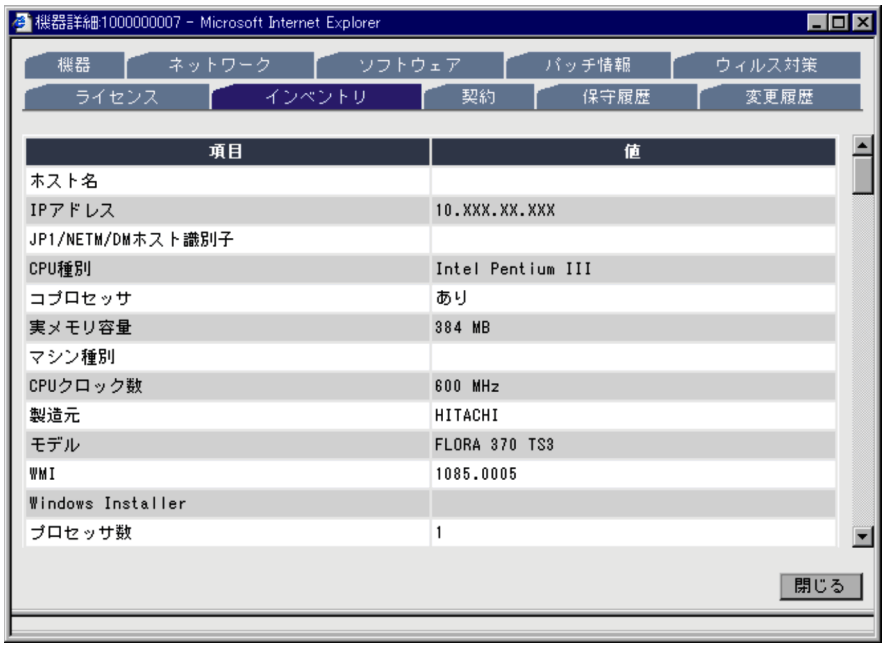
(2) ライセンスの割り当てを解除する

割り当てられているライセンスを解除するには，解除したいライセンスのチェックボックスをチェックして，［解除］ボタンをクリックします。

2.8.7 インベントリ情報を参照する（「インベントリ」タブ）

［機器詳細］ダイアログの「インベントリ」タブでは，機器の JP1/NETM/DM のインベントリ情報を直接参照します。JP1/NETM/DM との接続環境が正しくない場合，および JP1/NETM/DM のインベントリ情報と引き当てられていない機器の場合は，表示されません。［機器詳細］ダイアログの「インベントリ」タブを次の図に示します。

図 2-111　［機器詳細］ダイアログの「インベントリ」タブ



一覧では，JP1/NETM/DM のデータベースで管理しているインベントリ情報の，「インベントリ」タブを表示した時点での最新情報を参照できます。

2.8.8　契約情報を参照および変更する（「契約」タブ）

［機器詳細］ダイアログの「契約」タブでは，契約対象となっている保守，リースおよびレンタル契約の詳細情報を参照したり，契約の対象として登録したりします。［機器詳細］ダイアログの「契約」タブを次の図に示します。

図 2-112 ［機器詳細］ダイアログの「契約」タブ

注意事項

「契約」タブには，その機器が対象となっている，最新の契約情報が表示されます。

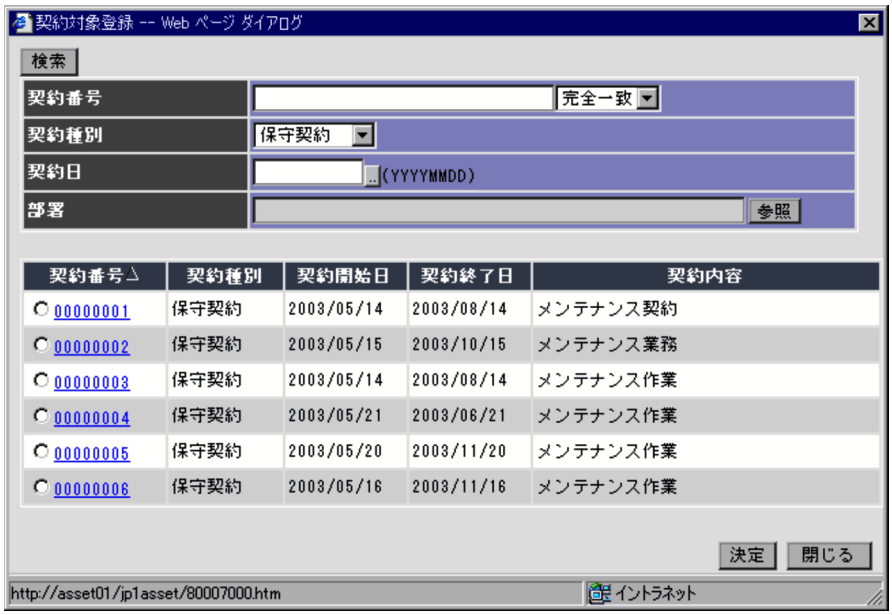
(1) 対象契約を追加する

契約の対象として追加する手順を次に示します。

1. **［対象登録］ボタンをクリックする。**
   ［契約対象登録］ダイアログが表示されます。
2. **必要に応じて検索条件を指定して，［検索］ボタンをクリックする。**
   契約情報が検索されます。契約の詳細情報を参照するには，「契約番号」のアンカーをクリックします。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
3. **指定したい「契約番号」のラジオボタンを選択状態にして，［決定］ボタンをクリックする。**
   選択した契約の対象に追加されます。
4. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
   ［契約対象登録］ダイアログが閉じます。

登録したい契約を検索した状態の［契約対象登録］ダイアログを次の図に示します。

図 2-113　［契約対象登録］ダイアログ



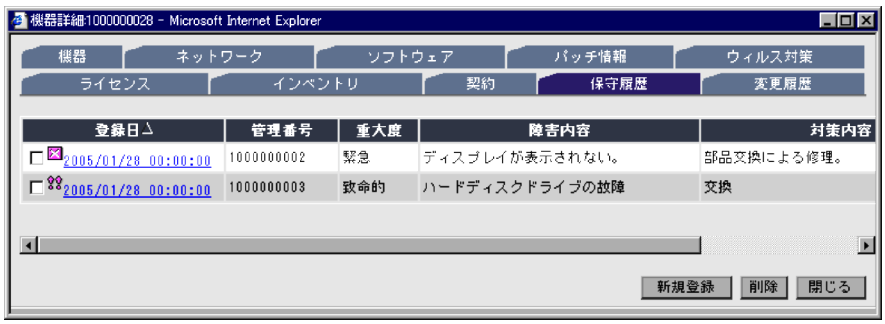
(2) 契約を解除する

対象となっている契約を解除するには，解除したい契約のチェックボックスをチェックして，［解除］ボタンをクリックします。

2.8.9　保守履歴を参照および変更する（「保守履歴」タブ）

［機器詳細］ダイアログの「保守履歴」タブでは，過去の障害の内容やその対策を参照および変更します。［機器詳細］ダイアログの「保守履歴」タブを次の図に示します。

図 2-114　［機器詳細］ダイアログの「保守履歴」タブ



「登録日」のアンカーをクリックすると，保守履歴の詳細情報を参照できます。

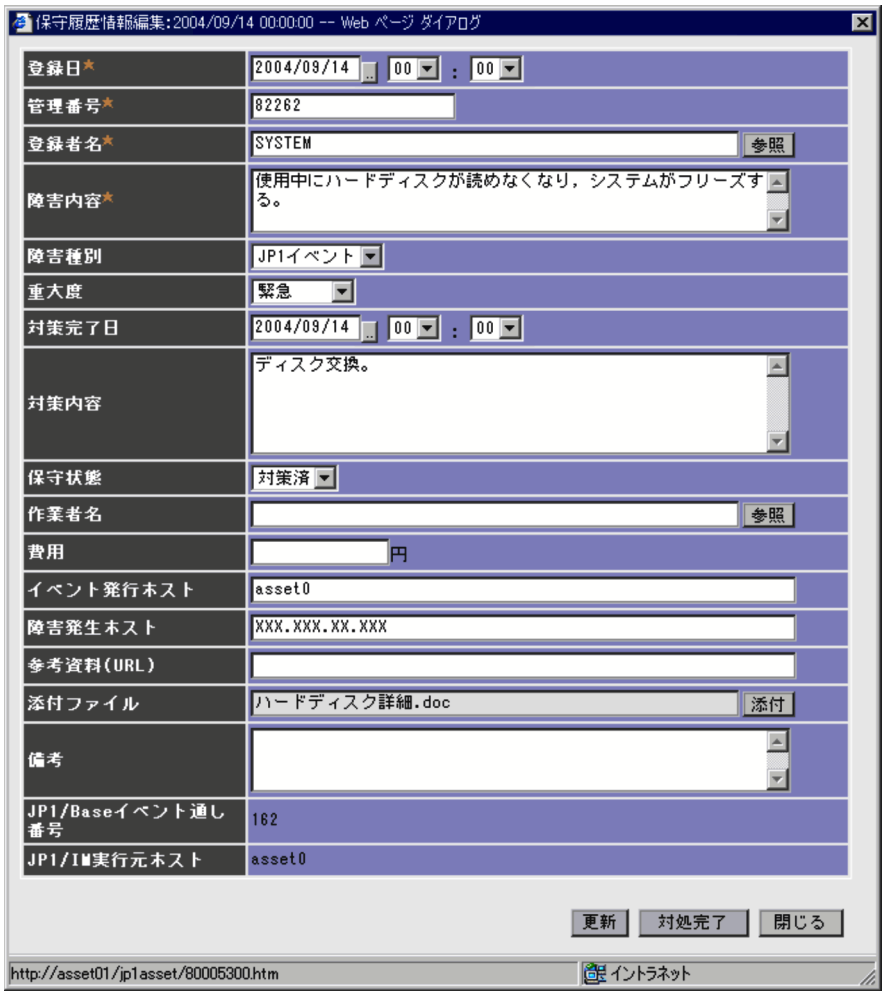
(1) 保守作業の完了を登録する

対策内容を登録して，保守作業の完了を登録する手順を次に示します。JP1 イベントおよび SNMP トラップの場合は，同時に JP1/IM へ対処が完了したことを通知できます。

1. **対策内容を登録したい保守履歴の「登録日」のアンカーをクリックする。**
   ［保守履歴情報詳細］ダイアログが表示されます。
2. **［編集］ボタンをクリックする。**
   ［保守履歴情報編集］ダイアログが表示されます。
3. **「対策内容」に情報を指定して，「保守状態」を「対策済」に変更する。**
4. **［更新］ボタンをクリックする。**
   指定した内容で，保守履歴が更新されます。
5. **［対処完了］ボタンをクリックする。**
   JP1/IM へ対処が完了したことが通知され，該当する JP1 イベントの対処状況が「対処済」になります。
6. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
   ［保守履歴情報編集］ダイアログが閉じます。

対策内容を指定した状態の［保守履歴情報編集］ダイアログを次の図に示します。

図 2-115　［保守履歴情報編集］ダイアログ



(2) 保守履歴を登録する

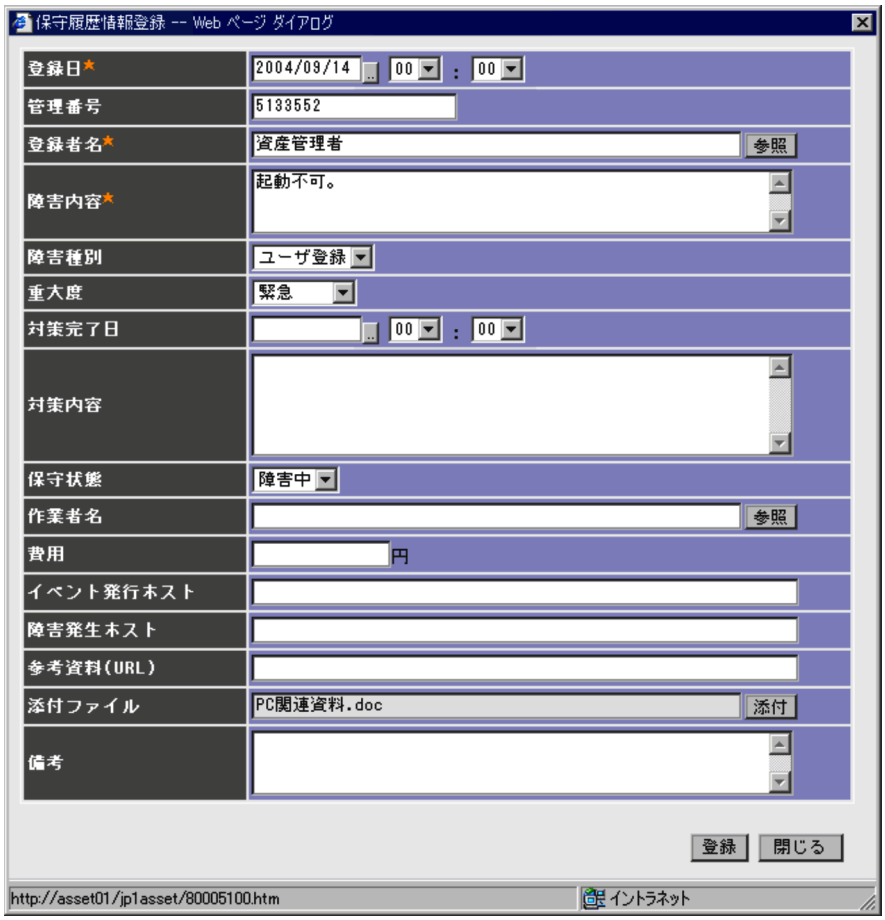
保守履歴を登録する手順を次に示します。

1. **［新規登録］ボタンをクリックする。**
   ［保守履歴情報登録］ダイアログが表示されます。
   項目名に「★」の付いた項目は必ず指定してください。
   「障害種別」には，デフォルトでは「ユーザ登録」だけが表示されます。また，「保守状態」には，障害発生後の状況を指定してください。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。

2. **［登録］ボタンをクリックする。**
   指定した内容の保守履歴が登録されます。

   障害内容を指定した状態の［保守履歴情報登録］ダイアログを次の図に示します。

図 2-116 ［保守履歴情報登録］ダイアログ



(3) 保守履歴を削除する

保守履歴を削除するには，削除したい保守履歴のチェックボックスをチェックして［削除］ボタンをクリックします。

2.8.10 変更履歴を参照する（「変更履歴」タブ）

［機器詳細］ダイアログの「変更履歴」タブでは，移管履歴，機器構成の変更履歴，および機器にインストールされたソフトウェアの変更履歴を参照します。［機器詳細］ダイアログの「変更履歴」タブを次の図に示します。

図 2-117 ［機器詳細］ダイアログの「変更履歴」タブ

変更履歴を参照する手順を次に示します。

1. **プルダウンから参照したい情報を選択する。**
   「移管」,「ハードウェア」または「ソフトウェア」を選択してください。
2. **［表示］ボタンをクリックする。**
   選択した情報の変更履歴が表示されます。

3 案件を使用した資産管理業務の実行

この章では，業務カテゴリ「案件」で実行できる，案件を使用した資産管理業務の実行方法について説明します。各タイトルの（）内には，選択するメニューを示します。
また，案件の作成および処理のポイントを FAQ で示します。

3.1 **案件を作成する（新規案件）**

3.2 **受信した案件を処理する（受信トレイ）**

3.3 **送信した案件の確認と引き戻し（送信トレイ）**

3.4 **案件の管理（実行案件管理）**

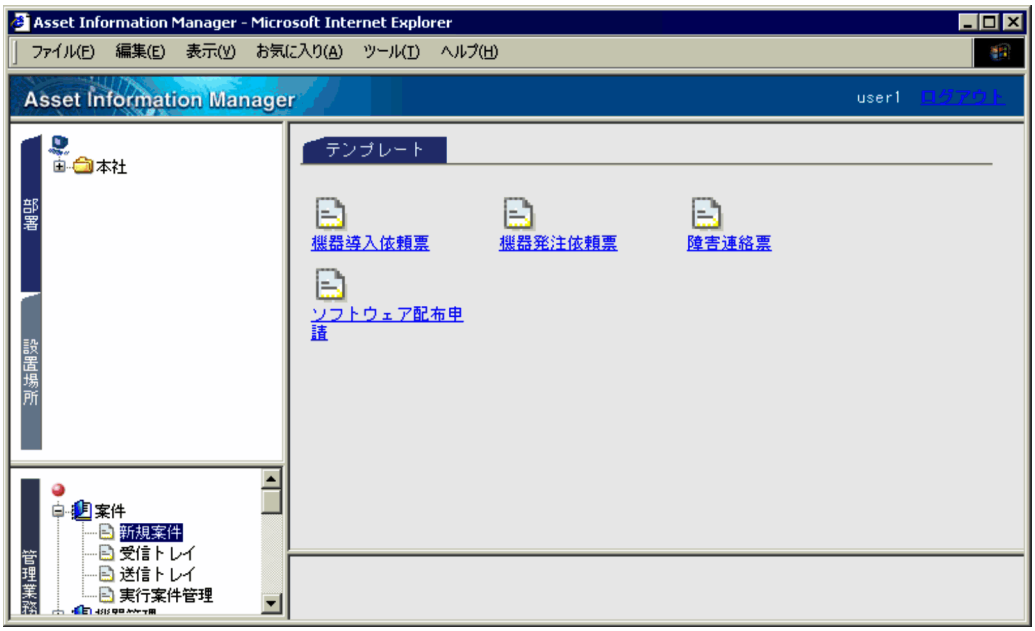
3.5 FAQ**（案件の作成と処理）**

3.1 案件を作成する（新規案件）

この節では，新規に案件を作成して，申請する方法について説明します。また，案件の作成方法についても説明します。

案件の新規作成は，業務メニュー「新規案件」をクリックすると表示される新規案件画面から実行します。新規案件画面を次の図に示します。

図 3-1 新規案件画面



新規案件画面では，利用できる案件がカテゴリごとにタブに分かれて表示されます。

デフォルトでは，「障害連絡票」，「ソフトウェア配布申請」，「機器導入依頼票」および「機器発注依頼票」の四つの案件がサンプルとして提供されています。案件の状態を公開に変更すると，「テンプレート」タブに案件が表示されて使用できるようになります。

各案件の使用目的および設定されている職権の種類を次の表に示します。

表 3-1 案件の使用目的と設定されている職権名

案件名	使用目的	職権名
障害連絡票	資産に障害が発生した場合に，対策を依頼する。	障害受付者
		障害対策者
ソフトウェア配布申請	ソフトウェアを配布したい場合に，配布を申請する。	配布管理者
機器導入依頼票	新規に機器を導入する場合に，導入を依頼する。	承認者
		受付者

案件名	使用目的	職権名
		配布者
機器発注依頼票	導入依頼を受けた機器が無い場合に，発注を依頼する。	発注者
		納品者

これらの案件を利用して案件を定義すると，効率良く作業できます。サンプルとして提供されている案件を編集する方法，および職権を定義する方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「10.7　登録された案件を変更する」または「10.2　案件を処理する権限を定義する（職権管理）」を参照してください。

なお，公開中の案件が一つも無い場合，およびログインしているユーザに割り当てられている職権で新規に作成できる案件が無い場合，新規案件画面に「利用できる案件はありません。」と表示されます。

3.1.1　新規に案件を作成する

新規に案件を作成して，次の作業者に送信する手順を次に示します。

1. **新規案件画面で，実行したいカテゴリのタブから，作成したい案件のアンカーをクリックする。**
   案件画面が表示されます。
2. **案件の各項目に必要事項を入力する。**
3. **案件を送信するボタンをクリックする。**
   ［送信先の選択］ダイアログが表示されます。
4. **「ユーザ名」のアンカーをクリックして，次の処理を実行する職権を持つユーザを指定する。**
   デフォルトでは，案件を送信するユーザの所属する部署またはその上位部署に，該当する職権を持つユーザがいた場合，送信先のユーザが指定されています。
   変更する場合は，該当するユーザを選択してください。
5. **［メール文編集］ボタンをクリックする。**
   ［通知メールの編集］ダイアログが表示されます。
   案件の到着を通知するメールの「メール主題」および「メール本文」の内容を編集します。
   なお，メールを送信しない場合は，［送信先の選択］ダイアログで「メールを送信しない」チェックボックスをチェックしてください。また，通知のメールを設定していないときは，手順 5. および手順 6. は不要です。
6. **［登録］ボタンをクリックする。**
   ［通知メールの編集］ダイアログが閉じて，編集したメールの内容で登録されます。
7. **［決定］ボタンをクリックする。**
   ［送信先の選択］ダイアログおよび案件画面が閉じて，送信先に指定したユーザへ案

件が送付されます。
送信された案件は，送信トレイに表示されます。
案件の到着を通知する設定にしている場合は，メールが送信先のユーザへ送付されます。
また，作成の途中で案件を保存する場合は，［保存］ボタンをクリックします。保存した案件は送信トレイに表示されます。このとき，案件の状態は「作成中」になります。

注意事項

案件を送付したことを通知するメールは，ユーザ管理情報に登録されたメールアドレスを基に送信されます。そのため，メール送信先のユーザのメールアドレスが登録されていない場合は，メール送信を設定してもメールは送信されません。案件の作業者（メール送信元）のメールアドレスが登録されていない場合は，［サーバセットアップ］ダイアログの「メールの送信元アドレス」に設定したメールアドレスが送信元のメールアドレスになります。

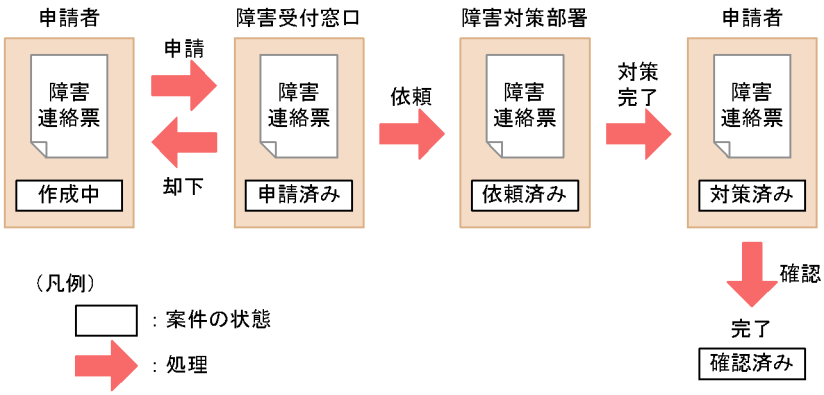
3.1.2　障害連絡票の作成例

ここでは，Asset Information Manager がサンプルとして提供している案件「障害連絡票」を例に，案件の作成方法を説明します。

実際に「障害連絡票」を運用する場合は，案件の状態を「公開」に変更する必要があります。案件の状態を変更する手順については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「10.4.5　案件画面の定義例」を参照してください。

「障害連絡票」の処理ルートと，状態の遷移を次の図に示します。

図 3-2　「障害連絡票」の処理ルートと状態の遷移



「障害連絡票」では，資産に対する障害が発生した場合に，対策の申請，依頼，対策完了，確認までの一連の業務を実行できます。

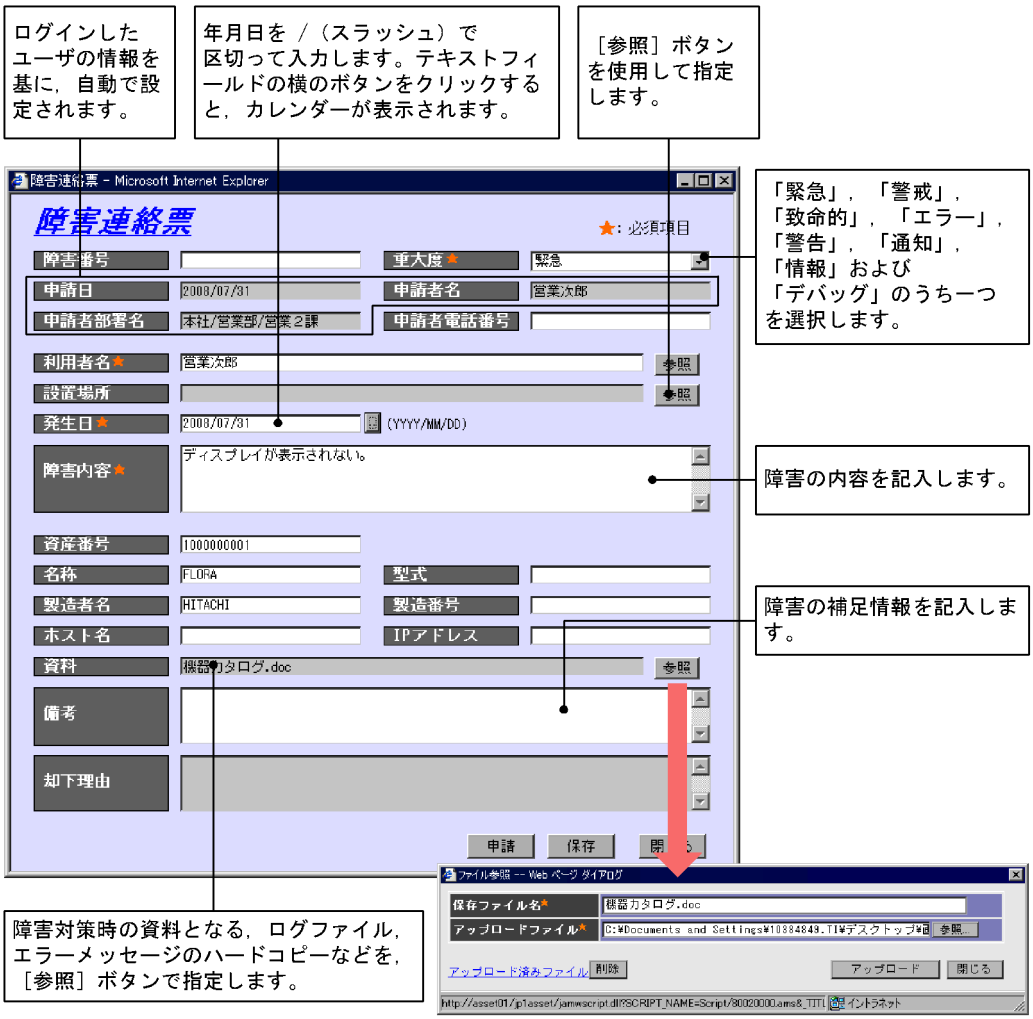
これ以降で，各作業者の案件画面の指定方法を説明します。各タイトルの（）内には，作業の担当者または担当部署を示します。

(1) 障害対策の申請（申請者）

障害が発生したことを連絡し，対策を申請します。項目名に「★」の付いた項目は，必ず指定してください。そのほかの項目は，必要に応じて値を入力してください。

申請者用の「障害連絡票」の各項目を指定する方法を次に示します。

図 3-3　申請時の「障害連絡票」（申請者）



- **［申請］ボタン**
  指定した内容で，障害対策を申請します。申請すると，案件は障害受付窓口の作業者の受信トレイに送付されて，案件の状態は「申請済み」になります。
- **［保存］ボタン**
  指定した内容で，申請しないで保存します。保存すると，案件は申請者の送信トレイに表示されて，案件の状態は「作成中」になります。
- **［閉じる］ボタン**

申請をキャンセルします。

(2) 障害対策の受付（障害受付窓口）

申請された「障害連絡票」の内容を確認して，対策を依頼します。このとき編集できる項目は，「障害番号」，「重大度」，「備考」および「却下理由」です。項目名に「★」の付いた項目は，必ず指定してください。

障害受付窓口用の「障害連絡票」の各項目を指定する方法を次に示します。

図 3-4 依頼時の「障害連絡票」（障害受付窓口）

- **[依頼] ボタン**
  申請された内容を確認して，障害対策を依頼します。依頼すると，案件は障害対策の作業者の受信トレイに送付されて，案件の状態は「依頼済み」になります。
- **[却下] ボタン**
  申請された内容を却下します。却下すると，案件は申請者の受信トレイに送付されて，案件の状態は「作成中」になります。なお，却下する際は，「却下理由」に案件を却下する理由を記入してください。

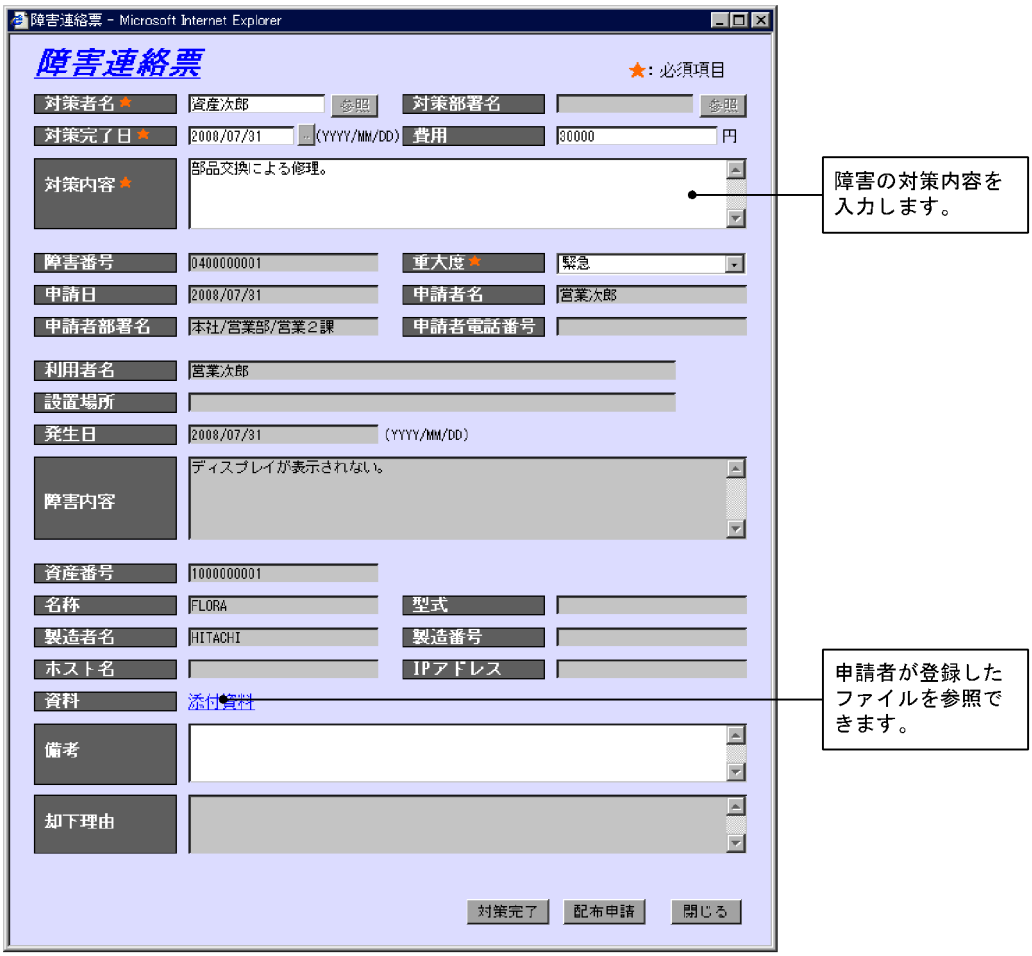
- **[閉じる] ボタン**
  案件画面を閉じます。

(3) 障害の対策（障害対策部署）

障害の対策が完了したら，対策完了したことを申請者に通知します。このとき編集できる項目は，「対策者名」，「対策部署名」，「対策完了日」，「費用」，「対策内容」，「重大度」および「備考」です。項目名に「★」の付いた項目は，必ず指定してください。

障害対策部署用の「障害連絡票」の各項目を指定する方法を次に示します。

図 3-5　対策完了時の「障害連絡票」（障害対策部署）



- **[対策完了] ボタン**
  依頼された内容で障害対策を完了します。対策完了すると，案件は申請者の受信トレイに送付されて，案件の状態は「対策済み」になります。
- **[配布申請] ボタン**
  障害対策としてソフトウェアの配布が必要な場合，「ソフトウェア配布申請」の案件画

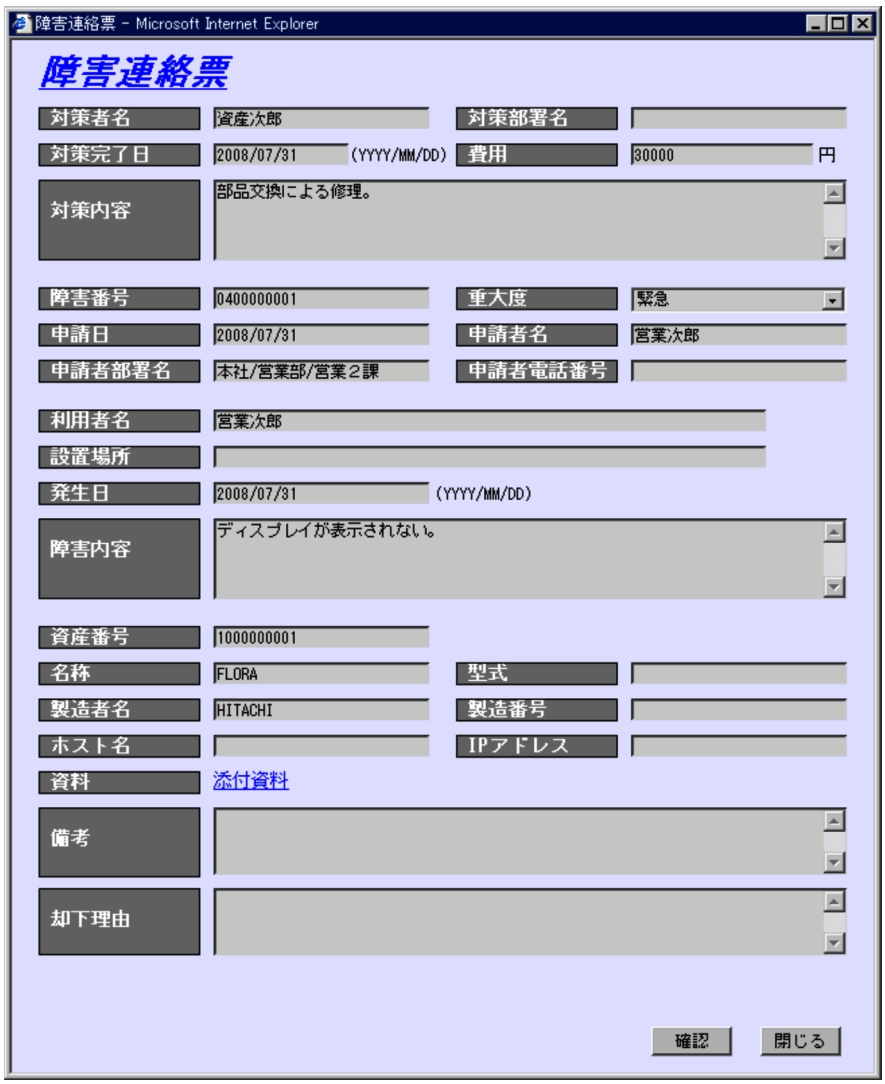
面が表示されて，ソフトウェアの配布を申請できます。

- **［閉じる］ボタン**
  案件画面を閉じます。

(4) 対策結果の確認（申請者）

申請した対策が完了したことを確認します。申請者が対策結果を確認することで案件の処理が完了します。申請者用の確認時の「障害連絡票」を次に示します。

図 3-6 確認時の「障害連絡票」（申請者）



このとき申請者は，案件の内容を確認できますが，編集できません。対策結果に問題がある場合は，新規に案件を作成してください。

案件の内容を参照して確認の処理をします。

- **[確認] ボタン**
  対策完了された内容で確認を完了します。確認すると，案件の状態は「確認済み」になります。
- **[閉じる] ボタン**
  案件画面を閉じます。

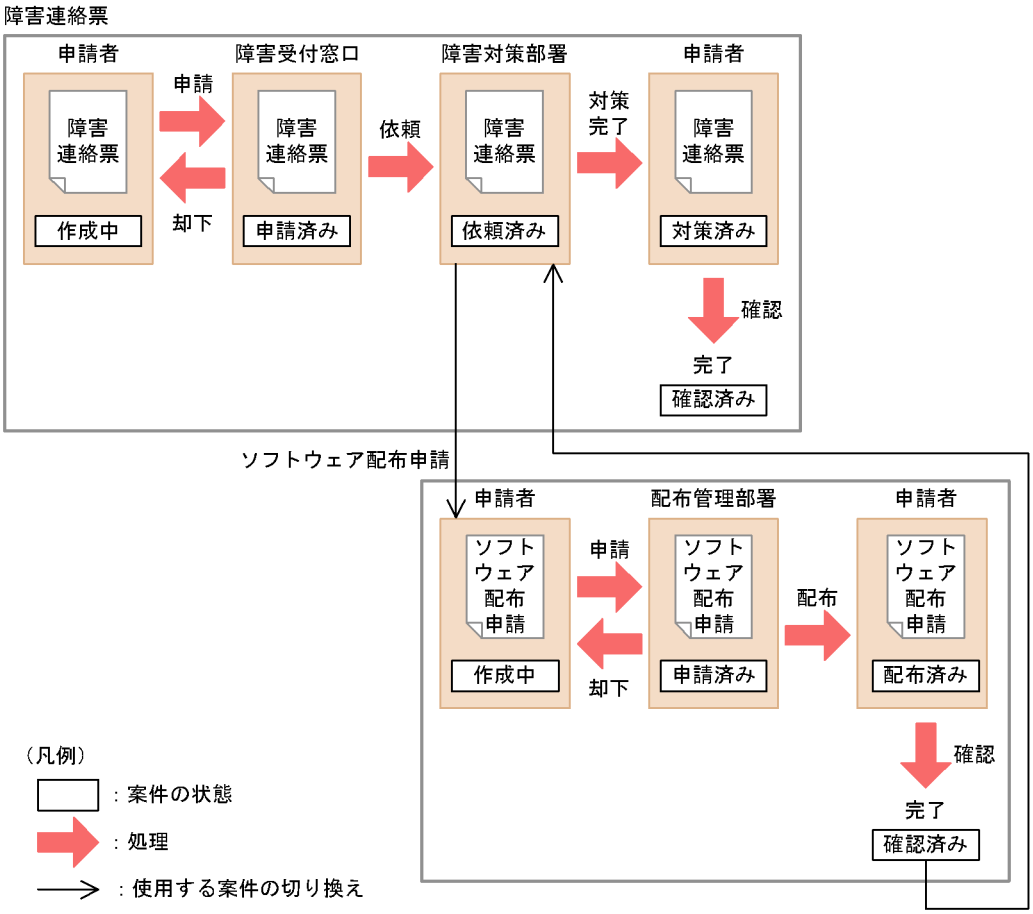
3.1.3 サンプルとして提供されている案件の使用例

業務メニュー「新規案件」では，「障害連絡票」，「ソフトウェア配布申請」，「機器導入依頼票」および「機器発注依頼票」の四つの案件がサンプルで提供されています。これらの案件は，「障害連絡票」と「ソフトウェア配布申請」，または「機器導入依頼票」と「機器発注依頼票」を組み合わせて使用したり，一つの案件だけで使用したりできます。ここでは，サンプル提供の案件を使用した障害対策，および機器導入の業務の例を説明します。

(1) ソフトウェアを配布して障害を対策する

サンプルで提供されている案件「障害連絡票」および「ソフトウェア配布申請」を使用して，ソフトウェアを配布して障害を対策する流れを次の図に示します。

図 3-7　ソフトウェアを配布して障害を対策する流れ



次に，ソフトウェアの障害を対策する場合の各案件での作業について説明します。

(a) 障害連絡票

「障害連絡票」は，資産に障害が発生した場合に，障害内容などを記入して申請し，依頼，対策完了および確認の処理を実行するための案件です。

「障害連絡票」で各作業者が実行する操作について説明します。

● 申請者

資産の障害が発生した場合，発生日，障害内容などの詳細情報を記入して「障害連絡票」を作成します。［申請］ボタンをクリックすることで，記入した内容で申請します。

「障害連絡票」にはファイルも添付できます。また，作成途中の案件を保存することもできます。

● 障害受付窓口

申請された「障害連絡票」の内容を確認します。対策する必要がある場合は，障害番

号を採番して［依頼］ボタンをクリックすることで，障害対策部署に案件を送付します。却下する場合は，対策する必要がないなど理由を記入して［却下］ボタンをクリックすることで，案件を申請者に戻します。

● 障害対策部署

依頼を受けて障害の対策が終わったら，対策内容を記入し［対策完了］ボタンをクリックして，申請者に案件を戻します。ソフトウェアの障害で対策版のソフトウェアを配布したい場合は，［配布申請］ボタンをクリックすると表示される「ソフトウェア配布申請」の案件画面から配布を指示します。

● 申請者

申請した障害が対策されたことを確認し，［確認］ボタンをクリックして完了します。

「障害連絡票」の作成方法の詳細については，「3.1.2　障害連絡票の作成例」を参照してください。

(b) ソフトウェア配布申請

「ソフトウェア配布申請」は，ソフトウェアの配布を申請し，配布および確認の処理を実行するための案件です。

「ソフトウェア配布申請」で各作業者が実行する操作について説明します。

● 申請者

障害対策部署が障害を受け付け，ソフトウェアの障害で対策版のソフトウェアを配布する必要がある場合，配布したい資産，ソフトウェア名，バージョンなどの詳細情報を記入して「ソフトウェア配布申請」を作成します。［申請］ボタンをクリックすることで，ソフトウェアの配布を申請します。また，作成途中の案件を保存することもできます。

● 配布管理部署

申請された「ソフトウェア配布申請」に記入されているソフトウェア名やバージョンのパッケージを指定して，［配布］ボタンをクリックするとパッケージを配布できます。却下する場合は，対象となるソフトウェアが無いなど理由を記入して［却下］ボタンをクリックすることで，案件を申請者に戻します。

● 申請者

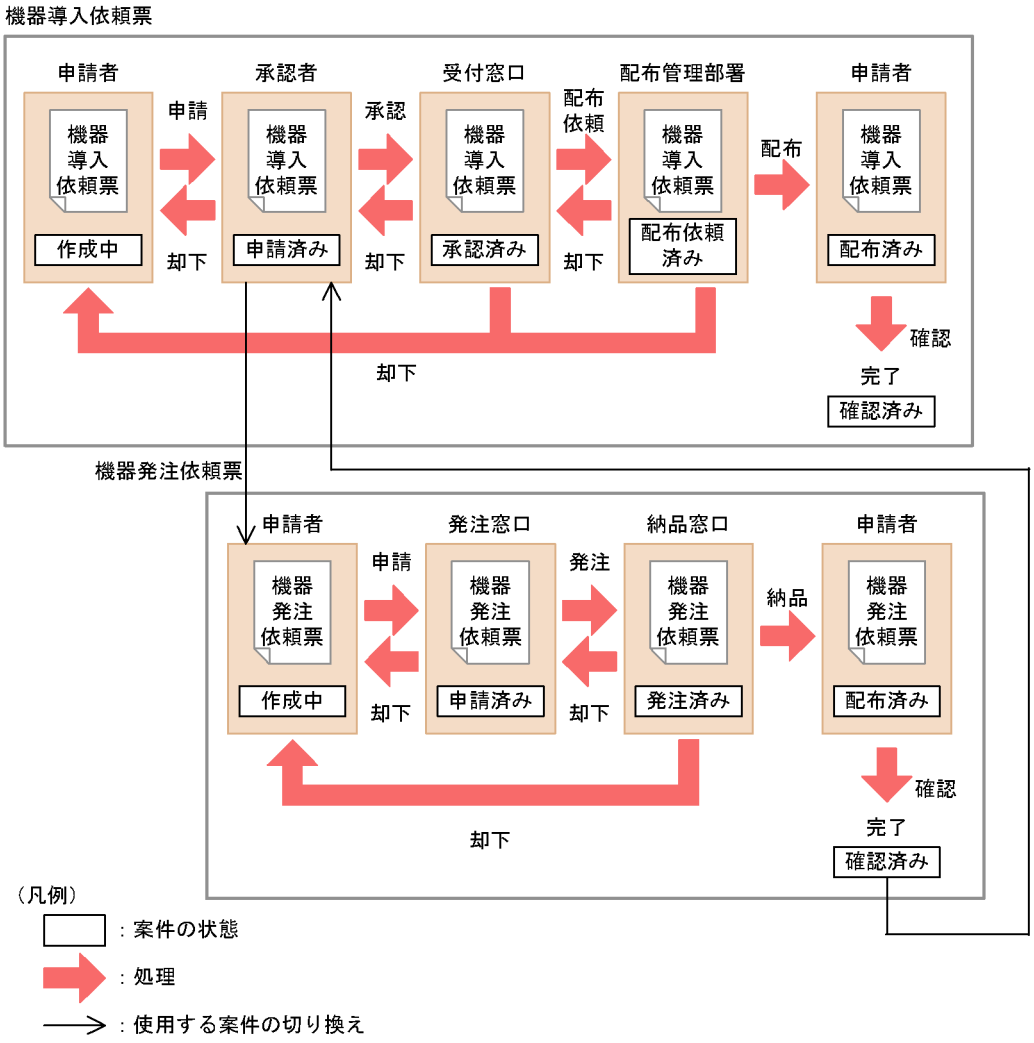
申請したソフトウェアが配布されたこと確認して，［確認］ボタンをクリックすると完了します。

そのあと，「障害連絡票」の対策内容を記入します。［対策完了］ボタンをクリックして「障害連絡票」の障害対策部署に案件を送付します。

(2) 申請された機器を発注して導入する

サンプルで提供されている案件「機器導入依頼票」および「機器発注依頼票」を使用して，機器を導入する流れを次の図に示します。

図 3-8　機器を導入する流れ



次に，機器を導入する場合の各案件での作業について説明します。

(a) 機器導入依頼票

「機器導入依頼票」は，新規に機器を導入したい場合に，機器の導入を申請し，承認，配布および完了の処理を実行するための案件です。

「機器導入依頼票」で各作業者が実行する操作について説明します。

● 申請者

新規に機器を導入する場合，機器の種別や名称，型式，仕様などの詳細情報を記入し「機器導入依頼票」を作成します。［申請］ボタンをクリックすることで機器の導入を申請します。また，作成途中の案件を保存することもできます。

● 承認者

申請された「機器導入依頼票」の内容を確認して承認します。［承認］ボタンをクリックすることで，受付窓口に案件を送付します。却下する場合は，機器を導入する必要がないなど理由を記入して［却下］ボタンをクリックすることで，案件を申請者に戻します。

● 受付窓口

承認された「機器導入依頼票」に対して在庫を確認し，在庫があれば対象機器を選択して［配布依頼］ボタンをクリックすることで，配布管理部署に案件を送付します。在庫が無い場合，［発注］ボタンをクリックすると表示される「機器発注依頼票」の案件画面から発注を指示します。そのあと，機器が納品されたら対象機器を選択して［配布依頼］ボタンをクリックすることで，配布管理部署に案件を送付します。

● 配布管理部署

配布される機器の情報に利用者，部署，設置場所などの詳細情報を記入して［配布］ボタンをクリックして，申請者に案件を送付します。

● 申請者

申請した機器が導入されたこと確認して，［完了］ボタンをクリックすると完了します。

(b) 機器発注依頼票

「機器発注依頼票」は，機器の発注を申請し，発注，納品および確認の処理を実行するための案件です。

「機器発注依頼票」で各作業者が実行する操作について説明します。

● 申請者

受付窓口が機器の導入を受け付け，在庫が無い場合，配布したい資産のスペックなどの詳細情報を記入して「機器発注依頼票」を作成します。［申請］ボタンをクリックすることで，機器発注の依頼を申請します。また，作成途中の案件を保存することもできます。

● 発注窓口

申請された発注内容を確認して，予算があるかどうかなどを稟議して問題が無ければ［発注］ボタンをクリックすることで，機器の発注を依頼します。問題がある場合は，予算が無いなど理由を記入し［却下］ボタンをクリックして，申請者に案件を戻します。

● 納品窓口

発注した機器が納品されたことを確認して，納品された機器のリストを作成してアップロードします。［納入］ボタンをクリックして機器を登録して，申請者に案件を送付します。却下する場合は，［却下］ボタンをクリックすることで，「機器発注依頼票」の申請者または発注窓口に案件を戻します。

● 申請者

申請した機器が納品されたこと確認して，［完了］ボタンをクリックすると完了します。

3.2　受信した案件を処理する（受信トレイ）

この節では，受信した案件の内容を確認後，承認する方法，および問題があり却下する方法について説明します。また，却下されて戻された案件を再度送信する方法についても説明します。

受信した案件は，業務メニュー「受信トレイ」をクリックすると表示される受信トレイ画面から処理します。受信トレイ画面を次の図に示します。

図 3-9　受信トレイ画面

受信トレイ画面では，受信した案件の一覧が表示されます。案件の一覧には，ログインしたユーザあてに送付された案件のうち，まだ処理を実行していない案件が受信日の降順で表示されます。また，「案件名」のアンカーをクリックすると，案件画面を表示できます。

ほかのユーザから代行受信者として設定されている場合は，「代行案件も表示する」のチェックボックスをチェックして，［最新］ボタンをクリックすると，代行した案件も表示されます。

画面に表示される案件のアイコンの種類を説明します。

：通常処理中

通常の処理ルートに従って送付された案件を示します。

：却下

却下された案件を示します。

3.2.1 案件を承認または却下する

受信トレイ画面の案件の一覧から，該当する案件の「案件名」のアンカーをクリックすると，案件画面が表示されて，承認または却下の処理ができます。

(1) 案件を承認する

案件を承認する手順を次に示します。

1. **案件画面で案件を承認するボタンをクリックする。**
   ［送信先の選択］ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
2. **「ユーザ名」のアンカーをクリックして，次の処理を実行する職権を持つユーザを指定する。**
   デフォルトでは，案件を送信するユーザの所属する部署またはその上位部署に，該当する職権を持つユーザがいた場合，送信先のユーザが指定されています。
   変更する場合は，該当するユーザを選択してください。
3. **［メール文編集］ボタンをクリックする。**
   ［通知メールの編集］ダイアログが表示されます。
   案件の到着を通知するメールの「メール主題」および「メール本文」の内容を編集します。
   なお，メールを送信しない場合は，［送信先の選択］ダイアログで「メールを送信しない」チェックボックスをチェックしてください。また，通知のメールを設定していないときは，手順 3. および手順 4. は不要です。
4. **［登録］ボタンをクリックする。**
   ［通知メールの編集］ダイアログが閉じて，編集したメールの内容で登録されます。
5. **［決定］ボタンをクリックする。**
   ［送信先の選択］ダイアログおよび案件画面が閉じて，送信先に指定したユーザへ案件が送付されます。
   案件の到着を通知する設定にしている場合は，メールが送信先のユーザへ送付されます。
   また，作成の途中で案件を保存する場合は，［保存］ボタンをクリックします。保存した案件は送信トレイに表示されます。このとき，案件の状態は「作成中」になります。

注意事項

- 案件を送付したことを通知するメールは，ユーザ管理情報に登録されたメールアドレスを基に送信されます。そのため，メール送信先のユーザのメールアドレスが登録されていない場合は，メール送信を設定してもメールは送信されません。
  案件の作業者（メール送信元）のメールアドレスが登録されていない場合は，［サーバセットアップ］ダイアログの「メールの送信元アドレス」に設定したメールアドレスが送信元のメールアドレスになります。
- 案件の主題項目は，案件の申請者だけが設定できます。申請者以外が主題項目の

内容を変更しても，受信トレイ画面，送信トレイ画面および実行案件管理画面の「主題」には反映されません。なお，受信トレイ画面，送信トレイ画面および実行案件管理画面に「主題」の欄を表示するには，管理項目編集での設定が必要です。「主題」の欄を表示する方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「10.4.3(3)(1)　主題項目」を参照してください。

(2) 案件を却下する

案件を却下する場合の手順を次に示します。

1. **案件画面に却下理由を入力する欄がある場合は，案件を却下する理由を入力する。**
2. **［却下］ボタンをクリックする。**
   ［却下先の選択］ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
3. **一つ前の作業者または最初に案件を作成した作業者のどちらかを選択して，［決定］ボタンをクリックする。**
   ［却下先の選択］ダイアログが閉じて，選択したユーザへ案件が送付されます。
   案件の到着を通知する設定にしている場合は，送信先のユーザへメールが送付されます。メールの送信を抑止したり，内容を編集したりすることはできません。

［却下先の選択］ダイアログを次の図に示します。

図 3-10　［却下先の選択］ダイアログ

3.2.2　代行受信者を設定する

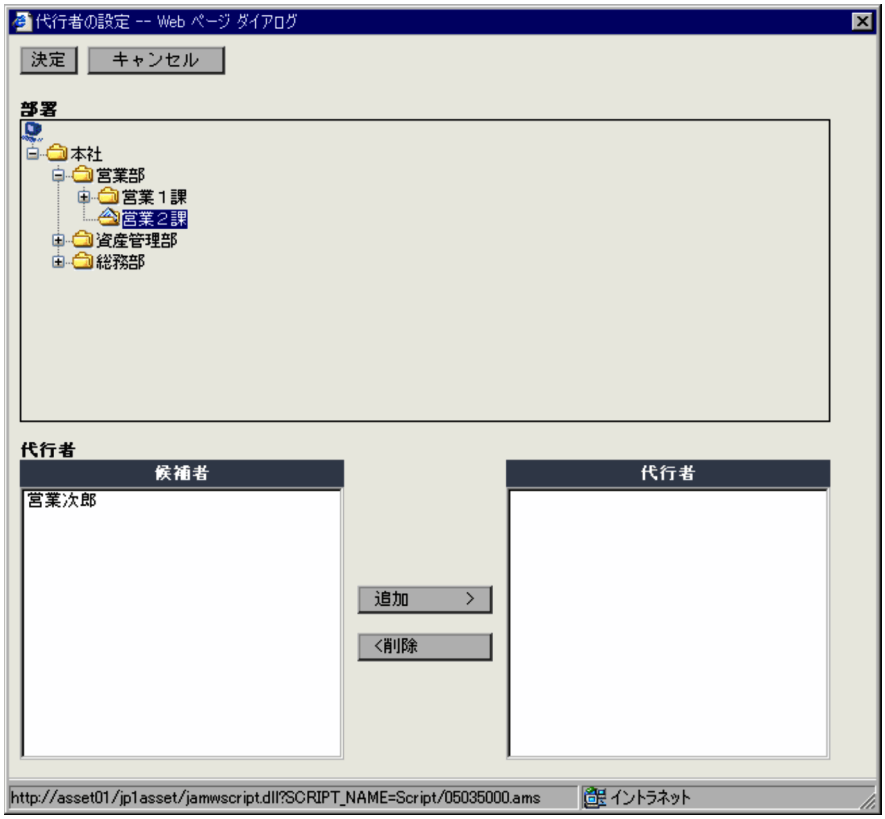
出張，休暇などで受信した案件を処理できない場合に，代行者に案件を処理してもらうことができます。

代行受信者を設定する手順を次に示します。

1. **受信トレイ画面で［代行者設定］ボタンをクリックする。**
   ［代行者の設定］ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
2. **候補者リストから代行者を選択して，［追加］ボタンをクリックする。**
   代行者リストに，選択した代行者が追加されます。代行者は複数登録できます。
3. **［決定］ボタンをクリックする。**
   ［代行者の設定］ダイアログが閉じて，追加した代行者が登録されます。

［代行者の設定］ダイアログを次の図に示します。

図 3-11　［代行者の設定］ダイアログ



3.2.3 却下された案件を再度送信する

ここでは，却下されて戻された案件を修正して，再度送信する方法について説明します。

案件を再度送信する手順を次に示します。

1. **受信トレイ画面の案件の一覧から，却下された案件の「案件名」のアンカーをクリックする。**
   案件画面が表示されます。
2. **却下理由を確認して，案件を修正する。**
3. **案件画面で案件を送信するボタンをクリックする。**
   ［送信先の選択］ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
4. **「ユーザ名」のアンカーをクリックして，次の処理を実行する職権を持つユーザを指定する。**
   デフォルトでは，案件を送信するユーザの所属する部署またはその上位部署に，該当する職権を持つユーザがいた場合，送信先のユーザが指定されています。
   変更する場合は，該当するユーザを選択してください。
5. **［メール文編集］ボタンをクリックする。**
   ［通知メールの編集］ダイアログが表示されます。
   案件の到着を通知するメールの「メール主題」および「メール本文」の内容を編集します。
   なお，メールを送信しない場合は，［送信先の選択］ダイアログで「メールを送信しない」チェックボックスをチェックしてください。また，通知のメールを設定していないときは，手順 5. および手順 6. は不要です。
6. **［登録］ボタンをクリックする。**
   ［通知メールの編集］ダイアログが閉じて，編集したメールの内容で登録されます。
7. **［決定］ボタンをクリックする。**
   ［送信先の選択］ダイアログおよび案件画面が閉じて，送信先に指定したユーザへ案件が送付されます。
   案件の到着を通知する設定にしている場合は，メールが送信先のユーザへ送付されます。

3.3　送信した案件の確認と引き戻し（送信トレイ）

この節では，送信した案件の状態を確認して，必要に応じて申請した案件を引き戻す方法について説明します。また，作成の途中で保存した案件を，編集して送信する方法についても説明します。

3.3.1　送信した案件の状況を確認する

送信した案件の状況は，業務メニュー「送信トレイ」をクリックすると表示される送信トレイ画面から確認します。送信トレイ画面を次の図に示します。

図 3-12　送信トレイ画面

送信トレイ画面では，ログインしたユーザが送信した案件，および作成の途中で保存した案件の一覧が送信日の降順で表示されます。一覧に表示されている「状態」のアンカーをクリックすると，案件の進ちょくを確認できます。また，「案件名」のアンカーをクリックすると，案件画面を表示できます。

「完了した案件も表示する」のチェックボックスをチェックして，［最新］ボタンをクリックすると，処理が完了した案件も表示されます。

画面に表示される案件のアイコンについて説明します。

：処理期限内

期限内の案件および処理期限が設定されていない案件を示します。

：処理期限超過

指定された処理期限を超過した案件を示します。処理期限を超過した案件は，案件名以外が赤く表示されます。

3.3.2 送信した案件を引き戻す

一度送信した案件の内容を訂正したい場合に，案件を引き戻せます。案件を引き戻せるのは，送信した案件が，送信先の受信トレイにあるときだけです。

送信トレイ画面の案件の一覧から，引き戻したい案件の「送信日」のチェックボックスをチェックして，［引き戻し］ボタンをクリックすると，案件を引き戻せます。引き戻した案件の状態は，案件を受信したときの状態に戻ります。作成中に保存した案件と同様に，内容を修正したあと，再度送信できます。

3.3.3 保存した案件を送信する

状態が「作成中」の案件および引き戻した案件を編集して送信できます。

送信トレイ画面の案件の一覧から，該当する案件の「案件名」のアンカーをクリックすると，案件画面が表示されます。

案件を送信する手順を次に示します。

1. **案件画面で，案件を送信するボタンをクリックする。**
［送信先の選択］ダイアログが表示されます。
キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

2. **「ユーザ名」のアンカーをクリックして，次の処理を実行する職権を持つユーザを指定する。**
デフォルトでは，案件を送信するユーザの所属する部署またはその上位部署に，該当する職権を持つユーザがいた場合，送信先のユーザが指定されています。
変更する場合は，該当するユーザを選択してください。

3. **［メール文編集］ボタンをクリックする。**
［通知メールの編集］ダイアログが表示されます。
案件の到着を通知するメールの「メール主題」および「メール本文」の内容を編集します。
なお，メールを送信しない場合は，［送信先の選択］ダイアログで「メールを送信しない」チェックボックスをチェックしてください。また，通知のメールを設定していないときは，手順 3. および手順 4. は不要です。

4. **［登録］ボタンをクリックする。**
［通知メールの編集］ダイアログが閉じて，編集したメールの内容で登録されます。

5. **［決定］ボタンをクリックする。**
［送信先の選択］ダイアログおよび案件画面が閉じて，送信先に指定したユーザへ案件が送付されます。

案件の到着を通知する設定にしている場合は，メールが送信先のユーザへ送付されます。

3.3.4　案件の進ちょくを確認する

送信した案件がいつ処理されたか，どこの管理ノードまで処理が終わっているかなどを確認できます。

送信トレイ画面の案件の一覧から，該当する案件の「状態」のアンカーをクリックすると，案件の進ちょくを示すダイアログが表示されます。案件の進ちょくを示すダイアログを次の図に示します。

図 3-13　案件の進ちょくを示すダイアログ

最終実行日時	操作	ノード名	ユーザ名	電話番号	メールアドレス
		受付窓口	資産三郎	333-333-3333	saburo_sisan@xxxxx.co.jp
2005/10/25 22:28:59	承認	承認者	資産次郎	222-222-2222	jiro_sisan@xxxxx.co.jp
2005/10/25 20:22:43	申請	申請者	資産太郎	111-111-1111	taro_sisan@xxxxx.co.jp

該当する案件のルートと各ノードで案件を処理した際の履歴が表示され，案件の進ちょくや処理したユーザの詳細が確認できます。処理が終わっているアクティビティは，オレンジ色で表示されます。

3.3.5　案件を削除する

状態が「作成中」の案件を削除できます。

送信トレイ画面の案件の一覧から，削除したい案件の「送信日」のチェックボックスをチェックして，［削除］ボタンをクリックすると，案件を削除できます。案件は複数選択できます。

状態が「作成中」以外の案件は，管理者だけが削除できます。状態が「作成中」以外の案件を削除する方法については，「3.4　案件の管理（実行案件管理）」を参照してください。

3.4　案件の管理（実行案件管理）

この節では，資産管理サーバ上の案件を検索して内容を参照する方法について説明します。また，検索結果から案件の内容を確認したり，状態に関係なく案件を削除したりする方法についても説明します。

なお，デフォルトでは，実行案件管理は管理者だけが実行できます。

案件の管理は，業務メニュー「実行案件管理」をクリックすると表示される実行案件管理画面から実行します。実行案件管理画面を次の図に示します。

図 3-14　実行案件管理画面

案件を検索して内容を確認したい場合に，検索結果の一覧で，該当する案件の「案件名」のアンカーをクリックすると，案件画面が読み取り専用で表示されます。また，「状態」のアンカーをクリックすると，該当する案件のルートと各ノードで案件を処理した際の履歴が表示され，案件の進ちょくを確認することもできます。

管理者が，不要になった案件，保存期間を過ぎた案件などを削除したい場合に，検索結果の一覧から，削除したい案件の「登録日」のチェックボックスをチェックして，［削除］ボタンをクリックすると，案件を削除できます。案件は複数選択できます。

3.5　FAQ（案件の作成と処理）

この節では，案件を作成および処理するに当たり，発生した問題に対して考えられる原因や対処方法について，FAQ で説明します。

（1） 新規案件画面に，「利用できる案件はありません。」と表示されて，案件が作成できない

公開中の案件が一つも無い，またはログインしているユーザに割り当てられている職権で新規に作成できる案件が無いことが考えられます。案件を公開するか，または案件を作成するユーザに職権を割り当ててください。

案件を公開する方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「10.7.2　案件を公開または公開停止にする」を参照してください。また，ユーザに職権を割り当てる方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「10.2.2(2)　対象ユーザを登録および変更する」を参照してください。

（2） 不在中，案件の承認を代行してもらいたい

受信トレイ画面から，代行受信者を設定してください。

設定方法については，「3.2.2　代行受信者を設定する」を参照してください。

（3） 申請した案件の状態を知りたい

送信トレイ画面から，申請した案件の状態を確認してください。

確認方法については，「3.3.1　送信した案件の状況を確認する」を参照してください。

（4） 申請した案件を取り消したい

送信トレイ画面から，案件を引き戻してください。ただし，案件を引き戻せるのは，送信した案件が，送信先の受信トレイにあるときだけです。そのあとで，引き戻した案件を削除してください。

案件を引き戻す方法については「3.3.2　送信した案件を引き戻す」を，案件を削除する方法については「3.3.5　案件を削除する」を参照してください。

4 共通情報の管理

この章では，業務カテゴリ「システム管理」で実行できる，システムを運用するための共通情報を管理する業務の実行方法について説明します。各タイトルの（）内には，選択するメニューを示します。
なお，共通情報の管理は，業務メニュー「ユーザ検索」および「個人情報」以外は，管理者だけが実行できます。

4.1 **ユーザと組織の情報を変更する（ユーザ組織管理）**

4.2 **ユーザを検索する（ユーザ検索）**

4.3 **設置場所の情報を変更する（設置場所管理）**

4.4 IP **グループ情報を変更する（**IP **グループ管理）**

4.5 **機器のカタログ情報を管理する（機器カタログ管理）**

4.6 **ソフトウェア名を対応づける（ソフトウェア名称管理）**

4.7 **インストールソフトウェア情報を変更する（インストールソフトウェア管理）**

4.8 **種別や状態を追加および変更する（コード管理）**

4.9 **個人情報を参照および変更する（個人情報）**

4.10 **資産情報を一括で更新する（インポート）**

4.11 **資産情報を** CSV **形式で出力する（エクスポート）**

4.12 **インポートの結果を確認する（インポート結果一覧）**

4.13 **ログを参照する（ログ一覧）**

4.1 ユーザと組織の情報を変更する（ユーザ組織管理）

組織編成の変更や人事異動に伴って，ユーザおよび組織の情報を変更します。また，組織階層単位でアクセス制限するための「管理ラベル」を変更します。

ユーザおよび組織の情報の変更は，業務メニュー「ユーザ組織管理」をクリックすると表示されるユーザ組織管理画面から実行します。ユーザ組織管理画面を次の図に示します。

図 4-1 ユーザ組織管理画面

表示する部署は，簡易検索条件の「部署」タブで切り換えます。

デフォルトでは，管理者用のユーザである「資産管理者」（ユーザ ID「admin」）が最上位階層に登録されています。この管理者用のユーザは削除できません。

「部署名／ユーザ名」のアンカーをクリックすると，部署とユーザの詳細情報を参照および編集できます。

他製品との連携用のユーザ

JP1/IM，JP1/IM - CM などの他製品と連携する場合は，各製品から Asset Information Manager の資産情報を参照する際に使用するユーザが作成されます。他製品との連携に使用するユーザを次の表に示します。

表 4-1 他製品との連携に使用するユーザ

ユーザ ID	ユーザ名	権限名	連携製品
JP1_NNM	ネットワーク管理者	利用者	Network Node Manager
JP1_IM	イベント管理者	利用者	JP1/IM
JP1_IM_IDM	インシデント管理者	利用者	JP1/IM - IDM
JP1_IM_CM	構成管理者	利用者	JP1/IM - CM
JP1_IM_SS	サービスサポート管理者	利用者	JP1/IM - Service Support
JP1_NI2	設備管理者	利用者	NetInsight II

他製品との連携に使用するユーザにパスワードを設定することで，各製品から Asset Information Manager の資産情報を参照する際に，Asset Information Manager に自動的にログインできます。

4.1.1 部署を追加する

部署を追加する手順を次に示します。

1. **下位に部署を追加したい部署を，簡易検索条件から選択する。**
2. **［新規部署登録］ボタンをクリックする。**
   ［新規部署登録］ダイアログが表示されます。
   項目名に「★」の付いた項目は，必ず指定してください。
   - **部署 ID**
     各部署でユニークな ID を指定します。指定できる値は，半角英数字です。ただし，英字を指定する場合，大文字と小文字だけが異なる値は指定しないでください。
     「部署 ID」には，削除した部署に所属するユーザを一時的に退避する「ゴミ箱」とは別の部署 ID を設定してください。「ゴミ箱」の部署 ID は，［サーバセットアップ］ダイアログで設定します。デフォルトは「99999999」です。
     ［サーバセットアップ］ダイアログでの設定については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.3.4(6)　部署削除用の「ゴミ箱」部署 ID」を参照してください。
   - **部署名（英名）**
     部署名の英語名を指定します。部署名の最後には，/（スラッシュ）を使用しないでください。なお，同じ階層に，同じ名前の部署は作成できません。
   - **部署名**
     部署名を指定します。部署名の最後には，/（スラッシュ）を使用しないでください。なお，同じ階層に，同じ名前の部署は作成できません。
   - **管理ラベル**
     組織階層単位でアクセスを制限する場合，「管理ラベル」を指定します。「管理ラベル」の指定方法は，マニュアル「設計・構築ガイド」の「3.1.3　組織階層単位でのアクセス制限の設定」を参照してください。

   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。

3. **[新規登録] ボタンをクリックする。**
   指定した内容で，簡易検索条件に部署が追加されます。

   登録する部署の情報を指定した状態の［新規部署登録］ダイアログを次の図に示します。

図 4-2 ［新規部署登録］ダイアログ

4.1.2 ユーザを追加する

ユーザを追加する手順を次に示します。

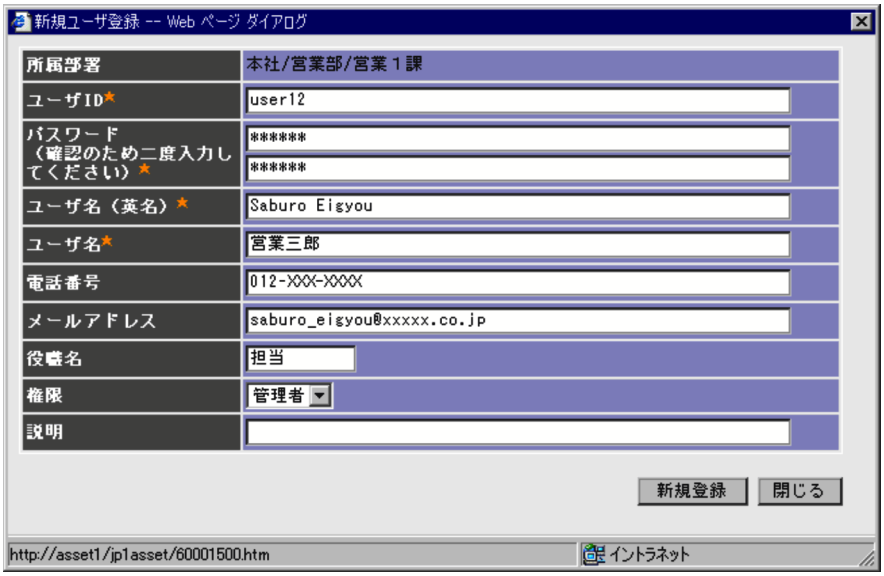
1. **ユーザを追加したい部署を，簡易検索条件または［参照］ボタンから選択する。**
   ただし，最上位組織にユーザは追加できません。
2. **[新規ユーザ登録] ボタンをクリックする。**
   ［新規ユーザ登録］ダイアログが表示されます。
   項目名に「★」の付いた項目は，必ず指定してください。
   - **ユーザ ID**
     各ユーザでユニークな ID を指定します。指定できる値は，半角英数字です。
   - **パスワード**
     確認のため，同じパスワードを 2 回指定してください。指定できる値は，半角英数字です。
   - **ユーザ名（英名）**
     ユーザ名の英語名を指定します。
   - **ユーザ名**
     ユーザ名を指定します。

   また，「権限」でユーザ権限を選択してください。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
3. **[新規登録] ボタンをクリックする。**

指定した内容でユーザが追加されます。

登録するユーザの情報を指定した状態の［新規ユーザ登録］ダイアログを次の図に示します。

図 4-3 ［新規ユーザ登録］ダイアログ



4.1.3 ユーザまたは組織を削除する

ユーザ組織管理画面で，削除したい部署またはユーザのチェックボックスをチェックして［削除］ボタンをクリックすると，部署およびユーザを削除できます。

削除したユーザおよび部署は，部署のツリーに作成された「ゴミ箱」に移動されます。削除した部署の下位に部署やユーザがある場合は，階層関係やユーザ情報を維持したまま「ゴミ箱」に移動されます。そのため，誤って削除してしまった情報は，「ゴミ箱」から元の場所に移動して回復させることができます。ただし，「ゴミ箱」から削除すると，元に戻せません。

注意事項

業務メニュー「IP グループ管理」で，部署別 IP グループを作成して IP アドレスを管理している場合，部署を削除すると対応づけられている IP グループも削除されます。ただし，削除した部署が「ゴミ箱」にある間は，削除されません。

4.1.4 ユーザまたは組織を移動する

ユーザまたは組織の移動手順を次に示します。

1. **移動したい部署またはユーザのチェックボックスをチェックして，［移動］ボタンを**

クリックする。
［部署参照］ダイアログが表示されます。ただし，移動先を指定するダイアログには，「ゴミ箱」は表示されません。
キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。

2. **移動先を指定して［決定］ボタンをクリックする。**
ユーザまたは組織を，指定した場所に移動できます。

4.2　ユーザを検索する（ユーザ検索）

組織を意識しないでユーザを検索できます。知っている情報からユーザを特定できるため，削除したい権限に設定されているユーザを検索したり，ユーザ名から電話番号を調べたりできます。

ユーザの検索は，業務メニュー「ユーザ検索」をクリックすると表示されるユーザ検索画面から実行します。ユーザ検索画面を次の図に示します。

図 4-4　ユーザ検索画面

検索結果の一覧で「ユーザ名」のアンカーをクリックすると，ユーザの詳細情報を確認できます。

4.3 設置場所の情報を変更する（設置場所管理）

勤務地の移動や拡張に伴って設置場所情報を変更します。

なお，デフォルトの設定では，設置場所管理は管理者だけが実行できます。

設置場所情報の変更は，業務メニュー「設置場所管理」をクリックすると表示される設置場所管理画面から実行します。設置場所管理画面を次の図に示します。

図 4-5 設置場所管理画面

一覧に表示する設置場所は，操作画面左側の「設置場所」タブにツリー表示されている部署を選択して切り換えます。

「設置場所名」のアンカーをクリックすると，［設置場所詳細］ダイアログが表示されて，詳細情報を参照および変更できます。

4.3.1 設置場所を追加する

設置場所を追加する手順を次に示します。

1. **下位に設置場所を追加したい設置場所を，簡易検索条件から選択する。**
   「ゴミ箱」以下には設置場所は追加できません。

2. **［新規設置場所登録］ボタンをクリックする。**
［新規設置場所登録］ダイアログが表示されます。
項目名に「★」の付いた次の項目は，必ず指定してください。
- **「設置場所 ID」**
各設置場所でユニークな ID を指定します。指定できる値は，半角英数字です。ただし，英字を指定する場合，大文字と小文字だけが異なる値は指定しないでください。削除した設置場所を一時的に退避する「ゴミ箱」とは別の設置場所 ID を設定してください。「ゴミ箱」の設置場所 ID は，［サーバセットアップ］ダイアログで設定します。デフォルトは「99999999」です。
［サーバセットアップ］ダイアログでの設定については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.3.4(7)　設置場所削除用の「ゴミ箱」設置場所 ID」を参照してください。
- **「設置場所名（英名）」**
設置場所名の英語名を指定します。設置場所名の最後には，/（スラッシュ）を使用しないでください。なお，同じ階層に，同じ名前の設置場所は作成できません。
- **「設置場所名」**
設置場所名を指定します。設置場所名の最後には，/（スラッシュ）を使用しないでください。なお，同じ階層に，同じ名前の設置場所は作成できません。

キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。

3. **［新規登録］ボタンをクリックする。**
指定した内容で，簡易検索条件に設置場所が追加されます。

登録する設置場所の情報を指定した状態の［新規設置場所登録］ダイアログを次の図に示します。

図 4-6　［新規設置場所登録］ダイアログ

4.3.2 設置場所を削除する

設置場所管理画面で，削除したい設置場所のチェックボックスをチェックして［削除］ボタンをクリックすると，設置場所を削除できます。

なお，下位に設置場所がある場合，下位の設置場所も削除されます。

削除した設置場所は，設置場所のツリーに作成された「ゴミ箱」に移動されます。削除した設置場所の下位に設置場所がある場合は，階層関係を維持したまま「ゴミ箱」に移動されます。そのため，誤って削除してしまった情報は，「ゴミ箱」から元の場所に移動して回復させることができます。ただし，「ゴミ箱」から削除すると，元に戻せません。

注意事項

- 業務メニュー「IP グループ管理」で，設置場所別 IP グループを作成して IP アドレスを管理している場合，設置場所を削除すると対応づけられている IP グループも削除されます。ただし，削除した設置場所が「ゴミ箱」にある間は，削除されません。
- 業務メニュー「利用可能業務割り当て」で，管理者以外のユーザも業務メニュー「設置場所管理」を利用できるように設定している場合，管理者以外のユーザは，いったんログアウトすると「ゴミ箱」は表示されなくなります。そのため，ログアウトしたあとで「ゴミ箱」以下の設置場所を元に戻す場合は，管理者に依頼してください。

4.3.3 設置場所を移動する

設置場所を移動する手順を次に示します。

1. **設置場所管理画面で，移動したい設置場所のチェックボックスをチェックする。**
   削除した設置場所を戻す場合は，「ゴミ箱」内の設置場所のチェックボックスをチェックします。
2. **［移動］ボタンをクリックする。**
   ［設置場所参照］ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
3. **移動先の設置場所を指定して，［決定］ボタンをクリックする。**
   設置場所の移動先には，「ゴミ箱」以下の設置場所は指定できません。
   ［設置場所参照］ダイアログが閉じて，設置場所管理画面で選択した設置場所が，指定した設置場所に移動します。

4.4　IP グループ情報を変更する（IP グループ管理）

IP アドレスをアドレス範囲で区切って，IP **グループ**として管理します。部門，設置場所などでグループを作成して，わかりやすい名称を付けて IP アドレスの使用状況を管理できます。IP グループの管理対象となるのは，IPv4 の IP アドレスだけです。

なお，デフォルトの設定では，IP グループ管理は管理者だけが実行できます。

IP グループ情報は，業務メニュー「IP グループ管理」をクリックすると表示される IP グループ管理画面で変更できます。IP グループ管理画面を次の図に示します。

図 4-7　IP グループ管理画面

検索結果の一覧で「IP グループ名」のアンカーをクリックすると，IP グループの詳細情報を参照，変更および削除できます。

IP アドレスを部署別に分類して管理する場合は「部署別 IP グループ」タブで，IP アドレスを設置場所別に分類して管理する場合は「設置場所別 IP グループ」タブで，IP グループを作成します。部署内のグループ別に分類して管理する場合や，複数の部署を一つのグループとして管理する場合などは，「IP グループ」タブで IP グループを作成します。

また，「部署別 IP グループ」タブおよび「設置場所別 IP グループ」タブで IP グループを作成することによって，JP1/NETM/DM のインベントリ情報と Network Node

Managerのノード情報を取り込む際，およびタスク「データメンテナンス」実行時に，各機器のIPアドレスに対応する部署と設置場所を自動的に登録できます。JP1/NETM/DMで，ユーザインベントリ情報として部署および設置場所の情報を取得していない場合も，IPアドレスから部署と設置場所を登録できます。

IPアドレスに対応する部署および設置場所を自動的に登録するには，［サーバセットアップ］ダイアログでの設定が必要です。［サーバセットアップ］ダイアログの設定方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.3.4　基本情報の設定」を参照してください。また，タスク「データメンテナンス」実行時に，IPアドレスに対応する部署および設置場所を自動的に登録するには，設定ファイル（taskopt.ini）を変更する必要があります。設定ファイルの変更方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.9.3(3)　実施する作業の変更」を参照してください。

4.4.1　IPグループを追加する

IPグループを追加する手順を次に示します。

1. **IPグループを追加するタブを選択する。**

2. **［新規登録］ボタンをクリックする。**
   選択したタブに応じて，［IPグループ登録］ダイアログ，［部署別IPグループ登録］ダイアログまたは［設置場所別IPグループ登録］ダイアログが表示されます。
   項目名に「★」の付いた項目は，必ず指定してください。
   また，「アドレス範囲」は，範囲内のIPアドレスが1,024個を超えないように指定します。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。

   注意事項

   同じタブには，IPアドレスの範囲が重複するIPグループは作成できません。ただし，タブが異なれば，範囲が重複するIPグループも作成できます。そのため，別のタブに範囲が重複するIPグループを作成するときは，同じIPアドレスに対して，DHCPサーバの使用と未使用が混在しないようにしてください。DHCPサーバを使用するIPグループに含まれるIPアドレスは，固定で使用されていても，未使用IPアドレスとして認識されます。

3. **［登録］ボタンをクリックする。**
   指定した内容で，IPグループが登録されます。

   登録するIPグループの情報を指定した状態の［部署別IPグループ登録］ダイアログを次の図に示します。

図 4-8 ［部署別 IP グループ登録］ダイアログ

4.4.2 IP アドレスの使用状況を参照する

各タブの IP グループの検索一覧から，グループ内の IP アドレスの使用状況や，IP アドレスの割り当て先などを参照する手順を次に示します。

1. **各タブの IP グループの検索一覧で，「アドレス範囲」のアンカーをクリックする。**
［IP アドレス管理］ダイアログが表示されて，グループ内の IP アドレスの使用状況や，IP アドレスの割当先を参照できます。

使用状況で一覧を絞り込む

プルダウンから「未使用」，「使用」または「使用（複数のみ）」を選択して，［表示］ボタンをクリックします。

一つの IP アドレスを使用している複数の機器を確認する

「使用状況」の欄の「使用（複数）」のアンカーをクリックします。
［IP アドレス管理　機器一覧］ダイアログが表示されて，同一の IP アドレスを使用している機器の一覧が表示されます。
割り当てを解除したい場合は，「資産番号」のチェックボックスをチェックして，［解除］ボタンをクリックします。

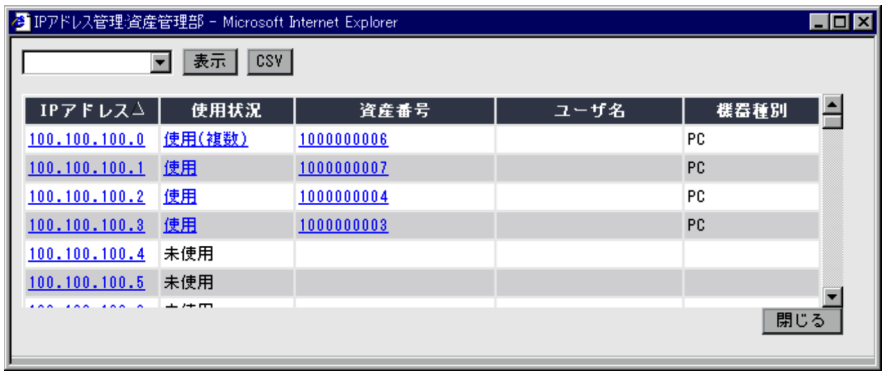
機器およびユーザの詳細情報を表示する

「資産番号」または「ユーザ名」のアンカーをクリックすると，それぞれ［機器詳細］ダイアログ，［ユーザ詳細］ダイアログが表示されて，詳細情報を参照できます。

2. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
［IP アドレス管理］ダイアログが閉じます。

［IP アドレス管理］ダイアログを次の図に示します。

図 4-9　［IP アドレス管理］ダイアログ



4.4.3　IP アドレスを機器に割り当てる

IP アドレスを機器に割り当てる手順を次に示します。

1. **各タブの IP グループの検索一覧で，「アドレス範囲」のアンカーをクリックする。**
   ［IP アドレス管理］ダイアログが表示されます。
2. **機器に割り当てたい IP アドレスのアンカーをクリックする。**
   ［IP アドレス管理　資産割り当て］ダイアログが表示されます。
3. **必要に応じて検索条件を指定して，［検索］ボタンをクリックする。**
   IP アドレスが割り当てられていない機器の中から，条件に一致する機器が検索されます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
4. **検索結果から機器を選択して［割り当て］ボタンをクリックする。**
   選択した機器に IP アドレスが割り当てられます。

   機器を検索した状態の［IP アドレス管理　資産割り当て］ダイアログを次の図に示します。

図 4-10　［IP アドレス管理　資産割り当て］ダイアログ

4.4.4　機器に割り当てられている IP アドレスを解除する

機器に割り当てられている IP アドレスを解除する手順を次に示します。

1. **各タブの IP グループの検索一覧で，「アドレス範囲」のアンカーをクリックする。**
   ［IP アドレス管理］ダイアログが表示されます。
2. **割り当てを解除したい IP アドレスの「使用状況」のアンカーをクリックする。**
   ［IP アドレス管理　機器一覧］ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
3. **割り当てを解除したい機器の「資産番号」のチェックボックスをチェックして，［解除］ボタンをクリックする。**
   選択した機器への IP アドレスの割り当てが解除されます。
   また，解除した IP アドレスを含むネットワーク情報は，次のように削除されます。
   - 「DHCP サーバ名」が登録されている場合，または「MAC アドレス」，「ホスト名」，「コンピュータ名」のうち一つ以上登録されている場合，インベントリ情報取得時に対応する値がなければ削除されます。
   - 「DHCP サーバ名」，「MAC アドレス」，「ホスト名」および「コンピュータ名」のすべてが登録されていない場合，割り当てを解除したときに削除されます。

4.4.5 IP アドレスの使用状況をダウンロードする

IP グループごとに，IP アドレスの使用状況を CSV ファイルとしてダウンロードする手順を次に示します。

1. **各タブの IP グループの検索一覧で，「アドレス範囲」のアンカーをクリックする。**
   ［IP アドレス管理］ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
2. **ダウンロードしたい IP アドレスの使用状況を，プルダウンから選択して，［CSV］ボタンをクリックする。**
   選択した使用状況と一致する IP アドレスの「IP アドレス」，「資産番号」，「ユーザ名」および「機器種別」が CSV ファイルに出力されます。
   選択した使用状況が「空白」，「使用」または「使用（複数のみ）」の場合は，各 IP アドレスに割り当てられているすべての機器の情報を出力するかどうかを，確認するダイアログが表示されます。
   IP アドレスと，IP アドレスを使用しているすべての機器の情報を出力する場合は，［はい］ボタンをクリックしてください。
   IP アドレスと，IP アドレスを使用している機器 1 台分の情報を出力する場合は，［いいえ］ボタンをクリックしてください。IP アドレスが使用されているかどうかを確認する場合など，すべての機器の情報を出力する必要がないときは，［いいえ］ボタンをクリックしてください。
   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

4.4.6 IP グループを削除する

各タブで，IP グループを削除する手順を次に示します。

1. **各タブの IP グループの検索一覧で，削除したい IP グループのチェックボックスをチェックする。**
2. **［削除］ボタンをクリックする。**
   確認のメッセージダイアログが表示されます。［OK］ボタンをクリックすると，IP グループが削除されます。

4.5　機器のカタログ情報を管理する（機器カタログ管理）

新規機器の登録時に使用する機器のカタログ情報を登録および編集します。

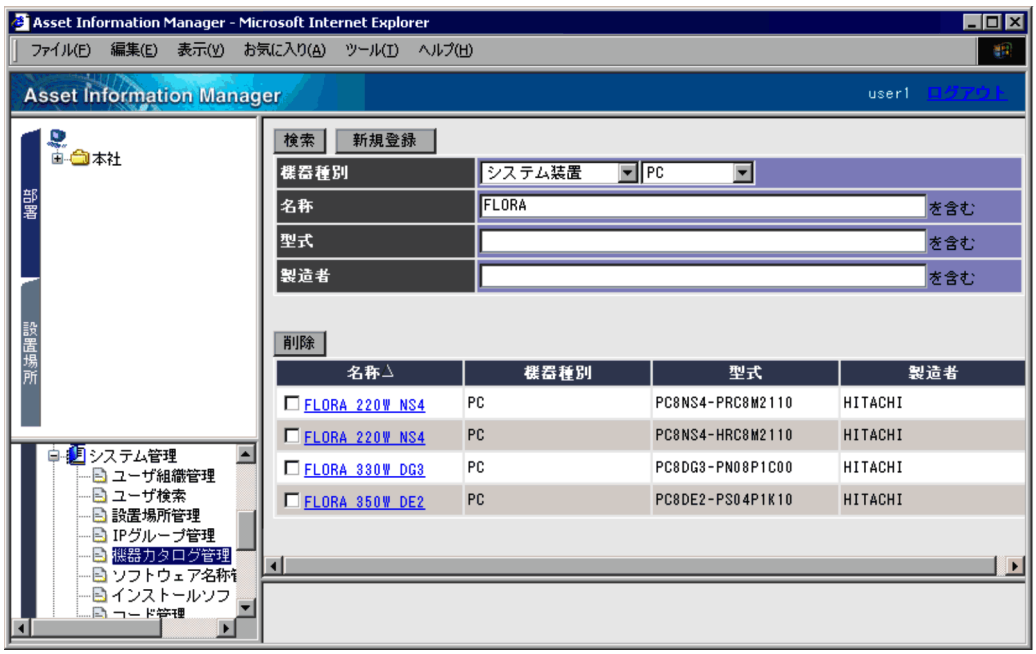
機器の情報には，CPU やメモリサイズなど，製品ごとに決まっている項目があります。それらの項目を登録したものを機器カタログと呼びます。

あらかじめ登録されている中から，登録したい製品の機器カタログを選択することで，製品によって決まっている項目を入力する手間を省けます。

なお，デフォルトの設定では，機器カタログ管理は管理者だけが実行できます。

機器カタログの管理は，業務メニュー「機器カタログ管理」をクリックすると表示される機器カタログ管理画面から実行します。機器カタログ管理画面を次の図に示します。

図 4-11　機器カタログ管理画面



検索結果の一覧で「名称」のアンカーをクリックすると，［機器カタログ詳細］ダイアログが表示されて，カタログ情報の詳細を参照できます。また，カタログ情報の変更および削除ができます。

4.5.1　機器カタログを登録する

機器カタログを登録する手順を次に示します。

1. **［新規登録］ボタンをクリックする。**
   ［機器カタログ登録］ダイアログが表示されます。
   項目名に「★」の付いた項目は，必ず指定してください。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。

2. **［登録］ボタンをクリックする。**
   指定した内容で，機器カタログが登録されます。

   登録したい内容を指定した状態の［機器カタログ登録］ダイアログを次の図に示します。

図 4-12 ［機器カタログ登録］ダイアログ

機器の画像ファイルなどを添付するには

機器カタログには，画像ファイルなどを添付できます。添付ファイルを指定するには，「添付ファイル」の［添付］ボタンをクリックすると表示される［添付ファイル編集］ダイアログで，「ファイル名」にファイルを追加します。

4.5.2 機器カタログを削除する

削除したいカタログのチェックボックスをチェックして［削除］ボタンをクリックする

と，カタログを削除できます。

また，検索結果の一覧で「名称」のアンカーをクリックすると表示される，［機器カタログ詳細］ダイアログでも削除できます。

4.6　ソフトウェア名を対応づける（ソフトウェア名称管理）

インストールソフトウェア名と，ソフトウェア名を対応づけて，ライセンスの使用状況を管理できるようにします。インストールソフトウェア名は，インベントリ情報の取得元の JP1/NETM/DM などで使用されている名称であり，そのまま資産管理データベースに登録されます。そのため，ソフトウェア名と対応づけて，正しくライセンスの使用状況を管理できるようにします。

また，ソフトウェアの付属情報（ライセンス超過のメール通知のしきい値や，ライセンス情報，ダウングレードソフトウェアなど）も変更できます。

なお，デフォルトの設定では，ソフトウェア名称管理は管理者だけが実行できます。

ソフトウェア名の対応づけは，業務メニュー「ソフトウェア名称管理」をクリックすると表示されるソフトウェア名称管理画面から実行します。ソフトウェア名称管理画面を次の図に示します。

図 4-13　ソフトウェア名称管理画面

一覧で「ソフトウェア名」のアンカーをクリックすると，［ソフトウェア名称詳細］ダイアログが表示されて，ソフトウェア名の変更，インストールソフトウェア名の割り当て，ライセンス情報の登録，ダウングレードソフトウェアの登録などを実行できます。

「インストールソフトウェア名」には，インストールソフトウェア名，バージョンに加えて，ファイル名が登録されている場合は，ファイル名，ファイルサイズ，ファイル日付

が表示されます。また，パッケージ識別 ID を取得している場合は，パッケージ元属性およびパッケージ識別 ID も表示されます。

4.6.1 ソフトウェア名を登録する

ソフトウェア名は，資産として管理するソフトウェアの名称です。ライセンスの登録時およびソフトウェア名の割り当て時は，ここで登録したソフトウェア名から選択します。

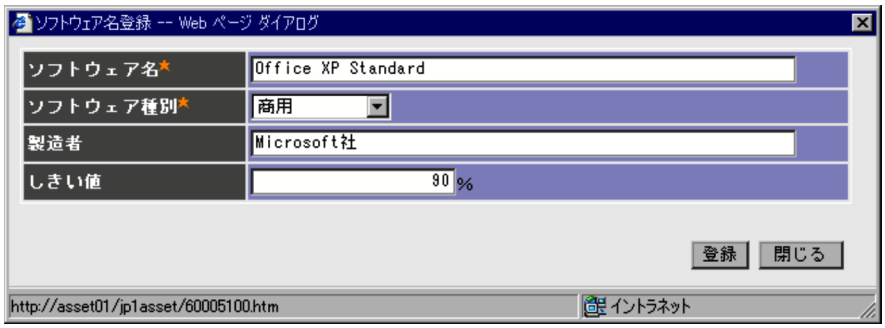
ソフトウェア名を新規に登録する手順を次に示します。

1. **［新規登録］ボタンをクリックする。**
   ［ソフトウェア名登録］ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
2. **「ソフトウェア名」，「ソフトウェア種別」，「製造者」，「しきい値」を指定して，［登録］ボタンをクリックする。**
   「ソフトウェア名」および「ソフトウェア種別」は必ず指定してください。
   「ソフトウェア種別」の指定方法を次に示します。
   - 「商用」または「シェアウェア」を指定すると，ライセンス管理の対象となり，業務メニュー「保有ライセンス一覧」での集計対象となります。また，ライセンスの使用数が保有数を上回っていた場合，業務メニュー「超過ライセンス」として表示されたり，メールで通知されたりします。
   - 「フリーウェア」を指定すると，無制限ライセンスになり，業務メニュー「保有ライセンス一覧」では，保有数や空数は表示されません。また，業務メニュー「超過ライセンス」には表示されません。

   ［ソフトウェア名登録］ダイアログが閉じて，指定した内容でソフトウェア名が登録されます。

   登録したいソフトウェア名を指定した状態の［ソフトウェア名登録］ダイアログを次の図に示します。

図 4-14 ［ソフトウェア名登録］ダイアログ



4.6.2　ソフトウェア名を統合する

複数のソフトウェア名を一つに統合して管理できます。複数のソフトウェア名を統合する手順を次に示します。

1. **統合したい「ソフトウェア名」を検索条件に指定して，［検索］ボタンをクリックする。**
   該当するソフトウェア名が検索されます。
   ソフトウェア種別の異なるソフトウェア同士は統合できません。
2. **統合したい「ソフトウェア名」のチェックボックスをチェックして，［統合］ボタンをクリックする。**
   ［ソフトウェア統合］ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
3. **統合するソフトウェアのラジオボタンを選択状態にして，［統合］ボタンをクリックする。**
   ［ソフトウェア統合］ダイアログが閉じて，選択したソフトウェアが一つに統合されます。
   なお，統合する前のソフトウェア名に割り当てられていたインストールソフトウェア名は，統合後のソフトウェア名にそのまま割り当てられます。ただし，ダウングレードソフトウェアを登録していた場合，ダウングレードソフトウェアは統合されません。必要に応じて，［ソフトウェア名称詳細］ダイアログでダウングレードソフトウェアを登録し直してください。ダウングレードソフトウェアを登録する手順については，「4.6.9　ダウングレードソフトウェアを追加する」を参照してください。

   統合するソフトウェア名を選択した状態の［ソフトウェア統合］ダイアログを次の図に示します。

図 4-15　［ソフトウェア統合］ダイアログ

4.6.3　ソフトウェア名を削除する

ソフトウェア名を削除するには，ソフトウェア名称管理画面の検索結果から，削除したいソフトウェア名のチェックボックスをチェックして，［削除］ボタンをクリックします。

4.6.4 ソフトウェア名および属性を変更する

ソフトウェア名称管理では，ソフトウェア名と各ソフトウェア名に設定されたソフトウェア種別，製造者およびしきい値が管理されています。

しきい値は，ライセンスの使用状況を監視して，資産管理者にメールで通知する際のしきい値です。設定がない場合は，［サーバセットアップ］ダイアログで設定した値（デフォルトは 100%）が仮定されます。

［サーバセットアップ］ダイアログでの設定方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「5.3.4(8) ライセンス超過のしきい値」を参照してください。

ソフトウェア名，ソフトウェア種別，製造者およびしきい値を変更する手順を次に示します。

1. **必要に応じて検索条件を指定して，変更したいソフトウェア名を検索する。**
   条件に一致するソフトウェア名が検索されます。
2. **変更したいソフトウェア名のアンカーをクリックする。**
   ［ソフトウェア名称詳細］ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は［閉じる］ボタンをクリックしてください。
3. **「名称」タブで，「ソフトウェア名」，「ソフトウェア種別」，「製造者」，「しきい値」を編集する。**
   「しきい値」には，任意の数値（%）を 0 ～ 100 の範囲で指定します。
   ソフトウェア種別を「商用」または「シェアウェア」から「フリーウェア」に変更した場合，保有数は自動的には「無制限ライセンス」に変更されません。そのため，ソフトウェア種別を「フリーウェア」に変更したソフトウェアは，［ソフトウェア資産詳細］ダイアログ（「資産」タブ）で，登録されている保有数を削除して，「無制限ライセンス」のチェックボックスにチェックして，無制限ライセンスに変更してください。
4. **［更新］ボタンをクリックする。**
   ［ソフトウェア名称詳細］ダイアログが閉じて，編集した内容で更新されます。

4.6.5 インストールソフトウェア名を割り当てる

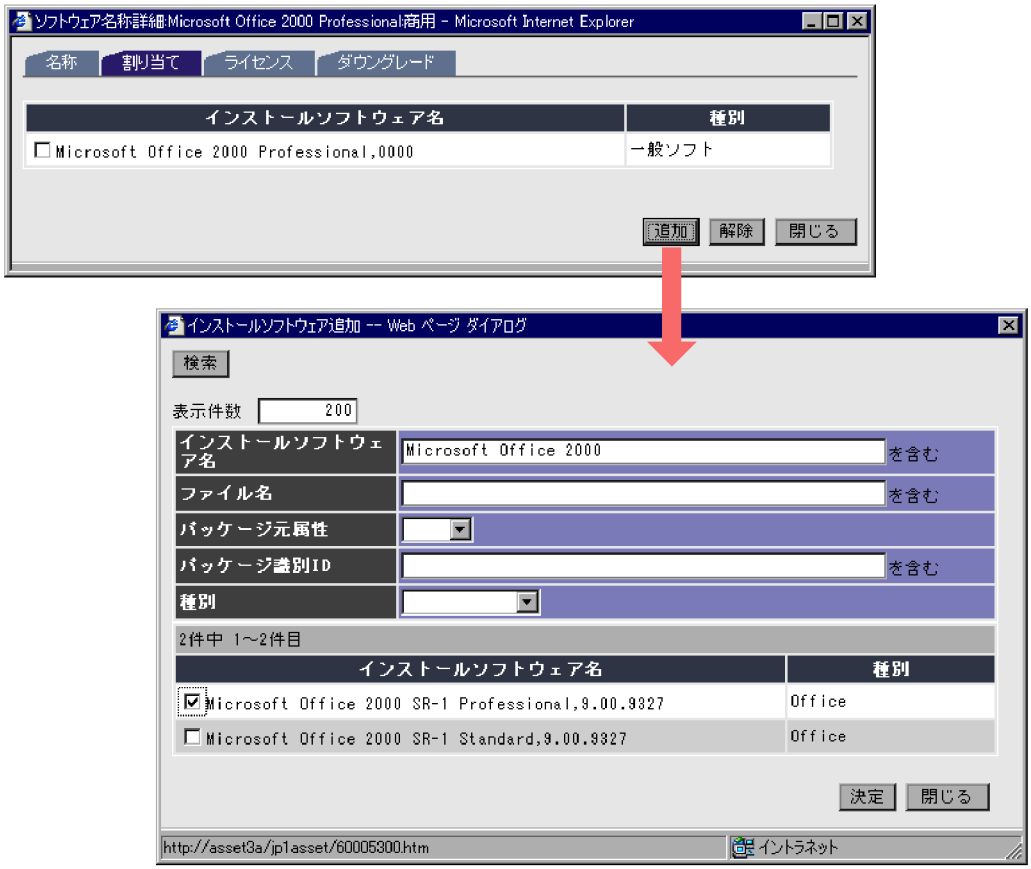
ソフトウェア名にインストールソフトウェア名を割り当てる手順を次に示します。

1. **必要に応じて検索条件を指定して，変更したいソフトウェア名を検索する。**
   条件に一致するソフトウェア名が検索されます。
2. **変更したいソフトウェア名のアンカーをクリックする。**
   ［ソフトウェア名称詳細］ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は［閉じる］ボタンをクリックしてください。
3. **「割り当て」タブで［追加］ボタンをクリックする。**
   ［インストールソフトウェア追加］ダイアログが表示されます。

4. **割り当てたいインストールソフトウェア名を検索する。**
   ほかのソフトウェア名に割り当てられていないインストールソフトウェア名の中から検索されます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
5. **検索結果で，割り当てたいインストールソフトウェア名のチェックボックスをチェックして［決定］ボタンをクリックする。**
   ［インストールソフトウェア追加］ダイアログが閉じて，選択したインストールソフトウェア名が，割り当て済みインストールソフトウェア名に追加されます。続けてインストールソフトウェア名を追加する場合は，手順 3. ～手順 5. を繰り返してください。
6. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
   ［ソフトウェア名称詳細］ダイアログが閉じます。

［ソフトウェア名称詳細］ダイアログから割り当てるインストールソフトウェアを追加する流れを次の図に示します。

図 4-16　割り当てるインストールソフトウェアを追加する流れ



インストールソフトウェア名が割り当てられたソフトウェア資産情報は，削除できません。ソフトウェア資産情報を削除する際は，あらかじめインストールソフトウェアの割り当てを解除しておいてください。

複数のインストールソフトウェア名の割り当て

一つのソフトウェア名に対して，複数のインストールソフトウェア名を割り当てることもできます。その場合，同じソフトウェア名に割り当てたソフトウェアが同じマシンにインストールされていても，利用数は 1 としてカウントされます。

そのため，例えば，同じソフトウェアであればバージョンごとに管理しない場合や，全社でダウングレードが統一して適用されている場合など，ライセンスを管理しやすくなります。

4.6.6 インストールソフトウェア名の割り当てを解除する

インストールソフトウェア名の割り当てを解除するには，［ソフトウェア名称詳細］ダイアログの「割り当て」タブで，割り当てを解除したいインストールソフトウェア名のチェックボックスをチェックして，［解除］ボタンをクリックします。

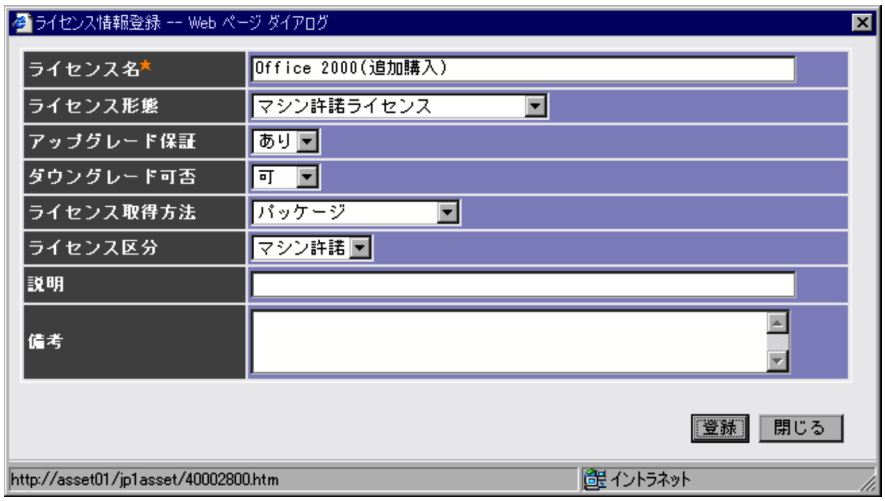
4.6.7 ライセンス情報を登録する

ライセンスを登録する手順を次に示します。

1. **必要に応じて検索条件を指定して，ライセンスを登録したいソフトウェア名を検索する。**
   条件に一致するソフトウェア名が検索されます。
2. **ライセンスを登録したいソフトウェア名のアンカーをクリックする。**
   ［ソフトウェア名称詳細］ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は［閉じる］ボタンをクリックしてください。
3. **「ライセンス」タブで［新規登録］ボタンをクリックする。**
   ［ライセンス情報登録］ダイアログが表示されます。
4. **ライセンスの内容に応じて各項目を指定して，［登録］ボタンをクリックする。**
   「ライセンス名」は必ず指定してください。
   ［ライセンス情報登録］ダイアログが閉じて，指定したライセンスの情報が登録されます。

   ライセンス内容を指定した状態の［ライセンス情報登録］ダイアログを次の図に示します。

図 4-17 ［ライセンス情報登録］ダイアログ



4.6.8 ライセンス情報を変更する

ライセンス情報を変更する手順を次に示します。

1. **必要に応じて検索条件を指定して，ライセンス情報を変更したいソフトウェア名を検索する。**
   条件に一致するソフトウェア名が検索されます。
2. **変更したいソフトウェア名のアンカーをクリックする。**
   ［ソフトウェア名称詳細］ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は［閉じる］ボタンをクリックしてください。
3. **「ライセンス」タブで，変更したいライセンス情報の「ライセンス名」のアンカーをクリックする。**
   ［ライセンス情報詳細］ダイアログが表示されます。
4. **各項目を編集して，［更新］ボタンをクリックする。**
   「ライセンス名」は必ず指定してください。
   ［ライセンス情報詳細］ダイアログが閉じて，編集した内容に更新されます。

4.6.9 ダウングレードソフトウェアを追加する

実際に購入したライセンスを流用して，旧バージョンを使用する場合（例えば，Windows XP Professional を購入して，実際は Windows 2000 Professional を使用する場合），旧バージョンのソフトウェア名を登録します。

ダウングレードソフトウェアを追加する手順を次に示します。

1. **ダウングレードソフトウェアを追加したい「ソフトウェア名」を検索条件に指定して，［検索］ボタンをクリックする。**

該当するソフトウェア名が検索されます。

2. **ダウングレードソフトウェアを追加したいソフトウェア名のアンカーをクリックする。**
［ソフトウェア名称詳細］ダイアログが表示されます。
キャンセルする場合は［閉じる］ボタンをクリックしてください。

3. **「ダウングレード」タブで［追加］ボタンをクリックする。**
［ソフトウェア参照］ダイアログが表示されます。

4. **任意の検索条件を指定して［検索］ボタンをクリックする。**
条件に一致するソフトウェアが検索されます。

5. **ダウングレードソフトウェアに登録したいソフトウェア名のチェックボックスをチェックして，［決定］ボタンをクリックする。**
［ソフトウェア参照］ダイアログが閉じて，指定したソフトウェアがダウングレードソフトウェアに登録されます。
登録したダウングレードソフトウェアを，ライセンス管理の集計対象にするためには，ライセンスを登録する際に，「ダウングレード可否」を「可」に設定する必要があります。ライセンスの登録手順については，「2.4.6(2) 「ライセンス名」を指定する」を参照してください。

4.6.10 ダウングレードソフトウェアの対象から解除する

ダウングレードソフトウェアの対象から解除するには，［ソフトウェア名称詳細］ダイアログの「ダウングレード」タブで，対象から解除したいソフトウェアのチェックボックスをチェックして，［解除］ボタンをクリックします。

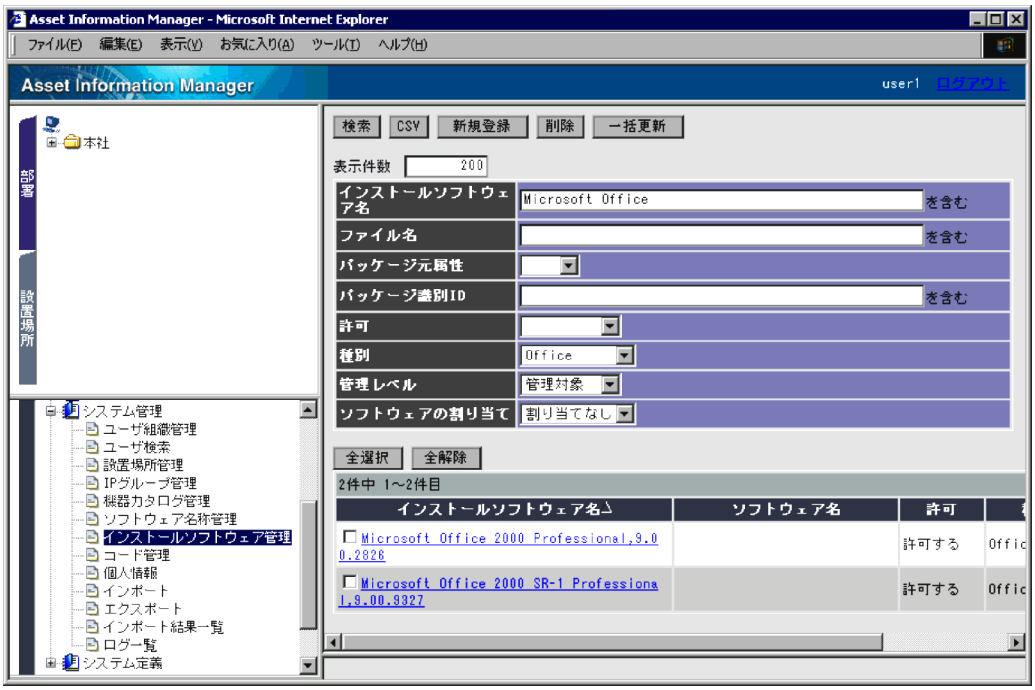
4.7 インストールソフトウェア情報を変更する（インストールソフトウェア管理）

インストールされているソフトウェアの名称を管理します。また，それぞれのソフトウェアに対して，インストールを許可するかどうか，ライセンス管理の対象にするかどうかを設定します。

なお，デフォルトの設定では，インストールソフトウェア管理は，管理者だけが実行できます。

インストールソフトウェアの管理は，業務メニュー「インストールソフトウェア管理」をクリックすると表示されるインストールソフトウェア管理画面で設定します。インストールソフトウェア管理画面を次の図に示します。

図 4-18 インストールソフトウェア管理画面



「インストールソフトウェア名」には，インストールソフトウェア名，バージョンに加えて，ファイル名が登録されている場合は，ファイル名，ファイルサイズ，ファイル日付が表示されます。また，パッケージ識別 ID を取得している場合は，パッケージ元属性およびパッケージ識別 ID も表示されます。

各インストールソフトウェアには，名称とバージョンのほかに，ライセンスを管理する上で次の情報が設定されています。

● 許可

ソフトウェアのインストールに対して，許可するかどうかを設定します。インストールの許可，未許可を設定することで，ソフトウェアが不正にインストールされていないかどうか，使用を抑止したいソフトウェアがインストールされていないかどうかなどを管理できるようになります。

● 種別

ソフトウェアの種別を設定します。ほかのソフトウェアと区別して管理したい種別を設定して，ユーザレポートなどで利用できます。

JP1/NETM/DM 07-00 以降で取得したインベントリ情報を登録した場合，「一般ソフト」，「Office」，「ウィルス定義」または「OS 情報」が設定されます。

● 管理レベル

ライセンスを管理するレベルを設定します。JP1/NETM/DM からインベントリ情報を取得する際，この設定に従って登録されます。

- **「管理対象」**
  ライセンスの利用数としてカウントする場合に選択します。
- **「集計対象外」**
  ライセンスの利用数としてはカウントしない場合に選択します。インストールされているソフトウェアとして，情報は登録されます。
- **「管理対象外」**
  ライセンス管理の対象外とし，インストールされているソフトウェアとしての情報も登録しない場合に選択します。

4.7.1 インストールソフトウェア名を登録する

インストールソフトウェア名は，機器にインストールされているソフトウェアの名称です。［機器詳細］ダイアログの「ソフトウェア」タブでインストールソフトウェアを追加するときは，ここで登録した名称からインストールソフトウェア名を選択します。

業務カテゴリ「ライセンス管理」以下の各業務メニューで，ソフトウェアのライセンス管理を実行する場合は，インストールソフトウェア名の登録に加えて，登録したインストールソフトウェア名のソフトウェア名への割り当てが必要です。

インストールソフトウェア名を新規に登録して，ソフトウェア名と対応づける手順を次に示します。

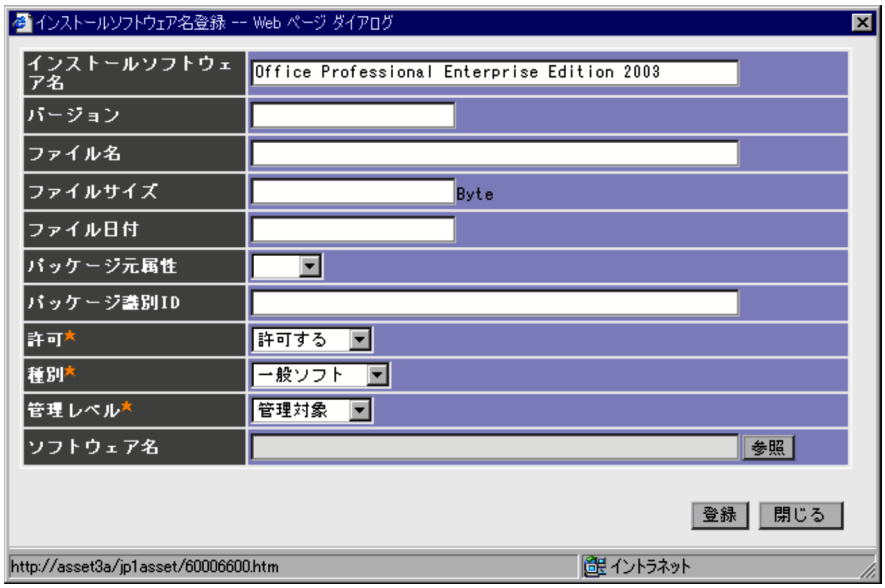
1. **［新規登録］ボタンをクリックする。**
   ［インストールソフトウェア名登録］ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
2. **項目を指定する。**
   項目名に「★」の付いた項目は，必ず指定してください。
3. **「ソフトウェア名」の［参照］ボタンをクリックする。**
   ［ソフトウェア選択］ダイアログが表示されます。
4. **必要に応じて検索条件を指定して［検索］ボタンをクリックする。**
   条件に一致するソフトウェア名が検索されます。

5. **登録するインストールソフトウェア名と対応づけたいソフトウェア名を選択して，［決定］ボタンをクリックする。**
［ソフトウェア選択］ダイアログが閉じて，「ソフトウェア名」が指定されます。

6. **［インストールソフトウェア名登録］ダイアログで，［登録］ボタンをクリックする。**
［インストールソフトウェア名登録］ダイアログが閉じて，指定した内容でインストールソフトウェア名が登録されます。

登録したいソフトウェア名を指定した状態の［インストールソフトウェア名登録］ダイアログを次の図に示します。

図 4-19 ［インストールソフトウェア名登録］ダイアログ



4.7.2 インストールソフトウェア情報を変更する

インストールソフトウェア名，バージョン，許可，種別，管理レベルおよびソフトウェア名との対応づけを変更する手順を次に示します。

1. **インストールソフトウェア管理画面の検索結果から，変更したいインストールソフトウェア名のアンカーをクリックする。**
［インストールソフトウェア詳細］ダイアログが表示されます。
キャンセルする場合は［閉じる］ボタンをクリックしてください。

2. **各項目を編集する。**
ソフトウェア名との対応づけを変更する場合は，［参照］ボタンをクリックすると表示される［ソフトウェア選択］ダイアログで指定してください。
ソフトウェア名との対応づけを解除する場合は，［ソフトウェア選択］ダイアログで［設定クリア］ボタンをクリックしてください。

3. **［更新］ボタンをクリックする。**
   編集した内容で，インストールソフトウェアの情報が更新されます。

複数のインストールソフトウェア情報を一括して変更するには

「許可」,「種別」および「管理レベル」の値は，複数のインストールソフトウェアに対して一括で変更できます。

変更したいインストールソフトウェア名のチェックボックスをチェックして，［一括更新］ボタンをクリックすると，［インストールソフトウェア一括更新］ダイアログが表示されます。

［インストールソフトウェア一括更新］ダイアログで「許可」,「種別」または「管理レベル」を指定して，［決定］ボタンをクリックすると，指定した値で更新されます。

注意事項

JP1/NETM/DM のインベントリ情報から取得したインストールソフトウェア情報の「インストールソフトウェア名」,「バージョン」,「ファイル名」,「ファイルサイズ」,「ファイル日付」,「パッケージ元属性」，および「パッケージ識別 ID」のどれかを変更すると，次回インベントリ情報を取得した際に別のソフトウェアとして認識されます。

4.7.3 ソフトウェア名に割り当てる

ソフトウェア名に割り当てられていないインストールソフトウェア名を検索して，ソフトウェア名に割り当てる手順を次に示します。

1. **検索条件の「ソフトウェアの割り当て」で「割り当てなし」を指定して，［検索］ボタンをクリックする。**
   ソフトウェア名に割り当てられていないインストールソフトウェア名が検索されます。
2. **「インストールソフトウェア名」のアンカーをクリックする。**
   ［インストールソフトウェア詳細］ダイアログが表示されます。
3. **「ソフトウェア名」の［参照］ボタンをクリックする。**
   ［ソフトウェア選択］ダイアログが表示されます。
4. **必要に応じて条件を指定して，［検索］ボタンをクリックする。**
   条件に一致するソフトウェア名が一覧に表示されます。
5. **インストールソフトウェア名を割り当てたいソフトウェア名を選択して，［決定］ボタンをクリックする。**
   ［ソフトウェア選択］ダイアログが閉じて,「ソフトウェア名」が指定されます。
6. **［インストールソフトウェア詳細］ダイアログで［更新］ボタンをクリックする。**
   ［インストールソフトウェア詳細］ダイアログが閉じて，ソフトウェア名に割り当てられます。

4.7.4 インストールソフトウェア名を削除する

インストールソフトウェア名を削除するには，インストールソフトウェア管理画面の検索結果から，削除したいソフトウェア名のチェックボックスをチェックして，［削除］ボタンをクリックします。

削除しようとしたインストールソフトウェア名が，ソフトウェア名に割り当てられていた場合，確認のメッセージダイアログが表示されます。［OK］ボタンをクリックすると，ソフトウェア名との割り当てが解除されて削除されます。

削除しない場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

4.8　種別や状態を追加および変更する（コード管理）

機器やソフトウェアの状態など，種類を定義して管理する情報は，資産管理データベースではコードに対応づけて管理されています。

この登録されているコードとその属性（コードの表示文字列，操作画面に表示するかどうかなど）を編集して，各業務メニューで指定する検索条件や，出力結果を追加，編集できます。

例えば，新規機器登録画面や［機器詳細］ダイアログなどにある「機器種別」の項目に新たな機器種別を追加したり，「CPU」の項目で不要な CPU の種類を表示しないようにしたりできます。

資産管理データベースで管理されているコードの詳細については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「13.2　オブジェクトクラスのプロパティ一覧」を参照してください。

なお，デフォルトの設定では，コード管理は管理者だけが実行できます。

コードの編集は，業務メニュー「コード管理」をクリックすると表示されるコード管理画面から実行します。コード管理画面を次の図に示します。

図 4-20　コード管理画面

4.8.1　コードを追加する

コードを追加する手順を次に示します。

1. **「管理クラス」の一覧から，コードを追加したいクラスのアンカーをクリックする。**
   選択したクラスのコード ID が表示されます。
   なお，コード情報の中には，追加できないものがあります。追加できないコード情報については，「4.8.6　追加および削除できないコード情報」を参照してください。

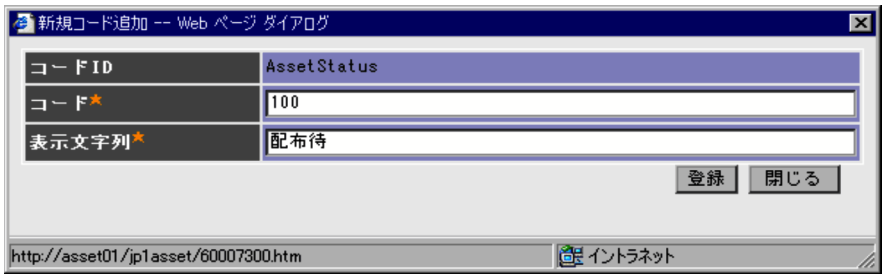
2. **コードを追加したい「コード ID」のアンカーをクリックする。**
   コードと各コードに対応する表示文字列が表示されます。
   契約情報と契約会社カタログ，ハードウェア資産情報と機器カタログは，コード情報を共有しています。共有しているコードの詳細については，「4.8.5　複数のクラスで共有しているコード ID」を参照してください。

3. **［追加］ボタンをクリックする。**
   ［新規コード追加］ダイアログが表示されます。
   「コード」および「表示文字列」は必ず指定してください。すでに登録されているコードおよび表示文字列は追加できません。
   なお，コードの指定範囲によって意味が異なる場合があります。また，指定できるコードの範囲が限定されているコード ID があります。コードの指定範囲については，「4.8.4　コードの指定範囲による意味の違い」を参照してください。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。

4. **［登録］ボタンをクリックする。**
   指定した内容でコードが追加されて，［新規コード追加］ダイアログが閉じます。

   登録したいコードを指定した状態の［新規コード追加］ダイアログを次の図に示します。

図 4-21　［新規コード追加］ダイアログ



注意事項

「CPUType」および「OSType」に，JP1/NETM/DM で追加された項目のコードを追加する場合，JP1/NETM/DM のシステム情報「CPU タイプ」に合わせてコードを追加してください。
また，「CPUType」に独自のコードを追加する場合は，00000 ～ 99999 の範囲で値

を指定してください。

4.8.2 コードの表示文字列を変更する

コードの表示文字列を編集する手順を次に示します。

1. **「管理クラス」の一覧から，コードを編集したいクラスのアンカーをクリックする。**
   選択したクラスのコード ID が表示されます。
2. **コードを編集したい「コード ID」のアンカーをクリックする。**
   コードと各コードに対応する表示文字列が表示されます。
   契約情報と契約会社カタログ，ハードウェア資産情報と機器カタログは，コード情報を共有しています。共有しているコードの詳細については，「4.8.5 複数のクラスで共有しているコード ID」を参照してください。
3. **「コード」の一覧から編集したいコードのアンカーをクリックする。**
   ［コード情報の更新］ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
4. **「表示文字列」を編集して，［更新］ボタンをクリックする。**
   指定した内容でコード情報が更新されて，［コード情報の更新］ダイアログが閉じます。
   なお，「表示文字列」は必ず指定してください。

4.8.3 コード情報を削除する

コード情報を削除する手順を次に示します。

1. **「管理クラス」の一覧から，コードを削除したいクラスのアンカーをクリックする。**
   選択したクラスのコード ID が表示されます。
2. **コードを削除したい「コード ID」のアンカーをクリックする。**
   コードと各コードに対応する表示文字列が表示されます。
   契約情報と契約会社カタログ，ハードウェア資産情報と機器カタログは，コード情報を共有しています。共有しているコードの詳細については，「4.8.5 複数のクラスで共有しているコード ID」を参照してください。
3. **「コード」の一覧から削除したいコードのチェックボックスをチェックする。**
4. **［削除］ボタンをクリックする。**
   選択したコード情報が削除されます。ただし，チェックボックスが非活性になっているコードは削除できません。削除できないコード情報については，「4.8.6 追加および削除できないコード情報」を参照してください。

4.8.4 コードの指定範囲による意味の違い

コードの指定範囲によって，追加できるコードの範囲が限定されているコード ID や，資

産管理システムでの扱いが異なるコード ID があります。コードを追加または変更するときは，コードの指定範囲に注意してください。

追加できるコードの範囲が限定されているコード ID を，次の表に示します。

表 4-2 追加できるコードの範囲が限定されているコード ID

管理クラス（管理情報名）	コード ID（表示名）	追加できる範囲
HardwareInfo（ハードウェア資産情報）	ModelKind（構成種別）	970 ～ 998
	MonitorKind（モニタ種別）	970 ～ 998
	MonitorResolution（モニタ解像度）	970 ～ 998
InstalledList（インストールソフトウェアリスト）	InstalledKind（種別）	170 ～ 198
LicenseInfo（ライセンス情報）	LicenseType（ライセンス形態）	170 ～ 199
	PurchaseType（ライセンス取得方法）	170 ～ 199
LocationInfo（設置場所情報）	Attribute（場所属性）	170 ～ 198
VolumeContract（ボリューム契約情報）	VolumeContractKind（契約種別）	170 ～ 199
	VolumeContractObject（対象製品）	170 ～ 199
Others（いずれにも所属しないコード）	MatterCategory（案件カテゴリ）	000 ～ 099, 200 ～ 299

コードの指定範囲での意味の違いを次の表に示します。

表 4-3 コードの指定範囲での意味の違い

コード ID	表示名	意味	コードの範囲	区分	追加できる範囲	デフォルトの設定
AssetStatus	機器状態	運用※1	000 ～ 499	000 ～ 299（使用）	270 ～ 299	002：運用
				300 ～ 499（未使用）	470 ～ 499	301：在庫
		廃棄※2	500 ～ 719	500 ～ 599（返却）	570 ～ 599	501：返却
				600 ～ 699（廃棄）	670 ～ 699	601：廃棄
				700 ～ 719（仮廃棄）	710 ～ 719	701：仮廃棄
		抹消※3	999	－	－	999：抹消

コード ID	表示名	意味	コードの範囲	区分	追加できる範囲	デフォルトの設定
SoftwareStatus	ソフトウェア状態	運用	000 ～ 499	－	470 ～ 499	001：運用
		廃棄※2	500 ～ 699	500 ～ 599（返却）	570 ～ 599	501：返却
				600 ～ 699（廃棄）	670 ～ 699	601：廃棄
		抹消※3	999	－	－	999：抹消
ContractStatus, VolumeContractStatus	契約状態	契約中	000 ～ 499	－	470 ～ 499	001：契約中
		満了※4	500 ～ 998	－	570 ～ 998	501：満了
		抹消※3	999	－	－	999：抹消
MaintenanceStatus	保守状態	対策中	000 ～ 899	－	870 ～ 899	001：障害中 002：連絡済 003：修理中
		対策済	900 ～ 999	－	970 ～ 999	901：対策済
MachineKind	機器種別	システム装置	100 ～ 198	－	170 ～ 198	100：PC 101：PC サーバ 102：UNIX 103：UNIX サーバ
		拡張装置	200 ～ 298	－	270 ～ 298	200：ディスプレイ 201：HD 202：CD-R 203：CD-R/W 204：DVD 205：DAT 206：MO 207：プリンタ

コード ID	表示名	意味	コードの範囲	区分	追加できる範囲	デフォルトの設定
		ネットワーク装置※5	300 ～ 399	－	370 ～ 398	300：HUB 301：ルータ 302：ネットワークプリンタ 399：ネットワーク装置
ContractKind	契約種別	保守	100 ～ 199	－	170 ～ 199	100：保守契約
		リース	200 ～ 299	－	270 ～ 299	200：リース契約
		レンタル	300 ～ 399	－	370 ～ 399	300：レンタル契約
SoftwareKind	ソフトウェア種別	ライセンス数を管理するソフトウェア※6	100 ～ 199	－	170 ～ 199	100：商用 101：シェアウェア
		ライセンス数を管理しないソフトウェア※7	200 ～ 499	－	470 ～ 499	200：フリーウェア
MaintenanceKind	障害種別	JP1 イベント	001	－	－	001：JP1 イベント
		SNMP トラップ	002	－	－	002：SNMP トラップ
		ユーザ登録	100 ～ 199	－	170 ～ 199	100：ユーザ登録
LicenseCategory	ライセンス区分	マシン許諾	100 ～ 199	－	170 ～ 199	100：マシン許諾
		ユーザ許諾	200 ～ 299	－	270 ～ 299	200：ユーザ許諾
		その他	300 ～ 399	－	370 ～ 399	300：その他

（凡例）

－：該当しない

注※ 1

デフォルトで提供されている状態「運用」および「在庫」と，同様の検索対象または集計対象となります。

注※ 2

デフォルトで提供されている操作画面では，検索対象または集計対象となりません。Windows のタスクスケジューラに登録されているタスク「データメンテナンス」によって，資産管理データベースのメンテナンスが実行されると，関連づけられているネットワーク情報（IP アドレスだけ），インストールソフトウェア情報，パッチ情報，ウィルス定義情報，ソフトウェア稼働情報およびコンポーネント情報が削除されます。
また，資産に割り当てられているライセンスキーが解除されます。

注※ 3

デフォルトで提供されている操作画面では，検索対象または集計対象となりません。Windows のタスクスケジューラに登録されているタスク「データメンテナンス」によって，資産管理データベースのメンテナンスが実行されると削除されます。

注※ 4

対象機器および対象ソフトウェアを追加できなくなります。

注※ 5

Network Node Manager から取得した情報が「PC」,「HUB」,「ルータ」のどれにも当てはまらなかった場合,「ネットワーク機器」の種別で登録されます。

注※ 6

デフォルトで提供されている種別「商用」および「シェアウェア」と，同様の検索対象または集計対象となります。

注※ 7

デフォルトで提供されている種別「フリーウェア」と，同様の検索対象または集計対象となります。

4.8.5 複数のクラスで共有しているコード ID

コード ID の中には，複数のクラスで共有しているものがあります。そのため，共有しているコード情報を変更すると，もう一方のクラスにも変更内容が反映されます。

複数のクラスで共有しているコード ID を次の表に示します。

表 4-4 複数のクラスで共有しているコード ID

管理クラス（管理情報名）	共有しているコード ID
Contract（契約情報）と ContractCatalog（契約会社カタログ）	• ContractProperty1 • ContractProperty2

管理クラス（管理情報名）	共有しているコード ID
HardwareInfo（ハードウェア資産情報）と MachineCatalog（機器カタログ）	• CPUType • HardwareProperty1 • HardwareProperty2 • MachineKind • ModelKind • MonitorKind • MonitorResolution

4.8.6 追加および削除できないコード情報

次のコード ID は，表示文字列は変更できますが，コード情報の追加および削除はできません。

表 4-5 追加および削除できないコード情報

管理クラス（管理情報名）	コード ID（表示名）
AssetInfo（資産情報）	AssetKind（資産種別）
	AssetWorkKind（稼働管理種別）
	DMStatus（DM 導入状態）
Contract（契約情報）	ContractObject（契約対象）
Maintenance（保守履歴）	Importance（重大度）
NetworkInfo（ネットワーク情報）	IPAddressKind（IP アドレス種別）
	InventoryDelType（インベントリ取り込み制御）
InstalledInfo（インストールソフトウェア情報）	InventoryDelType（インベントリ取り込み制御）
InstalledList（インストールソフトウェアリスト）	Permit（許可）
	InstalledInd（管理レベル）
InstalledUpdateRecord（ソフトウェア変更履歴）	UpdateKind（変更種別）
InstalledVirusDefInfo（ウィルス定義情報）	InventoryDelType（インベントリ取り込み制御）
	ResidentKind（常駐／非常駐）
LicenseInfo（ライセンス情報）	UpGrade（アップグレード保証）
	DownGrade（ダウングレード可否）
LicenseAddUpRecord（ライセンス集計履歴）	Permit（許可）
PatchInfo（パッチ情報）	InstalledStatus（適用状態）
	InventoryDelType（インベントリ取り込み制御）
ProgramHistory（プログラム起動履歴）	ProgramKind（種別）

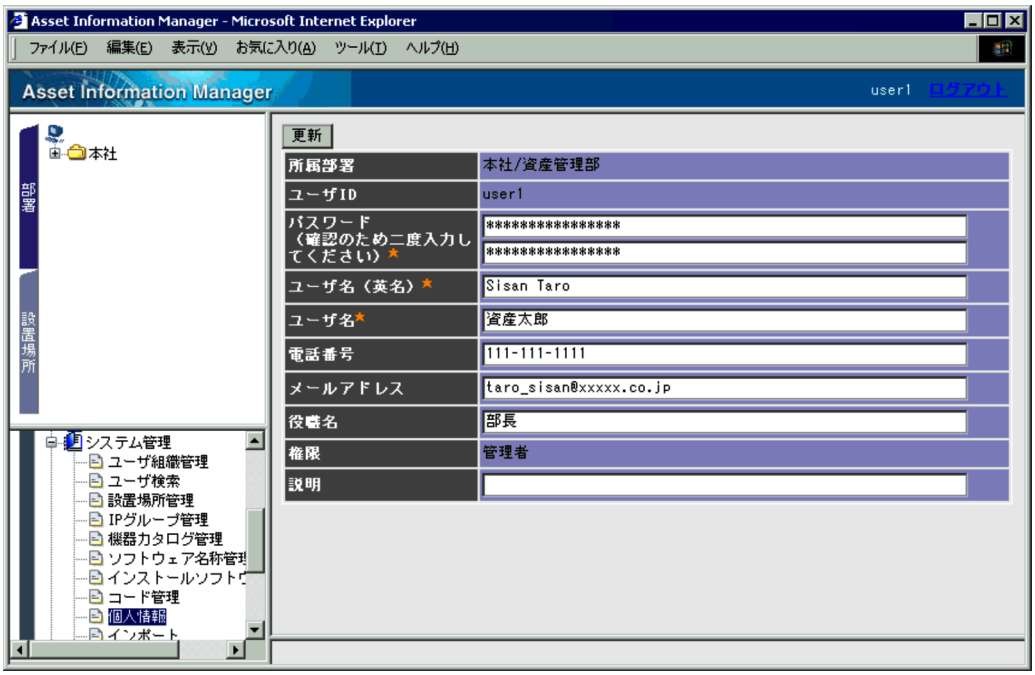
管理クラス（管理情報名）	コード ID（表示名）
UpdateRecord（変更履歴）	UpdateRecordInd（レコード識別）
WindowTitleHistory（ウィンドウタイトル変更履歴）	WindowTitleKind（種別）
Others（いずれにも所属しないコード）	HardwareKind（ハードウェア種別）
	InventoryUpType（更新種別）
	JobKind（インストール形態）
	PackageAttr（パッケージ属性）
	RecordKind（管理情報区分）
	SelectInstalledSoftwareType（ソフトウェア情報区分）
	UserOwnJobRole（職権による検索条件名）

4.9 個人情報を参照および変更する（個人情報）

ログインしているユーザの個人情報を参照および編集します。Asset Information Manager にログインするためのパスワードや，ユーザ名，電話番号などを参照および編集できます。

個人情報は，業務メニュー「個人情報」をクリックすると表示される個人情報画面で参照および編集できます。個人情報画面を次の図に示します。

図 4-22 個人情報画面



変更する場合は，項目名に「★」の付いた項目は，必ず指定してください。また，変更した内容を登録するには，［更新］ボタンをクリックしてください。

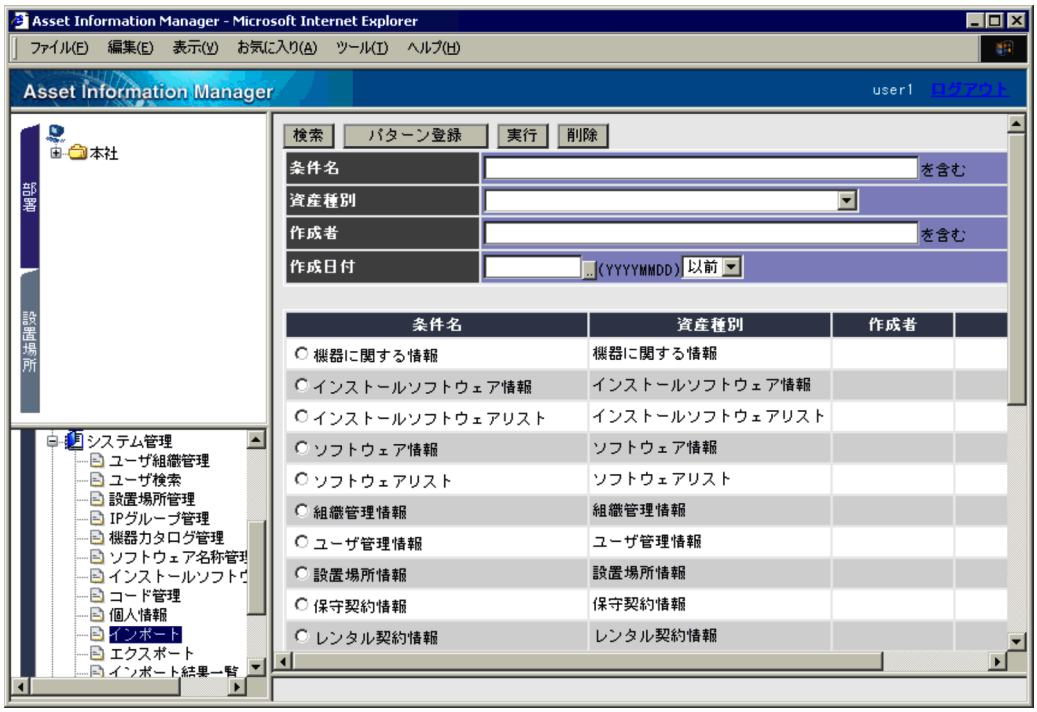
4.10　資産情報を一括で更新する（インポート）

CSV ファイルの資産情報を，一括で更新（登録，変更および削除）します。CSV ファイルの任意の項目を Asset Information Manager の管理項目に引き当てることで，CSV ファイルの項目から取捨選択して更新できます。

なお，デフォルトの設定では，インポートは管理者だけが実行できます。

資産情報のインポートは，業務メニュー「インポート」をクリックすると表示されるインポート画面から実行します。インポート画面を次の図に示します。

図 4-23　インポート画面



一覧には，登録されている条件がすべて表示されます。表示を絞り込む場合は，条件を指定して検索してください。

インポートは，まず条件を作成してから，その条件に従って実行します。インポートの条件は，情報の種類ごとにサンプル（24 種類）が提供されています。エクスポートしたデータをそのままインポートする場合など，デフォルトの設定でデータをインポートする場合は，サンプルの条件を利用してインポートできます。

インポートの実行方法には，インポート画面から実行するほかに，jamCsvImport.bat および jamimport コマンドを実行する方法があります。それぞれの実行方法については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「7.1.1　インポートの流れ」を参照してください。

4.10.1 インポートする CSV ファイルを作成する

ほかのシステムで出力した CSV ファイルや，エクスポートしたデータを編集した CSV ファイルなど，インポートする CSV ファイルを用意します。

インポートは，「機器に関する情報」，「ソフトウェア情報」などの情報の種類（資産種別）を指定して実行します。資産種別ごとのインポートの対象となる項目については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「13.4　業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目」を参照してください。

また，各項目の詳細については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「13.2　オブジェクトクラスのプロパティ一覧」を参照してください。

（1）CSV ファイルのフォーマット

1 行目は，項目名を ,（コンマ）で区切って記述し，2 行目以降に各項目の値を記述します。

項目名は任意の文字列を記述できます。CSV ファイルの項目名は，管理項目との引き当てに使用するので，必ずファイル内でユニークになるように指定してください。

1 台の PC に複数の IP アドレスが割り当てられている場合など，同一の資産に対して複数の情報がある場合は，複数ある情報以外を同じにして，複数行で記述します。

注意事項

CSV ファイルを編集する場合，Microsoft Excel を使用して直接ファイルを開くと，コードや ID など，先頭に 0 が付く数値は先頭の 0 が自動的に削除されてしまうため，元の情報とは異なる値で更新されてしまうことがあります。
そのため，Microsoft Excel を使用するときは，「テキストファイルのインポート」機能を使用して，列のデータ形式を「文字列」に設定したあと，ファイルを読み込んで編集してください。

参考

CSV ファイルの項目名を管理項目と同じ文字列にして，インポートの条件作成を省略することもできます。条件には，サンプルで提供されている条件を指定します。サンプルの条件とは，各資産種別のデフォルトの設定で作成した条件のことです。CSV ファイルの項目名に合わせて条件を作成するか，サンプルの条件を使用して CSV ファイルを編集するかは，状況に応じて使い分けてください。
また，CSV ファイルを編集するときは，次の手順でエクスポートしたデータを利用すると便利です。

1. 業務メニュー「エクスポート」から，インポートしたい情報と同じ資産種別を選択して，デフォルトの設定でエクスポートする。
2. 出力された CSV ファイルの項目名を，インポートしたい CSV ファイルの項目名にする。

エクスポートを実行しない場合は，マニュアル「設計・構築ガイド」の「13.4　業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目」を参照して，項目名を合わせてください。

(2) 資産管理データベースで管理している情報が優先される項目

部署，ユーザ，権限および職権の情報をインポートする場合，CSV ファイルに記述した「部署 ID」，「ユーザ ID」，「権限 ID」，「職権 ID」の値を基に，資産管理データベースの部署情報，ユーザ管理情報，権限情報，職権管理情報から対応する「部署名」，「ユーザ名」，「権限名」，「職権名」が登録されます。

そのため，ID と名称の組み合わせが資産管理データベースと異なった場合は，ID が一致した資産管理データベースの情報が，CSV ファイルの値よりも優先されます。

(3) CSV ファイルの作成方法

資産管理データベースに登録されているデータを更新する場合，既存のデータとの引き当てに使用する値を CSV ファイルに記述して，条件を作成するときに正しく引き当て項目を設定する必要があります。

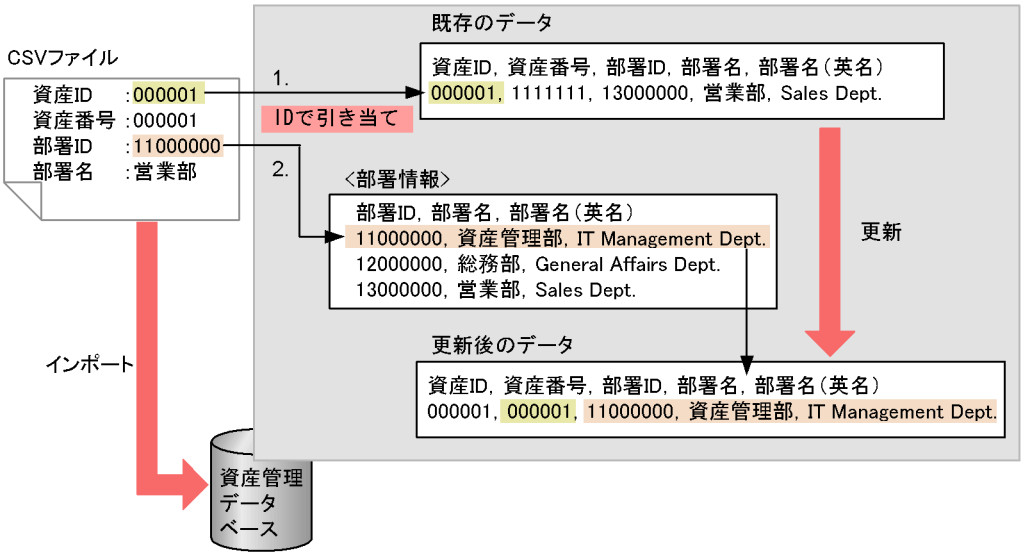
ここでは，データを追加または更新する場合の CSV ファイルの作成方法について，資産種別ごとに説明します。なお，CSV ファイルを作成する際に注意する点は，インポートの条件を作成する場合と共通しています。インポートの条件を作成するときも，CSV ファイルの作成方法に基づいて，各項目を設定してください。

既存のデータを更新する場合の引き当て方法

既存のデータを更新する場合，資産管理データベースのデータとの引き当て項目に注意して，条件を作成する必要があります。
インポートする CSV ファイルのデータと既存のデータとの引き当てには，「資産 ID」，「部署 ID」など ID の値が優先されます。次に，「資産番号」や「部署名」などの ID に対応する値が優先され，最後に「部署名（英名）」のように英名がある場合は英名で引き当てられます。

機器に関する情報をインポートする場合を例に，どのように既存のデータを引き当てて更新するかを次の図に示します。

図 4-24 CSV ファイルのインポート時の引き当ておよび更新例



1. 「資産 ID：000001」で既存のデータを引き当てて，CSV ファイルの値で「資産番号」が「000001」に更新されます。
2. CSV ファイルの値「部署 ID：11000000」で部署情報と引き当てて，「部署 ID」と対応する「部署名」の「資産管理部」で更新されます。

このように，ID と対応づけて管理している項目は，ID と名称が資産管理データベースの値と異なっていた場合，ID の値に対応している資産管理データベースの値で更新されるので注意してください。

(a) 機器に関する情報

- 既存の情報を更新する場合は，「資産 ID」または「資産番号」のどちらかを必ず記述します。条件にも，CSV ファイルの記述に合わせて引き当て項目を設定します。両方設定されている場合は「資産 ID」で引き当てられて，「資産番号」は CSV ファイルの値で更新されます。「資産 ID」で引き当てる場合は，「資産番号」には変更する値だけを記述して，変更のない値を省略できます。
- 部署，設置場所，ユーザ名，管理部署および管理者は，ID，名称，英名の順に該当する情報が引き当てられます。そのため，登録済みの情報を引き当てる場合は，どれか一つの値を記述すれば，全項目の値を記述する必要はありません。ID で該当する情報が引き当てられると，名称と英名の値は引き当てた情報で更新されます。
- ネットワーク情報を更新する場合，「ネットワーク情報 ID」を必ず記述してください。更新する情報の「ネットワーク情報 ID」は，ネットワーク情報をエクスポートして確認してください。
- インポート時に「IP アドレス」に指定した IP アドレスが，資産管理データベースに

登録されていなかった場合，IP アドレス管理情報に「IP アドレス」が自動的に生成されます。なお，IP アドレス管理情報の項目は，エクスポートでは出力されません。

(b) インストールソフトウェア情報

- 既存の情報を更新する場合は，「資産 ID」または「資産番号」のどちらかを必ず記述します。条件にも，CSV ファイルの記述に合わせて引き当て項目を設定します。両方設定されている場合は「資産 ID」で引き当てられます。「資産 ID」で引き当てる場合は，「資産番号」を省略できます。
- CSV ファイルに記述した「インストールソフトウェア名」，「バージョン」，「ファイル名」，「ファイルサイズ」，「ファイル日付」，「パッケージ元属性」または「パッケージ識別 ID」がインストールソフトウェアリストに登録されていない場合，CSV ファイルの値がインストールソフトウェアリストに追加されます。

(c) インストールソフトウェアリスト

- 既存の情報を更新する場合は，「インストール ID」または「インストールソフトウェア名」，「バージョン」，「ファイル名」，「ファイルサイズ」，「ファイル日付」，「パッケージ元属性」，「パッケージ識別 ID」の組み合わせの，どちらかを必ず記述します。条件にも，CSV ファイルの記述に合わせて引き当て項目を設定します。両方設定されている場合は「インストール ID」で引き当てられて，「インストールソフトウェア名」，「バージョン」，「ファイル名」，「ファイルサイズ」，「ファイル日付」，「パッケージ元属性」および「パッケージ識別 ID」は CSV ファイルの値で更新されます。「インストール ID」で引き当てる場合は，「インストールソフトウェア名」，「バージョン」，「ファイル名」，「ファイルサイズ」，「ファイル日付」，「パッケージ元属性」，「パッケージ識別 ID」には変更する値だけを記述して，変更のない値を省略できます。
- ソフトウェア名を記述する場合は，あらかじめ資産管理データベースに登録されているソフトウェア名を記述してください。

(d) ソフトウェア情報

- 既存の情報を更新する場合は，「資産 ID」か，「資産番号」と「部署」（または「部署 ID」）の組み合わせの，どちらかを必ず記述します。「資産 ID」で引き当てる場合は，「資産番号」と「部署」（または「部署 ID」）を省略できます。
- ソフトウェア情報を更新する場合は「ソフトウェアリスト ID」，「ソフトウェア名」，「ソフトウェア種別」，「ライセンス ID」および「ライセンス名」は変更できません。
- 「部署 ID」，「ユーザ ID」を記述した場合，「部署」と「ユーザ名」は省略できます。
- ライセンス情報を更新する場合は「ライセンス ID」を必ず記述します。引き当てられない場合は，ライセンス情報が新規に追加されます。
- ソフトウェア情報を追加する場合に，ライセンス情報も追加するときは，「ライセンス名」を必ず記述します。

(e) ソフトウェアリスト

既存の情報を更新する場合は，「ソフトウェアリスト ID」または「ソフトウェア名」と「ソフトウェア種別」の組み合わせのどちらかを必ず記述します。条件にも，CSV ファイルの記述に合わせて引き当て項目を設定します。両方設定されている場合は「ソフト

ウェアリスト ID」で引き当てられて，「ソフトウェア名」は CSV ファイルの値で更新されます。「ソフトウェアリスト ID」で引き当てる場合は，「ソフトウェア名」には変更する値だけを記述して，変更のない値を省略できます。

(f) 組織管理情報

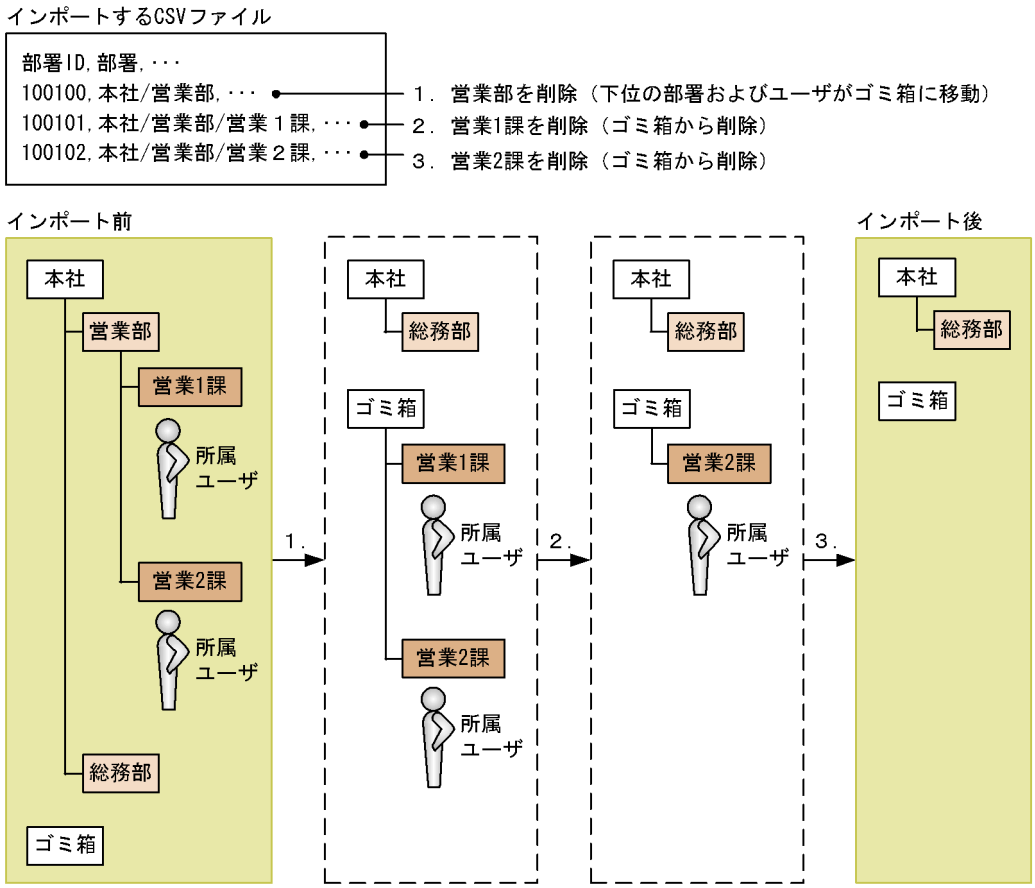
- 既存の情報を更新する場合は，「部署 ID」を必ず記述します。条件にも，CSV ファイルの記述に合わせて引き当て項目を設定します。「部署 ID」で引き当てる場合は，「部署」には変更する値だけを記述して，変更のない値を省略できます。
- 「上位部署 ID」には，ID と名称のどちらでも設定できます。ただし，名称として設定した値がすでに登録されている ID と一致した場合は，ID で一致した部署が更新されます。
- 「上位部署 ID」に設定した部署 ID で引き当てられない場合，または「上位部署 ID」に NULL データを設定した場合，「上位部署 ID」には NULL データが設定されます。
- 部署を削除すると，削除した部署の下位にある部署およびユーザは「ゴミ箱」に移動されます。

注意事項

インポートで部署情報を削除する場合，CSV ファイルに上位階層の部署を記述すると，その下位の部署とユーザがすべて削除されます。例えば，図 4-25 のように上位階層の部署とその下位の部署を記述すると，一度のインポートで，ゴミ箱に移動した情報も削除されます。このような場合，部署だけでなく部署に所属するユーザも完全に削除されて，復元できなくなります。

削除した部署の下位の部署とユーザがゴミ箱からも削除される例を次の図に示します。

図 4-25　削除した部署の下位の部署とユーザがゴミ箱からも削除される例



1. 営業部は資産管理データベースから削除され，営業部の下位の部署とユーザはゴミ箱に移動されます。
2. 営業 1 課と，営業 1 課に所属するユーザがゴミ箱からも削除されます。
3. 営業 2 課と，営業 2 課に所属するユーザがゴミ箱からも削除されます。

(g) ユーザ管理情報

- 既存の情報を更新する場合は，「ユーザ ID」を必ず記述します。条件にも，「ユーザ ID」の引き当て項目を設定します。
- ユーザが所属する部署は「部署 ID」または「部署」のどちらかを記述します。両方指定されている場合は，「部署 ID」で該当する情報が引き当てられます。「部署 ID」で引き当てる場合は，「部署」を省略できます。
- ユーザが所有する権限は「権限 ID」または「権限名」のどちらかを記述します。両方指定されている場合は，「権限 ID」で該当する情報が引き当てられます。「権限 ID」で引き当てる場合は，「権限名」を省略できます。
- ユーザが所有する職権は「職権 ID」または「職権名」のどちらかを記述します。両方指定されている場合は，「職権 ID」で該当する情報が引き当てられます。「職権 ID」

で引き当てる場合は，「職権名」を省略できます。「権限 ID」で引き当てられない場合，権限管理情報が新規に追加されます。「権限名」で引き当てる場合，同一の権限名が複数登録されているとき，「権限 ID」の昇順で最初に見つかった情報が引き当てられます。

- 部署に所属していないユーザの情報は削除できません。また，部署に所属していないユーザの情報に，部署情報を更新できません。
- 「ユーザ名」（または「ユーザ名（英名）」）が設定されていない場合，ユーザ管理情報の「ユーザ ID」が登録されます。
- 職権管理情報だけを削除したり，職権管理情報を更新したりすることはできません。
- 新規のユーザを登録する場合，パスワードは設定されません。パスワードは操作画面から設定してください。

(h) 設置場所情報

- 既存の情報を更新する場合は，「設置場所 ID」を必ず記述します。条件にも，CSV ファイルの記述に合わせて引き当て項目を設定します。「設置場所 ID」で引き当てる場合は，「設置場所名」には変更する値だけを記述して，変更のない値を省略できます。
- 「上位設置場所 ID」には，ID と名称のどちらでも設定できます。ただし，名称として設定した値がすでに登録されている ID と一致した場合，ID で一致した設置場所が更新されます。
- 「上位設置場所 ID」に設定した設置場所 ID で引き当てられない場合，または「上位設置場所 ID」に NULL データを設定した場合，「上位設置場所 ID」には NULL データが設定されます。
- 設置場所を削除すると，削除した設置場所の下位にある設置場所は「ゴミ箱」に移動されます。

(i) 保守契約情報，レンタル契約情報，リース契約情報，ボリューム契約

- 契約情報を追加する場合は，「契約番号」，「契約日」，「契約開始日」，「契約終了日」および「契約会社」を必ず記述します。
- 既存の情報を更新する場合は，「契約 ID」または「契約番号」を必ず記述します。条件にも，CSV ファイルの記述に合わせて引き当て項目を設定します。「契約 ID」で引き当てる場合は，「契約番号」には変更する値だけを記述して，変更のない値を省略できます。
- 「契約対象」は変更しないでください。また，更新時には変更前の値を設定してください。
- 契約対象の資産の解除はできません。解除する場合は操作画面から解除してください。
- 契約対象の資産は，「資産 ID」または「資産番号」で引き当てられます。契約対象として設定できるのは，資産管理データベースに登録されている資産だけです。
- 一つの契約情報に対して対象資産を複数登録する場合は，各行に「契約 ID」を設定します。
- 契約対象となるソフトウェアを「資産番号」で引き当てる場合に，同一の資産番号が複数登録されているときは引き当てられません。
- 「契約種別」は変更しないでください。

- 更新時に「回数」の値を変更しないでください。
- 「部署 ID」に記述した部署が資産管理データベースに登録されていない場合，「部署 ID」には NULL データが設定されます。

(j) IP グループ情報

- IP グループを登録すると，指定した開始アドレスから終了アドレスまでの IP アドレスが登録されます。
- 既存の情報を更新する場合は，「IP グループ ID」または「IP グループ名」を必ず記述します。条件にも，CSV ファイルの記述に合わせて引き当て項目を設定します。両方設定されている場合は「IP グループ ID」で引き当てられて，「IP グループ名」は CSV ファイルの値で更新されます。「IP グループ ID」で引き当てる場合は，「IP グループ名」には変更する値だけを記述して，変更のない値を省略できます。また，「IP グループ名」で引き当てる場合は，業務メニュー「IP グループ管理」の同一のタブで，同一の「IP グループ名」を複数登録していると，インポートできません。

(k) 機器カタログ

- 情報を追加する場合は，「名称」および「型式」を必ず記述します。
- 既存の情報を更新する場合は，「カタログ ID」または「名称」と「型式」の組み合わせのどちらかを必ず記述します。条件にも，CSV ファイルの記述に合わせて引き当て項目を設定します。「カタログ ID」で引き当てる場合は，「名称」は CSV ファイルの値で更新されます。

(l) 問題点管理

- 情報を追加する場合は，「障害内容」を必ず記述します。
- 既存の情報を更新する場合は，「保守履歴 ID」または「管理番号」を必ず記述します。条件にも，CSV ファイルの記述に合わせて引き当て項目を設定します。「保守履歴 ID」で引き当てる場合は，「管理番号」には変更する値だけを記述して，変更のない値を省略できます。
- 問題が発生した資産が「資産番号」で引き当てられない場合，「資産 ID」および「資産番号」には NULL データが設定されます。

(m) ライセンス割り当て

- 情報を追加する場合は，ライセンスの割り当てに使用するソフトウェアキー情報の「キー ID」を必ず記述します。「キー ID」が設定されていない場合は，ソフトウェア資産情報の「資産 ID」で引き当てられた情報で，「プロダクト ID」，「ライセンスキー」および「シリアル No.」が登録されます。
- 既存の情報を更新する場合は，ライセンスを割り当てるソフトウェアの「資産 ID」か，「資産番号」と「部署」の組み合わせのどちらかを必ず記述します。「資産 ID」で引き当てる場合は，「資産番号」と「部署」を省略できます。
- マシン許諾ライセンスの場合，ハードウェア資産情報の「資産 ID」に，ライセンスを割り当てる機器の「資産 ID」または「資産番号」を記述します。
- ユーザ許諾ライセンスの場合，ユーザ管理情報の「ユーザ ID」および「ユーザ名」に，ライセンスを割り当てるユーザの「ユーザ ID」および「ユーザ名」を記述しま

す。「ユーザ ID」で引き当てる場合は，「ユーザ名」を省略できます。
- 割り当てに使用するソフトウェアキー情報として，「プロダクト ID」，「ライセンスキー」および「シリアル No.」を記述します。この三つの値がすべて同じソフトウェアキー情報が複数ある場合，そのうちの一つが引き当てられます。
- 「資産 ID」には，「資産 ID」と「資産番号」のどちらでも設定できます。ただし，「資産番号」として設定した値がすでに登録されている「資産 ID」と一致した場合は，「資産 ID」で一致したソフトウェア情報が割り当てられます。

(n) パッチ情報

既存の情報を更新する場合は，「資産 ID」または「資産番号」を必ず記述します。条件にも，CSV ファイルの記述に合わせて引き当て項目を設定します。両方設定されている場合は「資産 ID」で引き当てられます。「資産 ID」で引き当てる場合は，「資産番号」を省略できます。

(o) ウィルス定義情報

既存の情報を更新する場合は，「資産 ID」または「資産番号」を必ず記述します。条件にも，CSV ファイルの記述に合わせて引き当て項目を設定します。両方設定されている場合は「資産 ID」で引き当てられます。「資産 ID」で引き当てる場合は，「資産番号」を省略できます。

4.10.2 インポートの条件を作成する

CSV ファイルの資産情報を一括で更新するには，更新する情報の種類，更新する項目を指定して，インポートの条件を作成します。

インポートの条件を作成する手順を次に示します。

1. **［パターン登録］ボタンをクリックする。**
   ［資産種別選択］ダイアログが表示されます。
2. **「資産種別」でインポートする情報の種類を選択する。**
   選択できる情報の種類については，「(1)　資産種別の選択」を参照してください。
3. **［決定］ボタンをクリックする。**
   インポート画面が，インポートの条件を作成する画面に切り換わります。
4. **インポートする CSV ファイルを指定する。**
   CSV ファイルのフォーマットについては，「4.10.1(1)　CSV ファイルのフォーマット」を参照してください。
5. **処理方式を選択する。**
   「追加」，「更新」，「追加更新」または「削除」を選択します。各処理方式を選択した場合の処理の詳細については，「(2)　処理方式の選択」を参照してください。
6. **引き当て項目を設定する。**
   各管理項目の引き当て項目を設定します。項目名に「★」の付いた項目は，必ず設定

してください。引き当て項目の設定方法については，「(3)　引き当て項目の設定」を参照してください。
なお，カスタマイズ関連の資産種別を選択した場合は，引き当て項目は設定できません。そのまま手順 7. に進んでください。
キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。

7. **［登録］ボタンをクリックする。**
［引き当て条件保存］ダイアログが表示されます。

8. **任意の名称を指定して，［決定］ボタンをクリックする。**
指定した名称で，インポートの条件が保存されます。

「資産種別」で「機器に関する情報」を選択した場合の，インポートの条件を作成する画面を次の図に示します。

図 4-26　インポート画面（条件作成時）

(1) 資産種別の選択

「資産種別」で選択できるのは次に示す 24 種類です。資産種別の種類と，各資産種別でインポートの対象となる項目については，マニュアル「設計・構築ガイド」の「13.4 業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目」を参照してください。

- 機器に関する情報

- インストールソフトウェア情報
- インストールソフトウェアリスト
- ソフトウェア情報
- ソフトウェアリスト
- 組織管理情報
- ユーザ管理情報
- 設置場所情報
- 保守契約情報
- レンタル契約情報
- リース契約情報
- ボリューム契約
- IP グループ情報
- 機器カタログ
- 問題点管理
- ライセンス割り当て
- パッチ情報
- ウィルス定義情報
- カスタマイズ（ユーザレポート）※
- カスタマイズ（書式）※
- カスタマイズ（インベントリ定義）※
- カスタマイズ（インポート / エクスポート定義）※
- カスタマイズ（案件定義）※
- カスタマイズ（契約履歴）※

注※

カスタマイズの情報は，条件の内容を指定できません。主に，バックアップ目的などで資産情報のエクスポート画面からエクスポートした CSV ファイルを，復元する場合に使用してください。
エクスポートしたカスタマイズ情報のバージョンは，CSV ファイルの 1 行目を見て確認してください。

注意事項

業務メニュー「管理項目編集」で管理項目の名称を変更した場合，サンプルで提供されている条件が使用できなくなります。そのため，インポートの条件を新規に作成してください。

(2) 処理方式の選択

インポートの処理方式は，「追加」，「更新」，「追加更新」および「削除」の中から選択します。それぞれの処理方式について説明します。

●「追加」

新規の資産として登録されます。資産管理データベースに登録されている情報の中に，すでに CSV ファイルの情報とキーが重複する情報があった場合は登録されません。

●「更新」
資産管理データベースに登録されている情報から，CSV ファイルの情報と一致する情報を検索して，一致する情報があった場合に更新されます。

●「追加更新」
資産管理データベースに登録されている情報から，CSV ファイルの情報と一致する情報を検索して，一致する情報があった場合は更新され，一致する情報がなかった場合は新規の資産として登録されます。

●「削除」
資産情報を削除します。ただし，次の情報のうち，ほかの情報で使用されている内容は削除されません。
- インストールソフトウェアリスト
- ソフトウェアリスト
- 組織管理情報
- ユーザ管理情報
- 設置場所情報

(3) 引き当て項目の設定

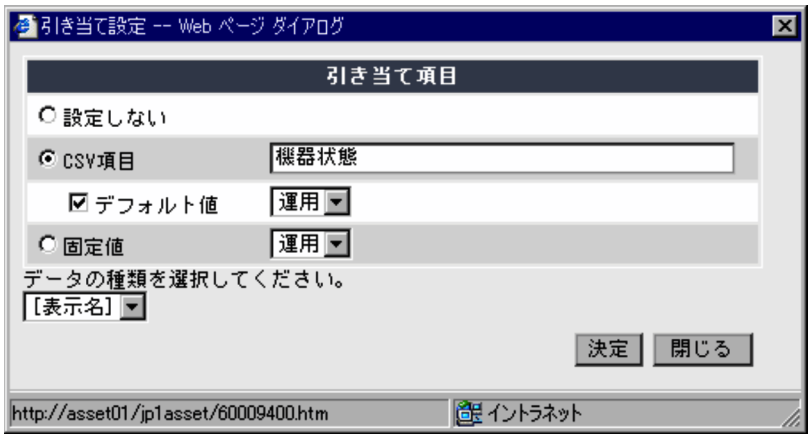
「管理項目」の列に，インポートの対象となっている項目が表示されます。［参照］ボタンをクリックすると表示される［引き当て設定］ダイアログで，更新したい管理項目の更新内容を設定します。

なお，［デフォルト］ボタンをクリックすると，管理項目と同じ項目名の CSV ファイルの情報が自動的に引き当てられます。エクスポートした CSV ファイルをそのままインポートする場合は，引き当て項目を設定する必要がないので便利です。サンプルで提供されている条件は，［デフォルト］ボタンで設定した内容と同じです。

また，「引き当て項目」の設定内容をすべて解除するには，［クリア］ボタンをクリックしてください。

［引き当て設定］ダイアログでの各項目の設定方法を次に示します。

図 4-27 ［引き当て設定］ダイアログ



- **「設定しない」**
  インポートで更新しない場合に選択します。設定が必要な項目以外は，デフォルトではこの項目が選択されています。
- **「CSV 項目」**
  CSV ファイルの値を引き当てる場合に選択します。入力領域に，引き当てる項目のタイトルを指定してください。
  - **「デフォルト値」**
    チェックボックスをチェックして，デフォルト値を指定します。コードの場合は，プルダウンからデフォルト値を選択します。CSV ファイルの該当する項目に値が設定されていない場合は，デフォルト値が設定されます。そのため，項目名に「★」の付いたコードの管理項目に「CSV 項目」を設定するときは，必ずデフォルト値も設定してください。
- **「固定値」**
  CSV ファイルの内容に関係なく，固定値で更新する場合に選択します。入力領域またはプルダウンに，固定値を指定してください。
- **「データの種類を選択してください。」**
  引き当てる CSV ファイルの値が，コードで記述されているか，表示名で記述されているかに合わせて指定します。

注意事項

引き当て項目を設定するときの注意事項を次に示します。

- 処理方式を「追加」または「追加更新」に選択した場合，「ユーザ ID」および「部署 ID」以外のキーとなる ID は，引き当て項目の値の設定にかかわらず，自動採番した値で追加されます。
- 「管理項目」には，業務メニュー「管理項目編集」で表示の設定になっている項目が表示されます。ただし，例外で「管理項目編集」には表示されない「管理項目」の項目があります。該当する項目は，GroupInfo（部署情報）の UpperLinkID（上位部署 ID），LocationInfo（設置場所情報）の UpperLinkID（上位設置場所

ID），および MachineCatalog（機器カタログ）の CatalogID（カタログ ID）です。

4.10.3 インポートを実行する

条件を指定してインポートを実行します。インポートの条件は，あらかじめ作成しておくか，サンプルで提供されている条件を使用します。

インポートを実行する手順を次に示します。

1. **必要に応じて検索条件を指定して，［検索］ボタンをクリックする。**
   条件に一致するインポートの条件が検索されます。
2. **目的の条件名のラジオボタンを選択状態にして，［実行］ボタンをクリックする。**
   インポートを実行する画面に切り換わります。
   「管理項目」の列には，インポートの対象となる項目のうち，条件で指定された項目が表示されます。引き当て項目を変更したい場合は，引き当て項目を変更できます。ただし，ここで設定した内容は保存されません。
3. **［インポート］ボタンをクリックする。**
   インポートが実行されます。
   設定が必要な ID に対する引き当て項目の設定が混在していた場合，警告のメッセージが表示されます。ID の引き当て項目を設定する際の注意事項については，「4.10.2(3)　引き当て項目の設定」を参照してください。

注意事項

- 次の情報をインポートする場合は，インポートする順番に注意してください。
  「機器に関する情報」を登録する場合：
  資産情報の部署，設置場所，および利用者に関する情報を設定したい場合は，あらかじめ「組織管理情報」，「設置場所情報」，「ユーザ管理情報」が登録されている必要があります。
  「ユーザ管理情報」を登録する場合：
  あらかじめ「組織管理情報」が登録されている必要があります。
- 大量のデータをインポートする場合は，処理が終了するまでに時間が掛かります。同時に複数のデータをインポートすると，資産管理サーバに負荷が掛かり，同一のマシンで使用しているほかのプログラムの処理性能が悪くなるおそれがありますので，注意してください。
- カスタマイズの資産種別を指定してインポートする場合は，必ず同一バージョンの Asset Information Manager でエクスポートしたデータを使用してください。
- Asset Information Manager のバージョンアップに伴って，資産管理データベースで管理する項目が増えた場合に，インポートおよびエクスポートの対象となる項目が増えることがあります。それによって，バージョンアップ前に，サンプルで提供されている条件を使用してエクスポートしたデータを，インポートできない場合があります。

(1) 値を引き当てられなかった管理項目に設定される内容

インポートの際に，必須項目に引き当て項目が設定されていないか，または値が取得できなかった場合は，自動的に値が設定されます。設定される項目と値を次に示します。

資産種別	管理項目	設定される値
機器に関する情報	資産情報 . 登録日	インポートした日付
	ハードウェア資産情報 . 機器種別	「PC」
ソフトウェア情報	資産情報 . 登録日	インポートした日付
	ライセンス情報 . ライセンス形態	「許諾ライセンス」
	ライセンス情報 . アップグレード保証	「あり」
	ライセンス情報 . ダウングレード保証	「可」
	ライセンス情報 . ライセンス取得方法	「パッケージ」
	ライセンス情報 . ライセンス区分	「マシン許諾」
組織管理情報	部署情報 . 部署名（英名）	部署 ID
ユーザ管理情報	ユーザ管理情報 . ユーザ名（英名）	ユーザ ID
設置場所情報	設置場所情報 . 設置場所名（英名）	設置場所 ID
機器カタログ	ハードウェア資産情報 . 機器種別	「PC」
問題点管理	保守履歴 . 登録者名	ログインユーザ名（コマンド実行の場合は資産管理者名）
	保守履歴 . 重大度	「緊急」

なお，次の資産種別の管理項目に引き当て項目が設定されていない，または値が取得できなかった場合，インポートの処理がエラーになります。

- 「保守契約情報」，「レンタル契約情報」，「リース契約情報」
  契約情報 . 契約日，契約情報 . 契約開始日，契約情報 . 契約終了日，契約情報 . 契約会社
- 「問題点管理」
  保守履歴 . 登録日，保守履歴 . 障害内容

4.10.4 インポートの条件を削除する

不要な条件を削除する手順を次に示します。

1. **必要に応じて検索条件を指定して，［検索］ボタンをクリックする。**
   条件に一致するインポートの条件が検索されます。
2. **削除したい条件名のラジオボタンを選択状態にして，［削除］ボタンをクリックする。**
   選択した条件が削除されます。

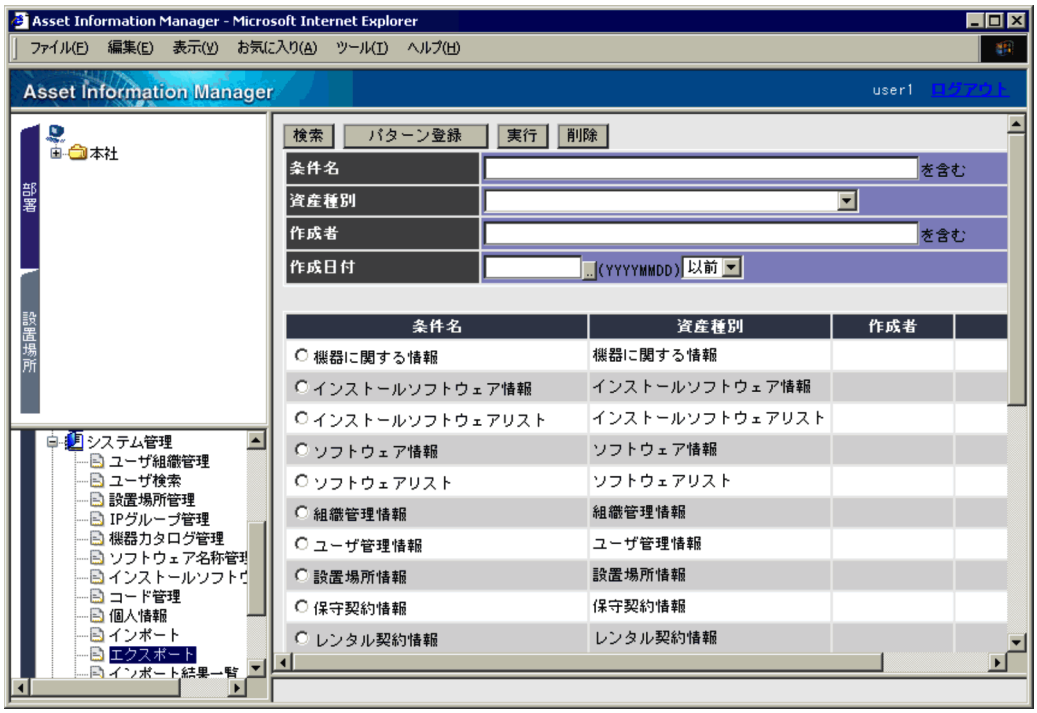
4.11　資産情報を CSV 形式で出力する（エクスポート）

資産管理データベースの資産情報を，CSV 形式で出力します。出力する情報の種類と管理項目を選択して，任意の項目を一括で出力できます。

なお，デフォルトの設定では，エクスポートは管理者だけが実行できます。

資産情報のエクスポートは，業務メニュー「エクスポート」をクリックすると表示されるエクスポート画面から実行します。エクスポート画面を次の図に示します。

図 4-28　エクスポート画面



一覧には，登録されている条件がすべて表示されます。表示を絞り込む場合は，条件を指定して検索してください。

エクスポートは，まず条件を作成してから，その条件に従って実行します。エクスポートの条件は，情報の種類ごとにサンプル（24 種類）が提供されています。サンプルを利用すると，すべての項目が出力されます。サンプルを利用して出力した CSV ファイルは，業務メニュー「インポート」のサンプルの条件で，そのままのフォーマットでインポートできます。

エクスポートの実行方法には，エクスポート画面から実行するほかに，jamCsvExport.bat および jamexport コマンドを実行する方法があります。それぞれの実

行方法の違いについては，マニュアル「設計・構築ガイド」の「3.2.2　CSV ファイルから取得する場合」を参照してください。

4.11.1　エクスポートの条件を作成する

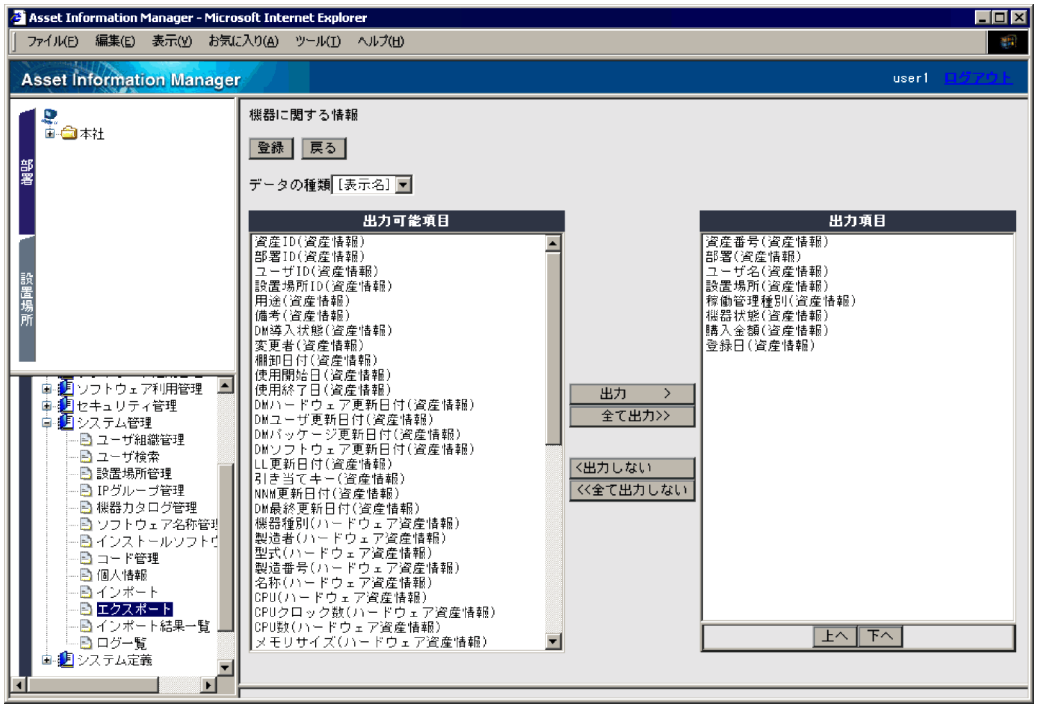
資産管理データベースの資産情報を，CSV 形式で出力するには，出力する情報の種類および項目を指定して，エクスポートの条件を作成します。

エクスポートの条件を作成する手順を次に示します。

1. **［パターン登録］ボタンをクリックする。**
   ［資産種別選択］ダイアログが表示されます。
2. **「資産種別」でエクスポートする情報の種類を選択する。**
   選択できる情報の種類については，「4.10.2(1)　資産種別の選択」を参照してください。
3. **［決定］ボタンをクリックする。**
   エクスポート画面が，エクスポートの条件を作成する画面に切り換わります。
4. **「データの種類」を選択する。**
   コードで管理されている情報を表示名で出力するか，コードで出力するかを選択します。
   カスタマイズ関連の資産種別を選択した場合は，そのまま手順 7. に進んでください。
5. **「出力可能項目」から出力したい項目を選択して，［出力］ボタンをクリックする。**
   選択した項目が「出力項目」に追加されます。
6. **［上へ］ボタンまたは［下へ］ボタンで，「出力項目」の並び順を設定する。**
   CSV ファイルに出力される順番を設定します。
7. **［登録］ボタンをクリックする。**
   ［引き当て条件保存］ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
8. **任意の名称を指定して，［決定］ボタンをクリックする。**
   指定した名称で，エクスポートの条件が保存されます。

「資産種別」で「機器に関する情報」を選択した場合の，エクスポートの条件を作成する画面を次の図に示します。

図 4-29　エクスポート画面（条件作成時）



4.11.2　エクスポートを実行する

条件を指定してエクスポートを実行します。エクスポートの条件は，あらかじめ作成しておく必要があります。

条件を指定してエクスポートを実行する手順を次に示します。

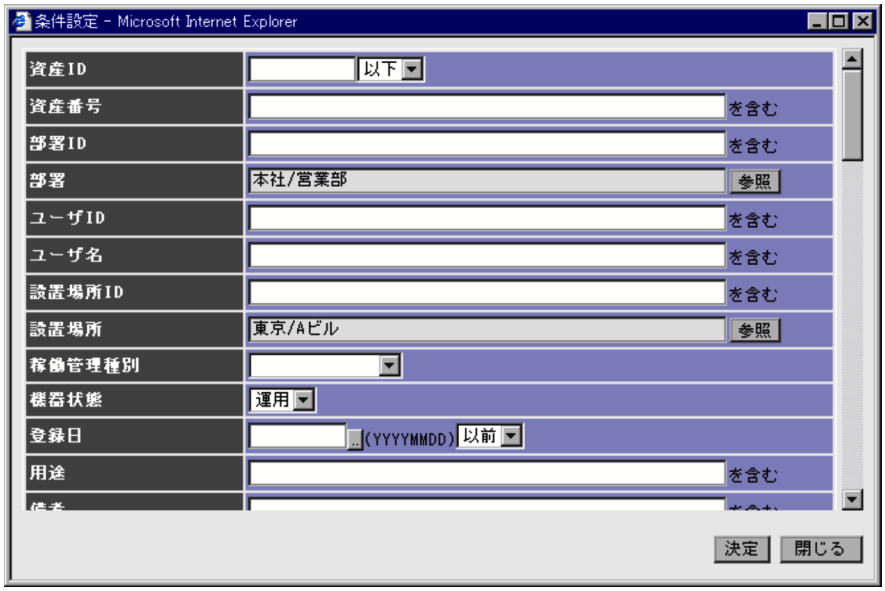
1. **必要に応じて検索条件を指定して，［検索］ボタンをクリックする。**
   条件に一致するエクスポートの条件が検索されます。
2. **目的の条件名のラジオボタンを選択状態にして，［実行］ボタンをクリックする。**
   エクスポートを実行する画面に切り換わります。
3. **必要に応じて，「絞込条件」を指定する。**
   出力件数を絞り込む場合は，「絞込条件」のアンカーをクリックすると表示される［条件設定］ダイアログで指定します。
   「絞込条件」の項目は，選択している資産種別によって異なります。
   ［条件設定］ダイアログでの指定方法は，「(1)　絞り込み条件の設定」を参照してください。
4. **［エクスポート］ボタンをクリックする。**
   エクスポートが実行されます。

(1) 絞り込み条件の設定

「出力項目」に指定した情報の出力件数を，管理している部署などで絞り込む場合に条件を設定します。絞り込みの条件は，「絞込条件」のアンカーをクリックすると表示される［条件設定］ダイアログで指定します。

［条件設定］ダイアログでの条件の指定方法を次に示します。

図 4-30 ［条件設定］ダイアログ



絞り込み条件として指定できる項目が一覧で表示されます。例えば，特定の部署の情報だけを出力したい場合は，部署名を指定します。

［決定］ボタンをクリックすると，指定した条件が有効になります。

［決定］ボタンをクリックする前に［閉じる］ボタンをクリックすると，指定した条件はクリアされるので，絞り込みの条件を確認しながら条件を調整する場合は，ダイアログを表示したままエクスポートしてください。

(2) 出力される CSV ファイルの形式

エクスポートで出力される CSV ファイルの形式を次の図に示します。

図 4-31 エクスポートで出力される CSV ファイルの形式

```
資産ID,資産番号,部署ID,部署,IPアドレス,MACアドレス
000001,100001,20001,営業部,111.111.111.1,55:66:77:88:99:aa
000001,100001,20001,営業部,111.111.111.2,55:66:77:88:99:bb
                                    ⋮
```

1 台の PC に複数の IP アドレスが割り当てられている場合など，同一の資産に対して複数の情報が登録されている場合，複数行で出力されます。

出力された CSV ファイルを加工して Asset Information Manager に登録する CSV ファイルを編集する場合，Microsoft Excel を使用して直接ファイルを開くと，コード，ID など先頭に 0 が付く数値は，先頭の 0 が自動的に削除されてしまうため，元の情報とは異なる値で更新されてしまうことがあります。そのため，Microsoft Excel を使用するときは，「テキストファイルのインポート」機能を使用して，列のデータ形式を「文字列」に設定したあと，ファイルを読み込んで編集してください。

4.11.3 エクスポートの条件を削除する

不要な条件を削除する手順を次に示します。

1. **必要に応じて検索条件を指定して，［検索］ボタンをクリックする。**
   条件に一致するエクスポートの条件が検索されます。
2. **削除したい条件名のラジオボタンを選択状態にして，［削除］ボタンをクリックする。**
   選択した条件が削除されます。

4.12　インポートの結果を確認する（インポート結果一覧）

業務メニュー「インポート」から実行したインポートの結果を確認します。また，インポート結果を確認した上で，実行中のインポートを中断することもできます。

なお，デフォルトの設定では，インポート結果一覧は管理者だけが実行できます。

インポートの結果は，業務メニュー「インポート結果一覧」をクリックすると表示されるインポート結果一覧画面から確認します。インポート結果一覧画面を次の図に示します。

図 4-32　インポート結果一覧画面

確認したいインポートの結果を，条件を指定して検索します。

(1) インポートの結果の詳細を確認する

検索結果の「実行状況」のアンカーをクリックすると，次の図に示す［インポート結果一覧］ダイアログが表示されて，インポート結果の詳細と処理状況を確認できます。

図 4-33　［インポート結果一覧］ダイアログ

業務メニュー「インポート」からのインポートでは，処理中にエラーが発生した場合でも，その行を飛ばして処理を続行します。ただし，同一のエラーが 10 回連続した場合と予期しないエラーが発生した場合は，処理が終了して「異常終了」となります。

（2）インポートを中断する

実行中のインポートを強制的に中断する手順を次に示します。

1. **必要に応じて条件を指定して，インポート結果を検索する。**
   条件に一致するインポート結果が一覧に表示されます。
2. **中断したいインポート結果のチェックボックスをチェックして，［中断］ボタンをクリックする。**
   選択したインポートの処理が中断されます。
   中断処理は，50 件ごとのタイミングで実行されます。そのため，［中断］ボタンをクリックした時点で，残りの件数が 50 件以下の場合は，中断しないで完了します。

（3）実行結果を削除する

不要なインポート結果を削除する手順を次に示します。

1. **必要に応じて検索条件を指定して，［検索］ボタンをクリックする。**
   条件に一致するインポート結果が検索されます。
2. **削除したい条件名のチェックボックスをチェックして，［削除］ボタンをクリックする。**
   選択した条件が削除されます。
   選択したインポートが実行中の場合は，削除できない旨のメッセージが表示されて，削除が実行されません。

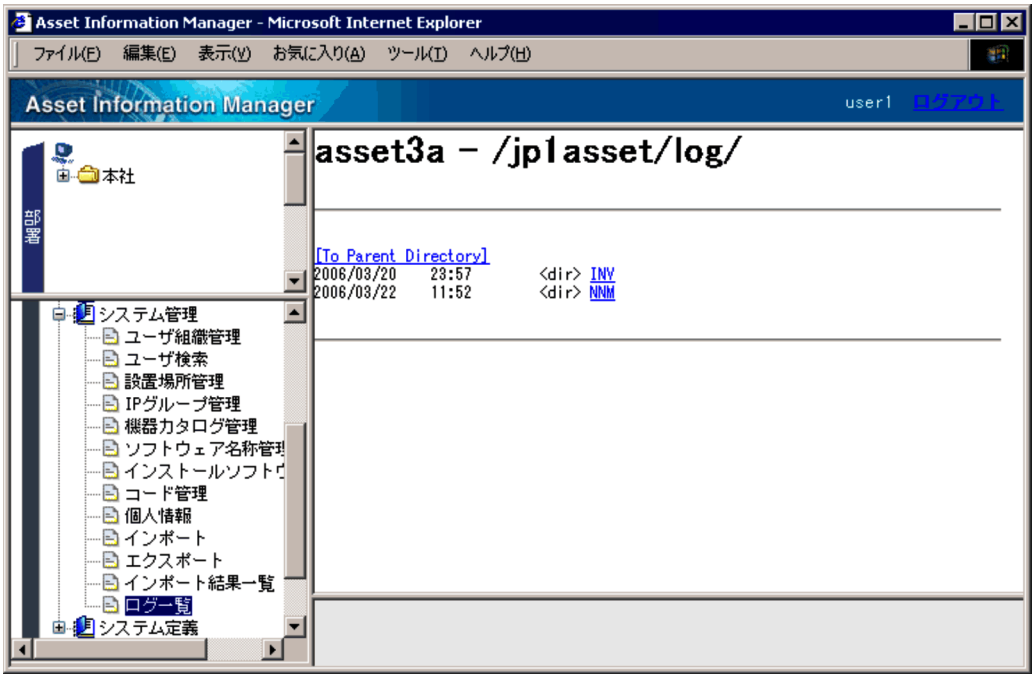
4.13　ログを参照する（ログ一覧）

Windows のタスクスケジューラに登録されたタスクの開始と終了，資産管理データベースに取り込んだ情報の件数など，連携製品の情報を資産管理データベースに取り込む際の情報およびエラーのログを参照します。資産管理サーバを直接操作できない環境でも，連携製品からの情報の取得状況やエラーの内容を確認できます。

なお，デフォルトの設定では，ログ一覧は管理者だけが参照できます。

ログの一覧は，業務メニュー「ログ一覧」をクリックすると表示されるログ一覧画面から参照できます。ログ一覧画面を次の図に示します。

図 4-34　ログ一覧画面



連携している製品ごとにフォルダが分かれています。各フォルダのアンカーをクリックすると，その下位にあるファイル名のアンカーが表示されます。ファイル名のアンカーをクリックすると，ログファイルの内容（メッセージ出力時間，メッセージ種別およびメッセージテキスト）を参照できます。JP1/NETM/DM の場合は「INV」のアンカーをクリックすると，ログファイル（ASTINVn.log）が表示されます。

ファイル名の見方

- ASTINVn.log の n は，1 ～ 9 のファイル名の通番を示します。
- 一つのファイルに出力できるログの上限を超えると，番号を一つ繰り上げたログファイルが作成されます。ただし，番号が 9 まで設定された場合は，1 に戻ります。最新のログファイルは，ファイル属性（日付・時間）で見分けてください。

ログ一覧画面には，資産管理サーバの仮想ディレクトリ ¥log に格納されているフォルダおよびファイルが表示されます。上位の資産管理サーバの仮想ディレクトリに移動しようとすると，権限がないため，画面を表示できない旨のメッセージが表示されます。資産管理サーバの仮想ディレクトリは，デフォルトでは Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥wwwroot です。

(1) インベントリ情報の取得を確認する

「INV」のアンカーをクリックすると，ログファイル（ASTINVn.log）が表示されます。ASTINVn.log の内容から，資産管理データベースに取り込んだインベントリ情報の件数，リアルタイムにインベントリ情報を取得するサービス「Asset Information Synchronous Service」のエラーメッセージなどを確認できます。

なお，インベントリ情報をリアルタイムに取得するには，JP1/NETM/DM 07-50 以降と連携する必要があります。

(2) ノード情報の取得を確認する

「NNM」のアンカーをクリックすると，ログファイル（ASTNNMn.log）が表示されます。ASTNNMn.log の内容から，資産管理データベースにノード情報を取り込む際のタスク「ノード情報の取込み」の開始と終了，取り込んだノード情報の件数などを確認できます。

付録

付録 A　各バージョンの変更内容

付録 B　用語解説

付録 A　各バージョンの変更内容

（1）08-50 の変更内容

08-11 から 08-50 での変更点を次に示します。

- JP1/NETM/DM 08-50 で新規に取得される次の操作ログを，参照および集計できるようにした。
  - Web アクセス
  - 外部メディア操作
  - ファイル操作（印刷操作）
- 適用 OS に Windows Server 2008 を追加した。
- タスク「ディレクトリ情報の取込み」で JP1/NETM/DM のディレクトリ情報を資産管理データベースに取り込めるようにした。
- タスク「WSUS 更新プログラム通知」を利用して管理者にメール通知するときに，メールに記載される URL を指定できるようにした。
- WSUS サーバと連携したシステム構成の説明を追加した。
- タスクスケジューラに登録されたタスクの実行結果をメールで通知する場合の，送信元アドレスを設定できるようにした。
- 資産管理データベースの作成時に，エラーが発生して実行が停止する場合の，主な要因および対処の説明を変更した。
- 次の「資産種別」に，インポートの対象となる項目を追加した。
  - 「機器に関する情報」
  - 「インストールソフトウェア情報」
  - 「インストールソフトウェアリスト」
  - 「ソフトウェア情報」
  - 「ライセンス割り当て」
  - 「パッチ情報」
  - 「ウィルス定義情報」
- 業務メニュー「管理項目編集」で表示する設定にできる項目をすべて表記した。
- メモリ所要量の最小値を 512 メガバイトから 1 ギガバイトに変更した。
- 業務メニュー「インポート」からインポートする CSV ファイルの作成方法の説明および注意事項を追加した。

（2）08-11 の変更内容

08-10 から 08-11 での変更点を次に示します。

- 資産管理データベースおよび JP1/NETM/DM のデータベースが ORACLE の場合，

データベース・キャラクタ・セットを「JA16SJIS」に設定する説明を追加した。

- Embedded RDB を使用している場合，前方一致および後方一致を含む部分一致で検索するときに，大文字と小文字を区別するかどうかを設定できるようにした。
- Embedded RDB のホスト名を変更する手順を追加した。
- 資産管理データベースが Embedded RDB の場合，データベースのサイズを変更する手順を追加した。
- 資産管理データベースが Embedded RDB の場合，データベースのサイズの最小値を 100 メガバイトに変更した。
- Embedded RDB を停止および開始する手順を追加した。
- コマンドで資産管理データベースのバックアップと再編成を実行できるようにした。
- 資産管理データベースで使用する情報のサイズおよび内訳を変更した。
- 業務メニュー「業務フィルター」で設定した書式を，バージョン 08-00 以降の Asset Information Manager からバージョンアップする場合に移行できるようにした。
- クラスタ環境で，資産管理データベースをアップグレードする手順を追加した。
- データベースの照合順序の注意事項および説明を追加した。
- ［機器詳細］ダイアログの「ライセンス」タブから，ソフトウェア資産情報を変更できるようにした。

（3）08-10 の変更内容

08-02 から 08-10 での変更点を次に示します。

- 操作ログを集計して，業務メニュー「操作ログ集計」から集計結果を確認できるようにした。
- 操作ログから機器の操作を追跡できるようにした。
- JP1/IM - Service Support と連携して，JP1/IM - Service Support から Asset Information Manager の機器の情報を参照できるようにした。
- JP1/NETM/DM と連携して，ソフトウェアの稼働状況を管理できるようにした。
- JP1/NETM/DM と連携して，利用していないライセンスを確認できるようにした。
- 業務メニュー「稼働状況」を，デフォルトでは表示しない設定に変更した。
- 機器の変更履歴をメールで通知できるようにした。
- 機器の変更履歴として取得できる項目を，選択できるようにした。また，機器の変更履歴として取得できる項目に次の項目を追加した。
  - ホスト名
  - IP アドレス
  - MAC アドレス

- ハードウェア資産情報の固有情報

● 作成したユーザレポートと同等の検索を，コマンドラインから実行できるようにした。

● ユーザレポート作成画面に「画面表示情報」を追加して，出力項目の並び順と表示幅を設定できるようにした。

● ユーザレポートの検索条件に，同一のプロパティを複数指定できるようにした。

● 案件画面に主題項目を定義できるようにした。

● パッチ情報を JP1/NETM/DM のインストールパッケージ情報から取得する場合，「パッケージ識別 ID」の先頭が「WUA-SUP」のときに，適用状態に「適用」と設定されるようにした。

(4) 08-02 の変更内容

08-00 から 08-02 での変更点を次に示します。

● JP1/ 秘文 CG Pro の操作ログを参照できるようにした。

● ［セットアップ］ダイアログから，Asset Information Manager のセットアップに必要な次に示す作業を実行できるようにした。
- 資産管理サーバの設定
- 資産管理データベースの作成
- データソースまたはネット・サービスの作成
- 仮想ディレクトリの設定

● 設計用サンプルデータ（JP1/NETM/DM 連携）を使用して，Asset Information Manager の主要画面を操作できるようにした。

● 資産管理データベースとして使用できる Oracle8i のバージョンを変更した。

● JP1/ 秘文の操作ログを参照するかどうかを選択できるようにした。

● ［データベースマネージャ］ダイアログから，Embedded RDB のバックアップ，リストアおよび再編成を実行できるようにした。

● ハードウェア資産情報の「CPU 種別」に，次の CPU に対応するコードを追加した。
- Intel Core2
- Intel Core
- AMD Athlon 64 X2
- AMD Turion 64

● 定義データ量を 20 メガバイトから 30 メガバイトに変更した。

● ［データベースマネージャ］ダイアログから，資産管理データベースのアップグレードおよび移行を実行できるようにした。

（5）08-00 の変更内容

07-53 から 08-00 での変更点を次に示します。

- 使用できる DBMS に Microsoft SQL Server 2005 を追加した。
- JP1/NETM/DM および JP1/ 秘文と連携して，操作ログを管理できるようにした。
- Asset Information Manager を使用するための Microsoft Internet Explorer のバージョンを Microsoft Internet Explorer 6（SP1 以降）に変更した。
- 契約の更改履歴を管理できるようにした。
- インベントリ情報を取得すると更新されるパッチ情報の「適用状態」に，「未適用」だけでなく「適用」の情報を取得できるようにした。
- ［サーバセットアップ］ダイアログの設定項目のうち，次に示す設定項目のカテゴリおよび名称を変更した。

表 A-1　07-53 以前と 08-00 の［サーバセットアップ］ダイアログの設定項目の対応

07-53 以前		08-00	
カテゴリ	**設定項目**	**カテゴリ**	**設定項目**
基本情報	図面ボタンの表示	NetInsight II 連携	図面ボタンの表示
	NetInsight II 連携のキー		NetInsight II 連携のキー
	監視図ボタンの表示	NNM 連携	監視図ボタンの表示
	オープンマップ名		オープンマップ名
	接続先サーバ名		接続先サーバ名
	JP1/IM - CM との連携設定	JP1/IM 連携	JP1/IM - CM との連携設定
	WSUS コネクタの URL	WSUS 連携	WSUS コネクタの URL
メール情報	メールによる通知	メール通知情報	メールによる通知
	メールの送信先アドレス		メールの送信先アドレス
インベントリ情報	インベントリ情報取り込み用ログイン ID	JP1/NETM/DM 連携	JP1/NETM/DM データベースログイン ID
	インベントリ情報取り込み用サービス名		JP1/NETM/DM データベース接続サービス名
	JP1/NETM/DM 未導入機器の取り込み		JP1/NETM/DM 未導入機器の取り込み
	JP1/NETM/DM の運用キー		運用キー
	資産情報の引き当てキー		資産情報の引き当てキー
	資産情報の引き当て 1		資産情報の引き当て 1
	資産情報の引き当て 2		資産情報の引き当て 2

07-53 以前		08-00	
カテゴリ	設定項目	カテゴリ	設定項目
	引き当たらなかった資産の新規登録		引き当たらなかった資産の新規登録
	ダイヤルアップ接続の MAC アドレス		ダイヤルアップ接続の MAC アドレス
	取り込む情報の種別		取り込む情報の種別
	監視間隔		監視間隔
	JP1/NETM/DM で削除された資産の機器状態		JP1/NETM/DM で削除された資産の機器状態
	削除された資産に設定するコード		削除された資産に設定するコード
	パッケージ識別 ID の取得		パッケージ識別 ID の取得
	ソフトウェア名への自動割り当て		ソフトウェア名への自動割り当て
	ソフトウェアの自動登録		ソフトウェアの自動登録
ソフトウェア利用情報	JP1/Lan Licenser 情報取り込み用ログイン ID	JP1/Lan Licenser 連携	JP1/Lan Licenser データベースログイン ID
	JP1/Lan Licenser 情報取り込み用サービス名		JP1/Lan Licenser データベース接続サービス名
ネットワーク機器情報	NNM バージョン	NNM 連携	NNM バージョン
ディレクトリ情報	コードセット	ディレクトリサーバ連携	コードセット
ソフトウェア配布情報	JP1/NETM/DM で使用するジョブ格納フォルダ名	JP1/NETM/DM 連携	JP1/NETM/DM で使用するジョブ格納フォルダ名

（6） 07-53 の変更内容

07-51 から 07-53 での変更点を次に示します。

- WSUS サーバと連携して，更新プログラムを管理および適用できるようにした。
- 業務メニュー「設置場所管理」で削除した設置場所を，一時的に退避する「ゴミ箱」を追加した。
- 業務メニュー「IP グループ管理」で，部署別および設置場所別の IP グループを作成して，IP アドレスを部署別および設置場所別に管理できるようにした。また，JP1/NETM/DM のインベントリ情報取得時，Network Node Manager のノード情報取得時，およびタスク「データメンテナンス」実行時に，作成した IP グループに従って，機器の「部署」および「設置場所」が設定されるようにした。
- タスク「データメンテナンス」で実行できる作業に，次の作業を追加した。
  - ライセンス区分に合わせて，ユーザとソフトウェアキー情報，またはハードウェア

資産情報とソフトウェアキー情報の関連を解除する作業
- 移管したソフトウェア資産のライセンス数とライセンスキーをそれぞれ統合する作業
- 管理レベルを「管理対象外」に設定したソフトウェアのインストールソフトウェア情報を削除する作業
- 部署または設置場所別の IP グループで，対応する部署または設置場所が削除された IP グループを削除する作業
- ハードウェア資産情報の「IP アドレス」の値に合わせて，資産情報の「部署」を登録する作業
- ハードウェア資産情報の「IP アドレス」の値に合わせて，資産情報の「設置場所」を登録する作業
- 対応する情報が存在しない添付ファイルを削除する作業

● タスク「データメンテナンス」で実行する作業を，目的に応じて選択できるようにした。

● Asset Information Manager で発行する，次の JP1 イベントを追加した。
- 案件遷移イベント
- 案件状態変更イベント
- 案件削除イベント
- 問題点状態変更イベント
- 問題点削除イベント

● セットアップ時に指定した時間が過ぎて，自動的にログアウトした場合，ログアウトしたことを示すメッセージのあとにログイン画面が表示されるようにした。

● 不稼働機器一覧画面および一括変更画面から表示する［変更情報設定］ダイアログで，登録されている内容を削除できるようにした。

● 超過ライセンス一覧画面で検索されたソフトウェアの，利用機器一覧が表示された画面で，ライセンスが割り当てられている機器をアイコンで示すようにした。

● 超過ライセンスの利用者として検索された機器またはユーザに，［超過ライセンス利用機器一覧］ダイアログから，ライセンスの割り当てと解除をできるようにした。

● ソフトウェア資産の新規登録時に，ソフトウェア名にインストールソフトウェア名を割り当てられるようにした。

● 送信トレイ画面および実行案件管理画面から，案件の進ちょくを確認できるようにした。

● インストールソフトウェア管理画面から，インストールソフトウェア名のソフトウェア名への対応づけ，および対応づけの変更をできるようにした。

● 書式を一括で削除して，初期化できるようにした。

● JP1/NETM/DM のインベントリ情報を取得する際に，引き当て項目に設定した値を，上書きするかどうかを設定できるようにした。

● 案件遷移時に JP1 イベントを発行するタスク「JP1 イベント通知」を追加した。

● ハードウェア資産情報として管理できる項目に「コンピュータ ID」を追加した。

●「問題点状態変更イベント」の「ユーザ拡張エリア」に，任意の管理項目を割り当てて使用できるようにした。

● ハードウェア資産情報の「CPU 種別」に，次の CPU に対応するコードを追加した。
- Intel Pentium D
- Intel Celeron D
- AMD Duron MP
- Mobile AMD Athlon XP-M
- AMD Sempron
- Mobile AMD Sempron
- AMD Athlon 64
- AMD Athlon 64 FX
- Mobile AMD Athlon 64
- AMD64 互換 CPU
- AMD Opteron

（7） 07-51 の変更内容

07-50 から 07-51 での変更点を次に示します。

● JP1/IM - IDM と連携して，JP1/IM - IDM からインシデントを問題点として登録できるようにした。

● 適用 OS に Windows Server 2003 (x64) を追加した。

● NetInsight II のフロアレイアウト図から，該当する機器の［機器詳細］ダイアログを参照できるようにした。

● JP1/NETM/DM のインベントリ情報を取得する際に，パッケージ識別 ID を取得できるようにした。

● JP1/NETM/DM のインベントリ情報を取得する際に，パッケージ識別 ID とパッケージ名を使用して，既存のインストールソフトウェア情報と引き当てた上で，自動的にソフトウェア名と割り当てられるようにした。また，ソフトウェア名に割り当てられていないインストールソフトウェア名が引き当たった場合，新規にソフトウェア名を登録して割り当てられるようにした。

● タスク「データメンテナンス」で実行する作業を，目的に応じて選択できるようにした。

● 日付を指定するときに，カレンダーから日付を選択して指定できるようにした。

● 保守履歴として管理できる項目に「JP1/IM - IDM 登録元ホスト」および「JP1/IM - IDM 識別情報」を追加した。

（8）07-50 の変更内容

07-11 から 07-50 での変更点を次に示します。

- JP1/NETM/DM の操作履歴を取得して，利用者のソフトウェアの使用状況や画面表示の操作状況を監視できるようにした。
- JP1/NETM/DM のインベントリ情報を取得する場合，JP1/NETM/DM での変更をリアルタイムに取得できるようにした。
- JP1/IM - CM と連携して，JP1/IM - CM で Asset Information Manager の資産情報からシステム構成情報を取得して管理できるようにした。
- Network Node Manager と連携して，［監視図］ボタンから，ネットワークの構成を確認できるようにした。
- JP1/IM と連携して，JP1/IM の［イベントコンソール］画面から Asset Information Manager の操作画面を表示して，JP1 イベントと関連する情報を参照できるようにした。
- JP1/NETM/CSC と連携して，セキュリティ管理をできるようにした。
- 管理できる情報に，パッチ情報およびウィルス定義情報を追加した。
- 業務カテゴリ「ソフトウェア配布管理」の名称を「ソフトウェア適用管理」に変更した。
- 業務メニュー「ソフトウェア適用状況」からインストールソフトウェア情報，パッチ情報およびウィルス定義情報をそれぞれのタブから検索して適用状況を確認し，必要に応じて配布できるようにした。また，JP1/NETM/DM のあて先グループを指定した配布もできるようにした。
- JP1/NETM/DM のインベントリ情報から削除された機器を，Asset Information Manager で一時的に廃棄扱いにする状態「仮廃棄」を追加した。
- Network Node Manager と連携して，Network Node Manager のネットワークプレゼンタおよびノード・サブマップから，Asset Information Manager の資産情報を参照できるようにした。
- データベースを組み込んだ Asset Information Manager Embedded RDB Edition を追加した。
- JP1/NETM/DM で，JP1/NETM/DM Client をインストールしていない機器（JP1/NETM/DM 未導入機器）から取得した情報を，資産管理データベースに取り込めるようにした。
- クラスタシステムで Asset Information Manager を運用できるようにした。
- ［サーバセットアップ］ダイアログの「基本情報」の設定「同時接続コネクション数の指定」を削除した。

- JP1/NETM/DM のインベントリ情報と Asset Information Manager の資産情報を引き当てるための設定を変更した。
- ライセンス集計専用のタスクを追加した。
- 集計結果を指定した世代数だけ残して削除するオプションを追加した。
- 業務メニュー「ログ一覧」からインベントリ情報の取得状況を確認できるようにした。
- 業務メニュー「インポート」および jamCsvImport.bat でのインポート，業務メニュー「エクスポート」および jamCsvExport.bat でのエクスポートで指定する「資産種別」に「パッチ情報」,「ウィルス定義情報」,「カスタマイズ（案件定義）」を追加した。
- 業務メニュー「パッチ対象機器一覧」を削除した。
- 業務メニュー「ユーザ検索」からユーザを検索できるようにした。
- 業務メニュー「保有機器集計」に「集計観点」を追加して，管理項目を指定して機器を集計できるようにした。
- 業務メニュー「保有機器一覧」にネットワーク情報を表示しないようにした。
- 業務メニュー「不稼働機器一覧」の［一括変更］ボタンから機器の状態を一括で変更できるようにした。
- 業務メニュー「一括変更」で変更できる情報に,「稼働管理種別」,「機器種別」,「名称」,「型式」,「製造者」,「製造番号」,「構成種別」,「モニタ種別」,「モニタ解像度」,「モニタサイズ」および「仕様」を追加した。
- JP1/NETM/DM のインベントリ情報に合わせて,「機器種別」を変更するかどうかを選択できるようにした。
- 固有情報 Uint を利用して数値情報を追加できるようにした。
- 書式編集画面の「利用可能ボタン」を「非表示ボタン」に,「利用可能項目」を「非表示項目」に変更した。
- 案件画面を定義する Form Designer で，オブジェクトに対して設定するオブジェクト属性「データ型」に,「ソフトウェア参照」および「ソフトウェア資産参照」を追加した。
- 案件画面を定義する Form Designer で，挿入したオブジェクトの上下左右の位置をそろえるメニューを追加した。
- 資産情報として管理できる情報に,「DM 導入状態」,「DM 最終更新日付」を追加した。
- ハードウェア資産情報として管理できる情報に,「IP アドレス」,「MAC アドレス」,「ホスト名」,「MBSA バージョン」,「NNM 選択名」,「OS 情報」,「OS バージョン」,「DM 操作履歴更新日付」,「DM 操作履歴ファイル先頭日時」,「DM 操作履歴ファイル終端日時」,「DM 操作履歴エントリ番号」を追加した。

● 管理できる情報に，プログラム起動履歴およびウィンドウタイトル変更履歴を追加した。

● 次の情報に，固有情報を追加した。
- 資産情報
- ハードウェア資産情報
- 機器カタログ情報
- IP グループ管理情報

（9）07-11 の変更内容

07-10 から 07-11 での変更点を次に示します。

● 案件を使用した資産管理業務を実行できるようにした。

● ソフトウェアの変更履歴を管理できるようにした。

● 業務メニューからインポートおよびエクスポートできるようにした。また，業務メニュー「インポート」および「エクスポート」と同様の処理を，バッチファイルでも実行できるようにした。

● ディレクトリサーバと連携する場合に，文字コードの設定を変更できるようにした。

● 1 ページに表示される検索結果の件数を指定できるようにした。

● 契約期限の迫った契約情報がメールで通知されるタイミングを設定できるようにした。

● 資産情報を登録する際に，管理したいファイルも添付ファイルとして指定できるようにした。

● 期間を指定して変更履歴を検索できるようにした。

● ［機器詳細］ダイアログから，移管履歴だけでなくハードウェアおよびソフトウェアの変更履歴も参照できるようにした。

● ハードウェア資産情報の CPU 種別を追加した。

● 保守履歴として管理できる情報に管理番号を追加した。

（10）07-10 の変更内容

07-01 から 07-10 での変更点を次に示します。

● ライセンス情報を登録して，機器またはユーザに割り当てて管理できるようにした。

● JP1/IM と連携して，JP1/IM で管理している JP1 イベントなどの情報を基に，システム上の問題点を管理できるようにした。また，それに伴い，業務カテゴリおよび業務メニューの名称を変更した。

● JP1/NETM/DM と連携して，ソフトウェアの配布および配布状況の確認をできるようにした。

● ライセンスの集計をタスクで定期的に実行するようにした。

- ボリューム契約を管理できるようにした。
- 機器の変更履歴を管理できるようにした。
- インストールされているソフトウェアのファイル名，ファイル日付およびファイルサイズを管理対象に追加した。
- JP1/NETM/DM で収集したインベントリ情報を登録する際に，Asset Information Manager の管理項目に引き当てる項目を設定できるようにした。
- 利用数が超過しているライセンス，およびライセンスを保有していないソフトウェアを専用の操作画面で確認できるようにした。
- 使用期限を過ぎているライセンス，および保有ソフトウェアとして登録されているがライセンスを保有していないソフトウェアの利用数を集計できるようにした。
- 同時接続コネクション数を設定できるようにした。
- 「ライセンス超過のしきい値」の設定を，「メール情報」から「基本情報」に変更した。
- JP1/NETM/DM から取り込むインベントリ情報を選択する「取り込む情報の種別」の設定に，ソフトウェアインベントリ情報を含む選択肢を追加した。
- アクセス定義ファイルを作成して，独自の処理を実行するタスクを追加できるようにした。
- Asset Information Manager での管理項目に次の項目を追加した。
  資産情報の「管理部署 ID」，「管理部署」，「管理部署（英名）」，「管理者ユーザ ID」，「管理者」，「管理者（英名）」
- タスクでライセンス超過を検出した際に，資産管理者へのメール通知を OFF にする設定を追加した。
- 検索条件の「部署」および「設置場所」を，［参照］ボタンからも指定できるようにした。
- 検索条件の「資産番号」および「契約番号」を，「完全一致」，「部分一致」，「前方一致」または「後方一致」で指定できるようにした。
- 検索結果を PDF 出力できる操作画面を追加した。
- JP1/NETM/DM のインベントリ情報に合わせて，ネットワーク情報およびインストールソフトウェア情報を削除するかどうかを設定できるようにした。
- JP1/NETM/DM のインベントリ情報から取得した機器の場合，［機器詳細］ダイアログから，JP1/NETM/DM のインベントリ情報を直接参照できるようにした。
- 管理項目に追加できるコードの範囲を限定した。
- 資産管理情報，ハードウェア資産情報，および機器カタログ情報に，ユーザ拡張用プロパティの種類を追加した。
- プロセス情報を削除した。

（11）07-01 の変更内容

07-00 から 07-01 での変更点を次に示します。

- JP1/Cm2/Network Node Manager と連携して，ノード情報をタスクで定期的に登録できるようにした。
- 操作画面をユーザ権限に応じてカスタマイズする業務フィルター機能を追加した。
- 棚卸未実施機器の集計結果を CSV ファイルでダウンロードできるようにした。
- ソフトウェアに対してインストールの許可を設定する業務メニューを「インストールソフトウェア管理」に変更した。
- JP1/NETM/DM のインベントリ情報を取り込む際，新規に登録する資産情報の資産番号を設定する方法に，「ホスト名」，「ノード名」，「IP アドレス」，「MAC アドレス」および「コンピュータ名」を追加した。
- JP1/NETM/DM のユーザインベントリ情報でユーザ名，部署および設置場所を管理している場合，資産情報として登録できるようにした。
- JP1/NETM/DM のインベントリ情報からインストールソフトウェア名を新規に登録する場合，インストールを許可するかどうかの設定をできるようにした。
- タスク「データメンテナンス」で，部署 ID，設置場所 ID，ユーザ ID に対応する部署名，設置場所名，ユーザ名を，資産情報および契約情報に設定できるようにした。
- ライセンス数の使用状況を監視してメールで通知する際に，ソフトウェアごとにメールで通知するしきい値を設定できるようにした。
- 同一の IP アドレスを複数の機器に登録できるようにした。
- 機器にインストールされているソフトウェアの情報を，操作画面から追加，編集できるようにした。
- 保有機器一覧画面の検索条件に「IP アドレス」，「MAC アドレス」，「ノード名（ホスト名）」，「コンピュータ名」，「デフォルトゲートウェイ」を追加した。
- 複数台の機器を一度に登録できるようにした。
- 機器の「ユーザ名」に，Asset Information Manager に登録されていないユーザ名を登録できるようにした。
- 契約会社カタログの内容を削除できるようにした。
- 契約一覧画面の検索条件に「契約開始日」を追加した。
- ライセンスを保有しているかどうか，ライセンスが超過しているかどうかで，ライセンス数を集計できるようにした。
- 稼働状況の集計結果から表示する，ソフトウェアを使用している機器の一覧項目に，「コンピュータ名」，「IP アドレス」を追加した。
- インストールされているソフトウェアのプロダクト ID を登録できるようにした。

- インストールされているソフトウェアを，種別で検索できるようにした。また，種別のコードを追加および変更できるようにした。
- インストールされているソフトウェアに，ライセンス管理の対象とするレベルを設定できるようにした。
- 操作画面に表示されるボタン，クラスのプロパティと対応しない検索条件，およびリストヘッダの名称，表示・非表示を変更できるようにした。また，タブの名称を変更できるようにした。
- ユーザレポート専用の業務カテゴリを追加できるようにした。
- ユーザレポートで作成した操作画面から，［機器詳細］ダイアログ，［ソフトウェア詳細］ダイアログ，および［契約詳細］ダイアログを表示できるようにした。
- JP1/NETM/DM のインベントリ情報から取得できる項目を追加した。
- JP1/NETM/DM のインベントリ情報から取得できる CPU 種別を追加した。
- 「InstalledInfo（インストールソフトウェア情報）」，「InstalledList（インストールソフトウェアリスト）」に，ユーザ拡張用のプロパティを追加した。

付録 B　用語解説

(英字)

Asset Information Manager

ネットワーク装置を含めたハードウェア情報，ソフトウェア情報，契約情報などをデータベースに一元管理することで，資産の導入，ソフトウェアのライセンス管理，機器の保守などに伴う IT 資産管理業務の合理化および管理コストの低減を支援する製品です。また，JP1/NETM/DM，JP1/Lan Licenser，JP1/ 秘文，Network Node Manager，NetInsight II および JP1/IM といった JP1 製品と連携することで，IT 資産を統合的に管理できます。

CD ライティング

書き込み可能 CD/DVD メディアに，データを書き込むための専用ソフトを起動した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

Embedded RDB

Asset Information Manager または JP1/NETM/DM Manager に組み込まれたデータベースです。Embedded RDB を使用することで，新たに DBMS 製品を購入することなく，Asset Information Manager および JP1/NETM/DM を導入できます。

EUR（イーユーアール）

表形式のデータを入力して帳票を印刷するプログラムです。難しいプログラム作成や入力元のデータ形式を気にすることなく，さまざまな帳票を設計する機能を提供しています。

IP グループ情報

IP アドレスをグルーピングして管理するための情報です。グループごとに任意の名前を付けて，部門ごとにわかりやすい名称で IP アドレスを管理できます。

IT サービス

ビジネスやサービスの遂行を支援する仕組みとして IT システムを活用した，顧客の要望を満たすサービスです。

IT 資産

企業内に多数保有している PC，プリンタなどの IT 機器，ソフトウェアおよびそれらを使用するネットワーク環境です。

JP1/Base

JP1/IM および JP1/IM - CM の基盤となる機能を提供している製品です。JP1 イベントの送受信や，ユーザの管理，起動の制御などをします。また，JP1/IM システムのエージェントとしての役割も持ちます。

JP1/Base は，JP1/IM の前提プログラムです。

JP1/IM

企業情報システム全体を統合管理する製品です。システムをさまざまな角度で運用管理する JP1 シ

リーズと連携し，システムで発生した事象を JP1 イベントによって一元管理します。また，問題が発生すると迅速に管理者へ通知するとともに，問題個所を把握し調査を行うための運用操作の基盤を提供します。

JP1/IM - CM

業務システムを構成する各種のリソース（サーバ，ストレージなど）やシステム構成に関する情報を集約して管理する製品です。管理対象のリソースを任意にグルーピングできるため，システムの監視（性能，障害）や運用（設定配布，構成変更）の際に，グループ単位で管理したり操作したりできます。

JP1/IM - IDM

システムで発生した障害を速やかに検知，回復することを目的として，障害事象をインシデントとして管理する製品です。インシデントの発生から解決までの内容を記録・蓄積していくことで，過去の対策事例を基に速やかな障害回復を支援します。

JP1/IM - Service Support

問い合わせやシステム障害など，解決が必要な案件が発生した場合に，速やかに案件の内容を調査して対処するための機能を提供している製品です。

JP1/Lan Licenser

ネットワークを利用して，ソフトウェアの使用状況を監視し，ライセンス管理機能，ソフトウェア使用状況のデータ作成機能を提供している製品です。

JP1/NETM/CSC

Asset Information Manager の管理する資産情報を利用して，システムのセキュリティ対策を実施する製品です。JP1/NETM/CSC を導入したセキュリティ管理システムでは，管理者が設定したポリシーに基づいて，自動的に機器の危険レベルが判定され，判定結果に応じたアクション（対策）が実行されます。
また，管理者は Asset Information Manager の業務カテゴリ「クライアントセキュリティ管理」以下の画面で，クライアントを監視したり必要に応じてアクションを実施したりできます。

JP1/NETM/DM

ソフトウェアの配布およびクライアントの管理を，ネットワークを利用し，一括で実行するシステムの総称です。

JP1/NETM/DM **未導入機器**

ネットワークにある JP1/NETM/DM Client をインストールしていない機器です。

JP1/ **秘文**

さまざまな状況で企業内の機密データの漏えいを防止する製品です。クライアントが保持しているデータを暗号化する機能，FD などのリムーバブルメディアへの持ち出しを禁止する機能などを提供します。

JP1/ **秘文** CG Pro

Microsoft Office 文書を暗号化して専用の USB メモリに格納し，持ち出した Microsoft Office 文書を USB メモリにインストールされた専用ツールでしか閲覧・編集できないようにする製品です。
JP1/ 秘文 CG Pro を使用することで，外部に持ち出した USB メモリからの情報流出を防止できます。JP1/ 秘文と連携して操作ログを取得する場合，管理対象のクライアントにインストールします。

JP1/秘文 CG Pro エラー発生

JP1/ 秘文 CG Pro でエラーが発生した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

JP1/秘文 CG Pro からの持ち込み

JP1/ 秘文 CG Pro からデータが持ち込まれた場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

JP1/秘文 CG Pro 起動

JP1/ 秘文 CG Pro が起動した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

JP1/秘文 CG Pro への持ち出し

JP1/ 秘文 CG Pro へデータが持ち出された場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

JP1/秘文 IC

データを暗号化する製品です。JP1/ 秘文と連携して操作ログを取得する場合，管理対象のクライアントにインストールします。

JP1/秘文 IF

データを外部媒体に格納して持ち出すことを禁止（または許可）する製品です。JP1/ 秘文と連携して操作ログを取得する場合，管理対象のクライアントにインストールします。

JP1/秘文 IS

ファイルサーバと連携して，ファイルサーバ上の共有機密フォルダに対するアクセスを制御する製品です。JP1/ 秘文と連携して操作ログを取得する場合，管理対象のクライアントにインストールします。

JP1/秘文 管理サーバ情報変更

JP1/ 秘文 管理サーバで情報が変更された場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

JP1/秘文 管理サーバへの認証

JP1/ 秘文 管理サーバへの認証に失敗した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

JP1 イベント

システムで何らかの事象（ジョブの実行結果，サービスのエラーなど）が発生したときに通知される事象です。

MIB

Network Node Manager の管理情報データベースです。Asset Information Manager では，Network Node Manager で収集したノード情報を，管理情報データベースから取り込んで資産管理に利用できます。

NetInsight II

フロアレイアウト図によって，ネットワークの物理的な構成表示機能，機器・テーブルの設備資産情報の管理機能を提供している製品です。

Network Node Manager

ネットワークでつながれた複数のシステムとアプリケーションを，一つのネットワークグラフィック画面から管理する機能を提供している製品です。

PC 起動

PC を起動，停止，ログオン，およびログオフした場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/NETM/DM で収集されます。

SNMP トラップ

Network Node Manager が管理する事象です。

WSUS サーバ

Microsoft Update の更新プログラムを管理するサーバです。

（ア行）

アクセス制限

資産管理システムで管理する資産情報のうち，税務申告や保守契約料金のように，利用するユーザが限定される情報に対して設ける制限です。
資産管理システムで設定できるアクセス制限は次のものです。

- ユーザ ID およびパスワードによるユーザ確認
- 権限によるシステム利用の可否
- 権限による操作画面から実行できる機能の制限
- 権限によるメニューの制限

アクティビティ

案件を定義する際の構成要素で，案件が次の作業者に送付される際に，実行される処理です。例えば，「申請」や「承認」という処理が，アクティビティに当たります。
アクティビティは Flow Designer で定義し，Activity Designer で内容を設定します。

アソシエーションクラス

オブジェクトクラス同士の関係を定義するクラスです。
アソシエーションは，複数のクラス間の関係を表します。具体的には，二つのクラス間の多重度や，二つのクラスがデータの追加や削除時にどのように処理されるかを定義します。

あて先

JP1/NETM/DM の配布管理システムからジョブを実行するときの，実行対象となるクライアントです。
Asset Information Manager では，操作画面で検索した機器をあて先として，ソフトウェアを配布できます。また，JP1/NETM/DM で作成したあて先グループを指定して，ソフトウェアを配布することもできます。

案件

ルートを定義した業務です。
例えば，「機器導入依頼票」や「ソフトウェア配布申請」などを指します。

案件カテゴリ

業務内容で分けた案件の分類です。
新規案件を選択する画面（新規案件画面）では，案件は案件カテゴリごとのタブに分かれて表示されます。

イベント管理者

JP1/IM から Asset Information Manager の資産情報を参照するためのユーザです。このユーザにあらかじめパスワードを設定しておくと，［イベントコンソール］画面から資産情報を参照する際，自動的に，Asset Information Manager にログインできます。

インシデント

IT サービスの品質を低下させたり，システムの正常な運用を妨げたりする障害事象の単位です。

インシデント管理者

JP1/IM - IDM から Asset Information Manager の資産情報を参照するためのユーザです。このユーザにあらかじめパスワードを設定しておくと，［インシデントコンソール］画面またはインシデントの検索結果画面から資産情報を参照する際，自動的に，Asset Information Manager にログインできます。

インストールソフトウェア情報

各機器にインストールされているソフトウェアを管理するための情報です。
インストールソフトウェア情報は，JP1/NETM/DM のインベントリ情報などを資産管理データベースに取り込んで利用するための情報です。
そのため，ソフトウェアの名称およびバージョンは，JP1/NETM/DM など，情報の取り込み先で管理されている内容となります。

インストールソフトウェアリスト

各機器にインストールされているソフトウェアの名称を管理するための情報です。また，インストールソフトウェアに対する各種設定を管理するためにも使用します。

インベントリ情報

クライアントでのハードウェアの使用状況やインストールされているソフトウェアの種類などの情報で，この情報を基にクライアントを管理します。インベントリ情報は，JP1/NETM/DM の配布管理システムからジョブを実行して取得します。
資産管理システムでは，JP1/NETM/DM で取得したインベントリ情報を資産情報として登録できます。

インポート

CSV ファイルの情報を一括して資産管理データベースへ取り込むことです。
インポートには，次の三つの方法があります。

- 業務メニュー「インポート」からのインポート
  インポートの条件を作成し，CSV ファイルの資産情報を一括で更新します。
  この方法では，Asset Information Manager にログインできる環境であれば，どこからでもインポートできます。また，CSV ファイルのフォーマットや，クラスおよびクラス間の関係を意識す

ることなく資産管理データベースの情報を更新できます。

- jamCsvImport.bat でのインポート
  業務メニュー「インポート」からのインポートと同様の処理を，資産管理サーバ上のコマンドラインから実行します。CSV ファイルのフォーマットや，クラスおよびクラス間の関係などを意識することなく資産情報を更新できるので，運用を自動化するのに便利です。ただし，jamimport コマンドに比べると，処理に時間が掛かります。
- jamimport コマンドでのインポート
  CSV ファイルの情報を取捨選択することなく，一括して資産管理データベースへ取り込むことです。CSV ファイルには，資産管理データベースのデータを追加，変更または削除する情報を記述します。インポートは，Asset Information Manager が提供するコマンドで実行します。

ウィルス定義情報

機器にインストールされているウィルス対策ソフトウェアおよびウィルス定義ファイルの情報です。ウィルス定義情報は，「ウィルス対策ソフトウェア名」，「ウィルス対策ソフトウェアバージョン」，「ウィルス定義バージョン」などを表します。

ウィンドウタイトル変更

操作したウィンドウのウィンドウタイトルが変更された場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/NETM/DM で収集されます。

ウィンドウタイトル変更履歴

管理対象の機器で操作したウィンドウのウィンドウタイトルが変更された場合に収集される履歴を管理する情報です。業務メニュー「ウィンドウタイトル変更履歴」から参照できます。JP1/NETM/DM 07-50 以降と連携することで，JP1/NETM/DM で収集した操作履歴から取得できます。
ウィンドウタイトル変更履歴は，「ログインユーザ」，「プログラム名」，「プログラムバージョン」，「発生日時」，「ウィンドウタイトル」などを表します。

エクスポート

資産管理データベースの情報を，一括して CSV ファイルに出力することです。
エクスポートには，次の三つの方法があります。

- 業務メニュー「エクスポート」からのエクスポート
  出力したい資産情報を選択してエクスポートの条件を作成し，一括で CSV ファイルに出力します。この方法では，Asset Information Manager にログインできる環境であれば，どこからでもエクスポートできます。
- jamCsvExport.bat でのエクスポート
  エクスポート画面からのエクスポートと同様の処理を，資産管理サーバ上のコマンドラインから実行します。
- jamexport コマンドでのエクスポート
  資産管理データベースの情報を取捨選択することなく，一括して CSV ファイルに出力することです。CSV ファイルは，クラスごとに出力されます。エクスポートは，Asset Information Manager が提供するコマンドで実行します。

エスカレーション

システムに障害が発生した場合に，管理者や責任者に障害の詳細を伝達することです。
Asset Information Manager を使用した資産管理システムでは，JP1/IM - IDM からのインシデントを問題点として登録することでエスカレーションします。

オブジェクト

案件画面に配置するテキストフィールドやボタンなどの総称です。オブジェクトは Form Designer で設定します。

オブジェクトクラス

資産情報を管理する単位となるクラスです。オブジェクトクラスは，資産管理システムで管理する各項目を，クラスとプロパティを対応づけるテーブルや資産管理データベースに入出力する形態で表す情報です。

（カ行）

拡張装置

ハードウェア種別の一つで，「ディスプレイ」，「HD」，「CD-R」，「DAT」，「MO」，「プリンタ」です。資産管理システムでは，ハードウェアをシステム装置，拡張装置，ネットワーク装置の 3 種類に分けて管理します。

監視図

Network Node Manager で検出したネットワーク機器のマップです。ネットワーク機器の接続や，ネットワークの問題点などを参照できます。

管理項目

Asset Information Manager で管理する情報の各項目です。資産管理データベースで管理するクラスのプロパティに対応します。

管理項目名

案件を定義する際に，Form Designer で定義したテキストフィールド，テキストエリアおよびプルダウンへの指定値を識別するための名称です。クラスのプロパティを意識することなく，任意の文字列を指定できます。
この名称を基に，Activity Designer で資産管理データベースの更新方法を設定します。

管理者

企業の IT 資産管理全般を行う部署（情報システム管理部門）の機器管理担当者やネットワーク管理者です。管理者は，資産情報全般の情報を扱うことができます。

管理ノード

案件を定義する際の構成要素で，案件がたどるルートの各作業者（または部署）です。例えば，「申請者」や「承認者」が，管理ノードに当たります。
管理ノードは Flow Designer で定義します。

管理ラベル

組織階層単位でアクセス制限を行う場合に設定します。部署とユーザ権限に同一の管理ラベル（任意の文字列）を設定することで，管理ラベルを設定したユーザ権限を持つユーザは，同じ管理ラベルが設定された部署以下の情報しか扱えなくなります。

管理レベル

ライセンスを管理するレベルです。インストールされているソフトウェアに対して設定します。各ソフトウェアに対して設定しておくと，JP1/NETM/DM のインベントリ情報がこの設定に従って登

録されます。管理レベルの設定は，インストールソフトウェア管理画面で行います。
管理レベルには次の 3 段階があります。

- 「管理対象」
  ライセンスの利用数としてカウントする場合に選択します。
- 「集計対象外」
  ライセンスの利用数としてはカウントしない場合に選択します。インストールされているソフトウェアとして，情報は登録されます。
- 「管理対象外」
  ライセンス管理の対象外とし，インストールされているソフトウェアとしての情報も登録しない場合に選択します。

機器カタログ

機器の情報には，CPU やメモリサイズなど，製品ごとに決まっている項目を登録したものです。
新規に機器を登録するときに，あらかじめ登録されているカタログの中から，登録したい製品を選択することで，製品によって決まっている項目を入力する手間を省けます。

機密ファイル作成

JP1/ 秘文の自己復号型機密ファイル作成ツールによってファイルを暗号化した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

キャビネット

JP1/NETM/DM の配布管理システムにある，パッケージを保管するための領域です。
Asset Information Manager では，JP1/NETM/DM のキャビネットに保管されているパッケージを配布できます。

業務フィルター

ユーザ権限に応じて，操作画面から実行できる処理を制限する機能です。
各操作画面の構成要素（ボタン，検索条件，編集項目など）を，ユーザ権限に応じて変更します。

クラス

1. 資産情報のカテゴリごとに分けた管理情報の集まりです。資産管理システムで扱うクラスには，オブジェクトクラスおよびアソシエーションクラスがあります。
2. 「セキュリティ問題の修正プログラム」，「重要な更新」などの WSUS での更新プログラムのカテゴリです。

契約情報

各機器およびソフトウェアを保守，リースまたはレンタルの契約ごとに管理するための情報です。
同一の契約を行った複数の機器やソフトウェアを一つにまとめ，契約番号を付けることによって，契約単位に各機器またはソフトウェアを管理できます。

権限管理情報

権限管理情報は，資産管理システムでのユーザの役割を管理するための情報です。デフォルトでは，「管理者」と「利用者」の権限が設定されています。

検索パターン

［操作ログ一覧］ウィンドウで操作ログを検索するための検索条件を保存したものです。主な検索目的に使用する検索パターンは，デフォルトで登録されています。また，デフォルトで登録されている検索パターンを編集したり，新規に登録したりもできます。

更新プログラム

Microsoft Update で提供されている，システムの特定の問題を解決するプログラムです。Asset Information Manager では，WSUS サーバと連携して更新プログラムを管理します。

構成管理者

JP1/IM - CM から Asset Information Manager の資産情報を参照するためのユーザです。このユーザにあらかじめパスワードを設定しておくと，セントラルインフォメーションマスター・ビューアーから資産情報を参照する際，自動的に，Asset Information Manager にログインできます。

コード ID

資産管理データベース上でコードに対応づけて管理されている項目に対して，ユニークに付けられている ID です。コードを編集する場合は，このコード ID を基にコードを追加，削除します。

（サ行）

作業者

案件を実行するユーザです。案件は，定義されたルートに従って，作業者（個人）に送付されます。

資産

ユーザが資産として管理する単位です。

資産には，機器に関する資産，ソフトウェアに関する資産およびユーザ固有の資産があります。機器に関する資産は一つ以上の機器で，ソフトウェアに関する資産は一つ以上のソフトウェアで構成されます。ユーザ固有の資産は，ユーザ固有の情報で構成されます。

資産管理サーバ

資産情報を管理し，資産情報に関するサービスを提供するサーバです。

資産管理システム

資産情報を管理するシステムです。資産管理システムは次のプログラムで構成されます。

- 資産管理サーバ
- 資産管理データベースサーバ
- WWW ブラウザ

資産管理データベース

資産情報を格納するデータベースです。資産管理システムが扱えるデータベースシステムは，Microsoft SQL Server，Embedded RDB または ORACLE です。

資産管理データベースサーバ

資産情報を格納するデータベースがあるサーバです。

資産情報

企業内にあるハードウェアおよびソフトウェアを管理するための情報です。資産情報では，ハードウェアやソフトウェアそのものの情報ではなく，「資産番号」，「部署」，「ユーザ名」，「設置場所」などを表します。

「資産番号」は，各資産を特定するための番号で，ユーザが任意に付けることができます。資産管理システムでは，この資産番号が各資産を管理するための最も基本的な単位になります。

システム装置

ハードウェアの種別の一つで，「PC」，「PC サーバ」，「UNIX」，および「UNIX サーバ」です。資産管理システムでは，ハードウェアをシステム装置，拡張装置，ネットワーク装置の 3 種類に分けて管理します。

書式

業務フィルターで，各操作画面をカスタマイズした設定（ボタンや検索条件の表示・非表示の設定など）内容です。
書式は操作画面ごとに設定し，一つの操作画面に複数設定することもできます。

職権

案件の中で，承認などの処理を実行できる作業者を，限定するための権限です。
職権が定義された作業を実行するには，Asset Information Manager にログインする権限とは別に，職権を持っている必要があります。

ジョブ

JP1/NETM/DM の機能の実行単位です。
Asset Information Manager の操作画面からは，次の 2 種類のジョブを実行できます。

- パッケージのインストール
- クライアントユーザによるインストール

透かし印刷

JP1/ 秘文で透かし印刷された場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

設置場所情報

資産の設置場所を管理する情報です。設置場所情報は「設置場所名」，「住所」，「面積」，「場所属性」などを表します。

設備管理者

NetInsight II から Asset Information Manager の資産情報を参照するためのユーザです。このユーザにあらかじめパスワードを設定しておくと，フロアレイアウト図から資産情報を参照する際，自動的に，Asset Information Manager にログインできます。

操作ログ

JP1/NETM/DM および JP1/ 秘文で取得される，ユーザの操作の情報です。Asset Information Manager では，JP1/NETM/DM および JP1/ 秘文のデータベースを直接参照して，データベースに格納されている操作ログを検索したり確認したりできます。
操作ログからは，ファイルのコピー，名称変更などの操作が，いつ，どこで実行されたかを確認したり，時系列に追跡したりできます。また，操作ログを集計することで，集計結果から各部署の状況を把握することもできます。

組織

ユーザ情報を扱う単位の一つです。ユーザ情報をそのユーザが所属している「組織」という観点で扱うことで，組織階層単位に情報のアクセスを制限できます。

組織外

次に示す状態の PC，またはその環境です。

- JP1/ 秘文 IC がインストールされていない
- JP1/ 秘文 IC はインストールされているが，組織鍵が異なる

組織鍵とは，JP1/ 秘文 IC で，同じインストール媒体を使用してインストールされた PC かどうかを識別するための情報です。

組織外持ち出し

ファイルを暗号化して持ち出した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。
持ち出しとは，ファイルをリムーバブルやネットワークにコピーまたは移動することです。また，リムーバブルメディアなどを組織外に持ち出す行為のことです。印刷による情報の持ち出しも含みます。

ソフトウェア稼働情報

機器にインストールされているソフトウェアの稼働時間の情報です。
ソフトウェア稼働情報は，JP1/Lan Licenser で取得した情報を資産管理データベースに取り込んで利用するため，ソフトウェアの名称は，JP1/Lan Licenser で管理されている名称となります。

ソフトウェアキー情報

ライセンスを利用先の機器やユーザに割り当てるためのキーとなる情報です。ソフトウェアキー情報は，「プロダクト ID」，「ライセンスキー」，「シリアル No.」などを表します。

ソフトウェア資産情報

商用ソフトウェア，シェアウェア，フリーウェアなど，資産管理システムに資産として登録したソフトウェアに関する情報です。ソフトウェア資産情報は，「資産 ID」，「ソフトウェア名」，「数量」を表します。

（タ行）

タスク

アクティビティ（案件が次の作業者に送付される際に実行される処理）を定義するときに組み合わせる処理内容です。
例えば，導入した機器の情報を登録するアクティビティは，「機器情報登録」と「ネットワーク情報登録」のタスクを組み合わせて定義します。
各アクティビティのタスクは，Activity Designer で設定します。

通常印刷

JP1/ 秘文で透かし印刷以外の印刷をした場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

データファイル

インポートおよびエクスポートで必要な CSV 形式のファイルです。データファイルは，「項目タイトル行」と「データ行」から構成されます。
インポートの場合は，アソシエーションクラス単位で，資産情報（資産データ）を記述します。
エクスポートの場合は，アソシエーションクラス単位で，資産情報の出力先として作成されます。

データファイル名定義ファイル

複数のデータファイルを一括してインポートまたはエクスポートする場合に必要なテキストファイルです。
データファイル名定義ファイルには，インポートまたはエクスポートする，すべてのデータファイル名と，そのデータファイルに対応するアソシエーションクラス表示名を定義します。

（ナ行）

ネットワーク管理者

Network Node Manager から Asset Information Manager の資産情報を参照するためのユーザです。このユーザにあらかじめパスワードを設定しておくと，ネットワークプレゼンタまたはノード・サブマップから資産情報を参照する際，自動的に，Asset Information Manager にログインできます。

ネットワーク情報

各機器のネットワーク上の位置を管理するための情報です。ネットワーク情報は，「IP アドレス」，「MAC アドレス」，「ノード名」，「コンピュータ名」などを表します。

ネットワーク装置

ハードウェア種別の一つで「HUB」，「ルータ」，「ネットワークプリンタ」です。資産管理システムでは，ハードウェアをシステム装置，拡張装置，ネットワーク装置の 3 種類に分けて管理します。

（ハ行）

ハードウェア資産情報

ハードウェア資産を管理するための情報です。ハードウェア資産情報は，Asset Information Manager を使用した資産管理システムで扱うすべてのハードウェアに関する情報です。ハードウェア資産情報は，機器そのものの情報で，「装置種別」，「機器種別」，「名称」などを表します。

パッケージ

JP1/NETM/DM の配布管理システムに登録され，配布できる状態になったソフトウェアです。配布管理システムにあるキャビネットに保管されます。
Asset Information Manager からソフトウェアを配布する場合は，JP1/NETM/DM で事前にパッケージを作成しておく必要があります。

パッケージング

JP1/NETM/DM で，パッケージを作成することです。

パッチ情報

各機器のパッチの適用状態を管理する情報です。パッチ情報は，「インストール日」，「適用状態」などを表します。

パッチリスト

パッチの名称を管理する情報です。パッチリストは，「パッチ名」，「パッチバージョン」などを表します。

秘文ログイン

JP1/ 秘文でログイン，ログアウト，ログインエラーなどが起きた場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

平文持ち出し

秘文フォーマットしていないリムーバブルメディア，外付けハードディスクに，ファイルを暗号化しないで（平文で）持ち出した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

持ち出しとは，ファイルをリムーバブルやネットワークにコピーまたは移動することです。また，リムーバブルメディアなどを組織外に持ち出す行為のことです。印刷による情報の持ち出しも含みます。

ファイル操作

作成，コピーなど，フォルダおよびファイルを操作した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/NETM/DM および JP1/ 秘文で収集されます。

部署情報

資産管理システムを利用する部門など，組織を管理するための情報です。部署情報は，「部署名」，「部署コード」，「原価コード」などを表します。

プログラム起動

プログラムを起動，終了した場合，およびプログラムの起動を抑止された場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/NETM/DM で収集されます。

プログラム起動履歴

管理対象の機器で使用したプログラムの起動および終了の履歴を管理する情報です。業務メニュー「プログラム起動履歴」から参照できます。JP1/NETM/DM 07-50 以降と連携することで，JP1/NETM/DM で収集した操作履歴から取得できます。

プログラム起動履歴は，「ログインユーザ」，「プログラム名」，「プログラムバージョン」，「発生日時」などを表します。

プロパティ

クラスの個々の属性です。

変更履歴

機器のメモリサイズやディスク容量の変更を管理するための情報です。CPU，メモリ，ディスクが物理的に不当に変更されていないかどうかを確認できます。

変更履歴は，「変更日付」，「ディスク容量」，「メモリサイズ」，「CPU」などを表します。

保守履歴

機器の障害内容やその対策内容を管理するための情報です。JP1/IM と連携する場合，保守履歴として JP1 イベントを取得できます。

保守履歴は，「登録日」，「障害内容」，「重大度」，「発生ホスト名」，「対策完了日」，「対策内容」，「費用」，「参考資料（URL）」などを表します。

ボリューム契約情報

ソフトウェアのボリュームライセンスの契約内容を管理するための情報です。

ボリューム契約情報は，「対象製品」，「目標ポイント数」，「契約日」，「契約開始日」，「契約終了日」，

「契約会社」,「契約内容」,「契約状態」などを表します。

（マ行）

メタ定義・制御テーブル

クラスと資産管理データベース内のテーブルを対応づけるために必要なテーブルです。メタ定義・制御テーブルを Asset Information Manager のセットアップ時に資産管理データベースにインポートすることで，データベースのデータ構造が定義されます。

メディアに書き込み

JP1/ 秘文でメディアに書き込みが発生した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

（ヤ行）

ユーザインベントリ情報

ユーザが任意に設定できる，ユーザ名や資産番号などの情報です。ユーザインベントリ情報は，JP1/NETM/DM の配布管理システムからジョブを実行して取得します。
資産管理システムでは，JP1/NETM/DM で取得したユーザインベントリ情報を資産情報として登録できます。

ユーザ管理情報

資産管理システムを利用するユーザを管理するための情報です。ユーザ管理情報には,「ユーザ名」,「電話番号」,「メールアドレス」,「役職名」などを表します。

ユーザライブラリ

案件で使用する画像を資産管理サーバにアップロードして，共通して使用するためのものです。Form Designer で案件画面に挿入したい画像は，ユーザライブラリに登録する必要があります。

ユーザレポート

ユーザが追加する業務と，その業務を実行するための操作画面です。Asset Information Manager では，あらかじめ提供されている業務メニューの業務のほかに，独自の業務（ユーザレポート）を追加できます。

（ラ行）

ライセンスキー登録

JP1/ 秘文で管理者がライセンスキーを登録した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

ライセンス区分

購入したライセンスの区分が,「マシン許諾」または「ユーザ許諾」のどちらかを表します。ライセンスの集計は,「ライセンス区分」の情報ごとに実行されます。

ライセンス形態

購入したライセンスの形態が，次のうちのどれかを表します。

- マシン許諾ライセンス
- ユーザ許諾ライセンス
- サーバライセンス
- クライアントアクセスライセンス
- 管理ノードライセンス
- CPU ライセンス
- セカンドライセンス
- 同時実行ライセンス

なお，「ライセンス形態」は，ライセンス形態を詳細に管理するための情報で，ライセンスの集計結果には影響しません。

ライセンス情報

ソフトウェアのライセンス内容を詳細に管理するための情報です。
ライセンス情報は，「ライセンス名」，「アップグレード保証」，「ダウングレード可否」，「ライセンス形態」，「ライセンス取得方法」，「ライセンス区分」などを表します。

ルート

案件がたどる作業者の順番です。
案件は定義されたルートに従って，順次処理されます。案件のルートは Flow Designer で定義します。

ログの改ざんチェック

JP1/ 秘文でログの改ざんを検知した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

索引

A

Asset Information Manager 287
Asset Information Manager へのログインとログアウト 2

C

CD ライティング 287
CSV ファイルのフォーマット 248

E

Embedded RDB 287
EUR 287

F

FAQ（案件の作成と処理） 203

I

IP アドレスの使用状況を参照する 217
IP アドレスの使用状況をダウンロードする 220
IP アドレスを解除する 219
IP アドレスを機器に割り当てる 218
IP アドレスを追加する 160
IP グループ管理 215
IP グループ情報 287
IP グループ情報を変更する 215
IP グループを削除する 220
IP グループを追加する 216
IT サービス 287
IT 資産 287

J

jamOperationLogAddUp（操作ログの集計）コマンドの実行 144
JP1/Base 287
JP1/IM 287
JP1/IM - CM 288
JP1/IM - IDM 288
JP1/IM - Service Support 288
JP1/Lan Licenser 288
JP1/Lan Licenser と連携してソフトウェアの稼働時間を調査する 125
JP1/NETM/CSC 288
JP1/NETM/DM 288
JP1/NETM/DM 未導入機器 288
JP1/ 秘文 288
JP1/ 秘文 CG Pro 288
JP1/ 秘文 CG Pro エラー発生 289
JP1/ 秘文 CG Pro からの持ち込み 289
JP1/ 秘文 CG Pro 起動 289
JP1/ 秘文 CG Pro への持ち出し 289
JP1/ 秘文 IC 289
JP1/ 秘文 IF 289
JP1/ 秘文 IS 289
JP1/ 秘文 管理サーバ情報変更 289
JP1/ 秘文 管理サーバへの認証 289
JP1 イベント 289

M

MIB 289

N

NetInsight II 290
Network Node Manager 290

P

PC 起動 290

S

SNMP トラップ 290

W

WSUS 更新プログラム管理 106
WSUS サーバ 290
WSUS の更新プログラムを管理する 106

あ

アクセス制限 290
アクティビティ 290
アソシエーションクラス 290
あて先 290
案件 181,291
案件カテゴリ 291
案件の管理 202
案件の進ちょくを確認する 201
案件を却下する 196
案件を削除する 201
案件を作成する 182
案件を使用した資産管理業務の実行 181
案件を承認する 195

い

一括変更 32
イベント管理者 207,291
インシデント 291
インシデント管理者 207,291
インストールされているソフトウェアを参照および変更する 161
インストールするパッケージを選択する 101
インストールソフトウェア管理 232
インストールソフトウェア情報 291
インストールソフトウェア情報を変更する 232,234
インストールソフトウェアの変更履歴を管理する 90
インストールソフトウェア名 10
インストールソフトウェア名の割り当てを解除する 229
インストールソフトウェア名を削除する 236
インストールソフトウェア名を登録する 233
インストールソフトウェア名を割り当てる 227
インストールソフトウェアリスト 291
インストールの実行状況を確認する 104
インベントリ情報 291
インベントリ情報の取得を確認する 271
インベントリ情報を参照する 172
インポート 247,291
インポート結果一覧 268
インポートする CSV ファイルを作成する 248
インポートの結果の詳細を確認する 268
インポートの結果を確認する 268
インポートの条件を削除する 262
インポートの条件を作成する 256
インポートを実行する 261
インポートを中断する 269

う

ウィルス対策ソフトウェア情報を参照および追加する 168
ウィルス定義情報 292
ウィンドウタイトル変更 292
ウィンドウタイトル変更履歴 124,292

え

エクスポート 263,292
エクスポートの条件を削除する 267
エクスポートの条件を作成する 264
エクスポートを実行する 265
エスカレーション 292

お

オブジェクト 293
オブジェクトクラス 293

か

各機器の詳細情報の管理 157
拡張装置 293
過去の障害対策を参考にする 51
稼働管理の対象に設定する 158
稼働状況 125
稼働ソフトウェア名 10
簡易検索条件 5
監視図 293
監視図でネットワークの構成を確認する 159
管理項目 293
管理項目名 293
管理者 293

管理ノード 293
管理ラベル 207,293
管理レベル 233,293

き

機器カタログ 30,294
機器カタログ管理 221
機器カタログを削除する 222
機器カタログを登録する 221
機器管理 22
機器状態を変更する 159
機器情報を登録する 29
機器に対してライセンスを割り当てる 171
機器のカタログ情報を管理する 221
機器の管理情報を変更する 32
機器の詳細情報を参照および変更する 157
機器の変更履歴を管理する 38
機器の保有台数を調査する 22
機器を検索する 23
期限切れのライセンスを調査する 62
基本操作手順 1
機密ファイル作成 294
却下 194
却下された案件を再度送信する 198
キャビネット 294
共通情報の管理 205
業務フィルター 294
業務メニュー 6
許可外インストール 120

く

クラス 294

け

契約一覧 42
契約管理 40
契約情報 294
契約情報を参照および変更する 173
契約情報を登録する 40
契約情報を変更する 42
権限管理情報 294
検索操作の流れ 9
検索パターン 294

こ

更新プログラム 295
構成管理者 207,295
コード ID 295
コード管理 237
コード情報を削除する 239
コードの指定範囲による意味の違い 239
コードの表示文字列を変更する 239
コードを追加する 238
個人情報 246
個人情報を参照および変更する 246

さ

サービスサポート管理者 207
作業者 295
参照できる資産情報の違い 19
サンプル提供の組織構成で参照できる範囲 20

し

資産 295
資産管理業務の実行 21
資産管理サーバ 295
資産管理システム 295
資産管理データベース 295
資産管理データベースサーバ 295
資産種別の選択 257
資産情報 295
資産情報を CSV 形式で出力する 263
資産情報を一括で更新する 247
資産情報を検索するときのポイント 10
システム上の問題点を管理する 50
システム装置 296
実行案件管理 202
実行結果を削除する 269
絞り込み条件の設定 266
集計管理 86
重大な障害を検索する 51
受信した案件を処理する 194
受信トレイ 194

出力される CSV ファイルの形式 266
種別や状態を追加および変更する 237
障害連絡票の作成例 184
使用したプログラムを確認する 121
書式 296
職権 296
ジョブ 296
ジョブの実行状態の種類 105
ジョブを再実行する 106
ジョブを削除する 106
処理期限超過 200
処理期限内 199
処理方式の選択 258
新規案件 182
新規機器登録 29
新規契約登録 40
新規ソフトウェア登録 68
新規に案件を作成する 183

す

透かし印刷 296

せ

セキュリティ管理 129
設置場所管理 212
設置場所情報 296
設置場所の指定方法 14
設置場所の情報を変更する 212
設置場所を移動する 214
設置場所を削除する 214
設置場所を追加する 212
設備管理者 207,296

そ

操作画面の各部の名称 5
操作したウィンドウを確認する 124
操作ログ 296
操作ログ一覧 129
操作ログ集計 140
操作ログを確認する 129
操作ログを集計する 140
送信した案件の確認と引き戻し 199
送信した案件の状況を確認する 199
送信した案件を引き戻す 200
送信トレイ 199
組織 296
組織外 296
組織外持ち出し 297
ソフトウェア稼働状況 116
ソフトウェア稼働情報 297
ソフトウェアキー情報 297
ソフトウェア資産情報 297
ソフトウェア適用管理 93
ソフトウェア適用状況 93
ソフトウェアの稼働状況を調査する 116
ソフトウェアの適用状況を管理する 93
ソフトウェアの配布状況を確認する 103
ソフトウェアの不正インストールを調査する 120
ソフトウェア名 10
ソフトウェア名および属性を変更する 227
ソフトウェア名称管理 224
ソフトウェア名に割り当てる 235
ソフトウェア名を削除する 226
ソフトウェア名を対応づける 224
ソフトウェア名を統合する 226
ソフトウェア名を登録する 225
ソフトウェア利用管理 116
ソフトウェアを検索する 74

た

代行受信者を設定する 197
対象契約を追加する 174
ダウングレードソフトウェアの対象から解除する 231
ダウングレードソフトウェアを追加する 230
タスク 297
他製品との連携用のユーザ 206
棚卸確認 36
棚卸が必要な機器の台数を調べる 35
棚卸情報 CSV ファイルの記述形式 37
棚卸の実績を登録する 36
棚卸未実施機器集計 35

ち

超過ライセンス一覧 59
超過利用されているライセンスを調査する 59

つ

追加および削除できないコード情報 244
追加できるコードの範囲が限定されているコード ID 240
通常印刷 297
通常処理中 194

て

データファイル 297
データファイル名定義ファイル 298
添付ファイルの指定方法 15

と

登録操作の流れ 12

ね

ネットワーク管理者 207,298
ネットワーク情報 298
ネットワーク情報を参照および変更する 159
ネットワーク情報を編集する 160
ネットワーク装置 298

の

ノード情報の取得を確認する 271

は

ハードウェア資産情報 298
配布状況 103
パッケージ 298
パッケージのインストールを実行する 102
パッケージング 298
パッチ情報 298
パッチ情報を参照および追加する 166
パッチリスト 298

ひ

引き当て項目の設定 259
秘文ログイン 299
平文持ち出し 299

ふ

ファイル操作 299
不稼働機器一覧 26
複数のインストールソフトウェア情報を一括して変更する 235
複数のクラスで共有しているコード ID 243
部署情報 299
部署の指定方法 13
部署を追加する 207
不正利用ライセンス一覧 62
フロアレイアウト図 25
フロアレイアウト図で機器の設置場所を確認する 159
プログラム起動 299
プログラム起動履歴 121,299
プロパティ 299

へ

変更履歴 38,90,299
変更履歴を参照する 178

ほ

保守履歴 299
保守履歴を参照および変更する 175
保守履歴を登録する 177
保存した案件を送信する 200
保有機器一覧 23
保有機器集計 22
保有ソフトウェア一覧 74
保有ライセンス一覧 56
ボリューム契約一覧 82
ボリューム契約情報 299
ボリューム契約情報を登録する 82
ボリューム契約情報を変更する 82
ボリューム契約登録 82

み

未登録ソフトウェアの利用状況を調査する 67
未登録ソフトウェア利用一覧 67

め

メタ定義・制御テーブル 300
メディアに書き込み 300

も

問題点一覧 50
問題点管理 50

ゆ

遊休ライセンス一覧 64
ユーザインベントリ情報 300
ユーザ管理情報 300
ユーザ権限による操作画面の機能の違い 17
ユーザ検索 211
ユーザ組織管理 206
ユーザと組織の情報を変更する 206
ユーザの操作を追跡する 148
ユーザまたは組織を移動する 209
ユーザまたは組織を削除する 209
ユーザ名の指定方法 13
ユーザライブラリ 300
ユーザレポート 300
ユーザを検索する 211
ユーザを追加する 208

よ

用語解説 287

ら

ライセンス移管 79
ライセンス管理 56
ライセンスキー登録 300
ライセンス区分 300
ライセンス形態 301
ライセンス情報 301
ライセンス情報を登録する 229
ライセンス情報を変更する 230
ライセンスの管理部署を変更する 79
ライセンスの集計を実行する 86
ライセンスの利用状況を調査する 56
ライセンスを追加する 68

り

利用されていない機器を検索する 26
利用していないライセンスを調査する 64
利用できる業務メニューの違い 17

る

ルート 301

ろ

ログアウト 4
ログ一覧 270
ログイン 2
ログの改ざんチェック 301
ログを参照する 270

わ

割り当てられたライセンス情報を参照および変更する 170
割り当てられている IP アドレスを解除する 219

ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内

１．マニュアル情報ホームページ

ソフトウェアマニュアルの情報をインターネットで公開しています。

URL　http://www.hitachi.co.jp/soft/manual/

ホームページのメニューは次のとおりです。

■マニュアル一覧	日立コンピュータ製品マニュアルを製品カテゴリ，マニュアル名称，資料番号のいずれかから検索できます。
■CD-ROMマニュアル	日立ソフトウェアマニュアルと製品群別CD-ROMマニュアルの仕様について記載しています。
■マニュアルのご購入	マニュアルご購入時のお申し込み方法を記載しています。
■オンラインマニュアル	一部製品のマニュアルをインターネットで公開しています。
■サポートサービス	ソフトウェアサポートサービスお客様向けページでのマニュアル公開サービスを記載しています。
■ご意見・お問い合わせ	マニュアルに関するご意見，ご要望をお寄せください。

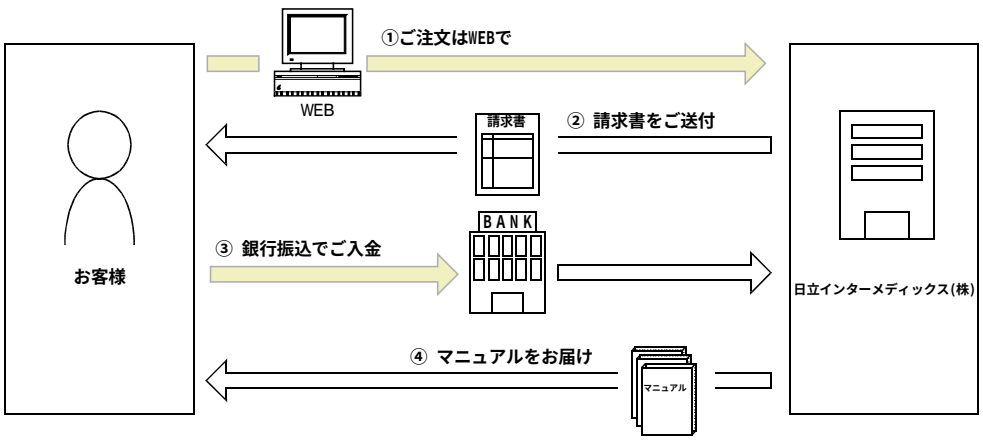
２．インターネットでのマニュアル公開

2 種類のマニュアル公開サービスを実施しています。

(1) マニュアル情報ホームページ「オンラインマニュアル」での公開
　製品をよりご理解いただくためのご参考として，一部製品のマニュアルを公開しています。

(2) ソフトウェアサポートサービスお客様向けページでのマニュアル公開
　ソフトウェアサポートサービスご契約のお客様向けにマニュアルを公開しています。公開しているマニュアルの一覧，本サービスの対象となる契約の種別などはマニュアル情報ホームページの「サポートサービス」をご参照ください。

３．マニュアルのご注文



① マニュアル情報ホームページの「マニュアルのご購入」にアクセスし，お申し込み方法をご確認のうえ WEB からご注文ください。ご注文先は日立インターメディックス(株)となります。

② ご注文いただいたマニュアルについて請求書をお送りします。

③ 請求書の金額を指定銀行へ振り込んでください。

④ 入金確認後 7 日以内にお届けします。在庫切れの場合は，納期を別途ご案内いたします。